

318
80

第 二 第
百 種 の し み の 糸
社 友 之 人 婦



始



特 216
802



第二毛糸あみもの百種



はしがき

第一に、最も實用的な毛糸あみもの集でありたいと願つて居ります。その意味から、特に實用向きな赤坊用、少年少女用の種類を多くしました。

第二に、最も新しい型、優れた意匠の毛糸あみもの集でありたいと願つて居ります。毛糸あみものは、編み方にいろ／＼工夫するよりも、その配色、その意匠の巧拙によつて、見栄えもし、見劣りもするものですから、特に少女用、婦人用には、御参考になるやうな優れた意匠のものを集めました。

第三に、最もわかりやすい、最も正確な毛糸あみもの集でありたいと願つて居ります。一つ／＼に鮮明な寫眞と、委しい圖解とを入れ、どんな初歩の方々にもわかるやうに説明してあるのでございます。いりくんだ模様編を簡単な記號によつて編む方法も本書獨特のものでございます。

昭和三年三月

婦人之友編輯局

目次

□幼児用

變り矢羽模様の一揃	六
夏向きのアフガンとケーブ	二
矢羽模様の一揃	一六
七寶くづしのサツクと帽子	三
ハイカラなサツクと帽子	二六
スペインサーと帽子	二九
氣の利いたアフガンと帽子	三〇
可愛らしいサツクと帽子	三五
涼しさうな帽子	三八
レース模様の帽子	三九
エプロン五種	四一

□少年少女用

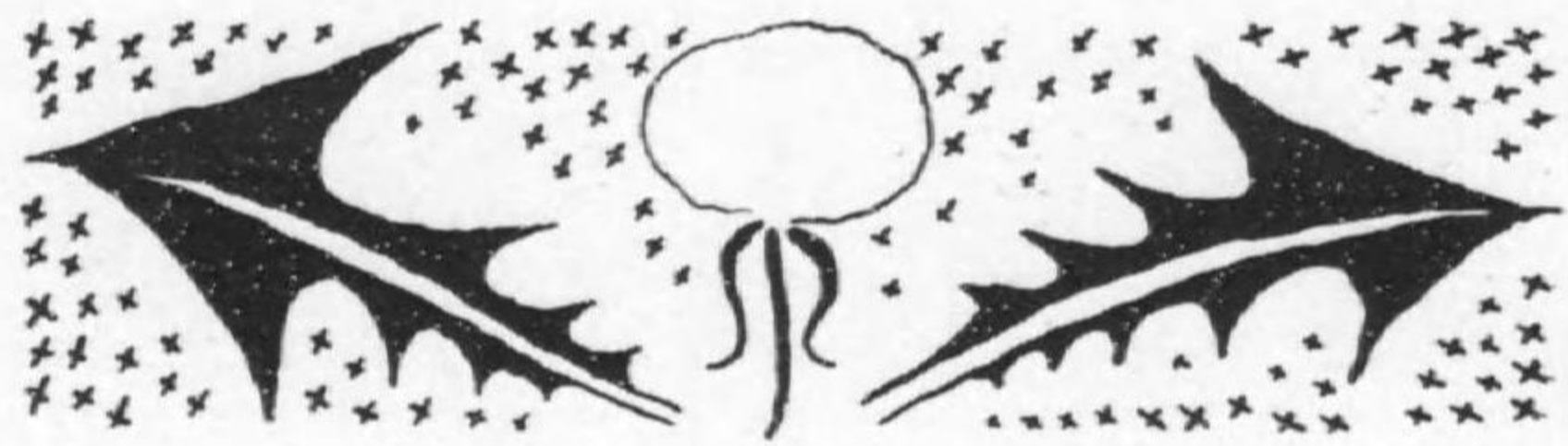
可愛らしい靴(その一)	四五
可愛らしい靴(その二)	四六
三つ組の女兒服	四七
コンビネーション	五〇
和服にも洋服にも向くちゃん／＼	五三
暖くて便利な靴下	五四
軽くて暖いたんぜん	五五
おしめおほひ	五八
五歳男兒用一揃	六三
ラグランスリーヴの新型オーヴァ	七三
簡単に編める男兒用スウェーター	七六

型紙によつて編んだ外套と帽子……………七
 變つた編み方の男兒服一揃……………八〇
 男兒用パンツ……………八五
 ハイカラな男兒用スウエター……………八七
 上品なボーイスイツ……………八九
 男兒にも女兒にも向く水兵服……………九三
 男兒にも女兒にも向くマント……………九六
 模様編の女兒服……………九八
 可愛らしい春のスウエター……………一〇〇
 レース模様of シミ……………一〇三
 清楚で編み榮えのする女兒用スイツ……………一〇五
 上品な少女服……………一〇七
 通學用のスウエター……………一一〇
 着榮えのする女兒のスウエター……………一二一

簡單で編み榮えのするスウエター……………一二四
 ロシア風な配色のスウエター……………一二五
 イギリス風な配色のスウエター……………一二七
 編物に取入れた日本趣味……………一二九
 軽い温いマントと帽子……………一三一
 花模様of 少女服……………一三五
 唐草模様を編みこんだジャンパー……………一三七
 優美なしだの葉模様スウエター……………一三〇
 外套代りになる新型のケーブ……………一三三
 女兒用スウエター……………一三七
 美しい女兒服……………一三七
 模様編みのジャンパー……………一三九
 軽快な秋のスウエター……………一四一
 通學用に適しいスウエター……………一四三

美しい色彩of スウエター……………一四五
 美しいレース模様of 少女服……………一四八
 上着にもなるハイカラなスウエター……………一五一
 軽やかな女兒服……………一五三
 袖なしスウエター……………一五六
 温いコンビネーション……………一五八
 □大人用
 ハイカラなジャンパー……………一六三
 秋のジャンパー……………一六三
 藍色と鼠色の配合……………一六六
 春のレディススイツ……………一六八
 矢羽模様of スウエター……………一七三
 スマートな感じof するスウエター……………一七四
 上品でハイカラなスウエター……………一七六

落ちついた感じof スウエター……………一七八
 矢の根模様of スプリングドレス……………一八二
 上品なハウズドレス……………一八四
 スマートな婦人用スウエター……………一八七
 暖い毛糸of チョッキ……………一九〇
 男子用袖なしスウエター……………一九三
 冬を温かに過せる新案of チョッキ下……………一九六
 スポーツスウエター……………一九九
 毛皮のやうな毛糸of 膝掛……………二〇一
 × × × ×
 編物の記號……………二〇三
 ポーシングステッチの仕方……………二〇三
 基礎編み……………二〇四



幼
兒
用

- | | | | | | | | |
|---|---|--|---|--|--------------------------------------|---|---|
| <input type="checkbox"/> レ
ギ
ン
ス | <input type="checkbox"/> ブ
ル
ー
マ
ー
ス | <input type="checkbox"/> ス
ウ
エ
タ
ー | <input type="checkbox"/> 帽
子 | <input type="checkbox"/> ス
ペ
ン
サ
ー | <input type="checkbox"/> サ
ツ
ク | <input type="checkbox"/> ケ
ー
ブ | <input type="checkbox"/> ア
フ
ガ
ン |
| <input type="checkbox"/> お
し
め
お
ほ
ひ | <input type="checkbox"/> た
ん
ぜ
ん | <input type="checkbox"/> ち
や
ん
く | <input type="checkbox"/> コ
ン
ビ
ネ
ー
シ
ヨ
ン | <input type="checkbox"/> 靴
下 | <input type="checkbox"/> 靴 | <input type="checkbox"/> エ
ブ
ロ
ン | |

變り矢羽模様の一揃

可愛らしい赤ちゃん用の一揃、サツクと帽子とケープにレギンス(下ばき)まで揃つてをります。軽くて温かで、見た目もほんとうに美しくございます。殊にレギンスは、足まですつかり包まるやうになつてをりますから、決して冷えこんだり、おしめが落ちたりする心配はありません。西洋の赤ちゃんは皆これをはいてをります。毛糸は並太より少し細めの柔かな毛糸を用ひました。色は白とピンクを取り合せましたが、白と水色でもよいでせう。

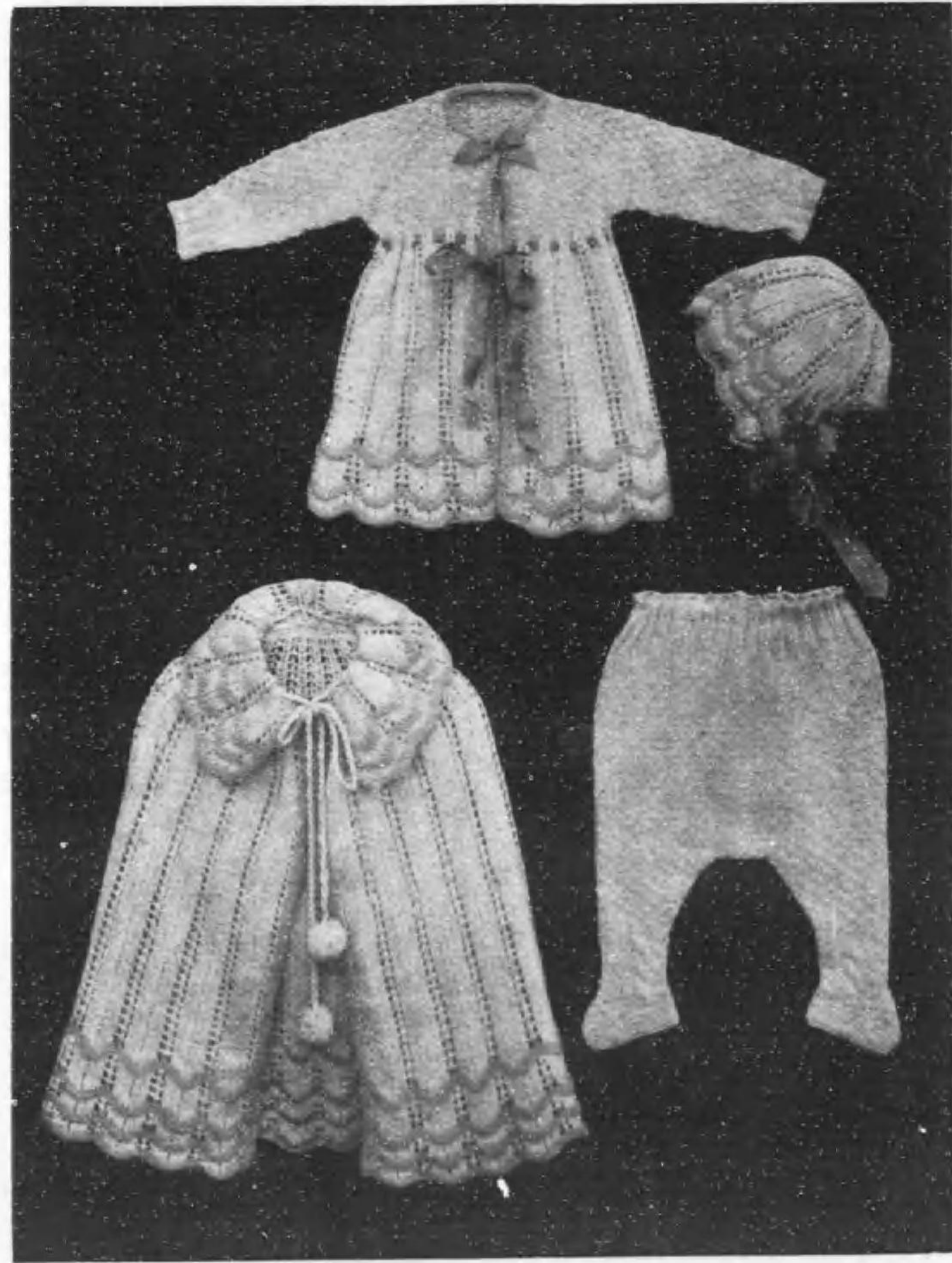
材料 ミネルヴサツクソニー白丸巻、(一卷一オンス)ピンク二巻、リボンピンク 五分巾一ヤール、一寸巾一ヤール。ゴムテープ三分巾三ヤール。

用具 四號二本針。

模様編についてケープ、帽子、サツク等の模様編は矢羽模様の一種です。これは記號の通り十一日二段で一模様で、しかもその二段目は裏編ばかりですから大変容易うございます。この模様を横に連続する時には、十一日の倍數に編終りの一日を加へます。この模様で減す時は、いつも矢羽根の兩脇で、即ち記號の○の次のKKを二日一緒に編んで減します。以下模様の一段といふのは一模様(二段)をいひます。

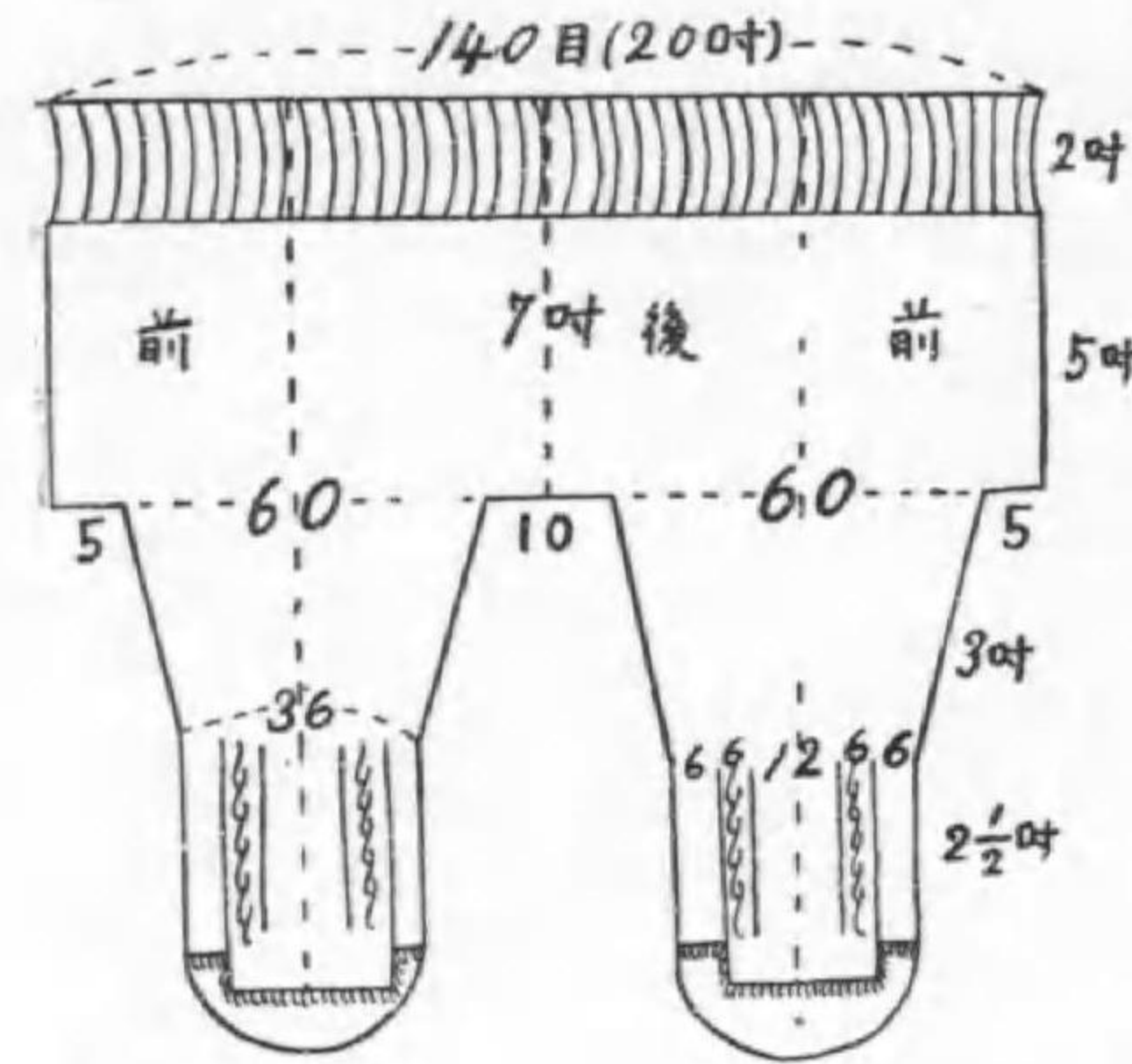
レギンスとサツクの胸の編み方は「表編二日、裏編二日」の市松です。

サツク



帽子

編み方 ピンクの糸で七十二目作り、(六模様半)、サツクの裾にしたと同じく、ストックキネット四段、白糸にかへ矢羽模様四段、ピンクにかへストックキネット四段、次から白で矢羽模様ばかりにして編み始めから三時になつたら、両端で十一目づゝ(一模様づゝ)増します。半時位置直に編みましたら四段毎に矢羽の両端で一目づゝ減しますと、一段で十七目位減りますからこれを圖のやうに四度位繰り返し、残りの目を一度にひきしめてしまひます。



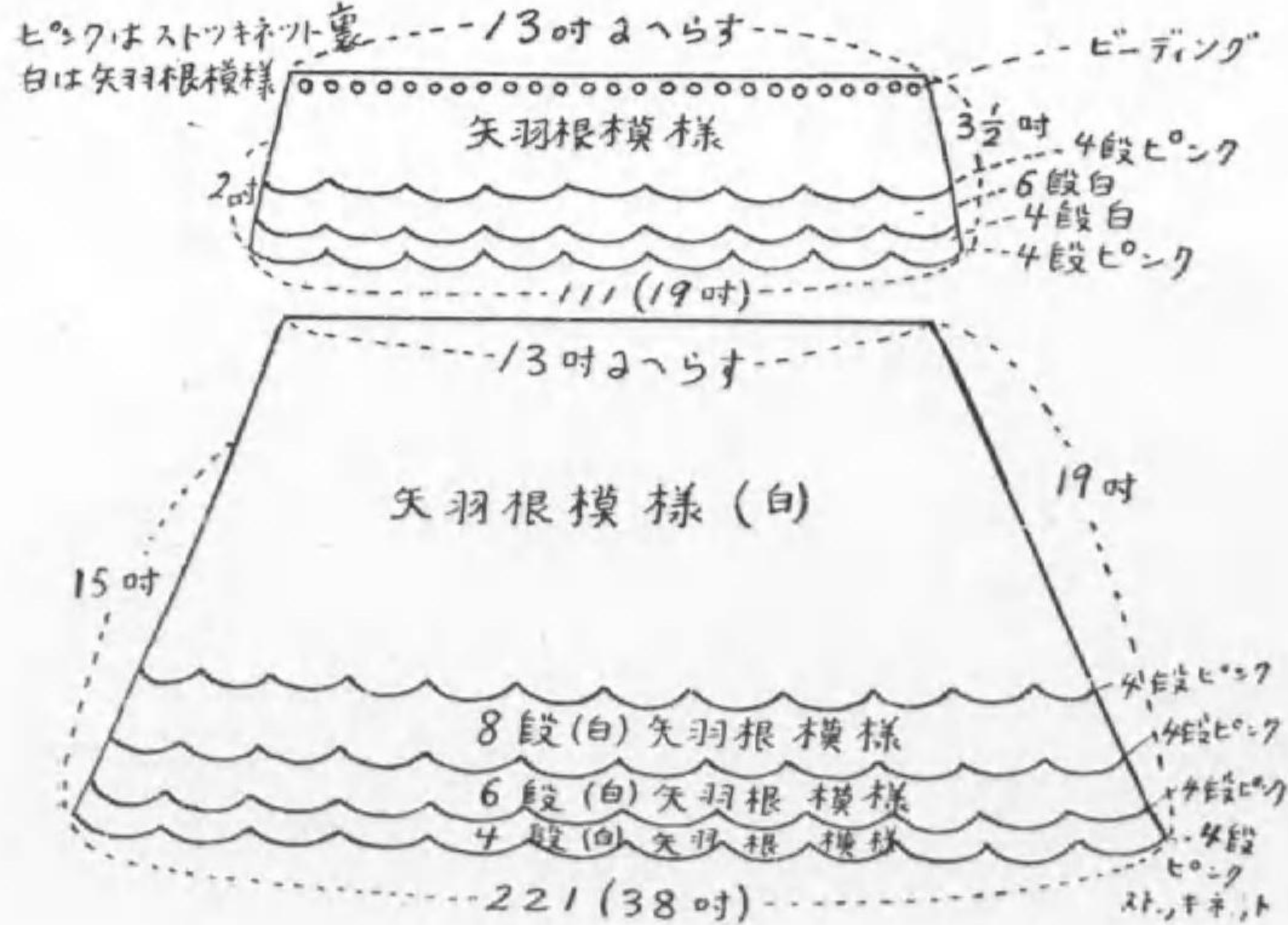
レギンス

編み方 白の毛糸で目数百四十(二十時)作り、二目づゝのゴム編で二時編みますが、編み始めから三段目に、ビーディング(紐通し)を作ります。ゴム編がすんだらサツクの胴の處にした「表編二目、裏編二目」の市松編で五時編み、股下のために両端を五目づゝと、中央十目をとめ、次から足に移り、左右別々に編むのです。この時片足の目数は六十目(凡そ五時二分の一)の筈です。次から両端で減して三時の間に三

十六目にするのですが、これは凡そ編み始め毎に一目づゝ減すとよいやうです。
次は両端の六目づゝと、中央の十二目を今までと同じ模様にし、間の六目づゝは細編にします。(細編は後で説明致します)
そのまゝ増減なく二時二分の一編んで、今度は中央の十二目を残し針を別針に取り、この十二目だけで今までの模様を続け一時編んだら今度は取つておいた全部の目を一緒にしてガーターで五山編み、底をポーシングステッチでとめます。前の中央をとち股下をとち合せ、紐通しにゴムテープを通します。

ケーブ

編み方 ピンクの糸で目数二百二十一(二十模様)作り、サ



ツクの裾にしたやうに、ピンクでストックネットの縮を、白で矢羽模様を圖の通りに編み、あとは白糸で矢羽模様ばかりで、裾から十五時になるまで真直に編みます。あと四時の間で十三時に減さなければなりません。即ち、四段おき位に矢羽の両端で一目宛へらしめると、一段で四十日減り、凡そ四度位減しますと裾から十九時の處で十三時位になりますから全部ストックネットにして二段縮んでとめます。

衿目数百十一(十模様)作り、ピンクの糸で、裾にしたと同じやうにストックネットの縮と、白で矢羽模様とを圖の寸法通りに繰り返し、すつかりピンクの縮が入つたら、白で矢羽模様ばかりにして編み始めから二時まで増減なく編み、あと一時半の間で、目を減じて十三時に減します。ピーディングをして紐通しを作り目をとめます。

衿を身頃にとちつけ、紐は糸を五本一緒にしたもの二本で紐のやうに作り、紐通しに通してからさきにふさをつけて下さい。

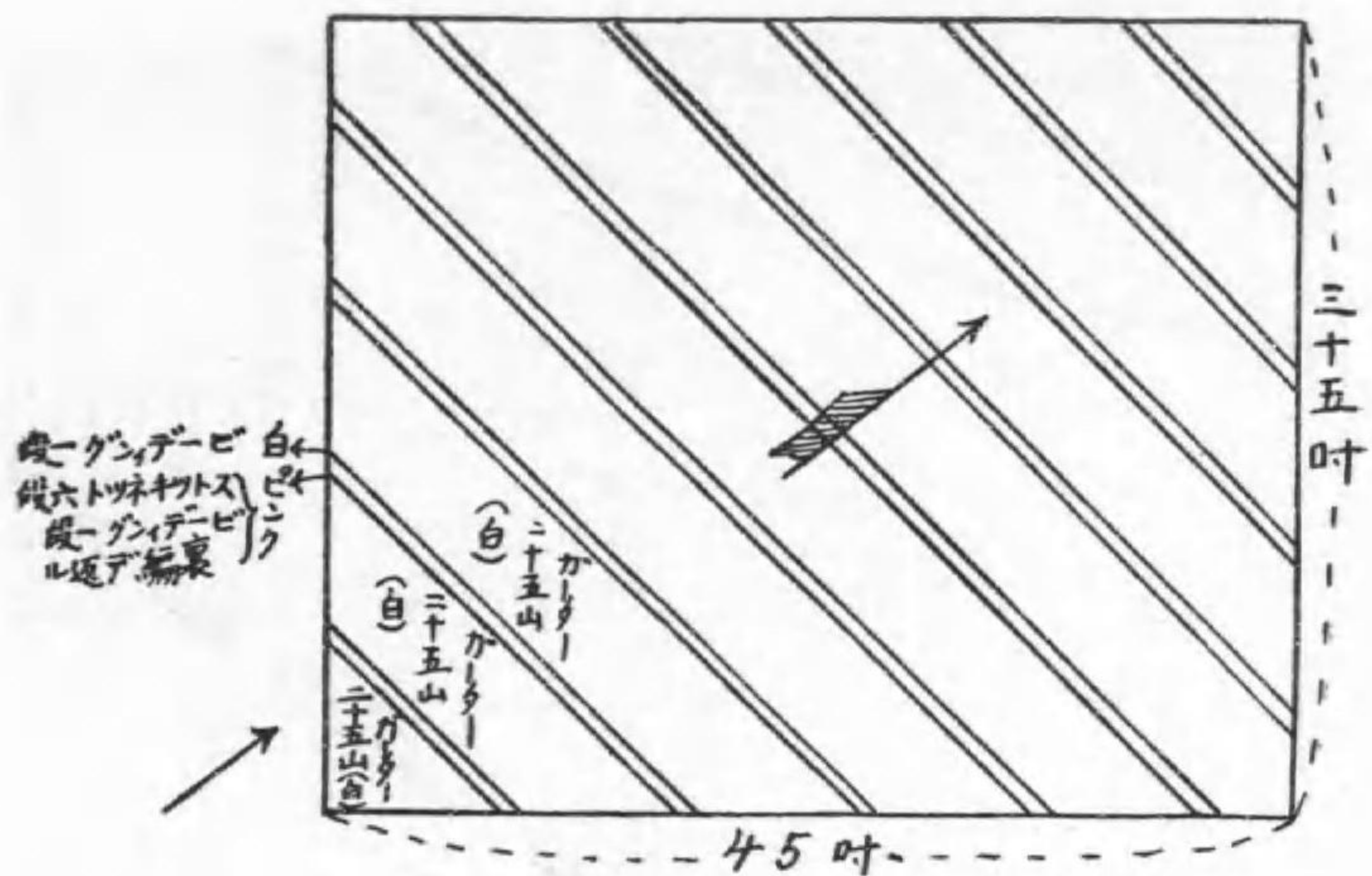
一夏向きのアフガンとケープ

軽い毛糸を使つて、白地にピンクの縮を出した大變可愛らしいアフガン(おくるみ)とケープです。春から夏への赤ちやんのお祝ひとして、あげても頂いても氣持のよいものではございませんか。編方はごく易しうございます。

アフガン

材料 ミネルヴァアイスランドウール 白四卷、(二卷一オンス)ピンク半卷。リボン編子三時半巾ピンク五ヤール。





用具 五號二本針。

編み方 圖のやうに、矢の方向に斜に編んで行きます。地はカーターで、縞はストックネットですが、全体の編方としては、最初一目で始め、左右兩端でカーター一山おきに一目宛増して、一邊が三十五吋になつたら、左側は一山おきに一目宛減し、右側は前の通りに増して行き、この長さが四十五吋になつたら、左側と同じに減し出し、一目になるまで續けます。

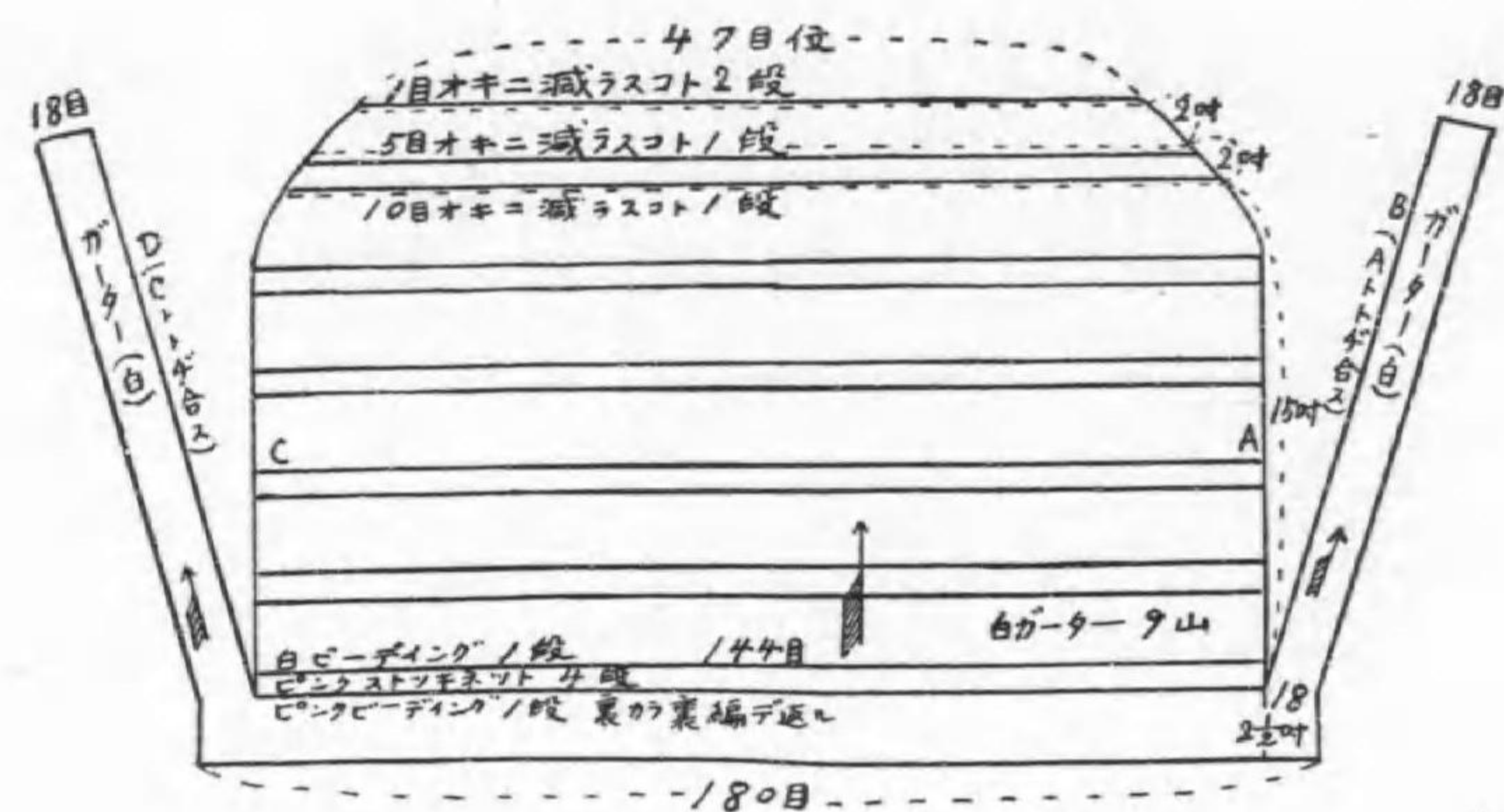
縞の入れ方 白でカーター二十五山編んだらピンクの糸にかへ、ビーディング（一目編んで糸をかけ、二目一緒に編む）を一段して裏編一段、次からストックネットで六段して白にかへ、ビーディング一段してカーター二十五段。

この要領で全體に縞を入れるのです。

リボンは巾二つに折つて、のびちぢみのないやうに、丁寧にアファンの縁をはさんでしつけとめ、ミシンをかけます。

カーブ

材料 ミネルヴァアイスランドウール 白二巻、ピンク半巻、リボン縞子一時半巾、ピンクヤール半。



用具 五號二本針。

編み方 始めに白で百八十の目を作り、カーターで二時半編み、左右十八目宛を別の針に移しておきます。これは後から編んで縁にするので、残りの百四十四目をピンクの糸にかへ、ビーディング（アファン参照）一段、裏編一段。次にストックネット四段。糸をかへてビーディング一段。カーター九山。これを繰返して、編はじめから十五吋になつたら、十目毎に（十目と十一目とを）二目一緒に編むこと一段。次に二時は増減なし。次の段は五目毎（五目と六目とを）に二目一緒に編むこと二段してとめます。別にとつておいた左右十八目宛は、そのまま、白ばかりで胴の丈と同じだけカーターを編み、縦をすつと胴に縫ひ合はせませす。

衿は白だけで編みます。始め五十の目を作り、「カーター九山、ビーディング一段、裏編一段、ストックネット四段」この括弧内を六回繰返し、カーター九山で終ります。

この衿は巾を二つ折りにし、兩端は縫ひしぼつておきます。二つ折のまゝ縁を身頃にちつけ、このとち目が衿の裏の真中になるやうに形を作り、二寸縫ひつけておきます。リボンは一端を花のやうに結び、衿の縫ひだめてあるところにしつけ縫ひつけておきます。

矢羽模様の一揃

矢羽模様編み方 十日二段で一模様です。但し、この模様を連続させる時には十の倍数に必ず編終りの一目をお加へ下さい。編み方は

第一段『表編一、糸を針にかける、表編三、次の一目を編まずに右針に移し、次二目一緒に表編、前に移した目をこの上に被せる、表編三、糸を針にかける』
第二段 全部裏編でもどる。
以上の二段の編み方を白糸で四度繰返し、ピンクで一山ガーターを入れたのがこの一揃の模様になつて居ます。

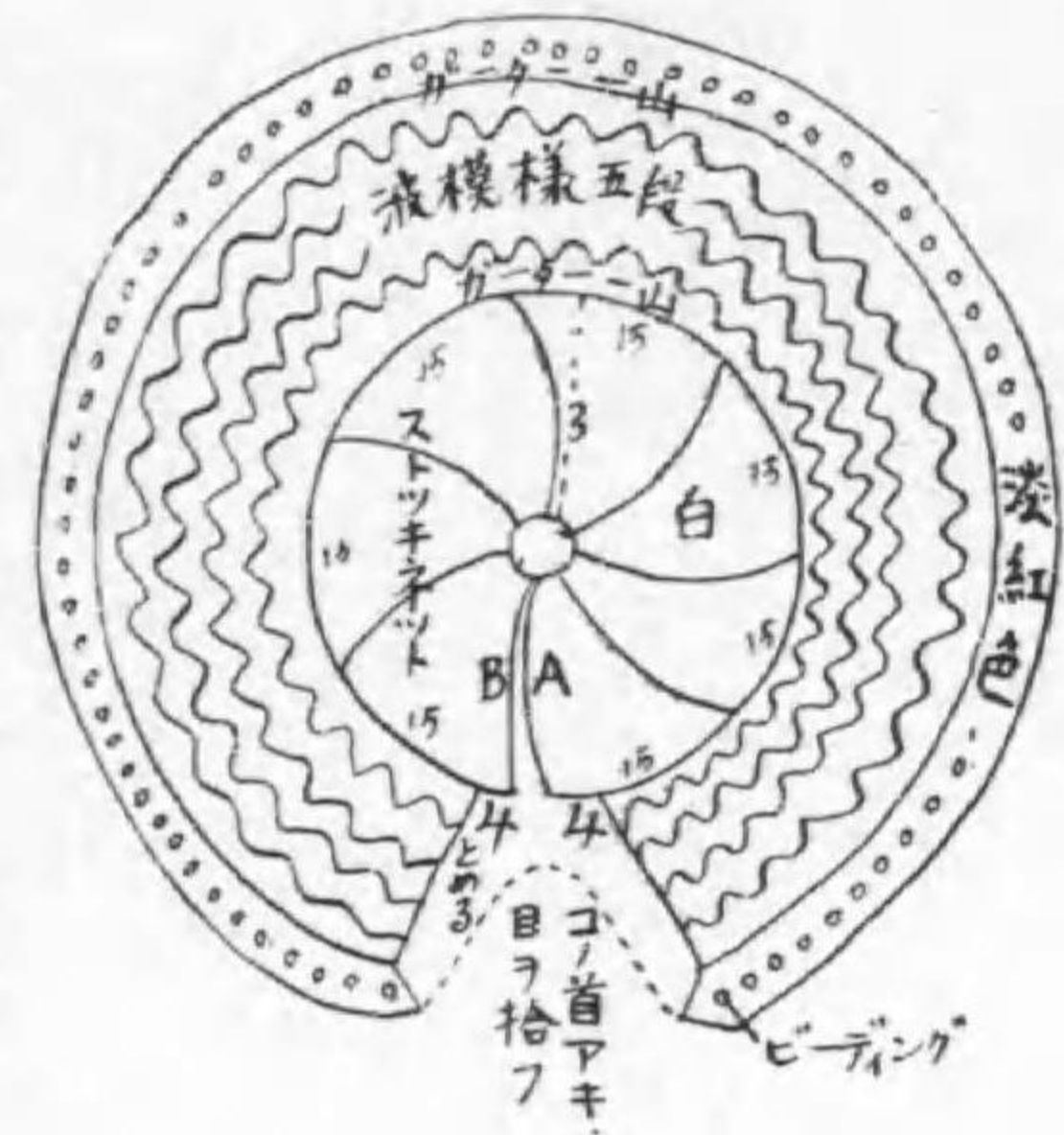
サツク

材料 ミネルヴサクソニー三本撚り(中細より少し細めの糸) 白二卷半(一巻一オンス)、ピンク一巻四分の一。
用具 四号二本針。

編み方 圖を御覽下さい。矢印の方向に編みます。
裾、ピンクの糸で目数百八十一作る。これが前後の身頃全部の巾になります。ストツキネットで両端を編み始め毎に一目宛三度増し、次に裾の折目のビーディングを編みます。これは紐通しの穴を作る方法と同じで、即ち表編一、糸を針にかける、次の二目一緒に編む』括弧内を段の終るまで繰返し裏編でもどります。次に両端で一段おきに



第四段 第二段と同じ。



第五段 『表編三、糸をかける』括弧の中を繰り返します。前段で糸をかけた目の上で目が一つづつ増され、増し目は段々斜にすれて丁度風車の様な形になつて来ます。

第六段 第四段と同じ。
かうして隔段毎に表編を一目づつ増して編み、表編の目が各々十四になつた時、次の段で編み初め四目を止めます。そしてやはり一目づつ増しながら(表編十五目づつとなる)編み終ります。次段でかへる時又編み初め四目を止めます。即ち兩側で四目づつ止めたわけになります。今度は、帽子の縁の方に移ります。

その九目毎に一目づつ減じて行き模様編に都合のよい目数即ち十の倍数に一を加へた目数にします。これで縁と中央部の境が、くるつと丸くなるやうになつて恰好よくなるのです。この邊になると、非常に目数が多くなりますから、編針二本では少し無理かも知れません。三本位に分けてお編み下さい。
次からは又白糸に戻つて模様編になります。サツクの時と同じです。ピンクの縮五本入りしたら、ピンクの糸のまゝストツキネット六段、ビーディング一往復、ストツキネット六段します。やはりサツクの裾のやうに兩端は三角にして目を止めます。頭の中央部AとBとを閉ち合せ、真中の穴の所はピンクの糸で周圍からきれいに長編で閉ち合せます。今度は後頭廻りの所を拾ひます。

ピンクの糸で表から、模様編の處とはじめに四目止めた部分と、模様編のもう片方の部分とを拾ひ、同じくビーディングの縁を作ります。目を止め、縁をビーディングの所から裏に折り返して閉ちつけ、出来上つたのです。最後に一時位の巾のリボンを書真のやうにつけて置きます。

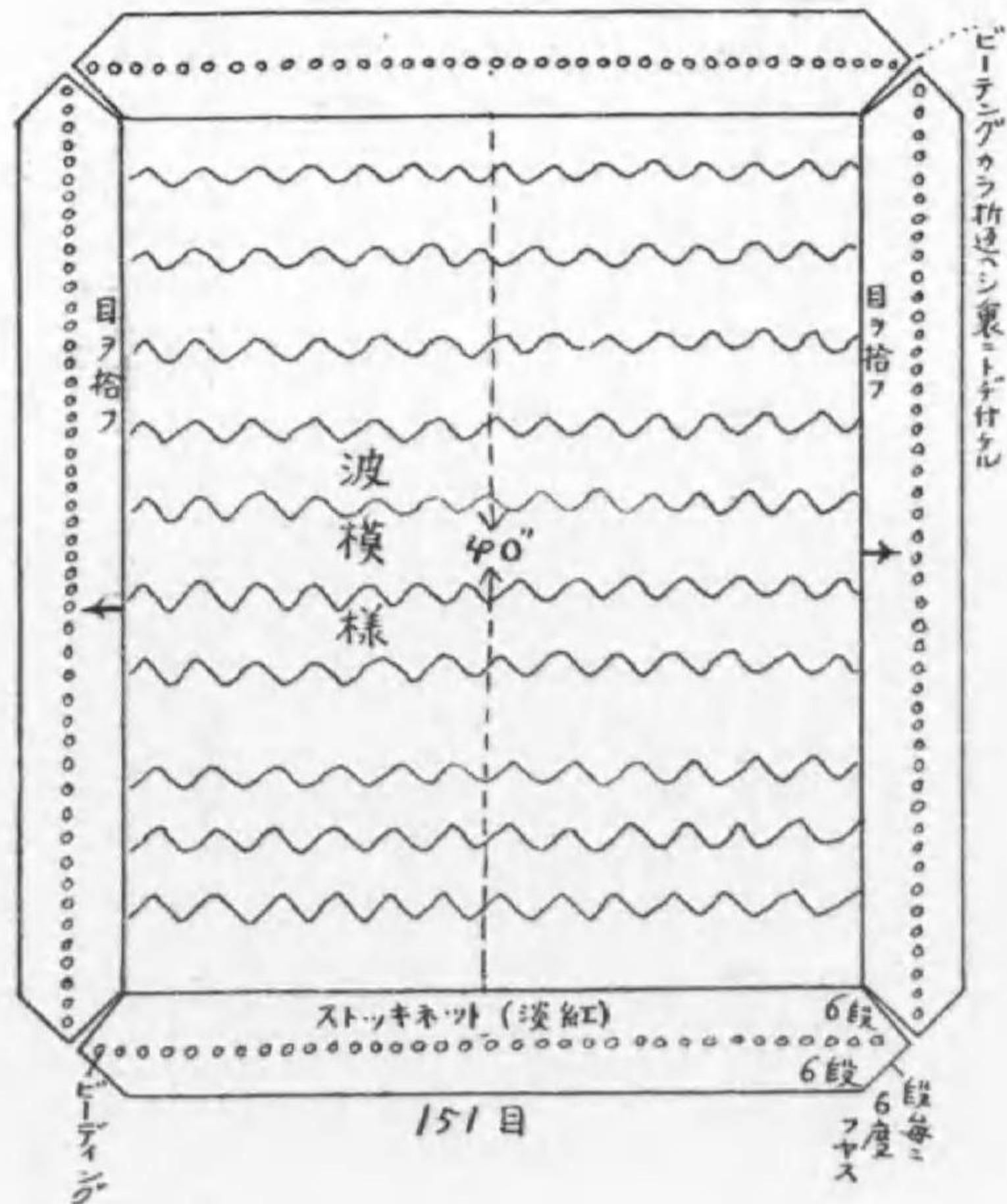
アフガン (おくるみ)

材料 ミネルヴニッティングワーステッド(太糸)

白五卷(十オンス)、ピンク三卷(六オンス)。

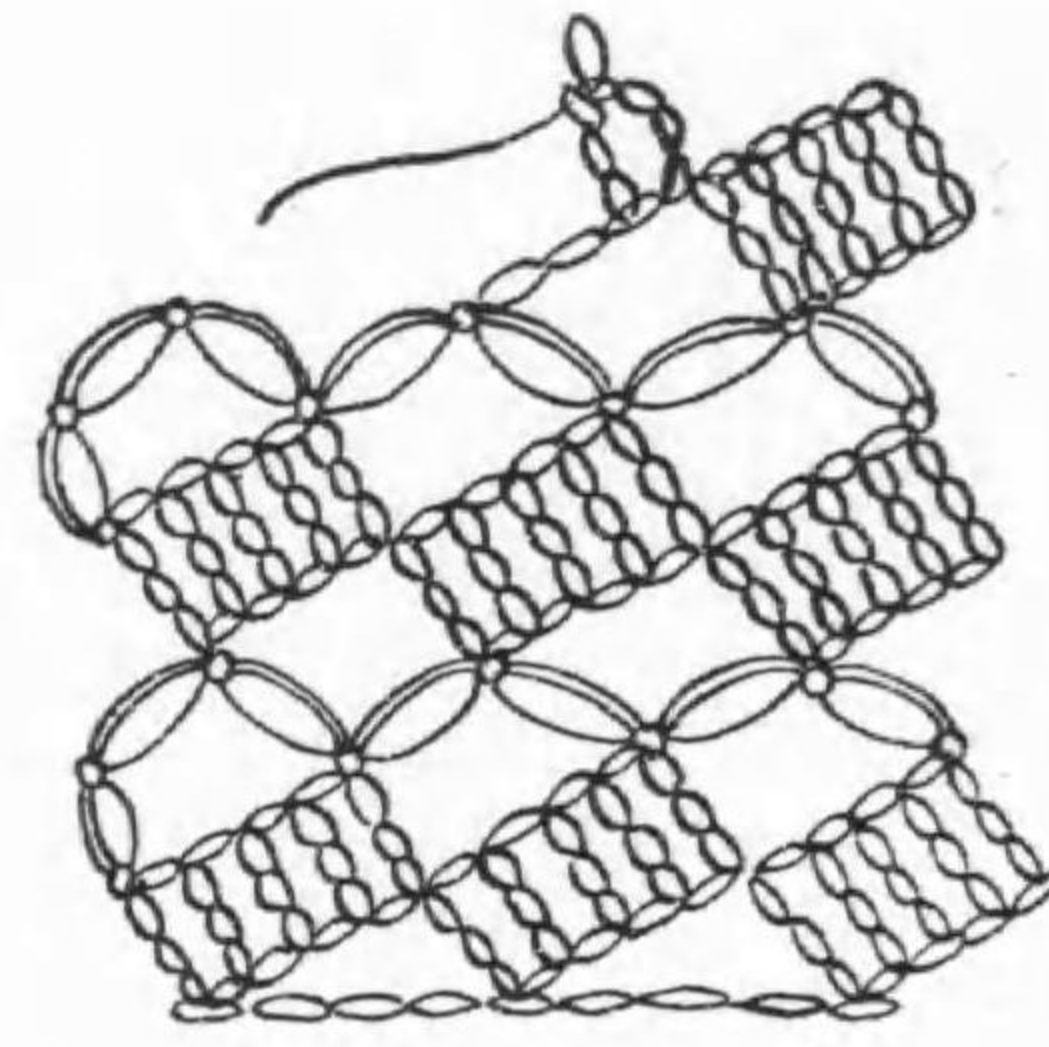
用具 七號二本針。

編み方 ピンクで編みはじめます。ちやうどサツクの裾と同じやうに編むのです。目数は百五十一。毎段兩側で編み初めと編み終りに一目づつ増しながら、ストツキネット六段編みます。次ビーディング一往復。又兩側を一目づつ減しながらストツキネット六段、目数は再び百五十一になるはずです。白糸にかへて矢羽模様に移ります。模様の段数はサツクと同じ八段おきに一山ピンクのガーターを入れます。たゞ糸と針が太い爲に、大きな模様が出来るわけです。四十吋の長さ増減なくこの模様を



続け、再びピンクにかへつて編み初めと同じやうな縁を作ります。
 左右の縁はピンクの糸で編むやうに、両側の目をサックの立衿の時と同じく、模様一組(十段)から七目位宛拾ひます。ストツキネットで前と同様に編んで行きますが、編み初め毎に他の縁の斜になつた處の目を一目づゝ拾つて編み合せて行くことを忘れないやうにします。
 最後に四方をビーディングの所から裏に折り曲げて表に針目を出さぬやうに閉ぢつけ、出来上つたのです。

七寶くづしのサックと帽子



(1)

七寶くづしを應用したもので、極細二本か、中細でゆるく柔かに編みますと、上品で軽やかで、夏から秋へかけての赤坊のものとして、大層よいものです。

編み方 部分編みのはつきりわかれば、應用は容易ですから、はじめに部分編みを説明致します。

第一段 (長編角編) 適宜に鎖編をします。(この数は、四の倍数に二加へたもの)

編み終りから六つ目の鎖目に長編一・鎖三、今編んだ長編の穴に長編四。次には、下の鎖三目とばして、四つ目に長編一・鎖三して、前の長編の目

に長編四。これを繰返して一段を終る。

第二段 (七寶編)

持ちかへて七寶編をします。即ち、前段の最後の目を三分程引き出して大きな鎖を一つし、次は、今の長い鎖の裏側の目から短かく糸を引き出します。この時、針には目が二つかかつてゐることになりますから、今度は、この二つの目を一緒に糸を引きます。これが七寶の片割れです。丁度長い鎖編の先に短編が出来てゐるやうな恰好になります。同じものを二つ編んだのが七寶編の一つになります。

第二段の最初には、七寶編を一つ半(長い鎖に短編のついたやうなもの三つ)編んで、前段の長編角編の尖端に短編でとめ、次からは七寶編一つづゝを、角編の角にとめながら編みすゝめます。

第一段 (長編角編) 第二段 (七寶編) を交互に繰返して行きます。書くと面倒のやうですが、實際はやさしうございます(第一圖)。

帽子とサック



材料 中細毛糸 五オンス(極細なら二オンス)、リリヤーン一オンス。
帽子編み方 第一段 糸の端を左の人指指にくるくると三重程巻きつけ、その輪の中に針を入れて短編を十四又は十六位編み入れます。これが帽子の中心になります。
 第二段 七寶編を一つしては、一段目の短編一つおきに短編でとめ、これを一段繰返へします。
 第三段 部分編で説明したやうに、前後の七寶編の上に、長編角編を編んで行くのですが、平にするために、二目か三目おきには目を増さなくてはなりません。この場合は、普通ならば七寶編の角に長編を入れて、その穴に角編をする所を、角編が出来たら、鎖三つをつゞけ、今作った角編の最後の長編、即ち四つ目の長編と、三つ目の長編との間に、すぐに角編をします。すると、そこにもう一つ餘分の角編が出来て、目が増えたわけです。(第二圖)



(2)

第四段 七寶編。
 第五段 長編角編、三つか四つおきに一つ増す。
 第六段 七寶編。
 第七段から第十六段まで、長編角編と七寶編とを、増し目なしに交互に繰返します。
 第十七段 鎖五つしては七寶編の上にとめるのを繰返して一段終つて糸を切ります。
 第十八段 リリヤーンで、前段の鎖の目の中に短編を五つづゝ入れます。この時、五つの真中の目にはピコットを一つ作ります。(次の短

編に移る前に鎖三つ編み、もとの短編の上にとめるのです。
 寫眞のやうにリリヤーンで圓形に編んだものか、リボンなどを飾りにつけると出来上りです。

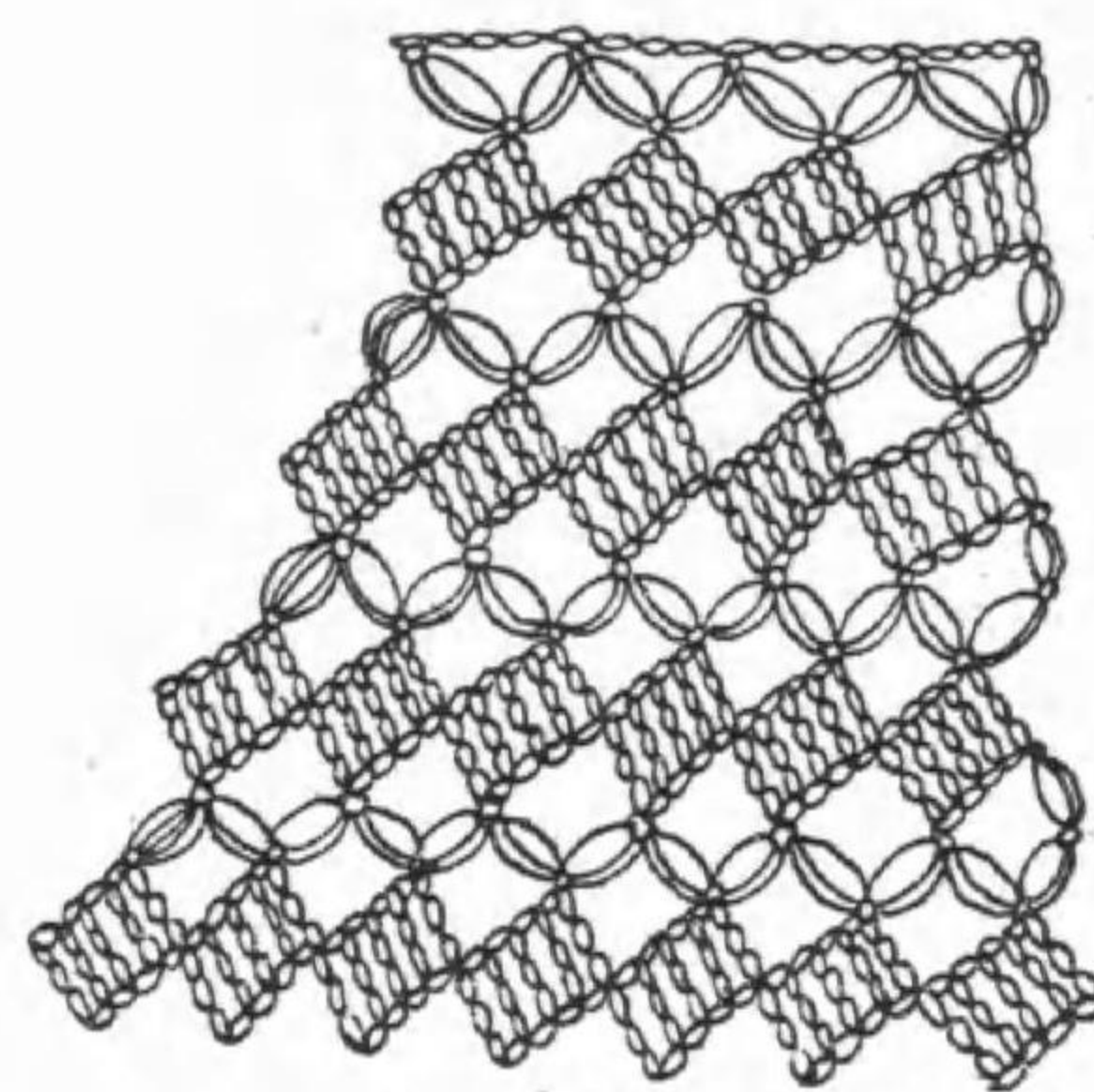
サツク編み方 裾から初めて、脇までは後身頃から前身頃まで一続きに編み、そこで両袖を一度に増して肩まで編み、衿肩明をきめて前は別々にして、袖つけの邊で、はじめのところとつぎ合はせ、終りに衿を編みつけます。

身頃 裾巾が一尺六寸位になるやうに、はじめの目を作ります。糸や針によつて進みますが、細目のものでしたら、二百二十五位でよいでせう。最初の一段は、鎖一目に長編一つづゝ入れます。次から七寶くづしで六寸位編んで角編の濟んだ段で糸を切ります。そして袖つけに移ります。

全體の中を四等分し、真中二分の目数を後身頃とし、左右の二部分は各々前身頃と致します。新しい糸をとり、七寶編だけを五つ半程編んで、その先を向つて右の後身頃と前身頃の境に結びつけます。この時、角編が必ず裏向きになるやうに注意します。これから七寶編は下の角編(後身頃の)にとめながら進んで行きますが、左の前身頃の境まで来ましたら、今度は下の段には止めずに、七寶編だけを五つ程編みます。この兩側の七寶編が、袖の長さになります。それから約二寸五分程真直に編みましたら、衿肩明になります。

衿肩明 中央の七寶編五目だけを衿明として残しておいて、前身頃を別々に編むのです。袖の方はつゞけて真直に編み、衿の方は衿ぐりを作ります。

衿ぐり 肩から最初の一段は平に編み、七寶編の時に一段おきに一目宛増すと二回。その増し方は、七寶編で段が終る時、同じ處にもう一つ七寶編をし、次の段では、この新しいのにも角編を入れますと一目増しました。(第三圖)あとは平に編み、前に編んでおいた部分の境まで来ましたら、両方編み合はせませす。
編み合せ方 上の身頃の七寶を半分編みましたら、下の身頃の角編の角に鈎針を入れて七寶の目を引き出し、残り



(3)

の半分の七寶を編んで次の目にとめます。かうして一目づつ上と下と引つけて行きますと、境目がわからないやうに編み合せられます。衿肩から数へて六つ目位の角編に表から糸をつけ、鎖三つ位してはそばにとめ乍ら、衿廻りと向ふ側の身頃まで編んで行きます。今度は裏返して、七寶くづしを四段編みます。この時両端で、角編が一つづつ減るやうに(最後の一目は角編をやめる)します。この衿は折り返しておきます。

リリヤーンで、袖口、衿廻りなど、ピコットをつけた飾り編を一段します。

リボンか編んだ紐で衿下をとめます。

ハイカラなサツクと帽子

材料

ミネルヴゼファフロックス

白二卷(一巻一オンス)

オレンジ一巻

リボン

半吋巾のもの三ヤール。

用具

三番四本針、三番鉤針。

編み方

第一段と第二段、第十一段と第十二段はオレンジで編み、その他は白で編みます。

一段表編。

二段裏編。

三段「表編五、次の目は裏編のやうにして編みにはづす(以下これをスリツプといふ)これを繰返し、終りは表編五。

四段「表編五、次の目は糸を裏編の時のやうに針の上にかけてスリツプ。その後で糸を又針の後に戻します。これを繰返へし、表編五で終る。

五段 七段 九段 は三段に同じ。

六段 八段 十段 は四段と同じ。

十一段 表編。

十二段 裏編。

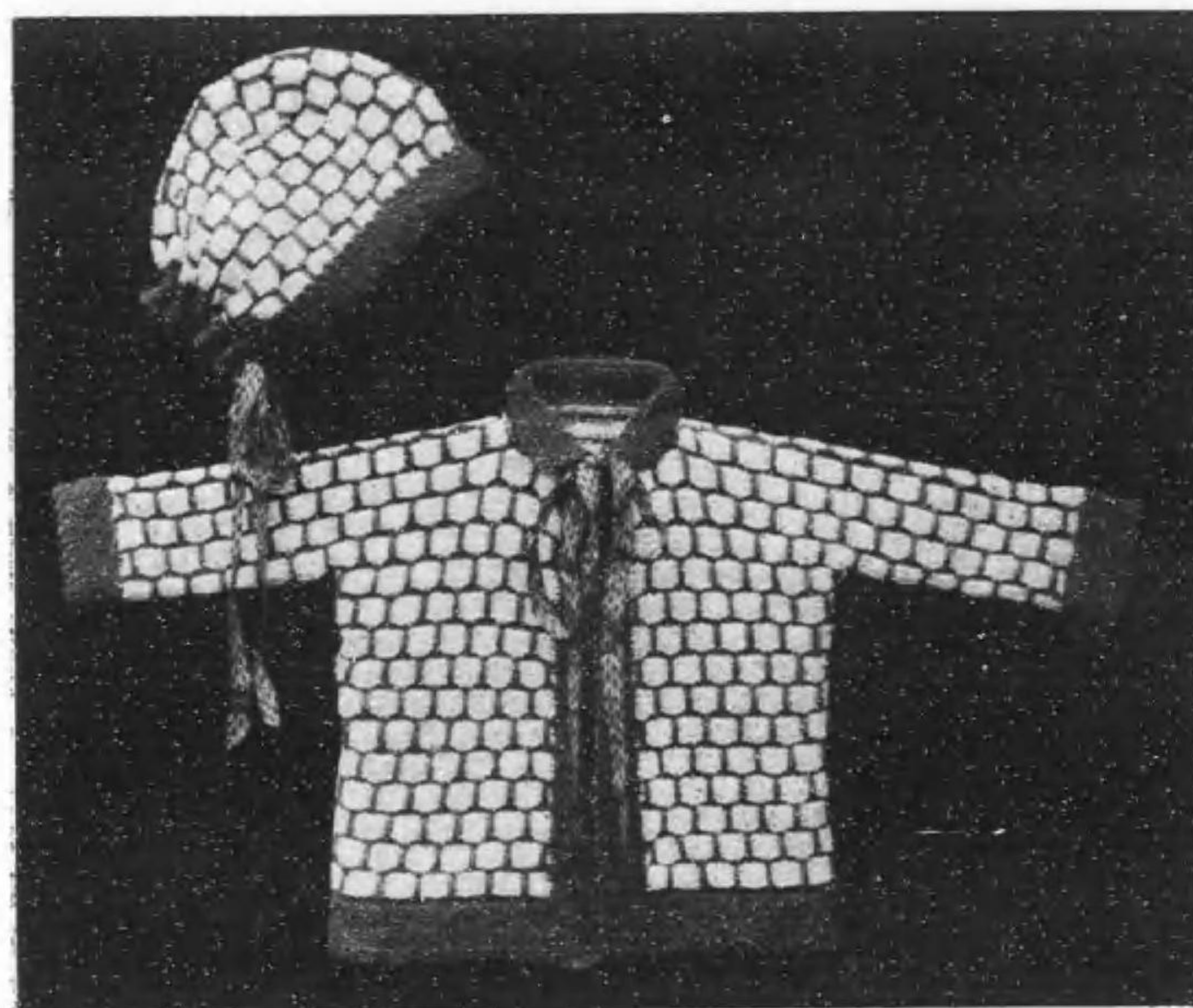
十三段 表編二「スリツプ一、表編五。これを繰返へし表編二で終る。

十四段 表編二「糸をかけ、スリツプ一、糸を元に戻して表編五。これを繰返へして表編二で終る。

十五段 十七段 十九段 は十三段に同じ。

十六段 十八段 二十段 は十四段に同じ。

この二十段で一組の様子が編めます。



サツク 色の糸で七十一目作り、ガーターを七山、次から模様編をはじめ、七時になりましたら、袖のために、左右三十六目宛新しく作り、尚三時編みつけます。次に、頸明のために、中央の十九目をとめてしまひます。残りの六十二目で、左右別々に前を始めます。

先づ模様の半分(十段)だけ編みましたら、胸の方で十二目作り、袖口が六時になるまで編みつけ、袖の三十六目を全部とめてしまひます。後は後身に合せて下まで編んで目をとめます。もう一方も同じ。

前身の端を、表から見て目を拾ひ、色の糸でガーター七山してとめます。もう一方も同じ。

カラー色の糸で頸明きのぐるりの目(色の糸で編んである前の縁の目は残して)を拾ひ、ガーター十四山編んでとめます。

カフス色の糸で、袖口の目を表から拾ひ、ガーター七山編んでとめます。

次に脇と袖下を縫ひ合はせ、袖口とカラーと前身の縁と裾にピコツトを編みつけます。

ピコツトは、短編一、鎖編三つして、前の短編と同じ目に短編一、そして一目とばして短編一つ、次鎖編三つして前の目に短編一、これを繰り返すのです。

帽子 色の糸で三十五目作り、模様編みを四時致します。模様の始めの二段を編み、次からは一段おきに両端の段の終りで一目宛三度減します。すると目数二十九になりますから、これで模様のくぎりまで編んで糸をきります。次ぎに色の糸で、表側から見て、他の針で右の横側から目を拾ひ、上の二十九目を表編みにし、終りに左の横側の目を拾ふと、合計九十五目位になります。次ぎは裏編をして、模様編を四時致します。その先を、やはり色の糸でガーター八山して目をとめて、こゝを表に折るかへしておきます。

次ぎに帽子の下側(衿頸の縁)の方の目を色の糸で拾ひ、ガーターを二山して、リボンを通す穴を作るために、「表編

二、糸をかけて二目一絡に表編一、これを一段繰返へします。尚ガーターを四山して目をとめます。終りに、裾の折返りの縁に、サツクと同じやうにピコツトを編みます。

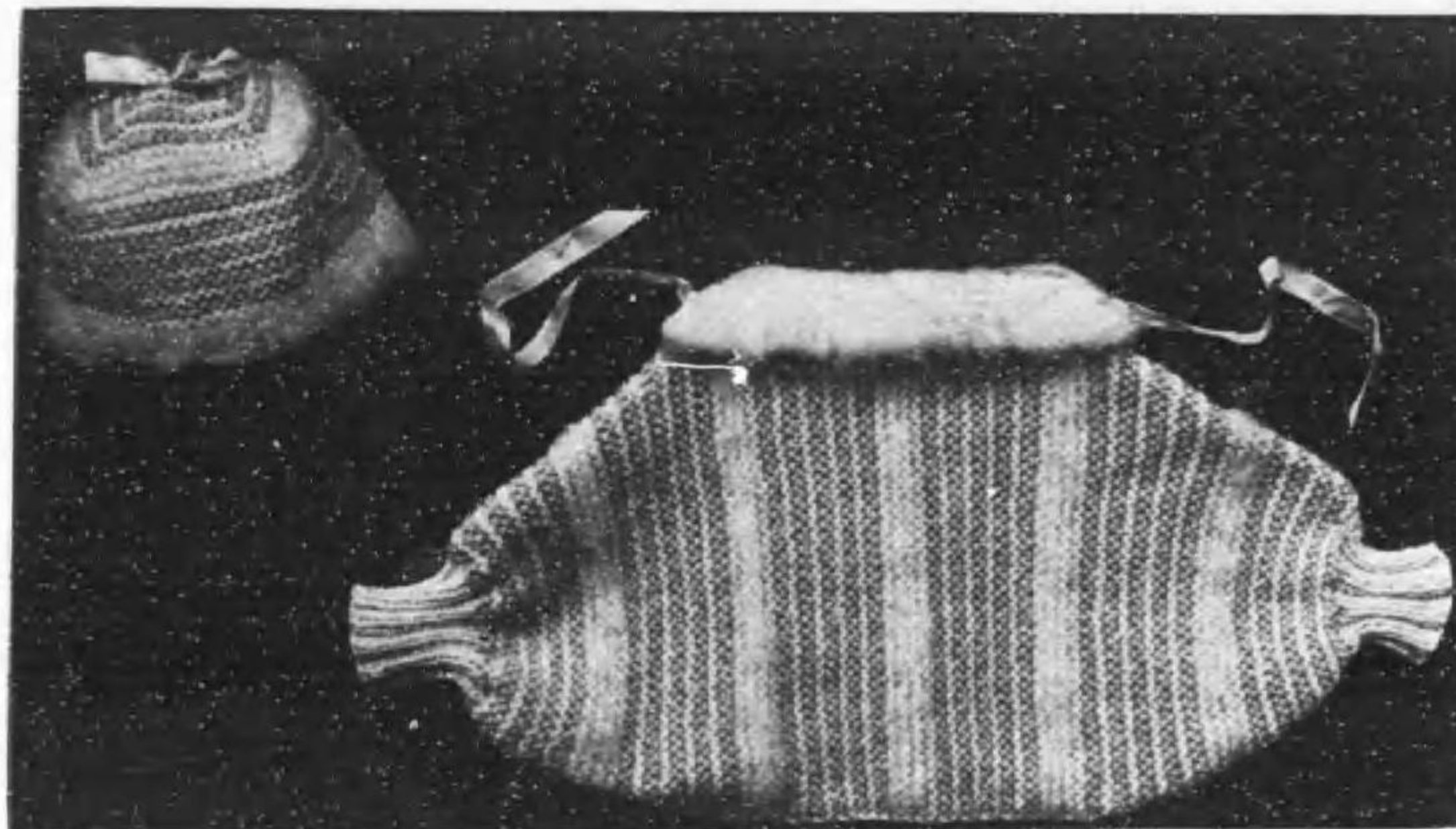
これで編み上がりしましたから、仕上げをしてサツクの衿の前にリボンの紐をつけ、帽子の方は、リボン通しの穴にリボンを通して前の端でとめておき、別にリボンできれいに飾りを作つて前側の両端にとちつけ、その先を紐にしておきます。

一 スペンサーと帽子

材料 クロバーヤーン(毛立糸) 白二オンス、時色一オンス。

用具 三番 二本針、四本針。

スペンサー編み方 ガーターで編みます。時色で四十六目作り一山、白にかへて一山、これを繰返して、時色の縞が五筋になつたら次は白ばかりにして四山編みます。以上の編み方を六度繰返し、最後は編み初めと同じく時色と白の一山宛の縞を繰返して、五筋目の時色の縞の時に目を止めます。次は白で編み初めの四十六目から三十六目拾ふのですが、凡そ三目毎に一目宛減しながら目を拾ふと丁度いゝやうです。これを四本針にとり輪にしながら、二目宛のゴム編を一寸五分いたします。編み終りの方も同様にしますとこれが袖口になります。次ぎはカラーを編みますが、一方の中央二十八目拾ひ、ガーターで編み初め毎に一目宛増しながら十山作つて止めます。このカラーと、白四筋の所に毛をたてます。



帽子編み方 四本針を用ひ白で七十目作り、ガーター五山、次から時色と白と一山宛交互に編み、時色の編が五筋になつたら白ばかりにして、全體の目数を四分しその四ヶ所を山毎に一目宛（都合一山で四目づゝ）減らしながら四山、次は又時色と白と一山宛交互に編みながら四ヶ所を減らすことを續けます。深さ四寸五分になりなりましたら、残つた目をとち針でとめてしまひます、白四山の所を毛立てます。

一 氣の利いたアフガンと帽子

アフガンは落葉崩し模様、帽子は七寶編、どちらも極細糸で出来てゐますから軽くて温かで、夏の終り頃から秋にかけてお用ひになるのによいでせう。アフガンは寝臺掛にも抱く時の巻蒲團にも使はれます。又、帽子は風通しがよくて、汗を吸収しますから外出先から歸つて、すぐ洗濯しておく次の時に汗や埃で冷くなつたものを用ひずすんでほんとうに氣持がよくなります。

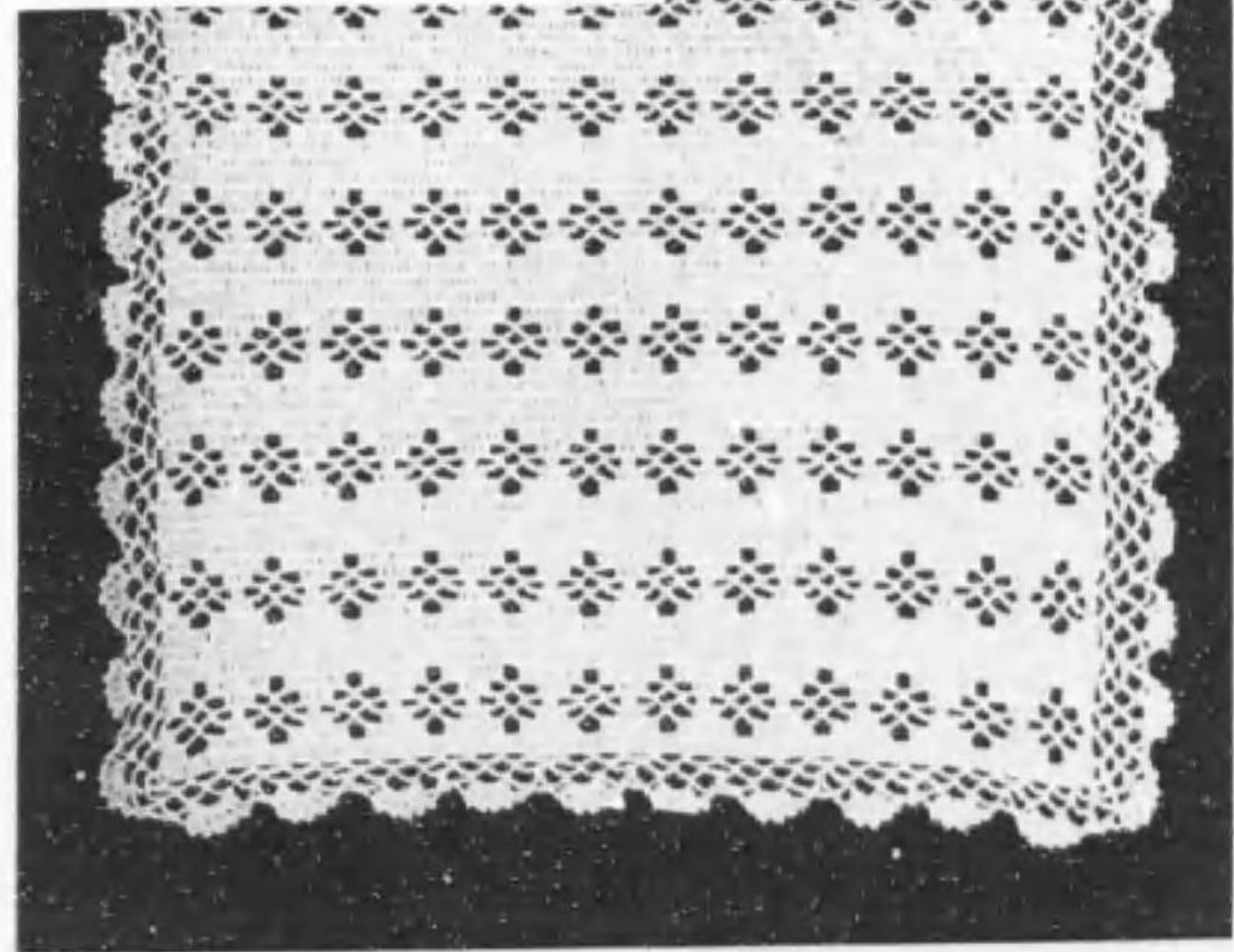
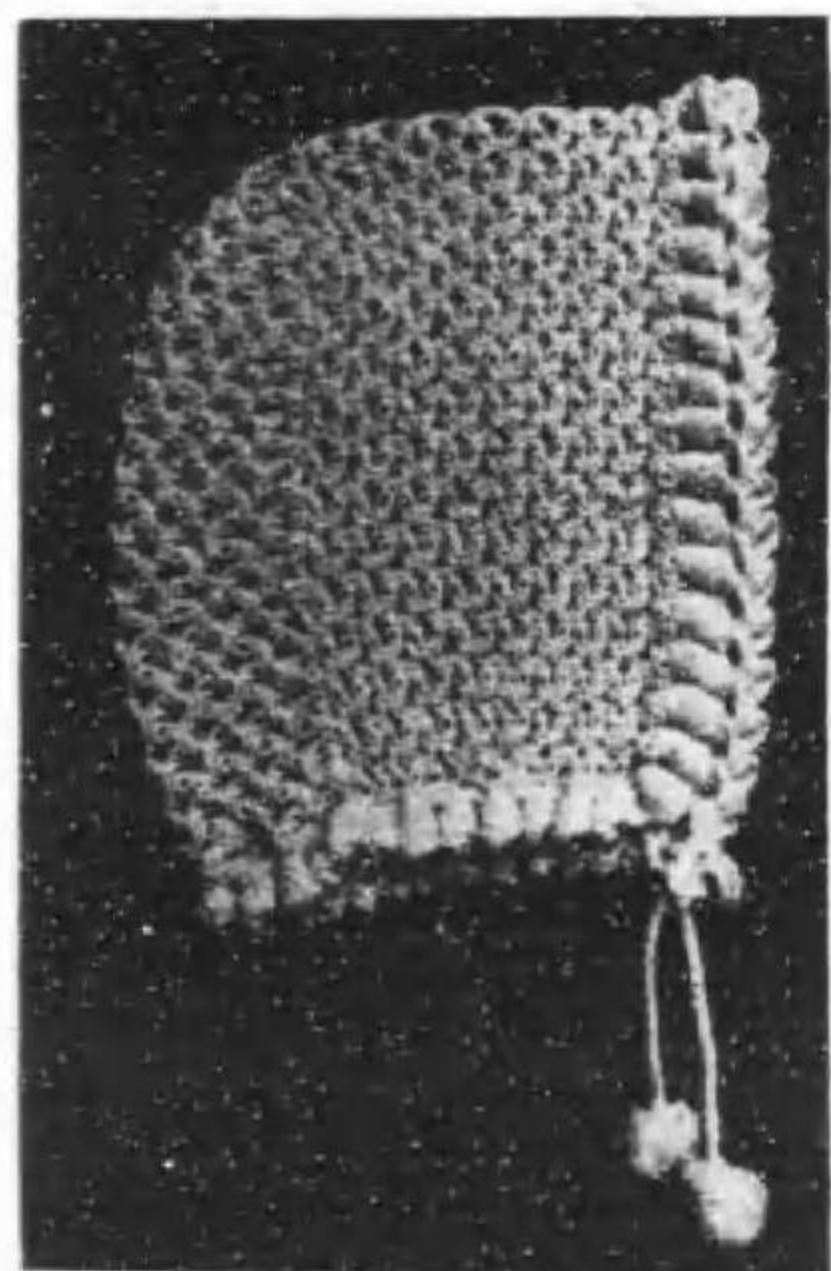
材料 極細糸 八オンス。
用具 鉤針。

アフガン

落葉崩しの編み方 一段 先づ鎖編三百三作り、編終りから四つ目の所から全部長編をしますと、長編の数が三百になります。

二段 向をかへて鎖三、長編四編みます。次に「鎖三、二つ飛ばせて長編八、鎖三、二つ飛ばせて長編八」括弧内を全部に繰返し、最後は長編四で終ります。（向をかへた時は、何時でも鎖を三致します。）
三段 長編二、鎖四して二段目の鎖編の中へ短編で止め、又鎖を四つし次に長編を四つします。この四つの長編は二段目の長編のうち兩端の二目宛を飛ばした真中の四つ目に一目宛入れるのです。これ返線し、最後に長編二つ致します。

四段 長編一、鎖四して前段の鎖で出来た穴に止め



る、鎖四、次の鎖の穴に止める、鎖四、長編二、鎖四、前段の鎖の穴に四止める、鎖四、穴に止める、鎖四、長編二、括弧内を繰返して、最後に長編一つします。

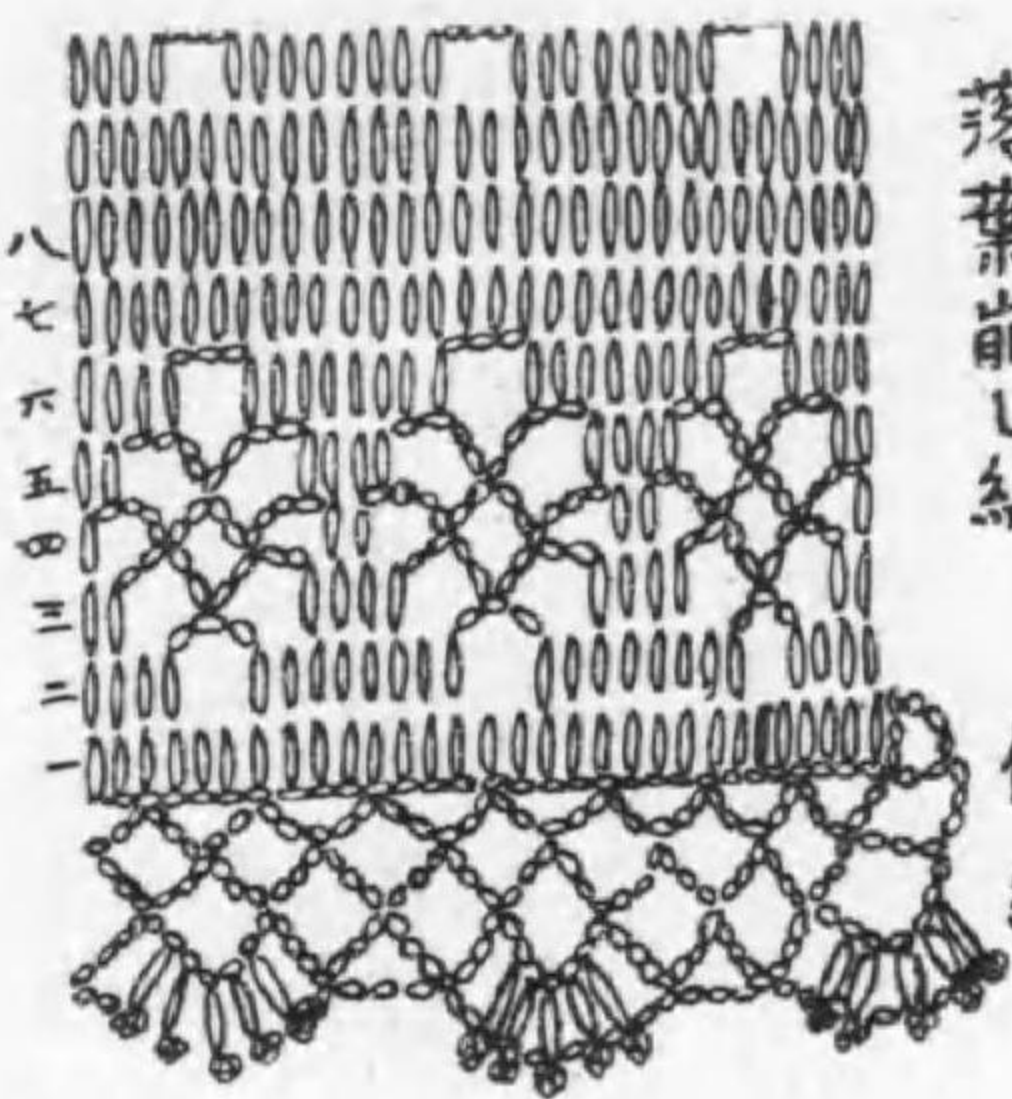
五段 是で模様の中まで来ました。今度は反対に模様をつめて行きます。長編二(二の中の二は前段の鎖の穴に入れる)鎖四、前段の中央の鎖の穴の中へ短編で止めます。鎖四、長編四(この長編も両端に一つ宛穴の中へ入れる)鎖四、短編で止める、鎖四、長編四、を繰返して、最後に長編二つ致します。

六段 長編四、鎖三、長編八、鎖三、を繰返して、終りに長編四。

七段 全部に長編をします。この時には前の鎖の中へ、長編を二つ宛入れてゆきますと、一段と同じやうに、三百の長編が出来ます。

落葉崩し編

飾り編



八段 全部に長編を増減なく致します。以上一段から八段までを繰返して、幅と同じ丈になるまで編みます。

縁飾りの編み方 眞四角に出来ましたら縁飾りを致します。

一段 角へ短編で糸を取り付けて、鎖五つして、下の目を三つ飛ばせて四つ目に短編で止めて、周囲を一周致します。この場合角へ来ましたら下の目を二つ飛ばせて三つ目へ止めることに御注意下さい。

二段 鎖六つ編んで下段の鎖の穴の中央へ、短編で止めながら一廻りします。

三段 鎖七つして下段の鎖の中央へ短編で止めて廻ります。

四段 鎖二つして、次の鎖の穴の中へピコットを持った長編を五つ入れ

ます。(ピコットを持った長編とは、長編一つして鎖三つ編み今編んだ長編の頭に止めるのです。)次は鎖二つして次の鎖の中央へ短編で止めます。鎖三つして次の鎖の穴へ止めます。その次は鎖二つして初めのやうに、ピコットを持った長編を五つ致します。

すつかり編めましたらアイロンで仕上げ上げて頂きます。

帽子

七寶編

後方より編む。

一段 先づ三十六の鎖を少しゆるめに編みます。その次は鎖の糸を長くのばし、(1)圖のやうに糸をかけてイロの輪から引き出し、それを針にかけたまま、(2)圖のやうに、ハを通して糸を引出し一つ短編をすると(3)圖のやうな恰好になります。又この最後の目を長く引きのばして前と同じく、(1)(2)(3)圖の順序を繰返して、下の段の鎖を三つ飛ばし、四つ目に短編でとめつけます。これを繰返すと(4)圖のやうになります。かうして編んで行くと九個の半圓が出来ます。

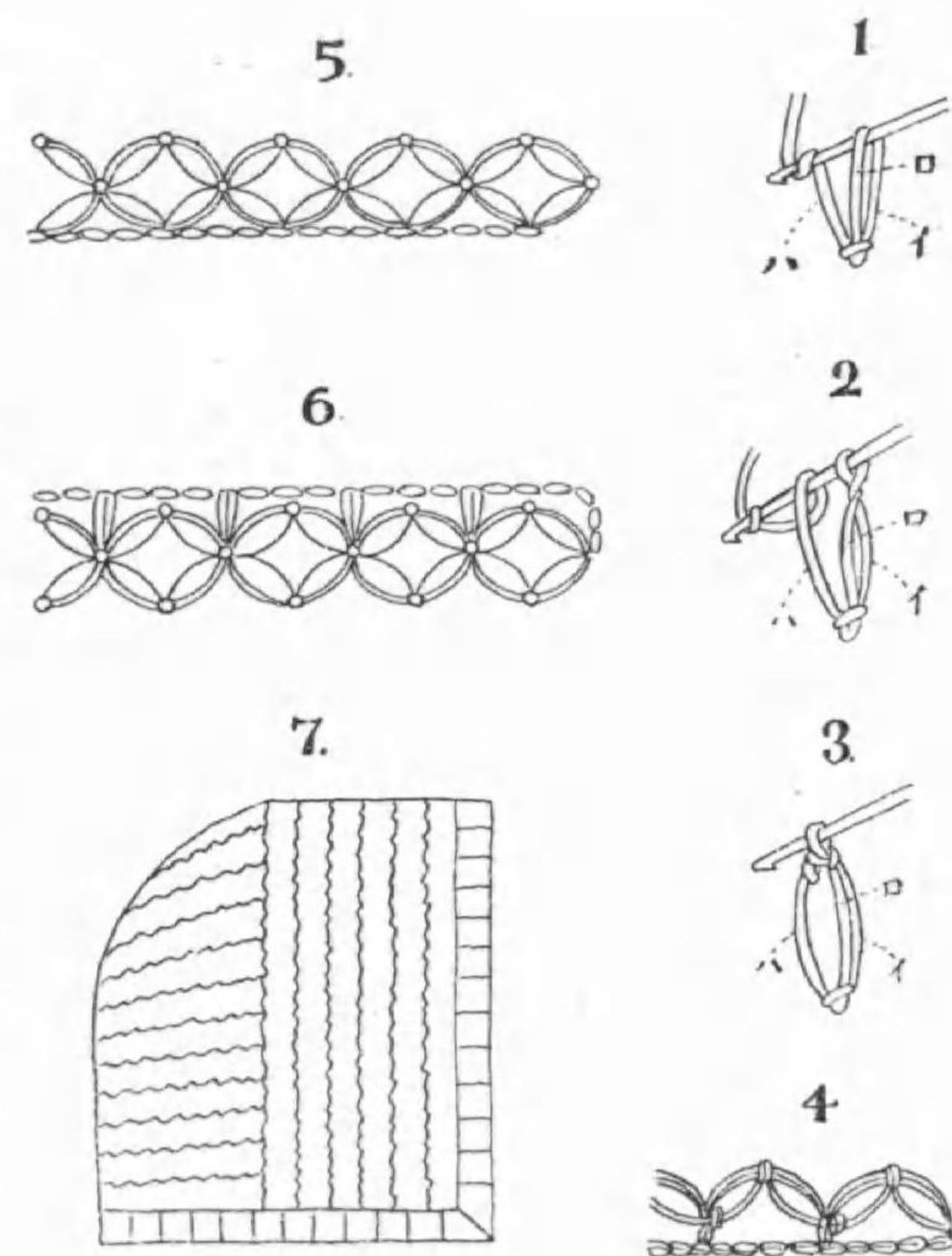
二段 向をかへて前のやうに大きな目で二つ繋がつたものを作り、下段の半圓の中央の短編の上へ短編で止めます。この方法で進みますと(5)圖のやうに完全な七寶型が出来上ります。

この編方を繰返して二十四段編みます。

二十五段 この段は八個だけ七寶を編んで最後の一つを編まないで直ぐに向をかへて、次の段に移ります。

二十六段 今度は七個だけ作つて終りの一つを編まないで向をかへます。

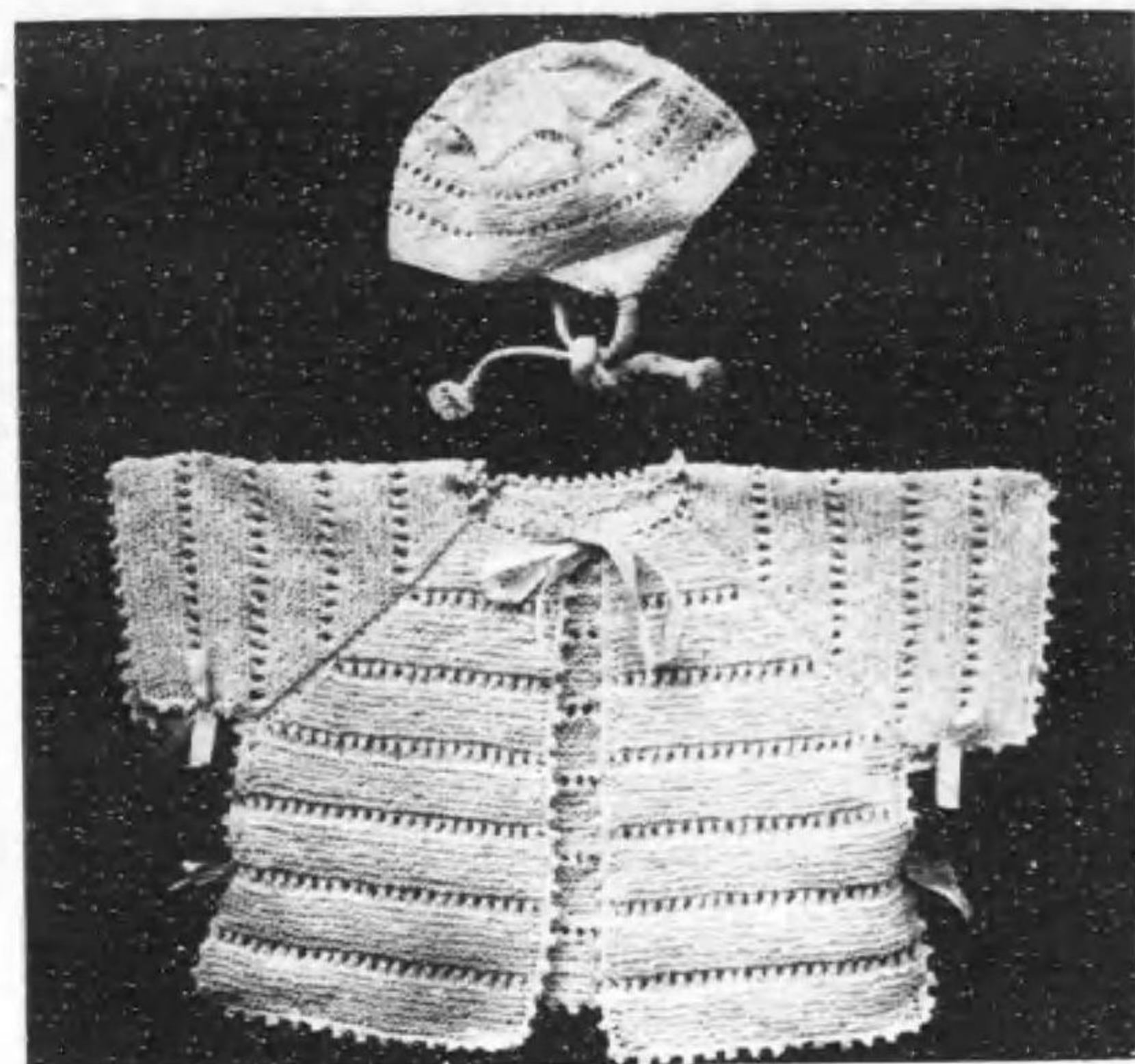
二十七段 七寶を七個編みましたら、續いて二十五段で編み残した七寶の中央へ止めます。次は向をかへないで左側の横を編みます。この時は鎖の目がありませんから、餘り引きつけないやうに注意して適宜のところへ止めながら



編み進みます。そして下の最初の鎖のところへ来ましたら三の鎖の中へ短編を三個入れて鎖一し、又隣の三の鎖の中へ短編を三、鎖一して次へ短編三して角まで編めましたら、左側と同じ方法を以て右側へも七寶編を入れ(左と同数)上のところまで来ましたら、その儘續いて二十七段の上へ七寶を編み又その儘左へ廻ります。左側の下まで編めたら今度は向をかへて編み、都合十八段しますと大體の型は出来上ります。

飾編 今度は飾編にうつります。編力はやさしいのですが一寸風變りな面白い飾です。編み終りの糸を切らないでその儘鎖六して(その中三は長編の代用)前段の七寶

を短編で止めたところへ長編を入れ、又鎖三して次へ長編で止めてゆきますと、(6)圖のやうになります。かうして全體を一廻り致します。
次は向を變へ前の方を右に後が左になるやうに即ち(7)圖のやうに持ち横になつたままで、先刻編んだ長編をすくつて七個の長編をし、右側の第三の鎖へ短編で止めます。又次の長編をすくつて七個長編をして第三の鎖へ短編で止



ます。かうして全體を廻つたら止めます。
四本糸で鎖を二十二吋半(一尺五寸)編んで下の飾の間へ通し、先端へ丸い球をつければ出来上ります。

可愛らしいサツクと帽子

材料 クロセー 四オンス(中細位のもの、純白なら出来栄が一層きれいです)

用具 三號、四號、二本針(サツク)、四號四本針(帽子)。

サツク編み方 目數七十五(頭廻りから編み始める)これは袖下まで、ガーターにして四ヶ所で増してゆきます。即ち、

一段「十三表、一表、一作」を二度繰返す。十九表「一作、一表、一作、十三表」を二度繰返す。

二段「十三表、ねじつて一表、一裏、ねじつて一表」を二度繰返す。十九表「ねじつて一表、一裏「ねじつて一表、十三表」を二度繰返して終る。

以上の二行を繰返し(但し表編の目數は山毎に増す)八段編んだら、寫眞のやうな横編を一本入れます。それは

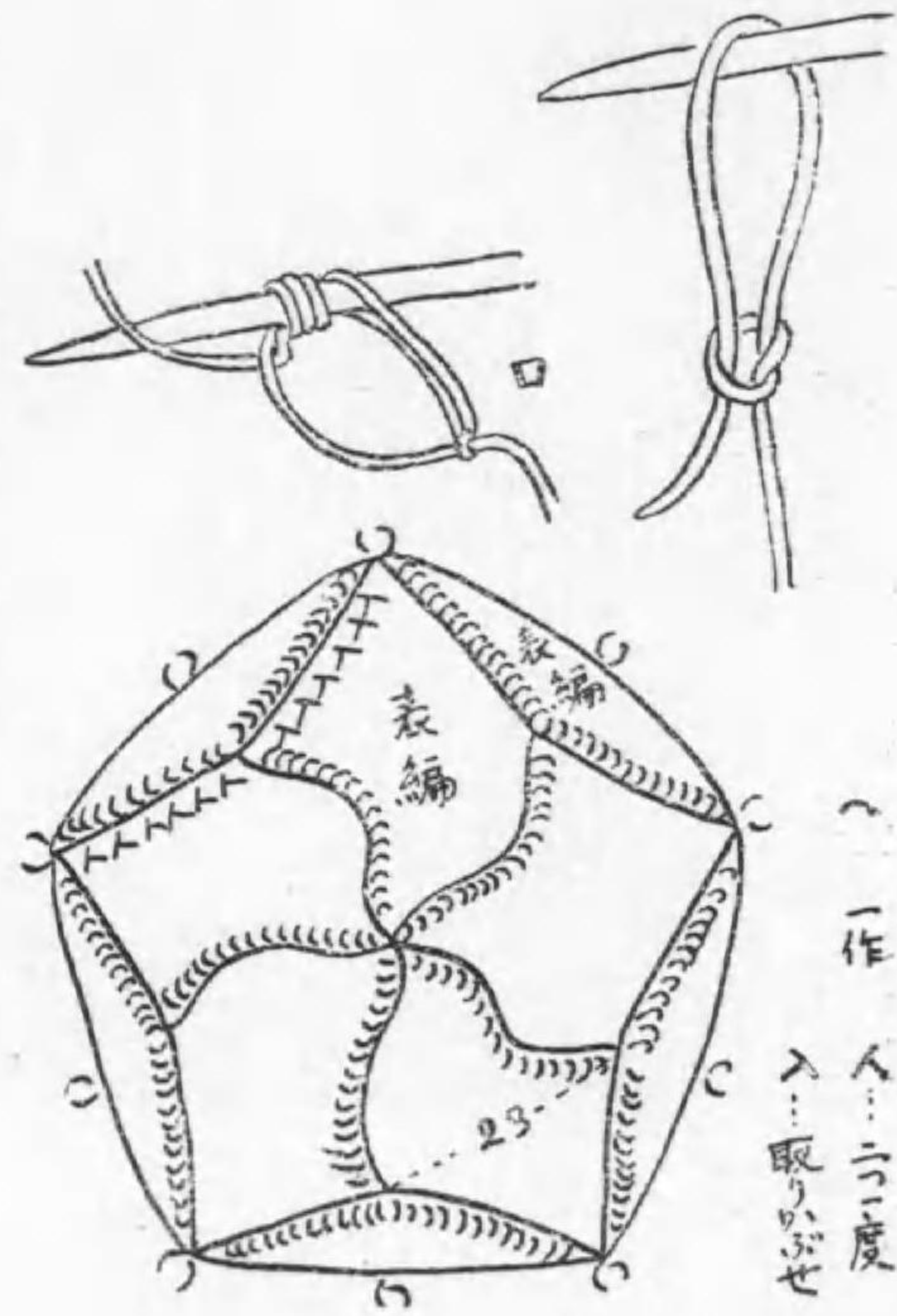
一段 裏編ばかり。
 二段 「二作、二つ一度」の繰返し。
 三段 裏編ばかり。

この横編の時も、角々はふやしてゆきます。次に七山ガーターステッチ、横編一本、ガーター七山致（いつも角々は増すこと）します。今度は角々を境とし、両前、両袖、後身と別々に分けて編みます。編み方はやはり「横編一本、ガーター七山」の繰返しで身頃は括弧内を四度、袖は二度繰返します（増減なく）。
 飾り編 鉤針で袖口、袖下、両脇、裾、前あきを續けて短編二目毎に鎖三のピコットをつけた飾編を一回します。衿まはりには「長編一、鎖一」の繰返しで紐通しの穴をつくりまします。なほ長編の頭には鎖三のピコットをつけること。共色の細いリボンを書真のやうに結ぶと出来上りました。

帽子編み方 頂上から編み初めます。これは編初めの目の作り方が面倒ですから、圖をよく御覽下さい。わさ一つ作る。但しこのわさは(イ)圖のやうに短い方の糸を引き出すこと。このわさが基になります。(ロ)圖のやうにこのわさの中に針を入れては糸を引き出しながら十目にふやします。三本の針に目をわけまします。

次に「二表、一作」を繰返す、即ち五ヶ所で一目宛ふえたわけです。次の段では前段で一作つた目を、表編みにしてから「一作」を作る。即ち「三表、一作」の繰返し。このやうに一段毎に五ヶ所で一目宛増しながら二十段編みますと、五枚の花弁を持つた花のやうにひろがります。この時一片の目数は二十三あるわけで總數百十五、今度はこれを花弁のさきのやうにとがらしてゆきます。これは二十段目の終りから始まります。

一段 最後の「花弁の二十一番目と二十二番を二つ一度、一作、ねじつて一表(二十三番目)取りかぶせ(最初の花弁のはじめの二目)十八表」括弧内を繰返します。但し終りの十八表は最後の花弁で十七表とし、十八番目から次



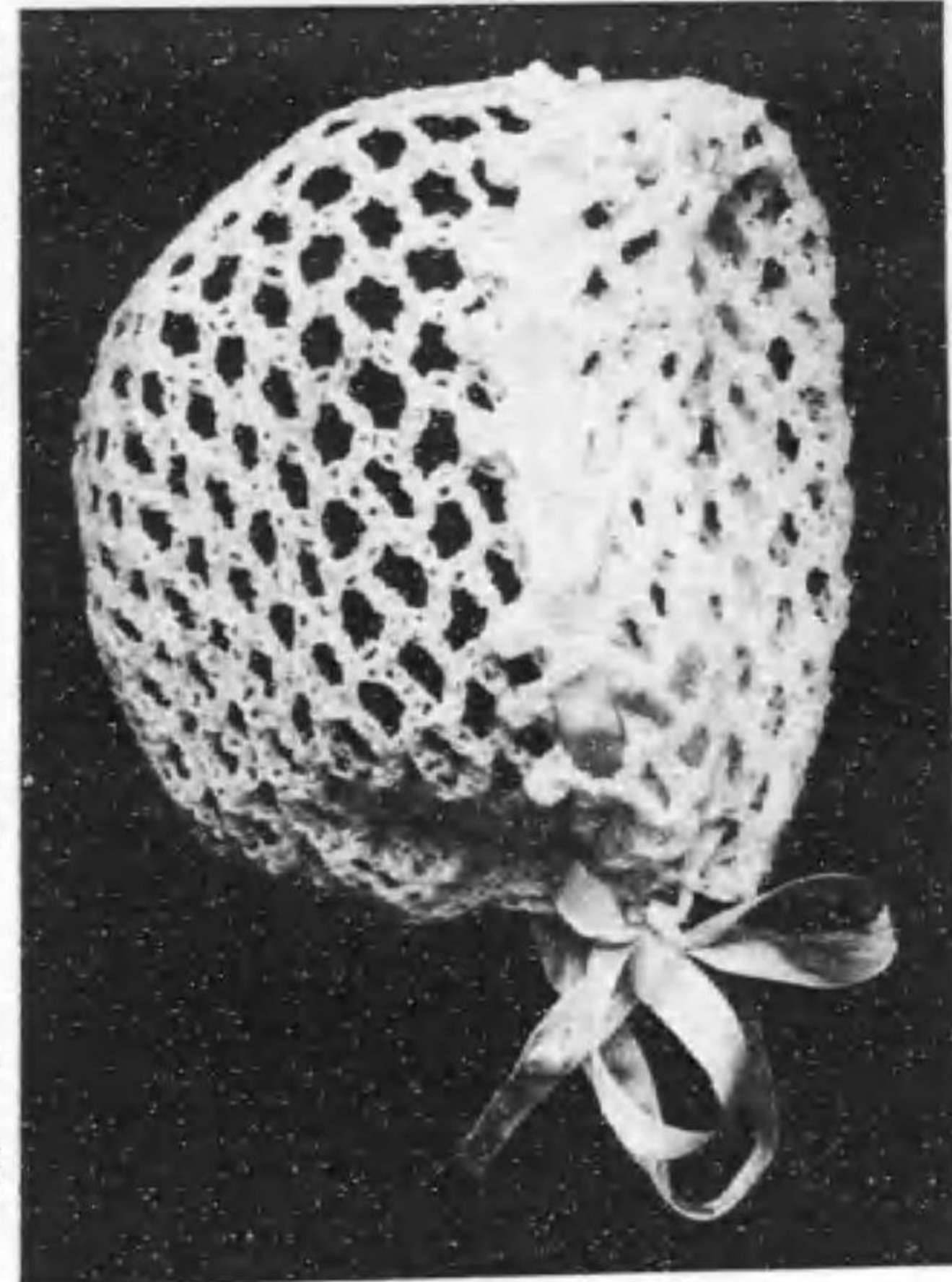
の段がはじまるのです。

このやうにして段々花弁の先をとがらして遂に花弁の目を三目にしてしまひまします。三日の最初の目を編まずに移し、次の二目を一緒に編み、移した目をかぶせて一目としてしまふのです。これで帽子の頂上にあたる部分が圖のやうな五角形が出来たわけです。

次の段は五角形の角々の両側、その中央の目の両脇に一目づゝふやして全體で二十目だけふやし、あと増減なしに三段いたします。(四本針のガーターは一行表一行裏で一山になるのです)

次は「二つ一度、一作」を繰返して横編一本入れます。次にガーター七段、横編一本、ガーター七段を終つたら、両耳二十四目宛残して止めてしまひます。この二十四目は両端で各段編始め毎に一目宛へらして六目とし、そのまゝ六寸編んでから丸く縫合せて先に飾りをつけると出来上ります。

涼しうな帽子



ごく編方の易しい氣持のよい帽子です。
 材料 白中細 半オンス、リボンピンク、水色等
 淡色 一ヤール半。

用具 鈎針。

編み方 鎖五つを輪にします。鎖二、前段の鎖の上
 上に短編一、を繰返し、少しゆるみ加減に圓形に編
 みます。直径二寸になつたら、次からは鎖編三つして
 は前段の鎖二つの一方に短編でとめます。頭明のた
 めに短編五つだけ残したまゝ、持ちかへて次の段に
 移ります。前と同じやうに、鎖三つして、前段の鎖
 三つの中央の目に短編でとめます。この編方を十段
 繰返し、次から鎖編を四つにして九段編みます。次の段では、鎖四つの中央にピコットをつけて編みます。
 ピコットのつけ方 鎖四つのところで、鎖五つして、はじめから二つ目にひき抜き編でとめ、鎖編を二つします。

レース模様の帽子

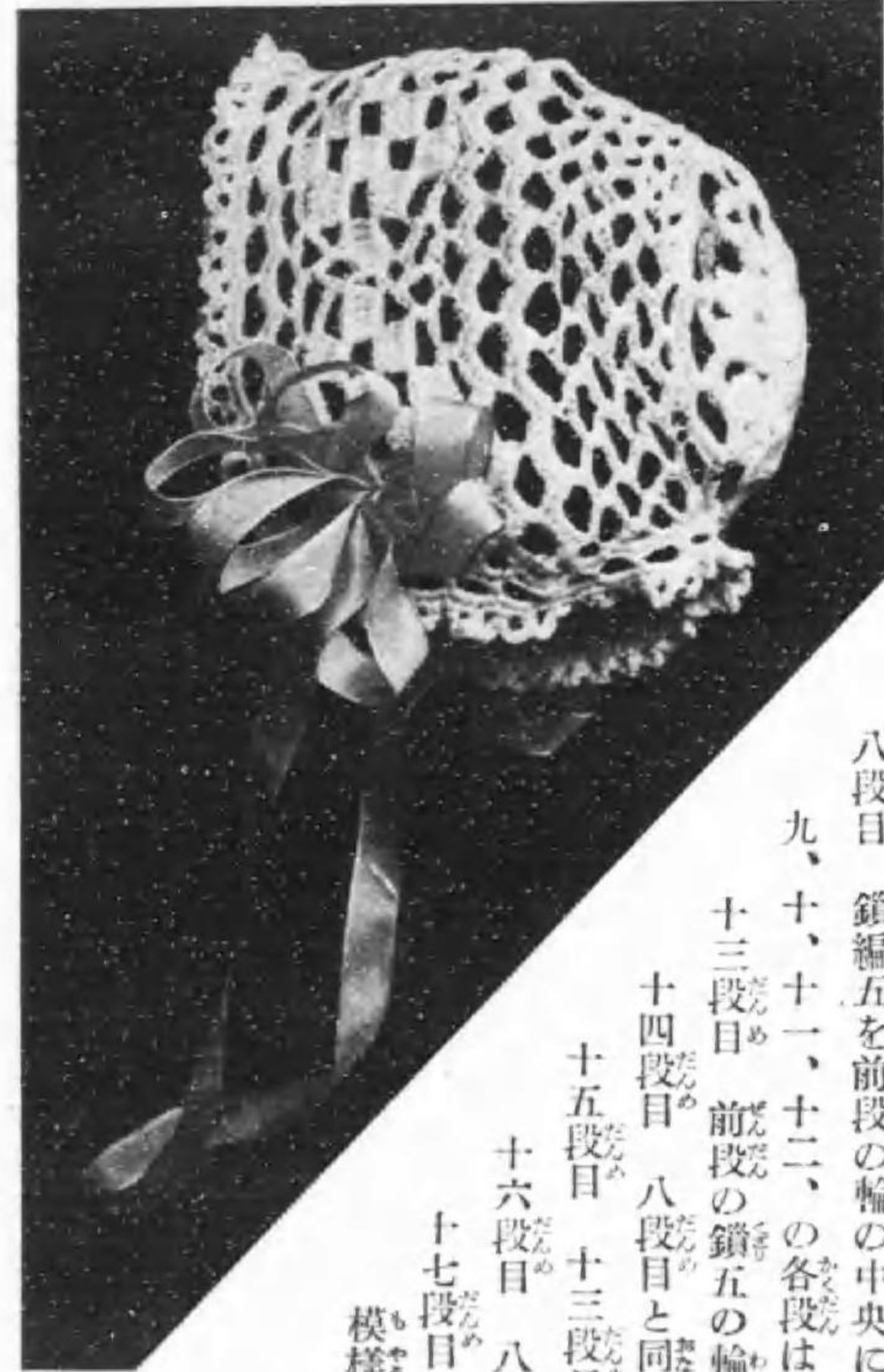
次ぎに頭廻りのところで、兩端三段づゝ残して、後を短編で少しつめ加減にしつゝ六段編みます。
 頭廻りを三段折返して、その縁にリボンを通します。

軽くてきれいな赤ちゃんの帽子です。春先には中細か、一層軽い極細。絹レースで編んで淡色の裏をすかせば真夏
 のものとして可愛いものが出来ませう。糸によつて多少の目数を御工夫下さい。説明は少し入りくみませんが、實際手
 にとれば容易なものです。

材料 中細毛糸 白半オンス、三分巾水色リボン三ヤール。

用具 鈎針。

編み方 一段目 鎖三で輪を作り、鎖三して、長編十七をこの輪に入れ、終りは、鎖三の頭にスリツプステツチ
 (一)編、ひきぬき)でとめる。
 二段目 鎖三(段のはじめの長編の代り)長編二、鎖三、長編三、括弧内を五度繰返し、鎖三してとめる。
 三段目 鎖三(長編一つ分)長編二(前段の長編二の上に)鎖三、長編三(前段の鎖編三の中に)鎖三、括弧内を
 繰返す。たゞしこの括弧内の最初の長編二は、一度だけ二つ、繰返す時はいつもは長編三にする。
 四段目 短編一(前段の長編二のはじめの目に)短編五(前段の鎖三の中に)短編一(前段長編三の中央の目に)括弧内を繰返し短編五して次段に。



五段目 スリップステッチ三（前段の短編一と短編五のはじめの二目に）短編一（次の目、即ち短編五の中央の目に）鎖七」括弧内を繰返します。

六段目 前段の鎖の輪の中に短編七つづつ。
次の段から輪に編まず、一段毎にもどつて編みます。

七段目 「鎖編五（前段の短編の輪の中央に短編一でとめつける）鎖編五、（五段目の短編一の上に短編でとめる。）」

八段目 鎖編五を前段の輪の中央にとめる。

九、十、十一、十二、の各段は八段目と同じ方法を繰返す。

十三段目 前段の鎖五の輪に短編を五つ宛編み込みます。

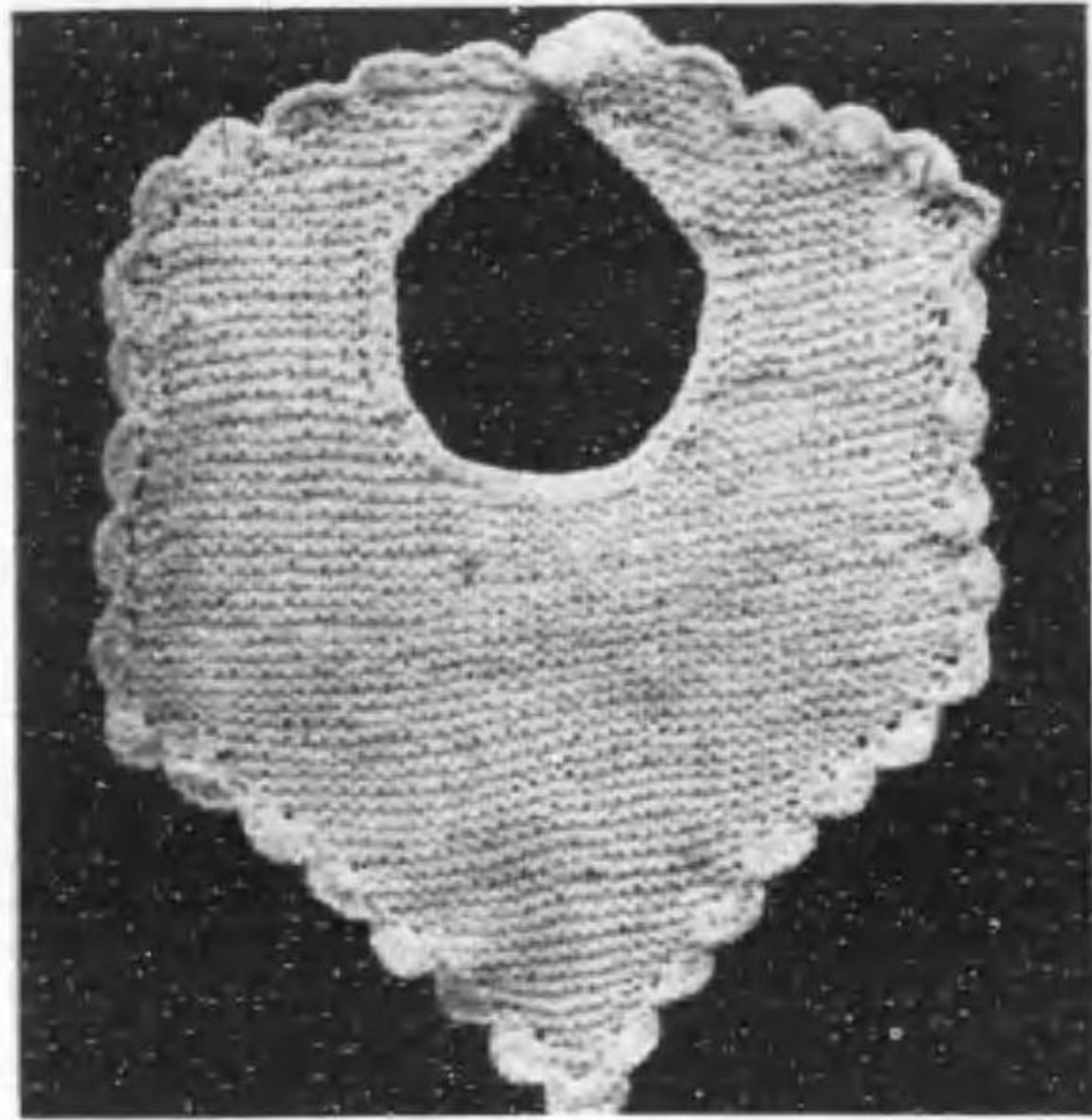
十四段目 八段目と同じ。

十五段目 十三段目と同じ。

十六段目 八段目と同じ。

十七段目 この段から寫眞のやうな、長編の市松模様を入れます。先づ前段と同じく、鎖編五の輪を作ること三回、次ぎに前段の輪に長編四を入れます。このやうに鎖の輪四つおきに長編四を入れて一段終ります。

十八段目 「鎖の輪二、長編四、鎖



三、長編四」を繰返し、鎖の輪二で次段に移ります。

十九段目 鎖の輪一つおきに長編四。

二十段目 十八段と同じ。

二十一 段目 十七段目と同じ。

これで模様が入りましたが、こゝはとかくゆるみ易く、模様のところだけ浮き上つたやうになつてしまふことがありますから、少しかために編みます。長編四で埋るところを、鎖三つづゝにするのもよいと思ひます。

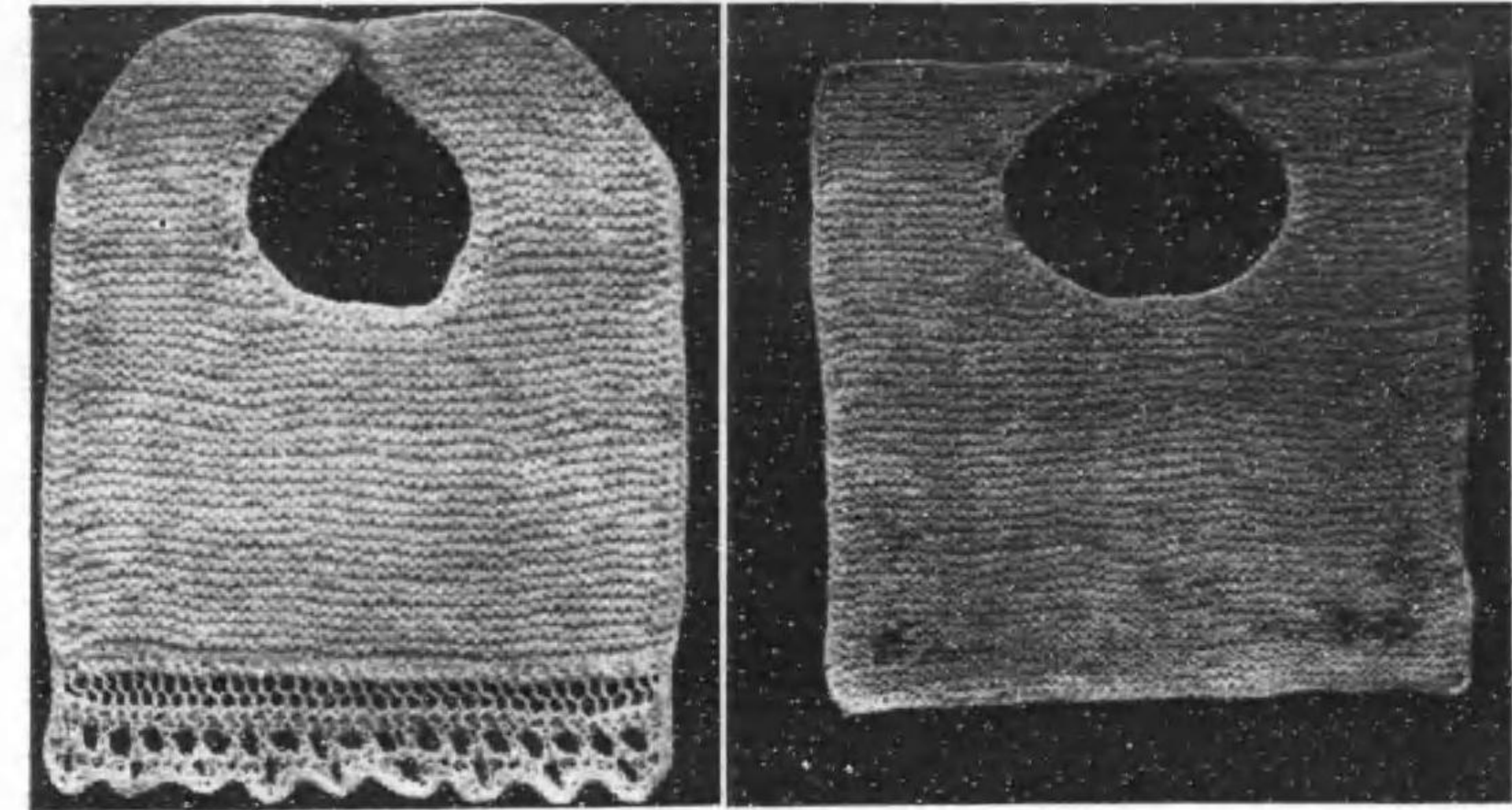
二十二段目 八段目と同じく鎖五の輪を、ぐるり全部に編みつけます。

二十三段目 前段の鎖の輪の中に短編五つづゝ入れます。二十二段、二十三段の編方をもう一回繰返します。形は「」を一段します。

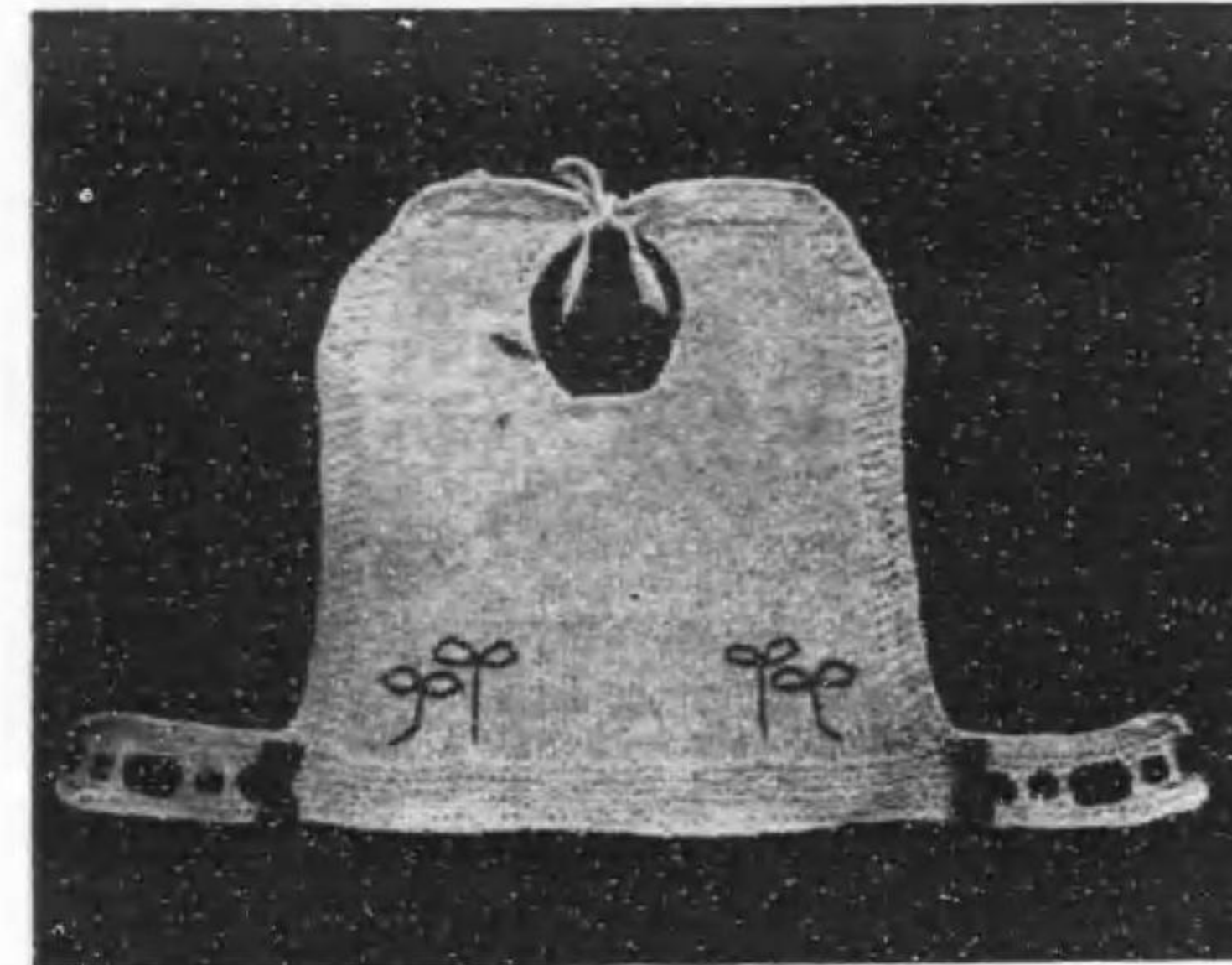
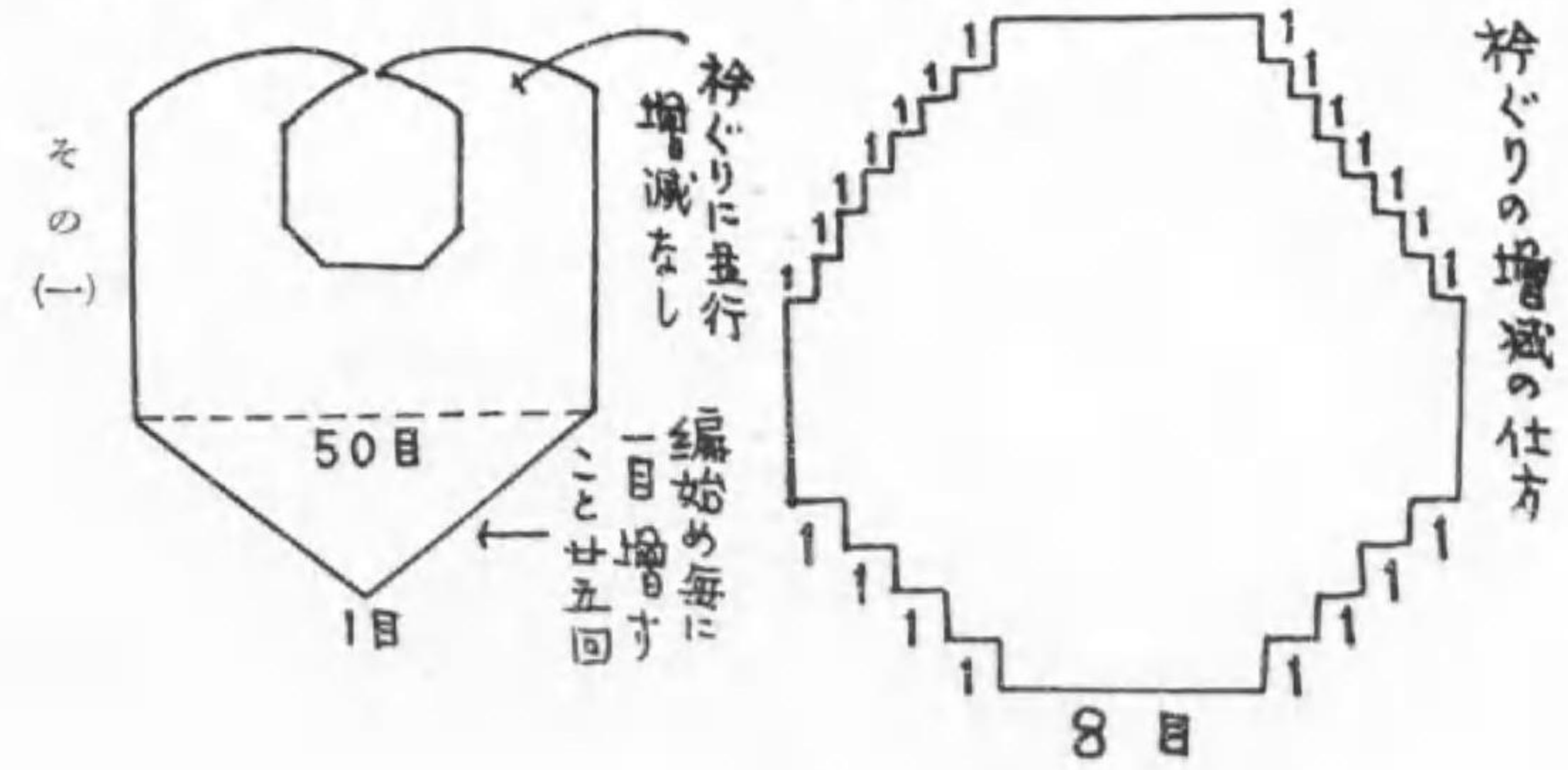
リボン在花のやうにきれいに結んでつけば出来上ります。

エプロン五種

材料 いづれも中細 白半オンス位。
用具 二號二本針、鈎針。



その一
 全部ガーテーステッチで、まはりは松編で飾ります。目数及び増減の仕方は圖を御参照下さい。
 最初一目つくり、両端で編始め毎に一目増して二十五山で目数五十に致します。次に増減なく一寸編んで頸まはりを明けます。最初中央の八目をとめて、左右二つに分けて編みます。頸のくりの方で編み始め毎に一目宛減じ他の端はそのまゝに續けて目数十七になりましたら増減せず五山編みます。今度は頸廻りの端で、編み始め毎に一目宛増し、外まはりの端では一目宛減じます。これを八回したらとめます。他の一方もこれに準



その二
 ガーターで角形に編んだ簡単なものですが、水色のフランス刺繍糸で左右に花など縫ふと氣の利いたものが出来ます。編み始めの目数は四十位、頸のくり方はその(一)を御参照下さい。

その三
 これもガーターで殆ど(二)と同じ型ですが、頸まはり(一)の仕方以外まはりを頸のくりに行かせて丸味をつけました。裾にレースをつけます。レースは始めの目数九つ、記號の通りに編んで、適當の長さになつたらとめて、針



以上の二段を繰返して編みますが、七段目からは、両端で各段一目づつ増して行き、目数が六十四へゴム編を始めからガーターで数へて十二山)になりましたらゴム編をやめて、増減なく三山編みます。次から底に移りますが、この底は内側にたいめるやうになります。先づ折り目のために裏編一段、この裏編は、始めのはき口と反対の方に裏が出るやうにし、次にガーター二山、次から一山毎に両端と真中で一目宛減じ、目数が五十五になつたらとめます。仕上げ、口の折返しのを残して底と甲を裏から縫ひ合はせます。絹糸で底のぐるりと、折返へしの周囲を短編で飾り、簡単な花を縫ひ、リボンをつければ出来上りです。

可愛らしい靴 (2)

材料 あまり細くない軽い毛糸 半オンス。

用具 二號か三號の二本針、小さい飾りボタン二個。

編み方 全部ガーターです。

一段目 目数十五、表編。二段目から各行で両端一目宛増し、目数二十五になるまで續けます。(五段目)

二十五で増減せず五段編む。

十段目から各行両端一目宛減じ目数十五にします。(十三段目) 十四段目 片方の端で四つ、もう一方で六つ新しく目を作り、



この二十五で四段編む。

十八段目 十四段目で六つ増した方の端から十八目をとめてしまひます。残つた七日に、(十四段目で、四つ増して編んだ四段の縁)で四目拾ひ目数十一で増減なしに二段。

二十一一段目 端から六つ編んだら、後は残したまゝ編みかへり、次から十一全部編んで二段。

二十四段目 十八段目で四つ拾つた方の端で四目とめてしまひます。残つた七つに、新しく十八日加へ、目数二十五で増減せずに四段編んで、全部とめてしまひます。別に足踵のところのとめを作ります。目数三十六、ガーター四段。この時一方の端に、飾ボタンの大きさに應じたボタン穴を明けます。

以上で編み上げたものを、それ〴〵縫ひ合はせます。帯は、一方の端にボタンをつけ、真中を靴の後真中に合はせて、六七分程縫ひつけます。飾りには、やゝ大き目の毛糸の玉を作つて、甲のあたりにつけます。

三つ組の女兒服

簡単に編めて然も大變温かいのはこの服の特徴でございます。そして又寫眞のやうに可愛らしいものです。

スウエター

材料 メイフラワア(太毛糸)茶十オンス、臙脂色二オンス。

用具 六號二本針。

編み方 ごくやさしい模様編で、後身頃の裾から始めます。型は圖でおわかりのと、思ひます。茶の毛糸で五十の



目を作り、ガーター二山して臙脂の糸にかへ、ガーター一山、又茶の糸に戻つてガーター一山、かうして臙脂の縞が五本入つたら今度は茶ばかりで次の模様縞に移ります。第一段「表編三、裏編二」を繰返す。

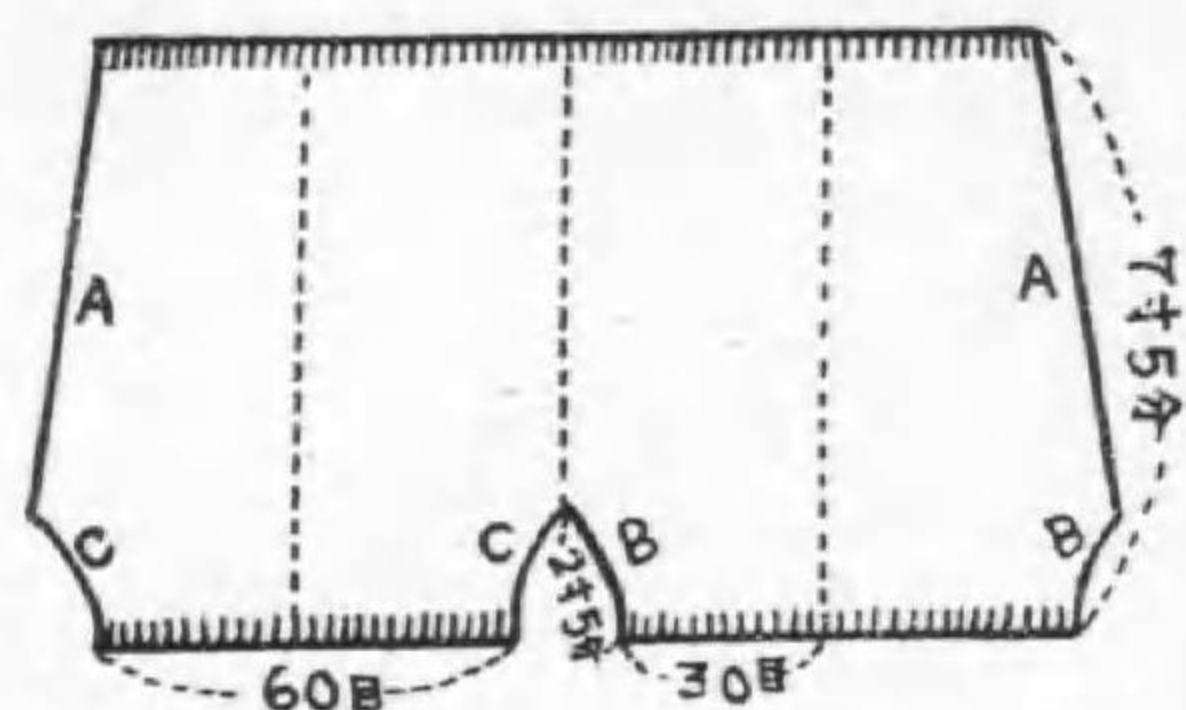
第二段 表編ばかり。

以上二段を繰返して、裾から七寸になつたら袖のために目を作ります。袖の増しはじめのところから四寸になつたら、衿肩明のために中央十八目をとめ、前身に移ります。

前身「圖のやうに、衿ぐりのため、一段おきに一目宛九回増して、そのまゝ増減せずに一寸五分編みます。左右をこゝまで編み、一緒にして、他は後身に準じ裾に至り、縞を入れてとめます。

カフス「袖口の目を裏から拾つて、裾と同様な方法で縞を三段入れてとめます。カフスは折り返さず用ひます。衿「衿肩明の十八目と衿ぐりの十八目宛、全部で五十四目拾ひ、ガーター五山、次段から兩肩にあたる所で一山おきに一目宛増しながら、裾と同じ方法で臙脂の縞を七本入れてとめます。

ブルーマス



材料 メイフラワア 茶五オンス、臙脂少々。
用具 六號二本針。

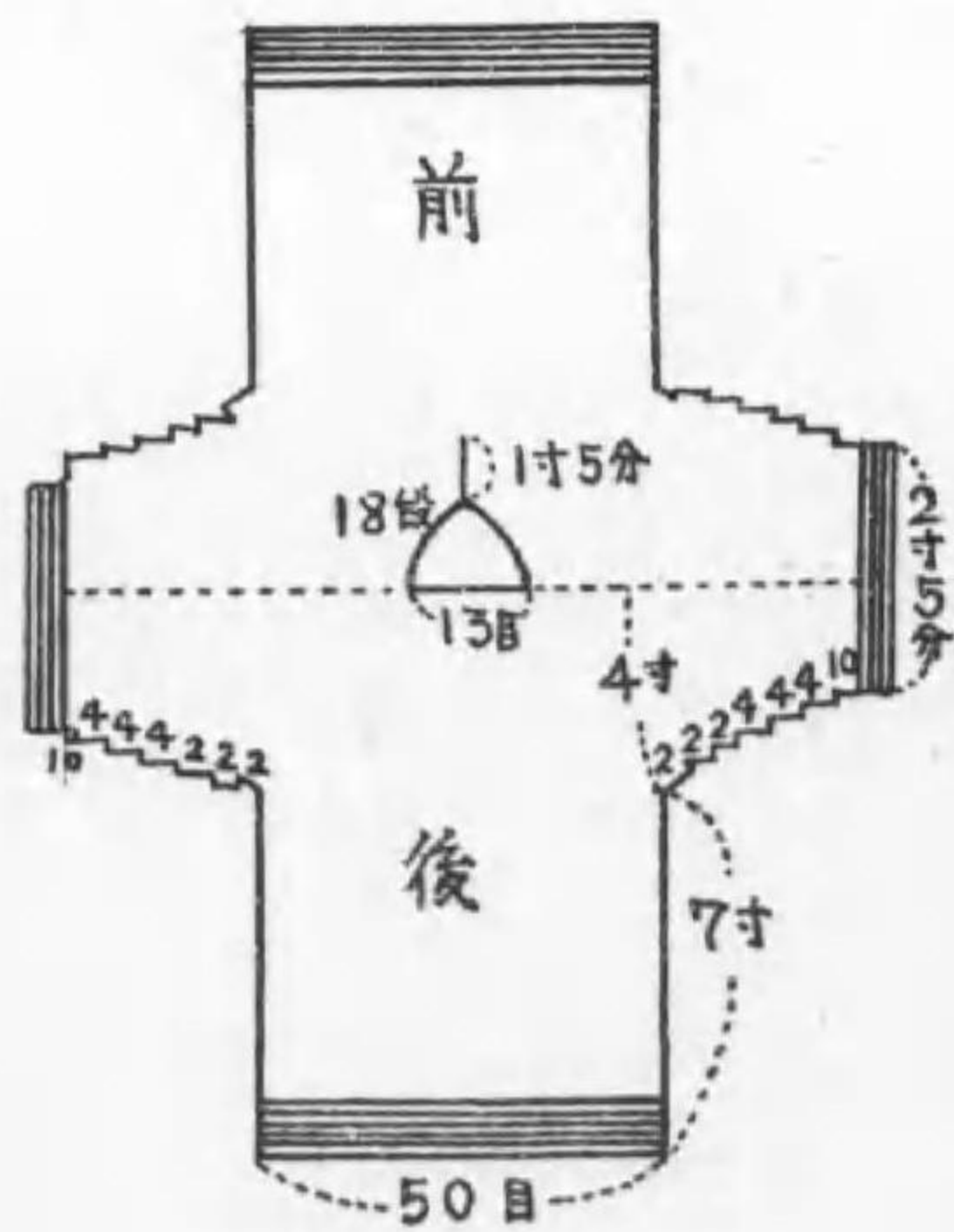
編み方 ガーターばかりです。片足の裾口から始めます。茶の糸で六十目作り、ガーター二山、スウェーターと同じやうに臙脂で縞を入れ次は増減なしに五分編み、兩端で一山毎に一目宛三度増し、この目数で、編始めから二寸五分まで編みます。もう一方も同様にしてこゝまで編み、兩方一緒にしてこのまゝ増減なしに編

始めから七寸五分になるまで編んでとめます。それから兩端(AとA)股下(BとB、CとC)を縫ひ合せ、胴廻りにはゴムテープをほどよく短編で絡りつけます。

帽子

材料 メイフラワア 茶二オンス、臙脂少々。
用具 鈎針。

編み方 これは麻の葉編です。凡そ四寸五分位の中(頭の深さ)に鎖編を作り、頭の周圍だけの長さに麻の葉を重ね、輪にして一方を縮めて飾玉をつけます。別に、帽



子の線の返しとして、短編で茶と臘脂の綿を一段宛交互に六段編んで、これを帽子のぐるりとちつけました。
 麻の葉編 適宜に鎖編を作り、更に編出しのために鎖を三つして、先づ長編のやうに糸をかけて、針から四つ目の鎖（土臺の鎖編最後の目）に針を入れて糸を引き出し、更に糸をかけて、針にかゝつてゐる三つの輪のうち二つだけ引き抜きます（これを半長編といひます）次に又長編のやうに糸をかけ、前と同じ目に針を入れて糸を引き出し、半長編をしますと、針に三つの輪が残ります。これを一度に引き抜きとめます。次に一新に鎖三、前の引き抜きとめた所に半長編二、鎖三日とばして半長編二、かうして針に残つてゐる六目を一度に引き抜きとめます。以上の括弧内を繰返して一段終り、次では又始めから同じことを繰返します。

コンビネーション

幼い子に用ひて大變重寶なものです。使ひ古しの糸などを用ひれば却つて柔かくて着心地がよろしいでせう。

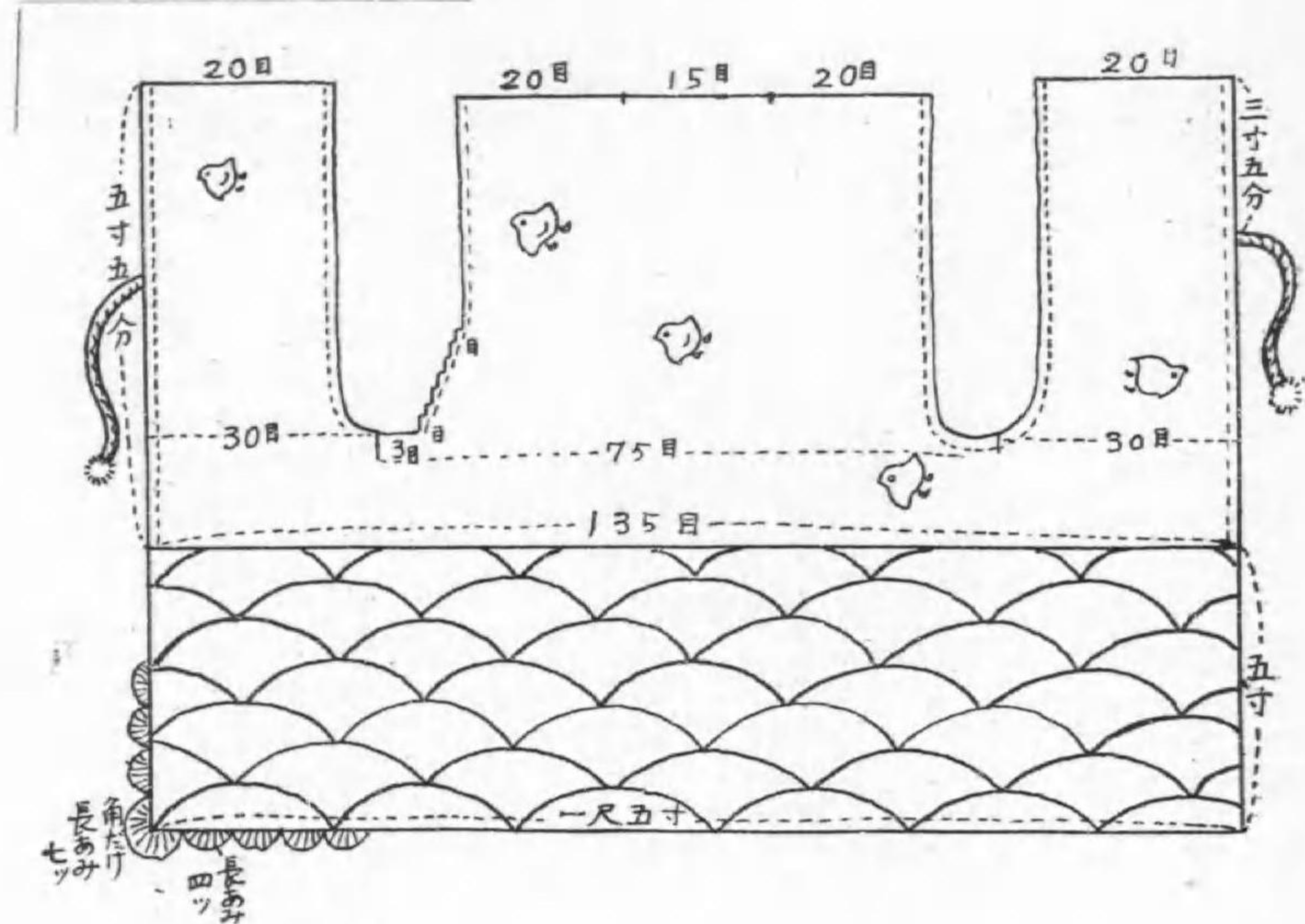
材料 鈴蘭毛糸 半ポンド、ボタン六個。
 用具 六號二本針。

編み方 後身頃の胴の所から初めます。目数六十で二目宛のゴム編一寸、ストツキネットにかへて編み始めから三寸五分になつたら、袖のために、両端で編み始め毎に二目宛二度、四目宛二度、十二目宛一度増し、總目数百二十八で増減なく編みすゝみます。袖口が二寸になつたら、袴肩明のため中央の十六目をとめ、左右別々に前身頃に移ります。前身頃、袴ぐり側で一段おきき一目宛八度増し、更に四目一どきに増し、この四目だけをガーターにして、他はその



まゝで袖口が四寸になるまで編み、後身に準じて袖の目を減じ終つたら前の通りの編方（四目ガーター、他はストツキネット、ゴム編はせず）で後身と同じ長さに編みます。こゝまでを左右同じに（但し右身頃には、四目のガーターのところにボタン穴を三つあけます）作り、この前明きのガーターのところを右

身頃を上にして重ねて一緒に編み合はせてしまひ、次から全部ストツキネットで四寸五分編んで股下に移ります。
 股下 目を二分して一方は別にとつておきます。股の側で、編み始め毎に一目宛三度減します。その目数で股の分け目から一寸になるまで編んだら二目宛のゴム編にして更に一寸編んでとめます。もう一方も同じに編むと前身頃は出来上ります。今度は後の胴から下を別に編みます。新しく六十目を作り、二目宛のゴム編を二三段しましたら、両端の一つ、中央の一つ、合計三つボタン穴を作ります。それから更にゴム編を一寸つゞけ、ストツキネットにかへて五寸編みます。こゝで目数を二分し前身と同じに編み上げます。
 先づ股下を合せ、袖下、脇を合せ、下半身は裾口から四寸五分だけ縫ひ合はせてあとはあけておきます。後身頃の三つのボタン穴と前あきのボタン穴に合はせて夫々ボタンをつけて仕上げます。



五を三十目宛前身、七十五目を後身に分けて、左前身から始めます。袖ぐりのために、最初の段で一度に三目減し、次からは表を見て編む段の度に一目宛減すこと七回、すると二十になりますから増減なしに編み、波模様との境から五寸五分になつたら、そのまゝピンにとつて糸を切ります。右前身も



朝夕の風が冷々とする頃には、簡単にぬぎ着の出来るおちやん／＼は大變役に立ちます。波模様に千鳥を飛ばせた可愛くて上品なおちやんは、和服の赤ちゃんには大變よく合います。又少し丈を短くして洋服の上に着せても四五歳までの女児には可愛らしうございます。

和服にも洋服にも向くちやん／＼

材料 紺紅色並太毛糸 四オンス、白中細 少々。
 用具 八號六號二本針、鈎針、とち針。
 編み方 裾の波模様は記號を御覽下さい。
 初め八號の針に三十五目作る。(一模様は十目で出来ませから、その三倍と編始め三目、編終り二目を加へます。この波模様をおちやんちゃんでは横にして用ひます。)波模様の二十四段を五回繰返して目をとめます。
 次に今編み上げたもの、横の目を、六號の針で百三十五目拾ひます。増減なしにストツキネットで(まるまららないために兩端の三目はガーター、前身袖ぐり等の端で圖に點線で示した所も同じ。)二寸編みます。今度は、その百三十

同じに致します。
 後身も袖ぐりは前身と同じ方法で両端で十日宛減じ、その五十五目で前身より三分程短かく編み、肩の繰越しを作るため二十目宛は肩として衿肩明のため中央の十五目をとめてしまひます。そして肩の二十目と、ピンにとつてある前身の二十目とを合はせ、つぎ針でストツキネットの目通りにつないでとめます。
 袖ぐりはぐるりと短編を編み、前明から裾全體は、一段短編をしてからその上へ、長編四つ宛の松編をあみつけます。次に、白の中細をつぎ針に通し、鎖縫ひで大小の千鳥を、後に三つ前に二つ縫ひ、同じ糸で玉をつけた紐を作つて前につけます。

暖くて便利な幼児靴下

直ぐに編める簡単なこの靴下は、這ひく出来る頃から三四才頃までのお子さんに穿かせて、大變暖く穿かせ具合もようございます。二圖のカバーと同じものを編んで、脇は別に畝編をし、足首で閉ち合せてありますから、底が破れたら下だけ編み直せばよいわけです。大きさはお子さんの足に合せてお編み下さい。こゝでは四才を標準にして編みました。

材料 並太毛糸 三オンス。
 用具 鈎針。

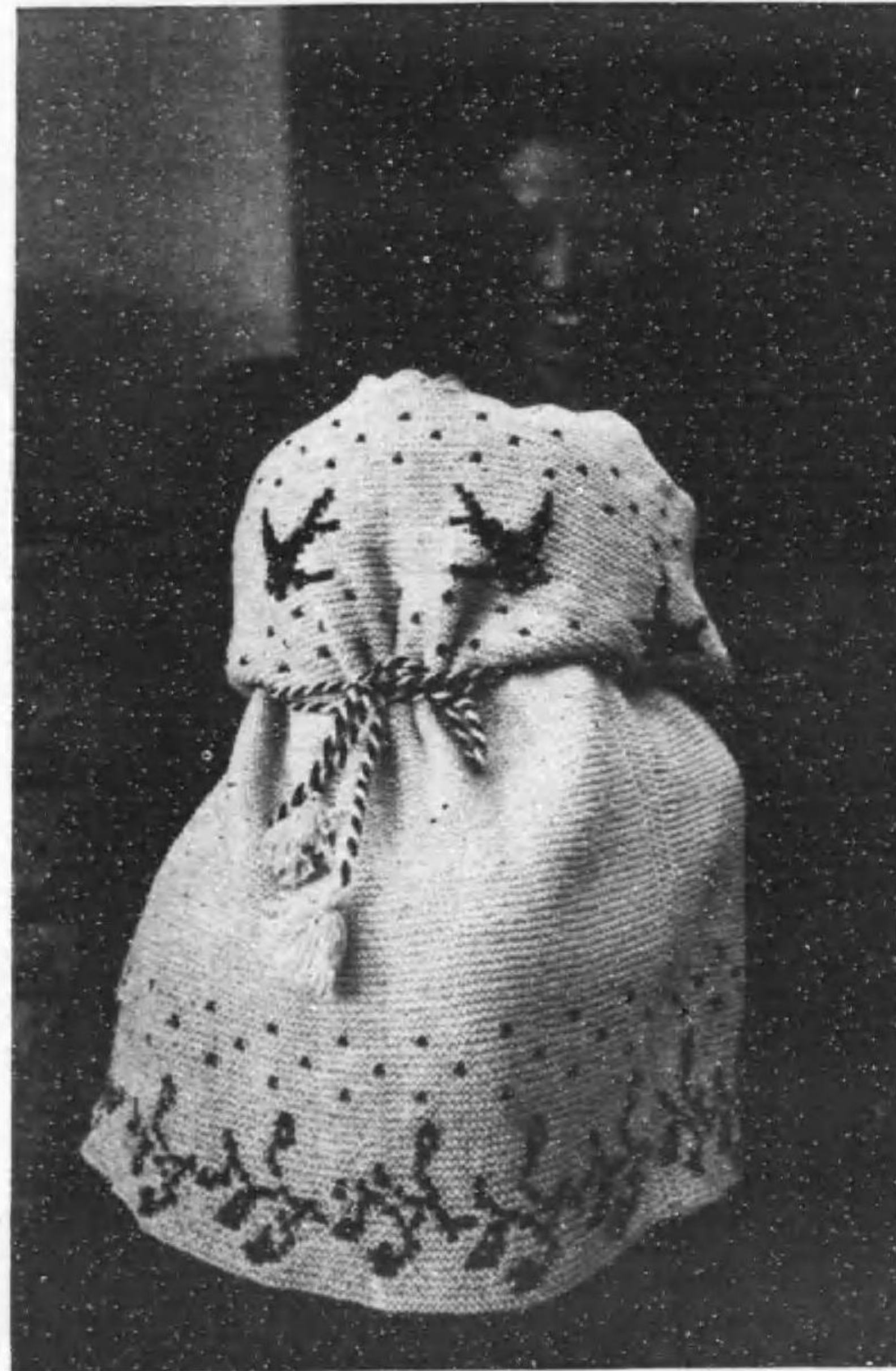
編み方 鎖編六つしてそのぐるりに短編をします。次から一段毎にその両端で一日宛増して、足の巾だけ編み、あ

り毎に鎖編一つしては次段に移り、輪にしないで編みます。踵まで三寸乃至三寸五分編んだらとめて、二つに折つて絡合せます。これで足首に飾編をつければ下圖のカバーが出来上ります。別に鎖編六寸乃至六寸五分して短編で畝編(短編の目の手前を残して向ふだけすくふ編方)にして十一山編みます。次段は半分まで編んで、鎖編をせずに編返り、其次はその半分まで、その次も、またその半分まで編んで返り、輪にして編み初めの目ときれいに閉ち合せます。かうすると足のふくらみが自然に出来ます。合せ目を後の中央にして、先に編んだカバーと足首で閉ち合せ、出来上りました。



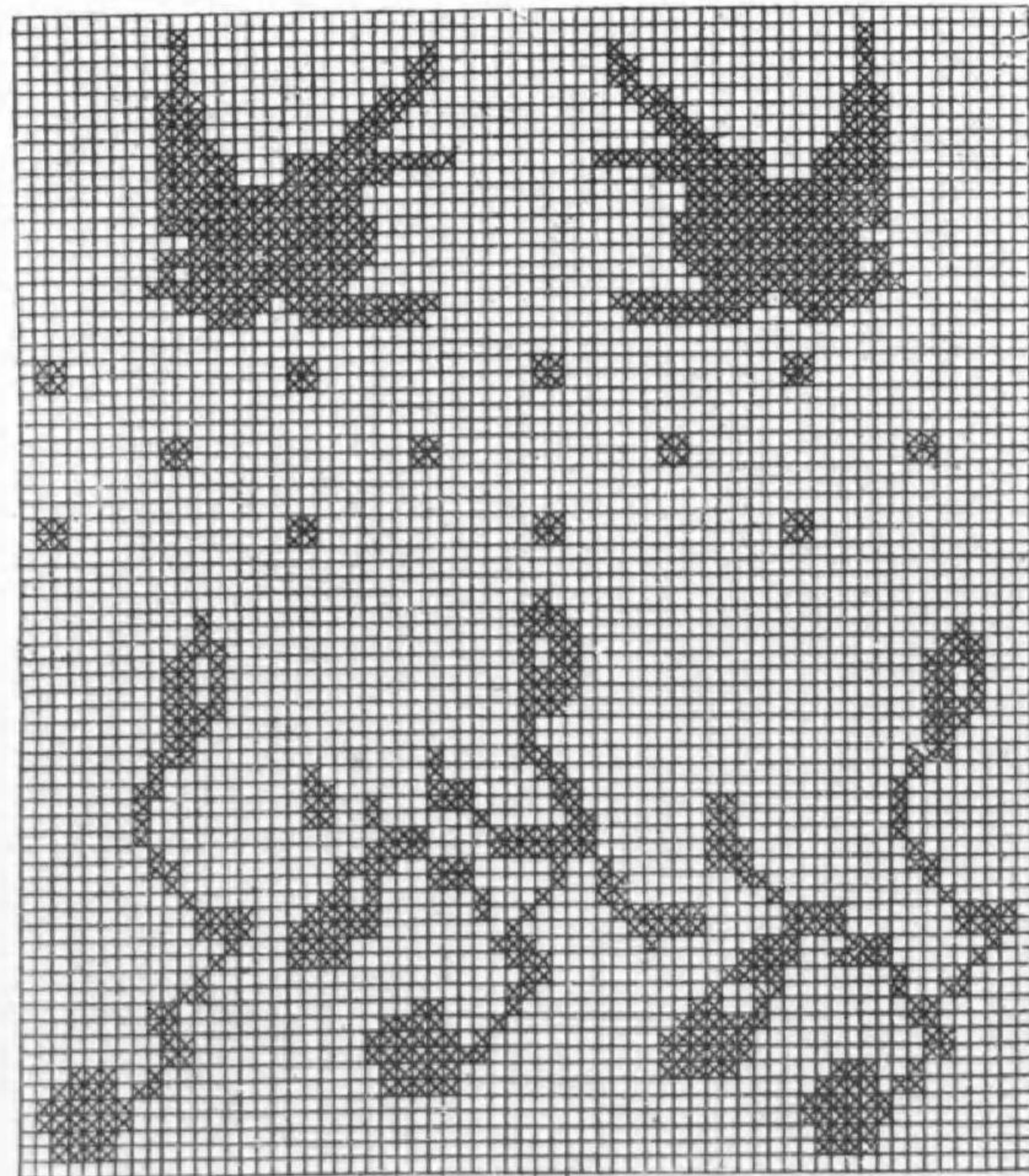
とは増減なしに爪先から足首まで一寸五分か二寸位、ぐるぐる編みます。次の段から甲の中央四目だけ残して、編終

— 輕くて暖いたんぜん —



材料 ビーハイブ地糸十七
 ス 模様糸三オンス。
 用具 五號二本針、鈎針。
 編み方 後身頃の裾から編み
 はじめます。
 模様の糸で、目數百つくり、
 ストツキネット二寸編み、地糸
 にかへ、ガーターにして二山編
 んだら、裾に模様を編みこまな
 ければなりません。別に方眼紙
 に出してある圖案に従つて編み
 ますがこの方眼紙一目がガータ
 ー一目とお思ひ下さい。そして
 右端から順々に模様を入れてゆ

くのです。裾から一尺一寸五分位編めたら袖のた
 めに増目をいたします。最初は編始め毎に兩端で
 一目宛増すこと三回、次には兩方へ、三十目新し
 く作つて袖にします。それから燕の模様を編み込
 みます。燕は後身頃には四羽、前身頃には二羽編
 みます。袖口が五寸程編めたら、衿明をつくりま
 す。真中二十目を止め、次の段で又衿の兩脇を一
 目づつとめ、都合二十二目とめるわけです。
 前身頃は左右別々に編みます。衿明から六段程
 は増減なしに編み、次から衿明側で二段おきに一
 目宛増します。但しこの増し方は兩端の目で増す
 のでなく、端から二番目の目で増すこと、十一目
 増したら、他は増減なしに編み、袖下は、後身頃
 と反對にとめてゆき、そのまゝ裾まで編みます。
 裾はやはり後身頃と同様に、模様色にかへ、スト
 ツキネット三寸して、色をとめます。



袖口もやはり模様糸で目を拾ひ、ストツキネット一寸五六分編みます。袖下と脇をとり、袖口と裾とはストツキネ
 ットの部分半分を折つて、裏にとぢつけておきます。兩前と衿明には鈎針で適當な飾編をします。

紐は地色と模様糸を手綱に撚り、房か何かの飾りをつけ後身頃につけます。

おしめカバー



材料 並太毛糸白 二オンス、五分巾テープ二尺、角ボタン一個、スナップ二個。

用具 五号二本針。

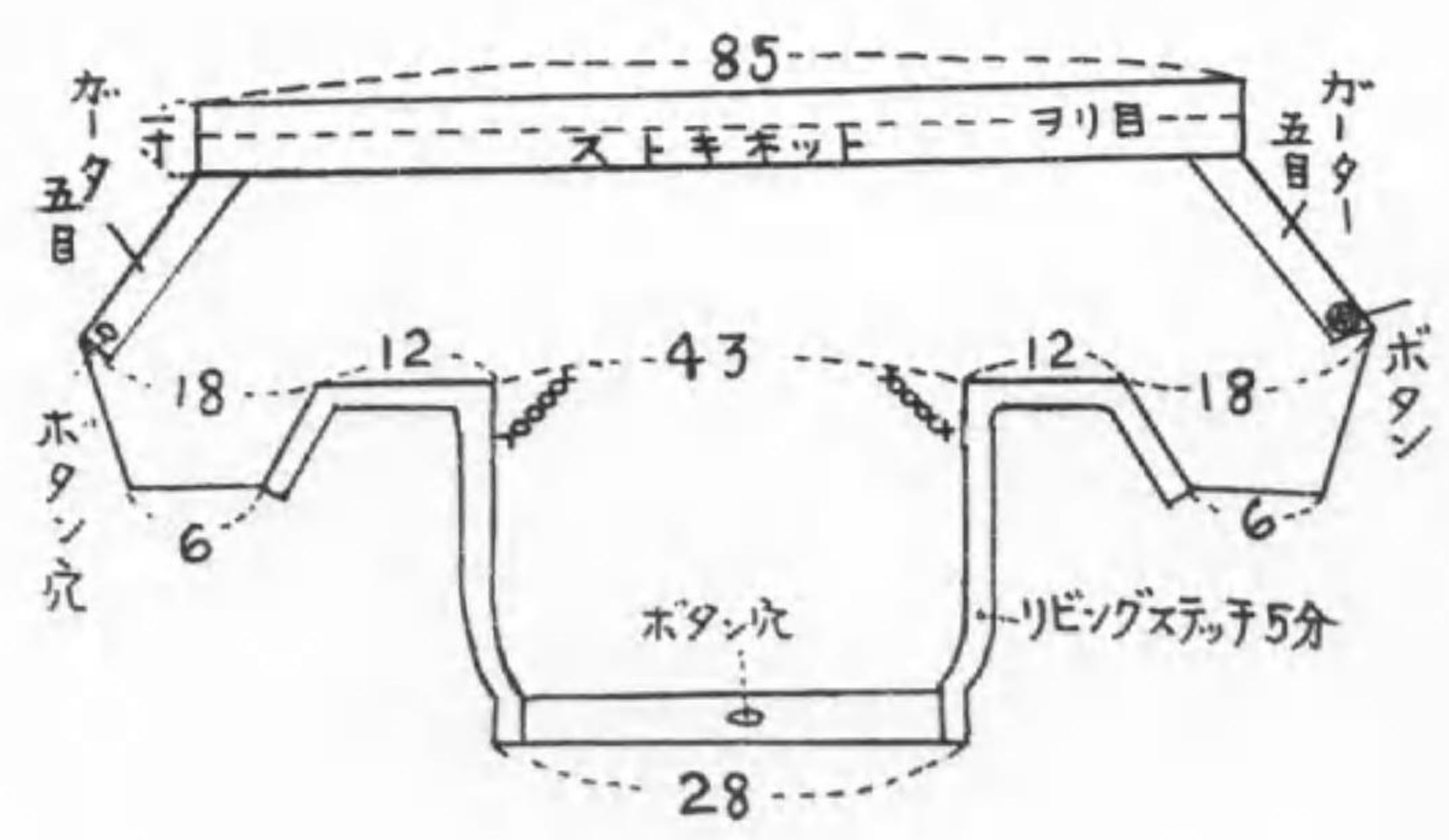
編み方 腰廻りのところから編み初めます。日数八十五、ストツキネットで一才編み、二つ折にして編み初めの目と重ね、上下の目を二つ一度に編み合せて紐通しを作ります。

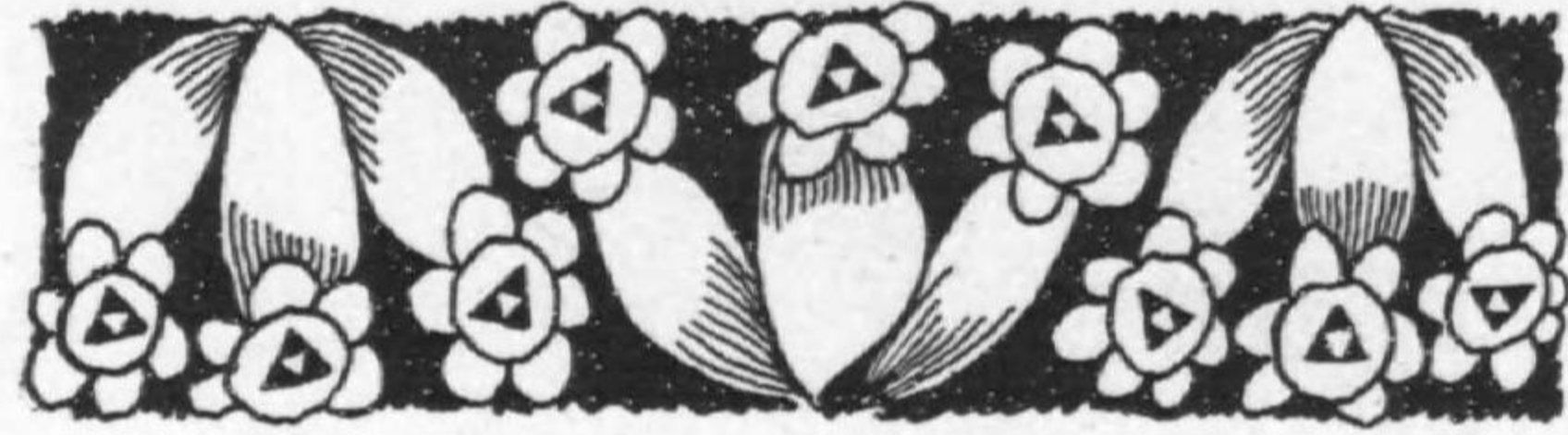
次に両端の五目はガーター、あとはストツキネットにして三寸ほど編みますが、この間にストツキネットとガーターの境で、編み初め毎に一目づゝ増すこと九回(日数百〇三)、増し終りの右側のガーターの中央へ二日のボタン穴を一つ作ります。

次段では十八日をストツキネットに、次の十二日を止め、次四十三日をストツキネットに次の十二日を止め、次に十八日ストツキネットに編んで終ります。この十八日づゝの所が前、十二日止めた所が足の

入る所になり、四十三日のところが後身になります。次は前の十八日を別々に編みます。その編み方は両端で編初め毎に一目宛滅し、六目になつたらとめます。中央の四十三目は、両端の五目を編まずに針に残して三十三目編み、次段では五目の内の一目を編みこみ、次段で一目あみこむといふ風にクサビ編をして、お尻のふくらみをつけます。全部編みこんで四十三目揃ひましたら、両端で一目づゝ減じ、廿八目になりましたらそのまま三段編み、次にガーター七山編んでとめます。このガーターの中央でやはり二日とめたボタン穴を一個作つておきます。

足の所にあたる部分の目を全部拾ひ、二日づゝゴム編で五分編んでおきます(リビングステッチ)。五分巾のテープを最初の紐通しにとほして、下前に角ボタンを一個つけ、そのボタンと腰廻りの紐との中間にスナップを一個、足口のあはせ目に一個づゝスナップをつけます。





少年少女用

- | | | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 帽 | チ | ズ | ス | マ | ケ | 外 |
| | ヨ | | ウ | | | |
| | ツ | ホ | エ | ン | ー | |
| | | ツ | タ | | | |
| 子 | キ | ン | ー | ト | ブ | 套 |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| コンビネーション | シ | シ | ド | ス | ス | ジャンパー |
| | ミ | ヤ | レ | ー | ー | |
| | ー | ツ | ツ | ス | ス | |

五歳男児服一揃



三、袖附は凡そ身丈の三分の一。
四、衿明は後身巾の三分の一より少し狭めにします。

編物をするに當つて、目数を標準とせず、洋服裁縫で寸法をとると同様に、子供の體の寸法を基にして編むのも一法です。この男児服一揃はその方法に依つたもの、参考として、左に大體標準寸法のとり方を記して見ます。

一、裸體胸圍を計つて、その半分に下着などのゆとりとして、約半吋ほど加へたものを、後身の巾とします。

二、頭から地上までを身長として、凡その十二分の五をスウェターの身丈と定めます。これは丁度腰下位の丈になります。

以上の大體の標準に準じて下着類はこれより小さく、外套類は大きくといふやうに加減します。
以下編み方の寸法は釦尺です。

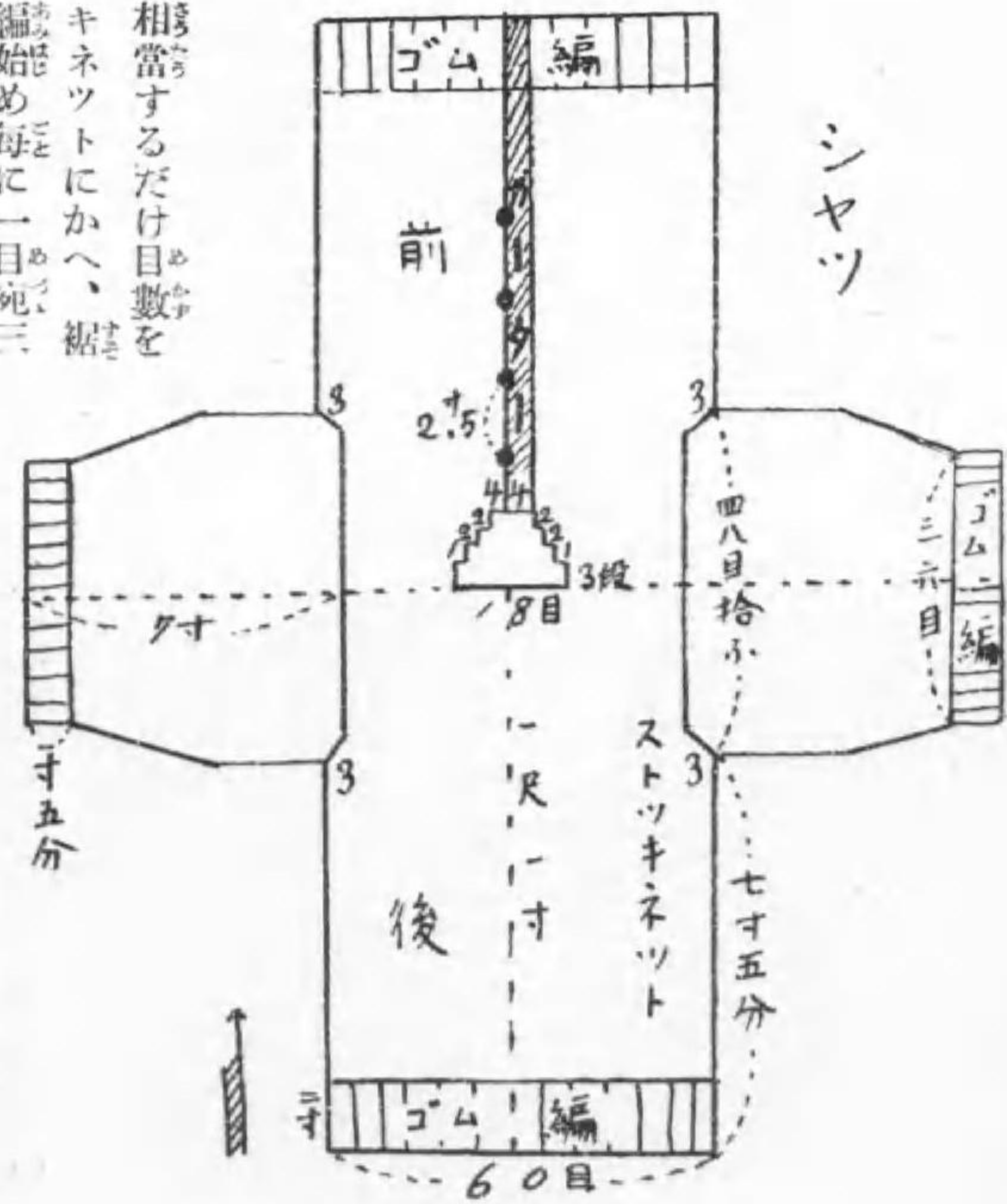
シャツ

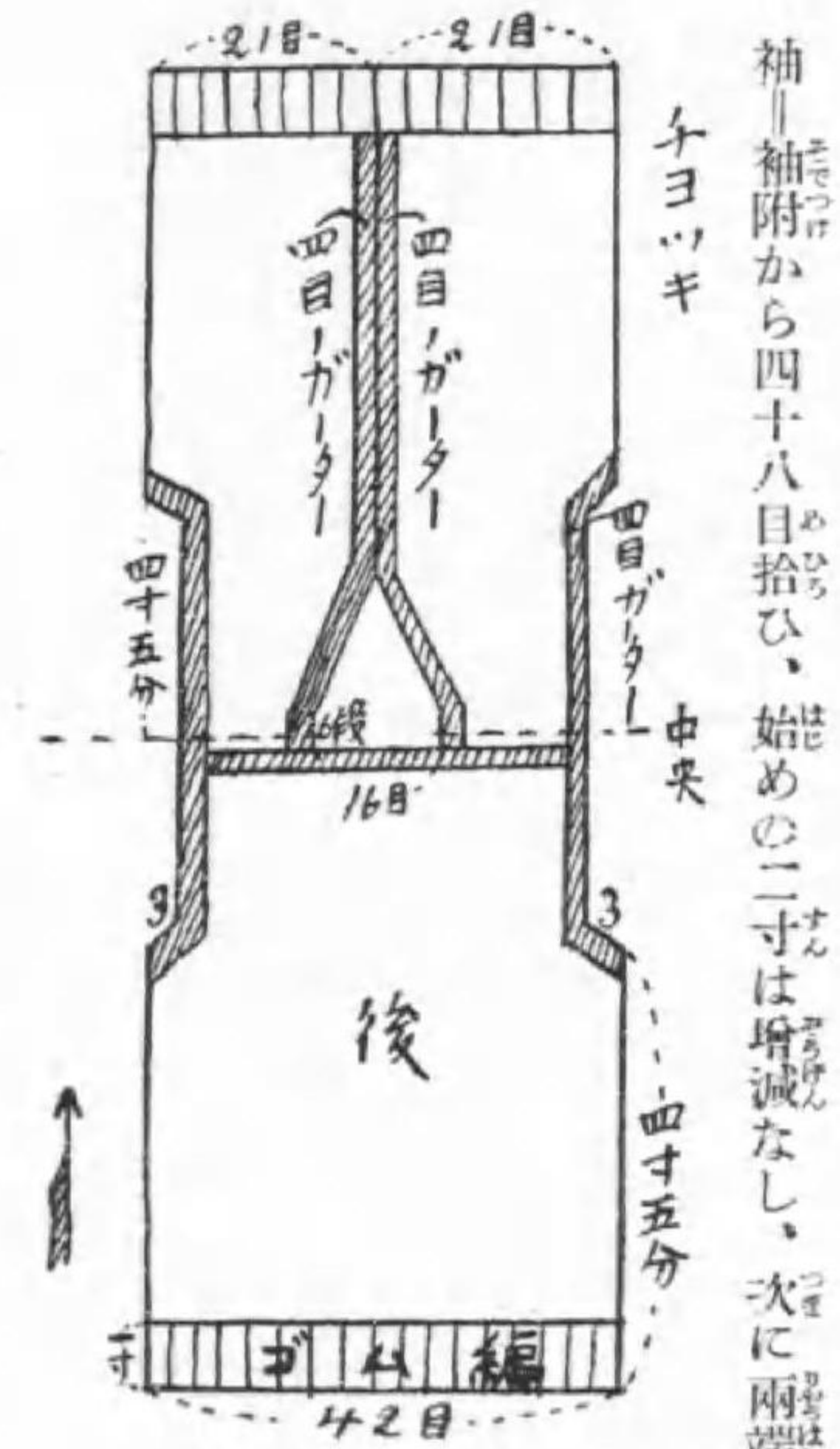
材料 並太毛糸六オンス、貝ボタン五個。

用具 五號、三號、二本針。

編方 このシャツは腰下まで届くやうに長めに作ります。身長の十二分の五を丈と定めます。圖に記入した寸法を御覽下さいませ。

身頃 後身頃の裾から始めるとして、八寸に相當するだけ目数を作り(六十目位)、二目宛のゴム編二寸、ストツキネットにかへ、裾から七寸五分になつたら、袖附のために兩端で編始め毎に一目宛三度減じます。そのまゝ増減なく裾から一尺一寸まで編み、衿肩明のため中央二寸三分(十八目)止め左右別々に編みます。始め三段増減なし、次に衿ぐりの側で、編み始め毎に一目一度、二目二度、四目一度の順で増します。そして後身に準じて袖附の目を増し、裾はゴム編を二寸してとめます。もう片方も同様。





チヨツキ

袖 袖附から四十八目拾ひ、始めの二寸は増減なし、次に両端で一日づゝ減じ、更に一寸毎に一日宛二度、五分毎に一日宛三度減じ(目数三十六)三日づゝのゴム編にかへて一寸五分編んでとめます。

衿 左身頃の端(衿明側)の目を、表から一段に一日宛拾つて、ガーター五山してとめます。

頭廻り 頭廻りの目(ガーターで編んだ衿からも)を拾ひ、ガーター六山してとめます。

脇、袖下をとち合はせ、ボタンをつければ出来上ります。

材料 ラクダ極太 三オンス。ボタン四個。

用具 八號 二本針。

ラクダの極太で編みますと大變温かです。シャツや上着などが、前で重なりますから、チヨツキは重ならぬやつに作りませう。丈は身長十二分の四に致します。

編み方 後身頃の裾から編み始めます。八寸位に相當する目数四十二を作り、三目宛のゴム編一寸、ストツキネットにかへて裾から四寸五分まで増減なく編み、袖明きのために、両端の四目宛をガーターにかへ、このガーターの内側で、一段おきに一日宛三度減じます。そのまま増減せずに、袖附が四寸になる頃まで編み全部の目をガーターにか



へて四山編みます。次に衿肩明として中央の十六目をとめてしまひます。

前身り 左右の身頃は十日宛になつてゐる筈です。これを左右別々に編みます。両端四日づゝをガーターに、残りはストツキネットにして増減なく六段、次に衿ぐり側で、ガーターとスト

ツキネットの間で一段おきに一日宛八度増します。そのまま増減なくすゝみ、袖附の方では後身に準じて増します。それからは衿側の端だけをガーターに、後は全部ストツキネットにかへて三寸五分編み、三日宛のゴム編一寸してとめます。もう一方も同様に編み上げます。

左前身に、凡そ一寸位宛おいて鎖編のボタンかけを四つつけ、右前身にそれと合はせてボタンをつけます。脇をとち合はせれば出来上ります。

上衣

材料 鈴蘭毛糸白五オンス、金茶二オンス。

用具 五號二本針。

別に色は白と金茶に限るわけではなく、好みによつて対照のよい色をお用ひ下さい。黒に地味な海老茶を取合せますと、男児には大變ハイカラに見えます。その他、上品な感じ、軽快な感じ、それ／＼色の用ひ方に依つて表はすことが出来るものでございます。

編み方 後身頃の裾から始めます。金茶の糸で、約九寸、六十一目を作り、ガーター二山して模様編に移ります。即ち第一段 全部、表編。

第二段「表編一、裏編一」の繰返へし。



この二段を繰返へして二寸(二十四段)編み、白糸にかへ、一寸(十二段)、金茶で五分(六段)、次からは白糸ばかりで裾から七寸二分(白糸になつてから四十四段)まで編みます。糸をかへる時は、必ず表から編む段で致します。

次に袖附のため、表編ばかりの段毎に両端で一目宛減すこと六回、次は増減なく二寸五分(三十段)、次に来る表編の段で、はじめの十五目を編んで別にとつておき、次の十九目をとめて残りの十五目で左前身に移ります。

前身頃 三段増減なし、次から表編の段で編始め(毎(衿ぐりの側)に二目宛増すこと五度、その次裏から編んだ来た終りで(衿ぐり側)六目増します。この六目が左右の身頃の重りの部分になりますから、こゝだけはガーターにします。ガーターが一山出来た時、衿ぐり側から三日内側で二目のボタン穴を作ります。以後ガーター七山おきにボタン穴をもう二つ作ります。袖附は後身に準じて増し、この三十七目で一寸編んで、衿ぐり側で糸を切ります。

右身頃もほゞ左と同じですが、たゞ重りのガーター六目の處は五目にし、ボタン穴はいりません。次に左右の身頃を合はせます。衿のガーターの部分で左身を上にし、右身の端が左身の一番内側のガーターの目と一緒にやるやうに重ね、こゝのところは上下二目づゝ一緒に編み合はせます。すると総目数六十七で、後より六目多くなるわけです。このまゝ、後身と同様の縮を入れて編み合はせます。

袖 表を手前に向け、袖附の端から一目づつ丁寧に四十二目拾ひ、身頃と同じ模様編で増減なく二寸編みます。次の表編の段の両端で一目宛減じ、増減なく一寸、次一目宛減じ、更に八段おいて減じます。四段編んだら金茶の糸にかへて四段、白で二段、次の表編の段で一目宛減じ、四段編んで金茶にかへ、十四段編んでとめます。

袖は全體で五回十目減じましたから、袖口は三十二目になり、袖巾は七寸(八十四段)になる筈です。

衿 左(上前)のガーターの部分の初め四目を残して次から、右(下前)のガーター二目(端三日残して)まで、裏側から丁寧に目を拾ひます。衿は全部ガーターにします。先づ二山編み、次段で四目毎に一目増して増減なく三山、次段で又四目毎に一目宛増す。増減なく三山、六目毎に一目宛増す。増減なく二山、金茶にかへて一山、白で一山、次段は八目毎に一目増す。増減なく一山、金茶で三山編んで裏からとめます。

ボタン 金茶の共色の布で、直径四分位の木ボタンを包み、前あきにボタン穴に合はせてつけます。細い共色の糸がありましたらそれでボタンをくるんでもよろしうございませう。

帽子

材料 鈴蘭毛糸 白一オンス。金茶一オンス。

用具 五號二本針。

編み方 全部ガーターで編み上げます。帽子のダブ／＼してゐるのはみつともないものですから、かた過ぎない程度にきつく編みます。

白糸で三十目作り、表編一段、次の段では端から十六目編んで残りの十四目を左の針に残したまゝ、今編んだ十六目を編みかへます。次は十七目編んで編みかへり、次は十八目といふやうに、一段毎に一目宛編目を増して行き、二十九目編んで引き返へした時、金茶の糸にかへ三十目全部編んでガーター一山作りします。これで一部分が出来上つたわけで、これを五つ作ればよいのです。即ち、次で白糸にかへ、三十目をガーター一山編み、次から又前と同様十六目編んで引きかへす編方にします。かうして金茶で區切られた五片が出来ましたら、最後は金茶の段で糸をとめて、編始めの部分と手際よく縫ひ合はせませす。

帽子の頂は糸でしつかり引きしめ、大きめの飾玉をおつけ下さい。下の縁は、金茶の糸で短編を二段して形を整へます。

(注意)糸をかへるのは、いつも表側の時にしなくてはなりません。

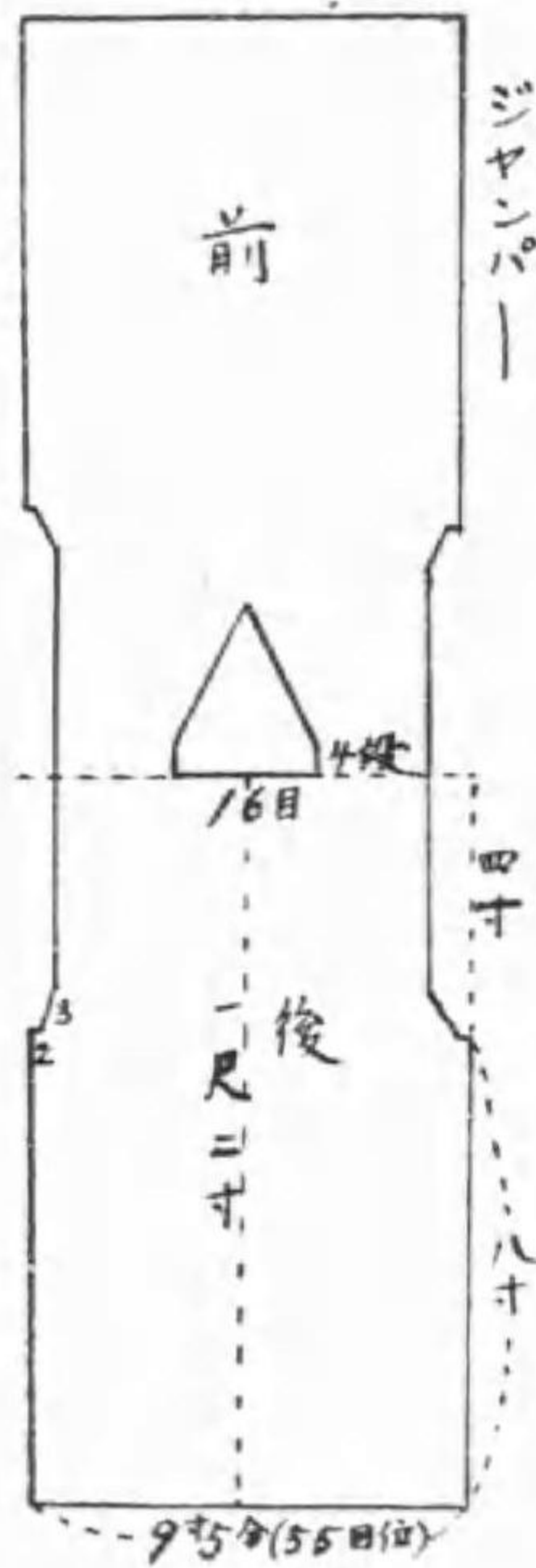
ジャンパー

材料 並太毛糸 四オンス。



用具 七番二本針
外套にも及ばないが、といふやうな時に着ます。これならぬぎ着も楽に一人で出来て温いので、子供も喜んで着ます。上衣より心持長めに作ります。

編み方 普通ジヤ



明のために中央十六目とめ、左右の身頃を別にする。四段増減なし、次から袴ぐりの端で、一段おきに一目宛増す

ケツ編といつてゐる模様編です。

目数五十五(四の倍数に三日加へたもの)

各段とも、始め表編二、裏編一、表編三、括弧内を繰返して裏編一で終る。

右の編方で裾から八寸まで編み、袖ぐりのために両端で一度に二目宛減じ、次から一段おきに一目宛三度減じて、肩山まで増減なし。袴肩

こと八度、左右一緒にして、あとは後身に準じて編み、脇をとち合はせると出来上ります。

外套

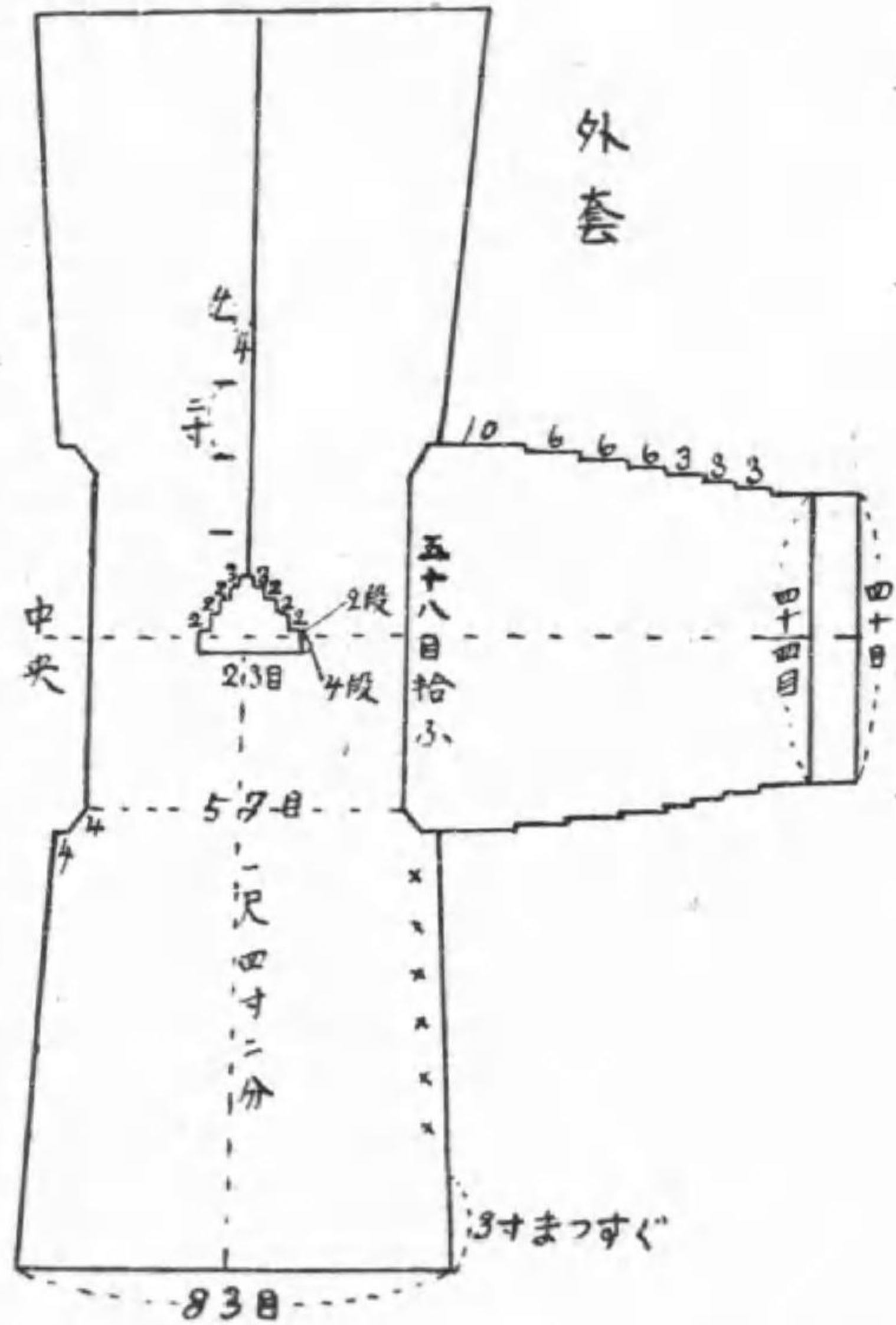


材料 並太毛糸 十四オンス。
用具 四號二本針。
外套は丁度膝位までの丈として、身長（身長）の十二分の七から八位にします。身巾もたつぷりにする方が恰好がよいございます。

編み方 ガーターに裏編の縮の入った編方です。やはり後身頃の裾から始めます。

目数八十三（六の倍数に五を加へた目数）
第一段「表編五、裏編一」を繰返して表編五で終る。

第二段 全部表編。
以上の二段を繰返して、増減な



一度に増します。あとは後身に準じて編みすゝみます。但し左身頃の時は、圖の位置にボタン穴を作ります。
袖口袖附から表を見て五十八目拾ひ、十段目に両端で一目宛一度、六段目毎に一目宛三度、三段目毎に一目宛三度、都合十四目減し、増減なしに始めから四十段まで編みます。次段では十目毎に一目宛とめて四十目にします。これから糸を二本にしてガーターでかたく丸山編んでとめます。これがカフスです。

しに三寸、次から凡そ一寸おきに両端で一目宛減すると六度。裾から九寸七分になったら、袖つけのために、両端で四目一度にとめ、次から編み始め毎に一目宛四度減らします。目数は五十七になります。裾から一尺四寸になったら、衿明のため、中央の二十三目をとめ左右別々に前身に移ります。

前身は増減なく六段（はじめの四段は繰越しになります。）次から、衿ぐりのため、編終り毎に二目三度、三目一度増し、次は左身頃（上前）なら六目、右身頃（下前）なら十目

衿||ガーターにして上衣の衿と同じ要領で編みます。身頃の裏側から見ると、左身頃の六目内側から、右身頃の十目内側までの目を拾ひ、増減なしに二山、三山目は四目毎に一目宛、九山目は六目毎に一目宛、十二山目は八目毎に一目宛の割合で増し、あと増減なく四山編んでとめます。

脇||袖下を縫ひ合せ、下前にボタンをつけ、前の縁全體と裾に、短編みを一段編みつけると出来上ります。

目数を増減する時、模様の間が亂れないやうに御工夫下さい。

ラグランスリーブの新型オーヴァ

ラグランスリーブを應用して、袖口や裾、衿などにはループヤーンを使つた、目新しいそして大變温いオーヴァです。八九才の男兒用としてふさはしいと思ひます。

材料 並太毛糸 十二オンス、ループヤーン 十オンス。

用具 四號二本針。

編み方 後身頃の裾から編み始めます。

後身||ループヤーンで七十八目(一尺二寸)作り、ガーターで八山編み、糸を並太にかへて模様編をするのですが、並太はループヤーンより糸が細うございますから、最初の段で、七日毎に一目増して、全體の目数が九十一になるやうにしながら次の模様編を編みます。

第一段「裏編一、表編九」を繰返し、裏編一で終る。

第二段 表編ばかり。

以上の二段の編方を十一度繰りかへし、ループヤーンにかへてガーター一山。

この編方で増減なしに裾から九寸五分編んだら、表編九のところを一目減らして八目にし、全體で九目減らします。このまゝ増減なしに一寸。

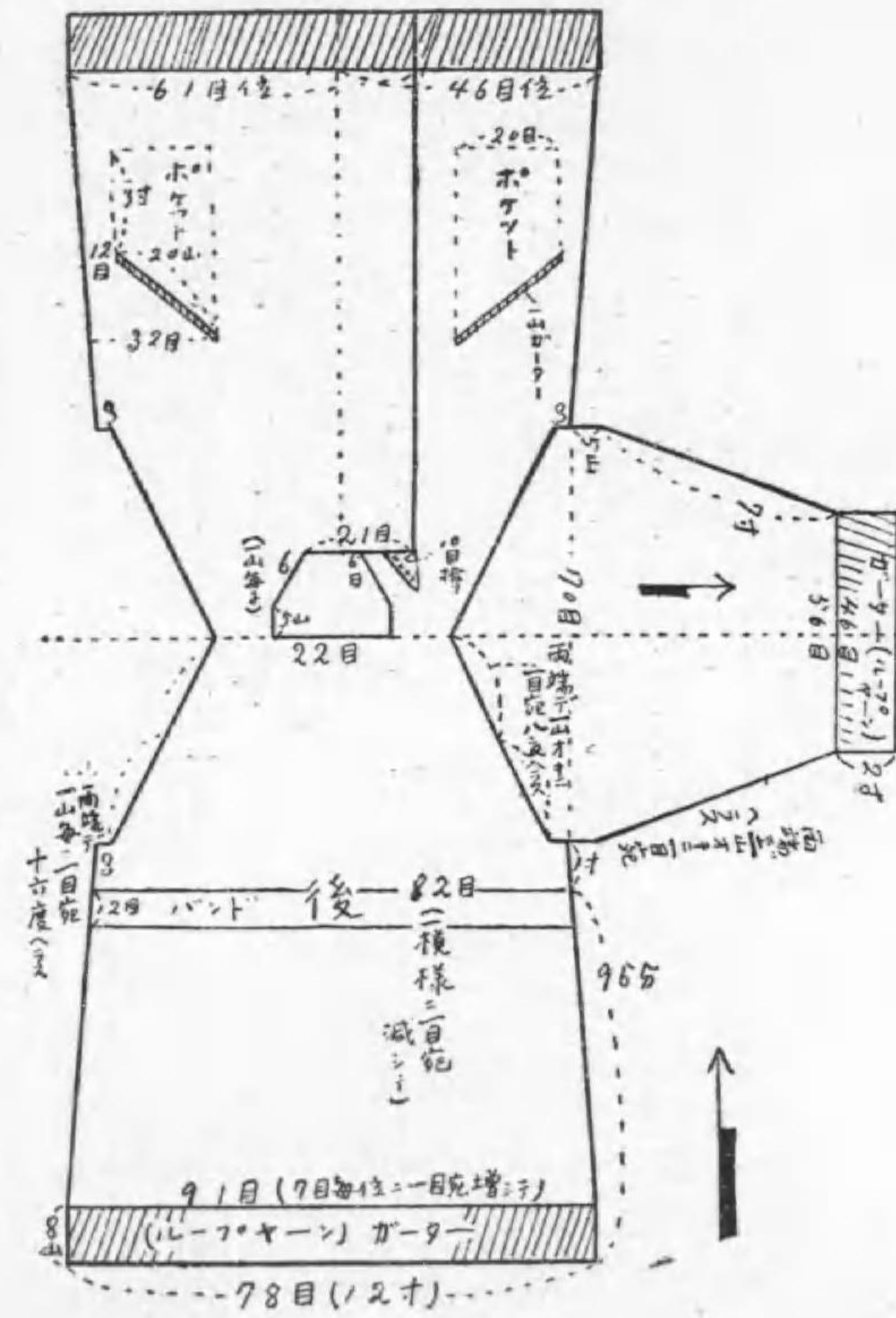
袖ぐり||兩端で一度に三目宛とめ、次から一山毎に一目宛十六度、一山おきに一目宛八度減らしま

す。衿明||次に真中の二十二目をとめて、左右別々に前身を編みます。

前身||左右とも、袖附側は同じく、兩端より一目内側で後身のくり準じて増して行きますが、衿ぐりの側は上前と下前とで形が違ひますから、その増し方だけ別々に記します。

上前(左身頃)||はじめ増減なしに五山、次から一山毎に一目宛端より一日内側で増すこと六度、次は一度に二十一目作ります。このまゝ増減なく編ん





編みかけにしてあつた前身頃と、今の十二目とを續けてしまひ、この目数のまゝ編んで行き、裾では後身に準じて目数を減し、糸をループヤーンにかへガーター八山してとめます。とつてある二十の目はそのまゝ三寸程編んで、ぐるりを身頃の裏に綴ちつけるとポケットが出来ます。

で行き、袖ぐりの方の増目が終つたら更に一寸はそのまゝ、次は後と反対に一様様に一目宛(表編八のところ一目増して九にする)都合六目増し、この目数で五分編んでポケットを作ります。

ポケット脇端から三十二目をピンに移しておき残りの目だけで編みますが、この時目を分けた端の一目内側で、編み終り毎に一目宛増すことを二十回します。先にとつてある方の三十二目を別の針にとつて、増減なしに二十山編み、脇の端十二目を残して二十目は別にとつておきます。先に

次に圖のやうに、前身の衿ぐりの二十一目作つたところで端から十目ひろひ、内側で毎段一目(端より一目内側で)減らして一目になつたらとめます。
 下前増減なしに五山、次に一山毎に一目宛増すこと六度、更に一度に六目作ります。他は上前と同じですが、上端の三角形はいりません。
 袖肩山を中心として十目ひろひ、毎段の編終りで一目宛袖附の目を編み加へて行くと、脇で七十目になります。そのまゝ五山編み、次から二山おきに兩端の一目内側で一目宛減して五十六目になるまで編みます。次に糸をループヤーンにかへ、五つ目又は六つ目に一目減して五十六目を四十六にして二寸編みます。
 衿ループヤーンで、下前の端を六目残し上前は三角のとがりの端まで目を拾ひますが凡そ三目に一目宛とばして五十二三の目で八山編んでとめます。
 上前下前のたての端もループヤーンで、五目に一目とばして拾ひ、ガーター五山してとめます。
 ポケツトループヤーンでガーター一山。
 バンド並太毛糸で十二目作り、八寸編んでとめます。
 裾口から袖先までつゞけてとちはせませす。この時後身の、袖附から一寸下でバンドを一緒にとちつけることを忘れないやう。

簡単に編める男児用スウェーター



これほど容易く編めて、然も見栄えのする男児用スウェーターは、あまり見受けません。上衣の代りにすぐズボンの上から着せてもよく、又普通にスウェーターとして用ひてもよろしいでせう。八歳のものとして目数、寸法を書きました。

材料 ビーハイブ太、濃鼠色八オンス。

用具 六號二本針、四本針。

編み方 前後ともに同じ編み方ですが、こゝでは前身頃の裾から始めます。二本針で六十六目作り、圖の通りに、ガーター一吋(凡そ五山)、ストツキネット四分の三吋(凡そ六段)、ガーター四分の三吋(凡そ四山)編んだらストツキネットにかへ、増減なしに編み進み、編始めから十二吋にします。

次に袖のために、両端で編み始め毎に一目宛四度増し、更に編始め毎に十日宛四度増します。総目数百五十四になります。そのまま三吋半編み、次段で六十一目編んでこれを別針にとつておき、次の三十二目を頭あきのため

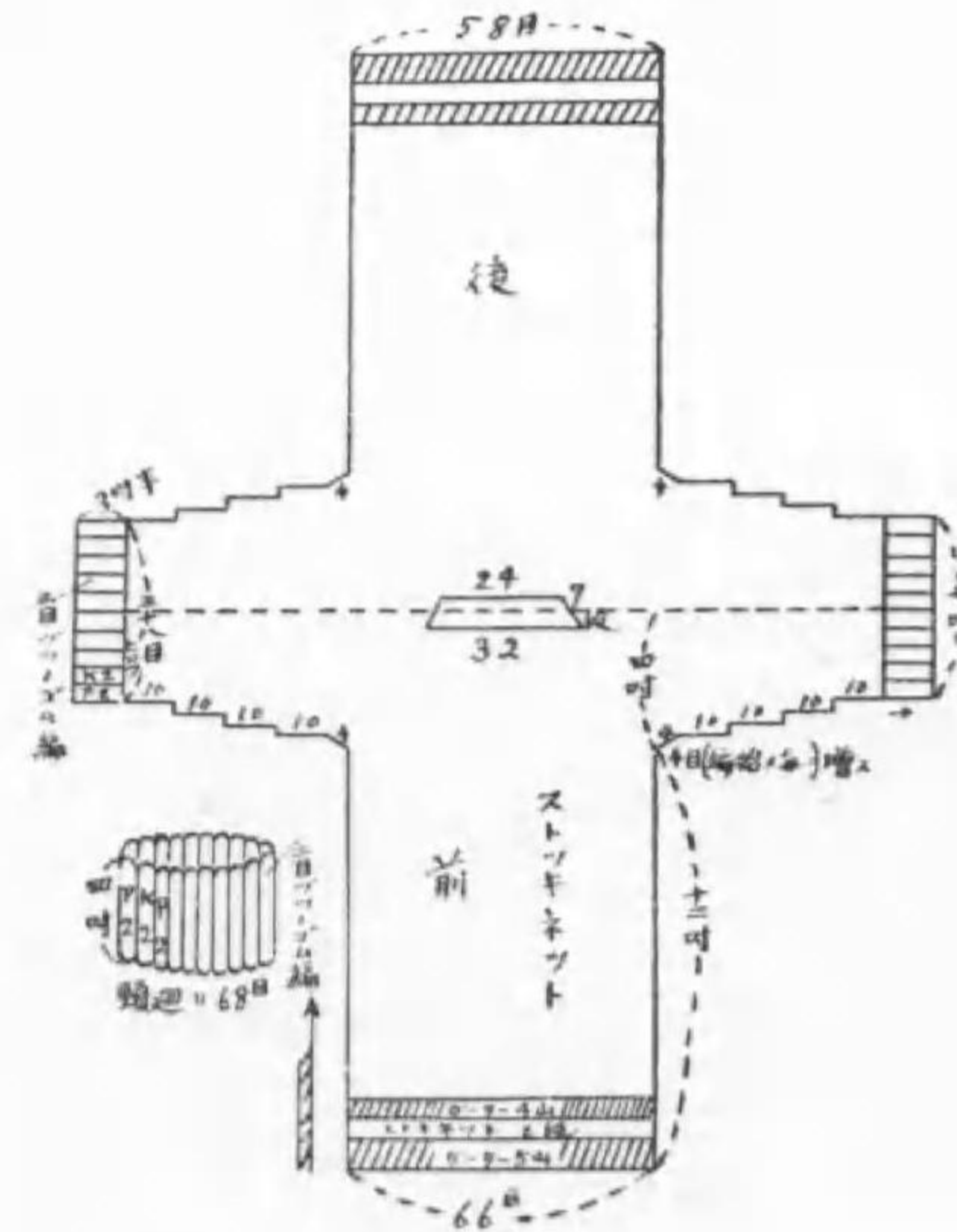
に留め、残りの六十一目を編んで後身に移ります。後身六十一目で増減なく七段編み、別針に取つておいた六十一目も七段編んで、中央に新しく二十四目作つて左右の目を一緒にします。目数百四十六。この目数で袖口が七吋になるまで編み、あとは前身に準じて減じ、胴も前身と同じに作りゆくとめます。そして脇、袖下をついでとぢ合はせます。

カラー四本針で、身頃の頸まはりから六十八目拾ひ、二目宛のゴム編を四吋編んで、出来るだけゆるくとめます。こゝで固く引きしめてしまふと頭が入らなくなります。

カフス四本針で袖口の三十八目を取り、カラーと同じ要領でゴム編三吋半編んでとめます。これで出来上ります。着る時は、寫眞のやうに、衿を三分の一ほど折り返し、袖口は折らずに用ひます。

型紙によつて編んだ外套と帽子

目数に拘泥しないで、いくつの子供にでも合はせて正確に編む仕方を説明しませう。まづ着せやうと思ふ子供の體





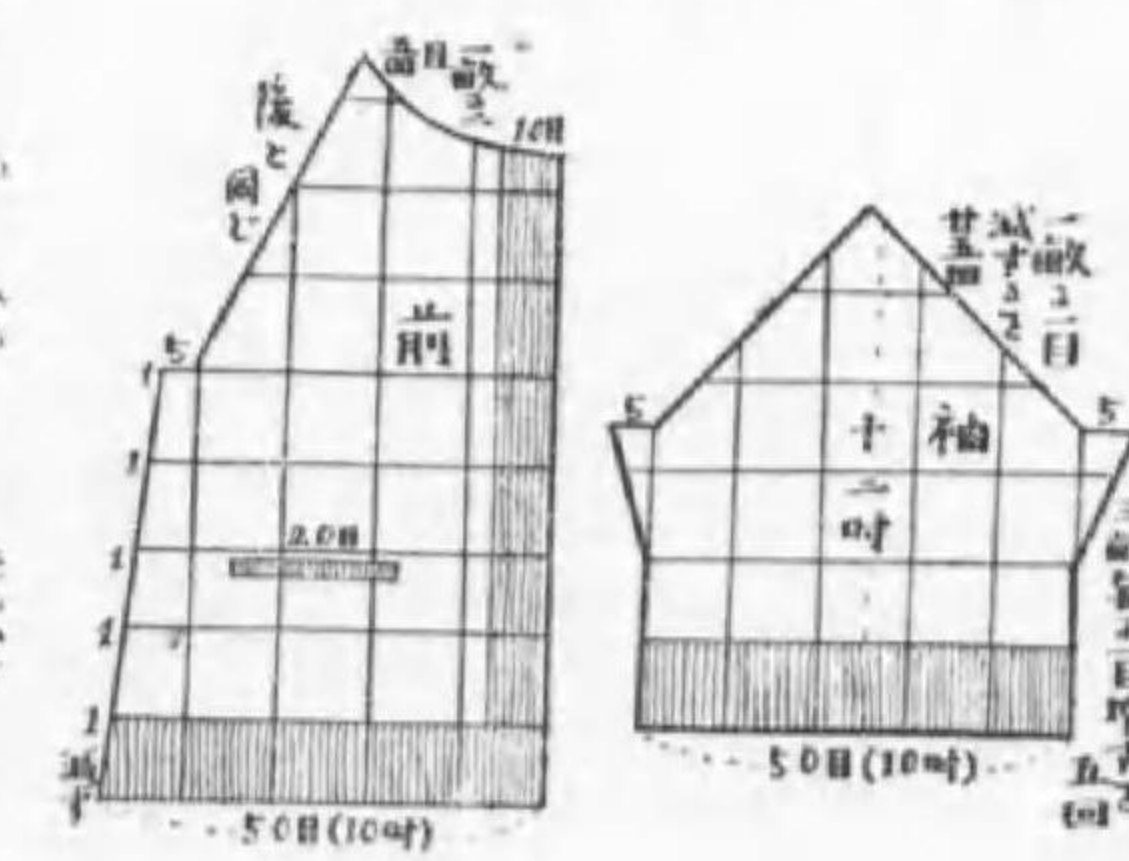
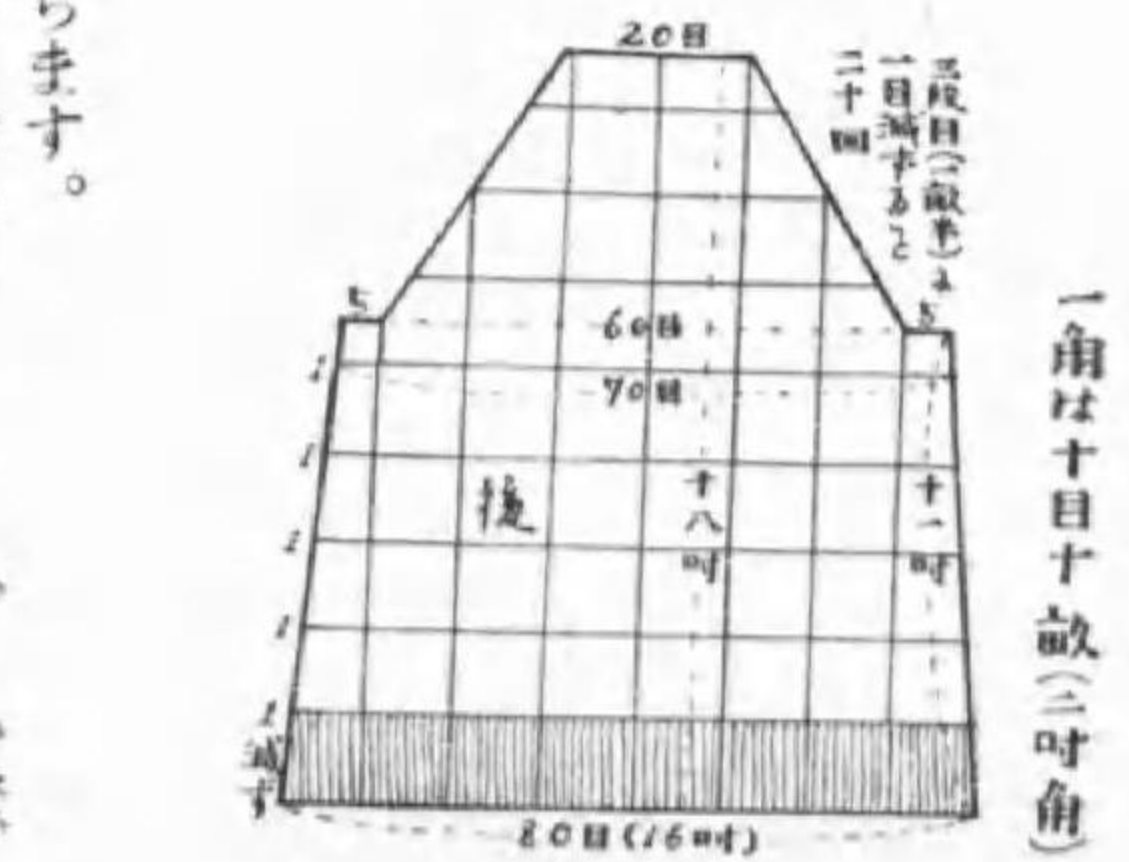
減すべき箇處、その目数が一目でわかります。例へば、この外套を編んだ糸は並太で、針は六番、十目十畝編んだら二時の四角になりますから、圖のやうに、型紙に二時角に線を入れます。すると、裾が八十目、脇で七十目といふところがすぐにわかります。この外套は五歳の子供のです。すつかりガーターステツチで、色は落ちついたラクダ、衿、裾、カフス等はラクダとレンガ色とを二本にして編み、この部分だけ毛を立てました。

材料 ミネルヴァヤーン、ラクダ色十四オンス。レンガ色、四オンス。
用具 六號二本針。

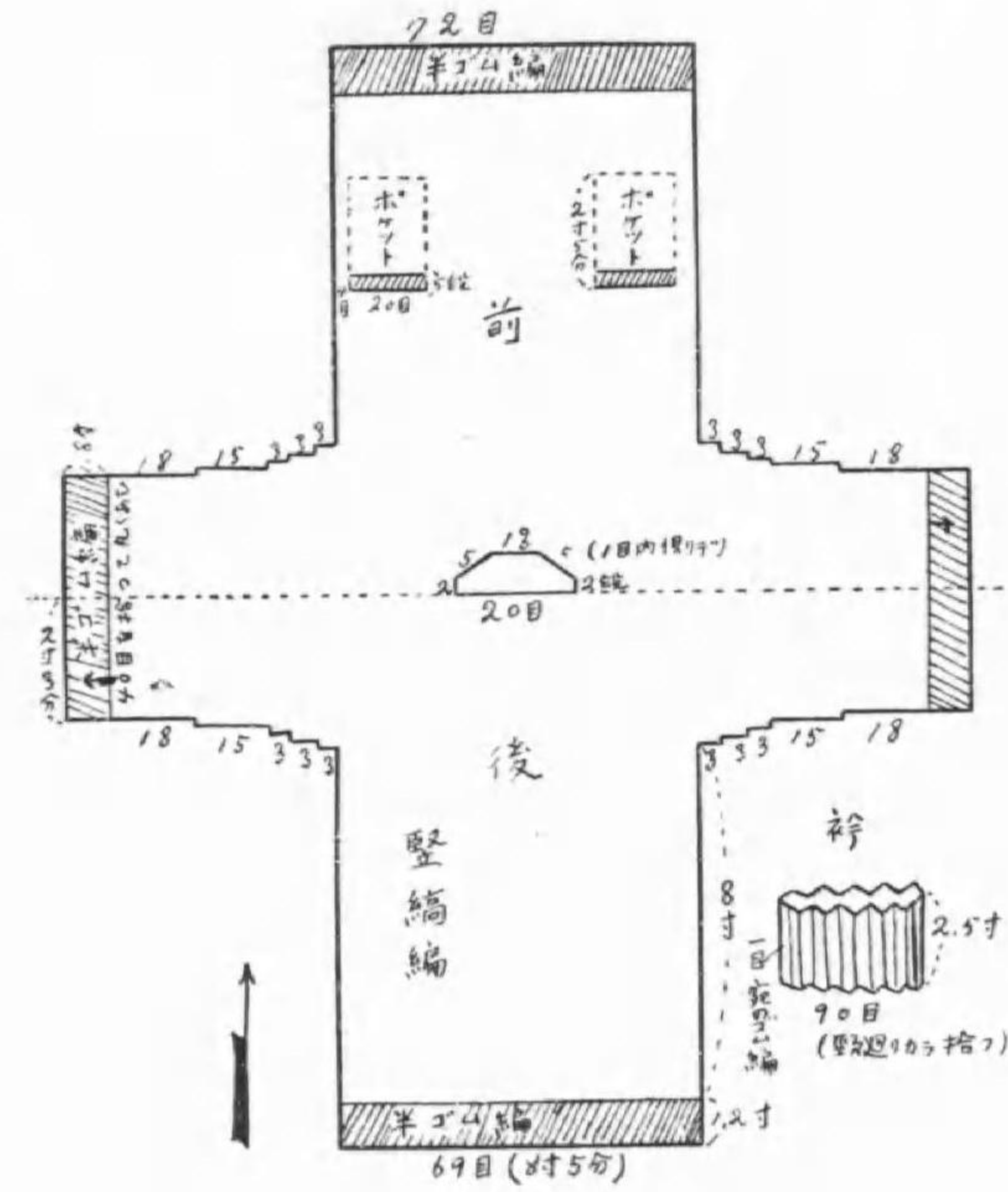
外套の編み方

後身 裾のガーター十一山だけはラクダとレンガを合はせて二本で編み、あとはラクダ一本で、圖に従つて衿肩まで編み上げてとめます。

前身 裾の十一山は二本で編み、更に前の部分七日だけは上まで二本糸でつづけます。ポケットの口にあたる部分も、二十目を四山だけは二本糸で編み、一時にその二十目をとめ、次の段でラクダで二十目新しく作つて上まで編み上げます。ポケットの袋のために、さつきとめた二十目を拾つて四時ほど編み足し、裏からとちつけます。



袖 カフスのために十一山だけ二本糸で編み、あとは一本にします。身頃と袖が出来ましたら、ラクダランスリーブの形にまつり縫いをして脇から袖下をとめます。
衿 右前の襟ぐりから十七目、後の肩明から二十四目、左前からも十七目、都合五十八目を拾ひ、二本糸で十六山編んでとめます。衿まはりから前裾全体へ鉤針で短編をつけます。この時、右前には、衿ぐりから一時宛あけて五ヶ處に、鎖十で輪をつくり、ボタンかけにします。左前身頃には、編ボタンを五箇つけます。
帽子の編み方 帽子は、はじめラクダ一本で六番の針に二十目作り、両端の編み始め毎に一日づつ減じ、二十目になつたらとめます。つたら、増減せずに四半時編み、それから又両端の編み始め毎に一日づつ減じ、二十目になつたらとめます。別に、ラクダとレンガの二本で二十目作り、増減なしに十八時編んで輪にしてとめます。
先に編んだ六角形のまはりに、かぎ針で短編を引きしめかげんに編みつけて、十八時に縮め、縁をつなぎ合はせて上に折りかへし、飾りボタンを二箇つけました。



變つた編み方の男兒服一揃(七八才)

スウエター

材料 並太毛糸 十オンス。
用具 四號二本針、三號四本針、二號二本針、トチ針。

編み方 これは裾と袖口を半ゴム編、身頃を堅縮編であみ上つてゐます。

半ゴム編 四の倍數に三目加へた數。

第一段「表編三、裏編一」を繰返して表編三で終る。

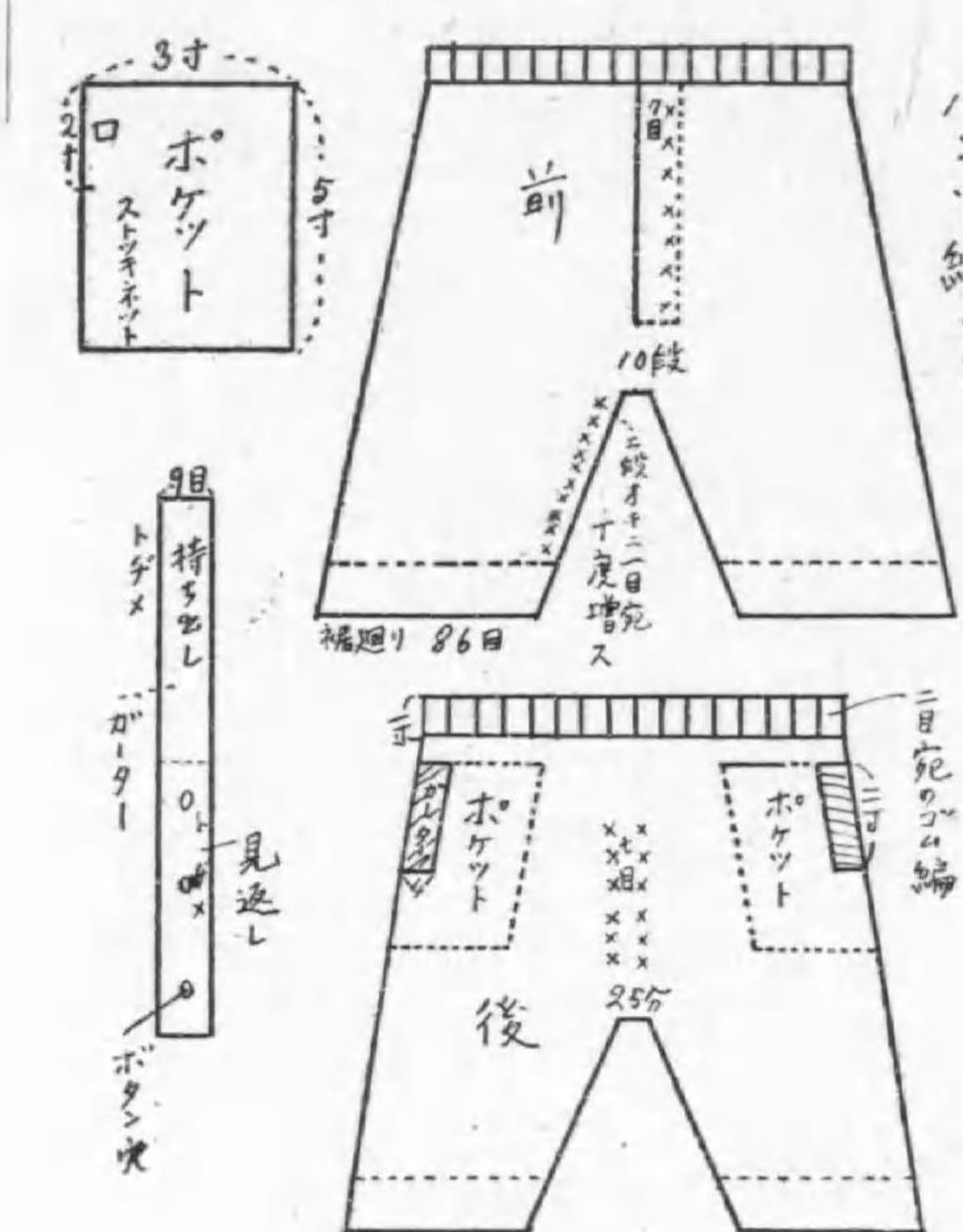
第二段「裏編一、表編一、裏編三」を繰返し、裏編一で終る。

以上の二段を繰返すのです。

堅縮編 日數半ゴム編と同じ。

第一段「表編三、裏編一」を繰返し表編三で終る。
 第二段「裏編三、表編一」を繰返し裏編三で終る。
 以上の二段を二度編んで三度目の裏から歸つて来る段で表編四「裏編三、表編五」を繰返し裏編三で終りますと、一編おきに三目宛ガーターの山が出来ます。このやうに六段目毎にガーターの山を入れてゆくのですが、これは寫眞のやうに交互にして下さい。
 後身六十九目（八寸五分）作り、半ゴム編で一吋三分編み、次に堅編で脇まで増減なしに八寸編み、袖の目を増します。
 袖即ち兩端で編み始め毎に三目宛三度、十五目宛を一度、十八目宛を一度、都合片方四十二目宛増し、その目數で袖口二寸三分になるまで編みます。
 衿肩中央二十目を別針に通しておき、左右別々にして前身に移ります。
 前身増減なく四段あみ、衿ぐり側の一目内側で一段おきに一目宛二回、段毎に一目宛三回、都合五目増します。片方も同様に作り、中央に十三目作つて左右を一緒にしその目數で袖巾を編終へたら、袖下の目を後身に合せてとめ、脇下まで四寸そのまゝ編みポケットに移ります。

ポケット兩脇に作ります。脇から四目内側の二十目宛を糸又はピンに通しておき、そこで新しく二十目作りますと、つまりポケットの口と裏側とがこゝで二重になるのです。目數は代りませんからこの新しく作つた二十目の所だけ五段ほど一目宛のゴム編にし、他は後身と同様に裾まで編んで止めます。先に針に通しておいた二十目をストツキネットで二寸五分編んでとめ、これを裏側にとちつけます。
 脇とち止め針で脇から袖下まで止めます。



袖口四本針で袖口から四十目を拾ひ、丸く半ゴム編で一吋八分編んで止めます。半ゴム編を丸く編む時は、第一段「表編三、裏編一」第二段「裏編三、表編一」即ち前段の表編三の中央が二段目の時表編一となるやうに編めば、平に編んだ半ゴム編と同様になります。
 衿衿廻りから九十目を拾ひ、二號四本針で一目宛のゴム編でかたく二寸五分編んで止める時はひきつらぬやう注意しながら止めます。

パンツ

材料 並太毛糸八オンス。
用具 四號四本針、とち針。
編み方 片足の裾口から編み初めます。
 裾口八十六目（一尺）を作り、輪にしてストツキネット十八段編み、編み初めの目と針にある目を重ねてこの上下の二目を一緒に編んで行きますと裾口が二重になります。（ダブル編）
 股下どこか一所で四目を中心とし、二段おきにその兩端で一目宛十度増します。次にこの四目を中心にして二十目を別針に取っておきます。次に兩足共糸に通した二十目をそのまゝにして残りの目を兩

足續けて輪にして増減なしに十段編み、こゝから前身の中央を分て二本針にかへます。即ち上前と下前とを別々に編むのです。そして前側と後側とはそれ／＼減し方がちがつて居りますから別々に説明します。然し編む時は續いてゐるのですからそのつもりでお読み下さい。

前股上 兩前共端から七目内側で一段おきに一目宛七回へらしますが、その時上前は二目一緒、下前はかぶせ目にするときれいに出来ず。
後股上 二寸五分まで増減なく編み、中央七目を中心にしてその兩側で五段おきに六回都合十二目減します。以上の要領で編み續け、股上三寸五分になつたらポケットの口のため兩脇を別々に分けその兩端四目をガーターにして二寸あみみます。股上が六寸になりましたら、後にふくらみをつけるために後身だけくさび編をします。即ち後の兩脇端から一方四目残して編みかへり、他の一方も四目残して編みかへり、都合四目づゝ三度兩方に編みかへります。編みかへる時初めの目は何時も編まずに針に移す。次に二目宛のゴム編を一寸あんで止めます。別に圖のやうに持ち出しと見返しを續けて編みます。下前の端に持出しになる方とちつけ、上前の裏側に見返しになる方を、下前と反對の端をちつけます。これはかくしボタンをするためです。スポンの前あきと同様になさればよいのです。

始めに股のところの襷として糸に通しておいた二十目宛の目を丁寧な編み合せます。

帽子

材料 並太千糸 四オンス。
用具 四號四本針。

編み方 目數八十八目作り、丸く半ゴム編を十五段いたします。堅縮編で三寸五分編みます。その先を八ヶ所で毎段二目一度に編んで十六目になるまで減して引きしめて先の半ゴム編を折り返します。

男兒用パンツ (六七歳)

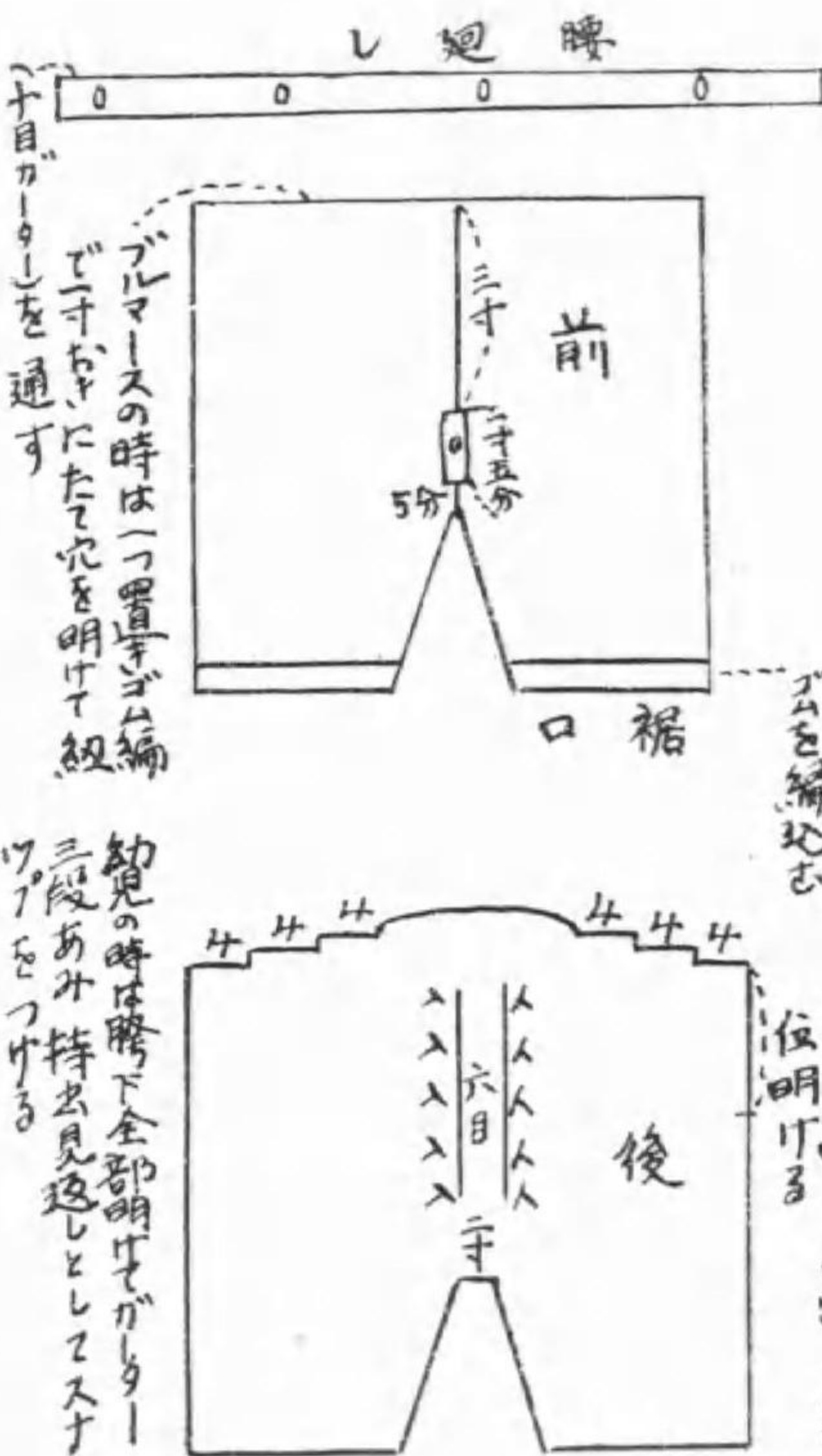


左前の端の四目の裏をとつて加へます。この四目は、明きの持出しになりますから、こゝだけガーターにします。この擴げたまゝで一寸五分編んだら、持出しの目と、左前の端の四目を重ねて編み合せ、再び輪に致します。そし

材料 並太 六オンス。
用具 四號二本針、四號四本針。
編み方 裾口 四本針で七十の目を作り、ストツキネットで一寸八分編み、これを二つ折りにして、編初めの目と編み合せます。股下 どこか一とこで四目を中心とし、その兩端で一目宛四段おきに四度、一段おきに六度増します。兩足同じやうに編み、四目を中心として二十四目を別針に通しておき、あとで左右合せてボシングステツチで閉じます。

股上 兩足を續けて輪にして、増減なしに五分編みます。今度は前の明きを作るために前中央から二つに分け、右前の端に續けて、

て前の方はそのまゝ増減なしですが、後は、輪にしたところから（股上二寸程の所）中央の六目の左右で、四段おきに一目づつ、終りまで減しつゞけます。股上五寸程になりましたら、後だけ端から四目三度の横編（一段毎に端の四目を残しては編み返す）を致します。終りに全部の目をとめます。



ブルマースの時は、一つ置きゴム編で二寸おきにたて穴を明け、紐で十目ガーゼを通して

女児の時は両股を四寸位明け

幼児の時は膝下全部明け、三股あけ持出見返しとしてスナツプをつける

こゝに、前明きの持出しを應用していただきます。バンドは従つて二本になります。幼児用には股下を全部明けた方がよろこびますから、足を輪にせず編み、後に目を拾つてガーゼ三段の持出し、見返し、スナツプどめにすれば便利でせう。

別にバンドを作ります。十目のガーゼで、身の廻りよりはやゝつり加減の長さに編みます。チョッキに釣るため、前後両脇に當る四ヶ所に三日のボタンホールを作ります。

参考 裾口をブルマースのやうに締めたならば、裾口を二重にする時ゴムテープを編み込むか或は後で通すやうに口をあけておきます。女児用でしたら、前の股上の明きは作らず、両脇を四寸位明けます。



ハイカラな男児用スウェーター

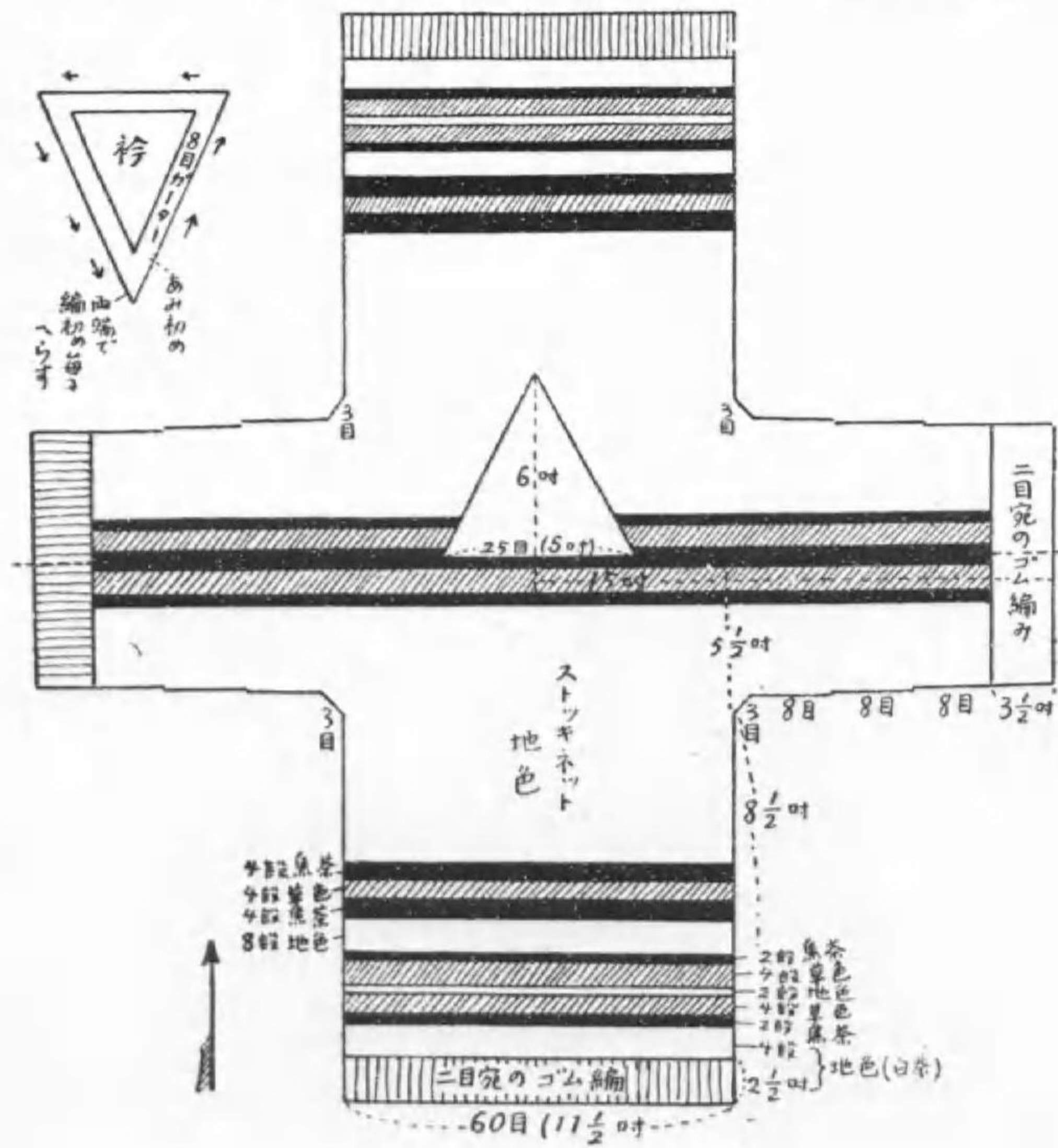
色どりに面白味を見せたもので、幼稚園から小学校のお子さんには必ず似合ふ可愛らしい型です。こゝには八歳を標準として書きました。

材料 ニツティングワーステッド（太毛糸）マツフィン（薄茶）三巻（一卷凡そ二オンス）、ジョッキグリーン（草色）半巻、シールブラウン（濃茶）半巻。

用具 五号二本針。

編み方 後身の裾から編み初めます。先づ目数六十作り「表編二裏編二」のゴム編で二吋半編み、あとはストツキネットばかりで、圖に示した通りに糸をかへ、縮をいれながら袖下まで編みます。次に袖のために両端で一日宛三度増し、更に八日宛三度増し、あと増減なく編み焦茶四段、草色四段、

焦茶二段の縞を入れ肩山に至ります。
 衿肩明 肩山になつたら、衿肩明のた
 めに中央二十五目とめ、次から左右別々
 に衿ぐりを作り後身に準じて縞も入れな
 がら編みますが、衿ぐりは図で示す通り、
 六寸の間にへらした目数だけを増すわけ
 で、即ち凡そ三段目毎に一目宛増してゆ
 きますと丁度よいやうです。(三段目毎
 といふのは、衿ぐりから編み始める時に
 先づ一目減らし、編み戻り、更に一段編
 んであみ戻つた時に衿ぐりの處で減しま
 す。次は一往復増減なく、次の編み始め
 で減らすといふやうにします。)すつかり
 増したら左右を合はせあととは後身に合は
 せて裾まで編み上げます。
 袖口 袖の目を拾ふには一段と二段
 からは一目宛、三段と四段は一緒にして
 一目、即ち三段目毎に一目宛少く拾ひ、



これは五六歳
 から小学校の一
 年生位までの坊
 ちゃんに向きま
 す。裾から胸に
 かけて大きな連
 續模様をあらは
 し、色の取合せ
 も、上品でハイ
 カラな調子の高

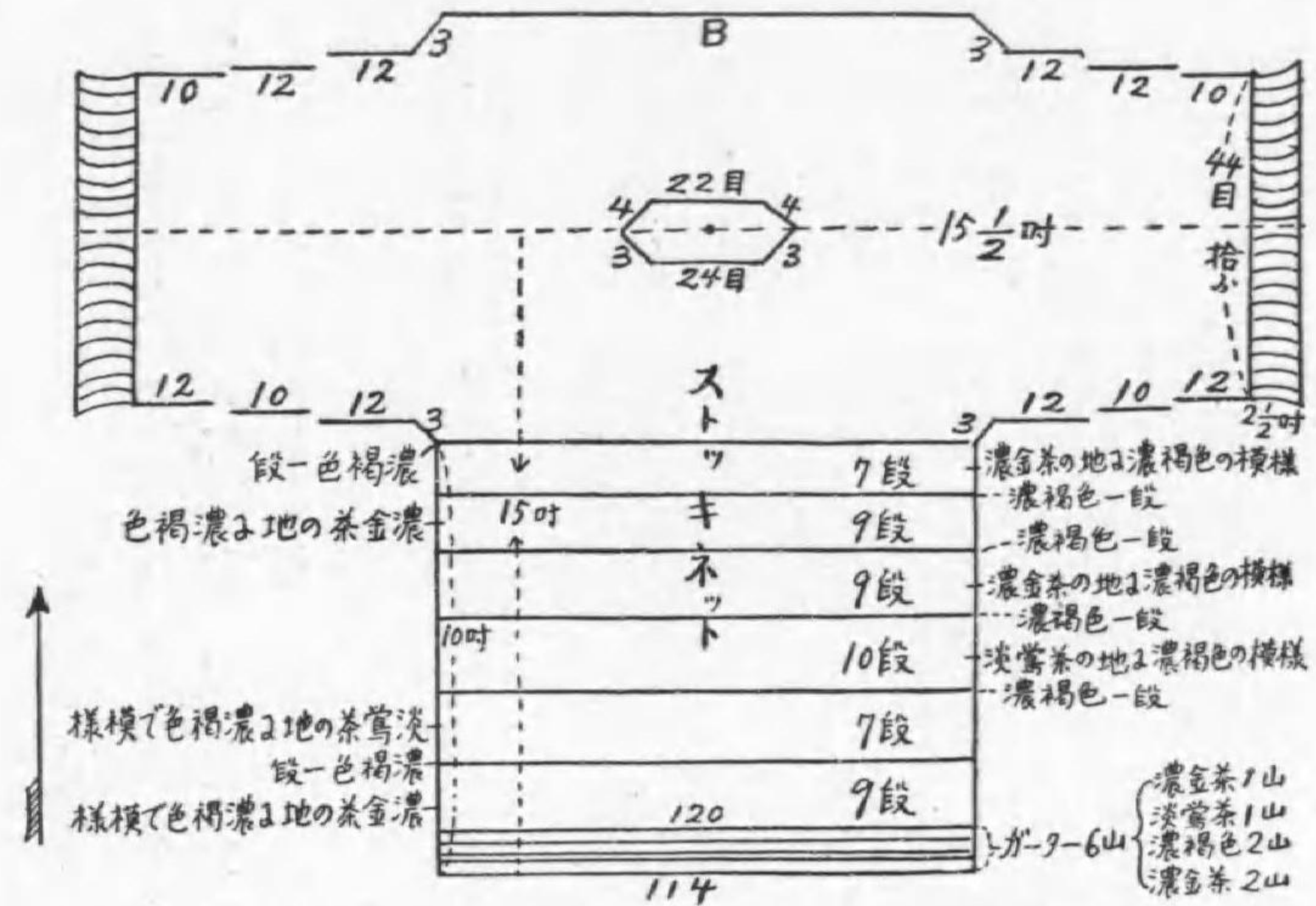
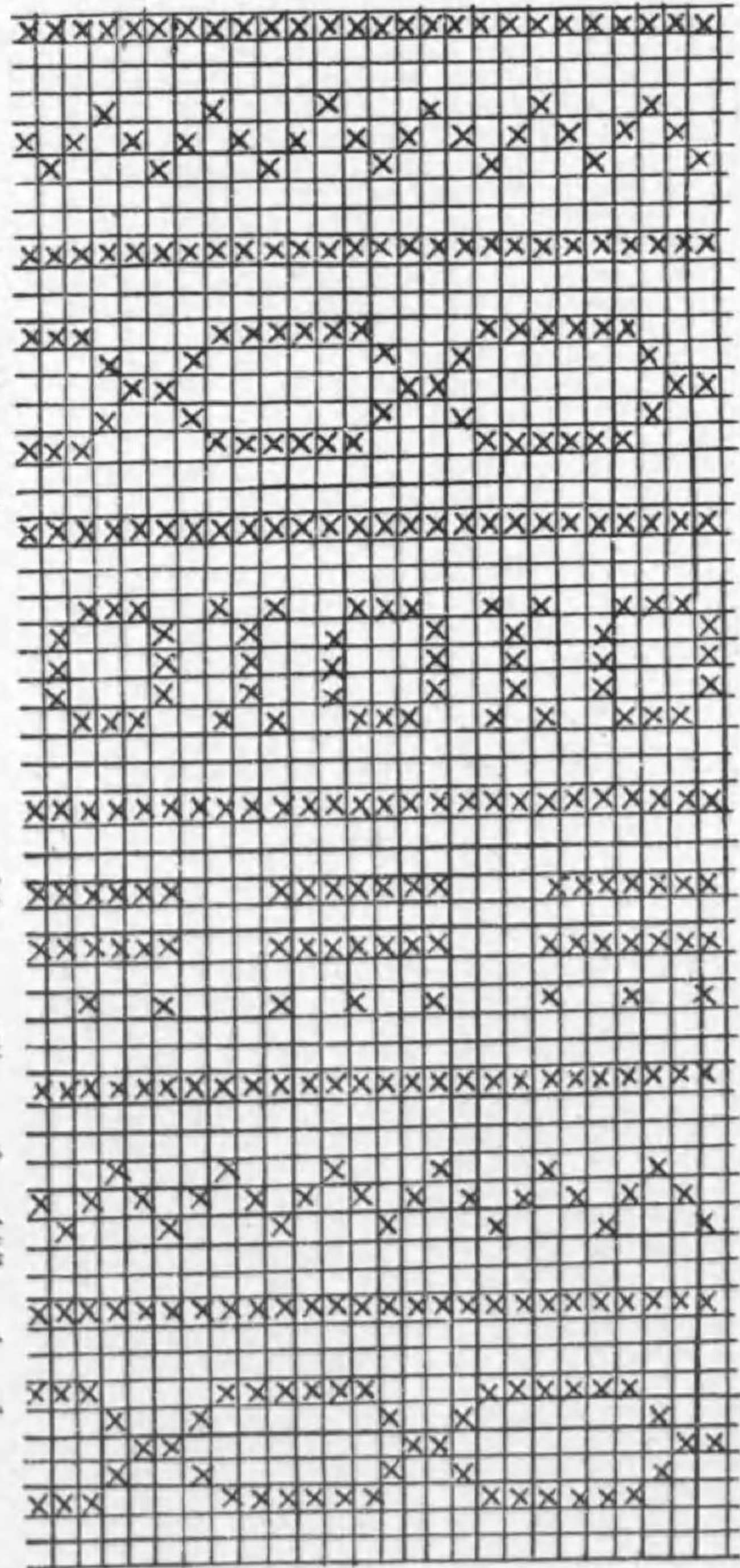


上品なボーイズ

この目数で二目宛のゴム編を三時半してとめます。次に袖下、脇をとち合せます。
 衿 衿は別に八日作り、ガーターにして、衿ぐりより少し短めに編んだら、編み始めの目を拾つて十六目として、
 両端とも編み始め毎に一目宛へらし、一目になつたらとめます。目を拾つた方を上前とし、つらせ可減にしてとちつ
 けます。これで編み上りました。

たら、今編んで来た地糸を後にたらし、その下から模様糸をくぐらせて編むのです。模様糸をやめる時も同様で、模様糸の糸を後にたらし、地糸をそのまま渡して来て模様糸の下をくぐらせて編みます。裏編の時はやめる糸を前におき、新しい糸をその下から出して編むのです。模様は方眼紙に描いておきましたし、色どりは委しく編み方図に書き入れましたからひき比べてお編み下さい。

袖下まで編めたら、即ち最後の濃褐色の縞を入れ終へたら、両脇をきめて目数を二等分し、一方を前身として別針にとつておき、後身はつゞけて編みます。即ち濃金茶にして袖の目を増します。両端で編み始め毎に一目宛三度、次は十二目、十日、十二目と増すこと圖の通りです。あとは増減なく編み、裾から十四時位になつたら、衿ぐりのため中央二十四目とめ、左右の身頃とも、衿ぐり側で一目宛三度減して肩山に至り、今度は一目宛四度増し中央二十二目増して左右を一緒にし、あとは後身に合せて編みますが、袖下の目のため方は圖のやうに、十日、十二目、十二目、一目宛三度



編み方 これは四本針で裾から編み始め、袖下から前後にわけて編み、前身の袖下の處でボーシングでとち合せるのです。

身頃 先づ濃金茶で百十四目(二十四吋)作り、四本針で輪にしながらガーター二山、濃褐色にかへ二山、薄鶯茶で一山、濃金茶で一山編みましたら、次からはストツキネットばかりで目数も百二十目に増し、二十目毎に一目宛増す(割合)圖に示したやうな順序で模様をあらはしてまゐります。その模様の出し方はカメオ式といつて、編み方はストツキネットのまゝ、色だけ違へて模様を出すのです。そして用ひない方の糸はいつも裏側に渡しておくのです。

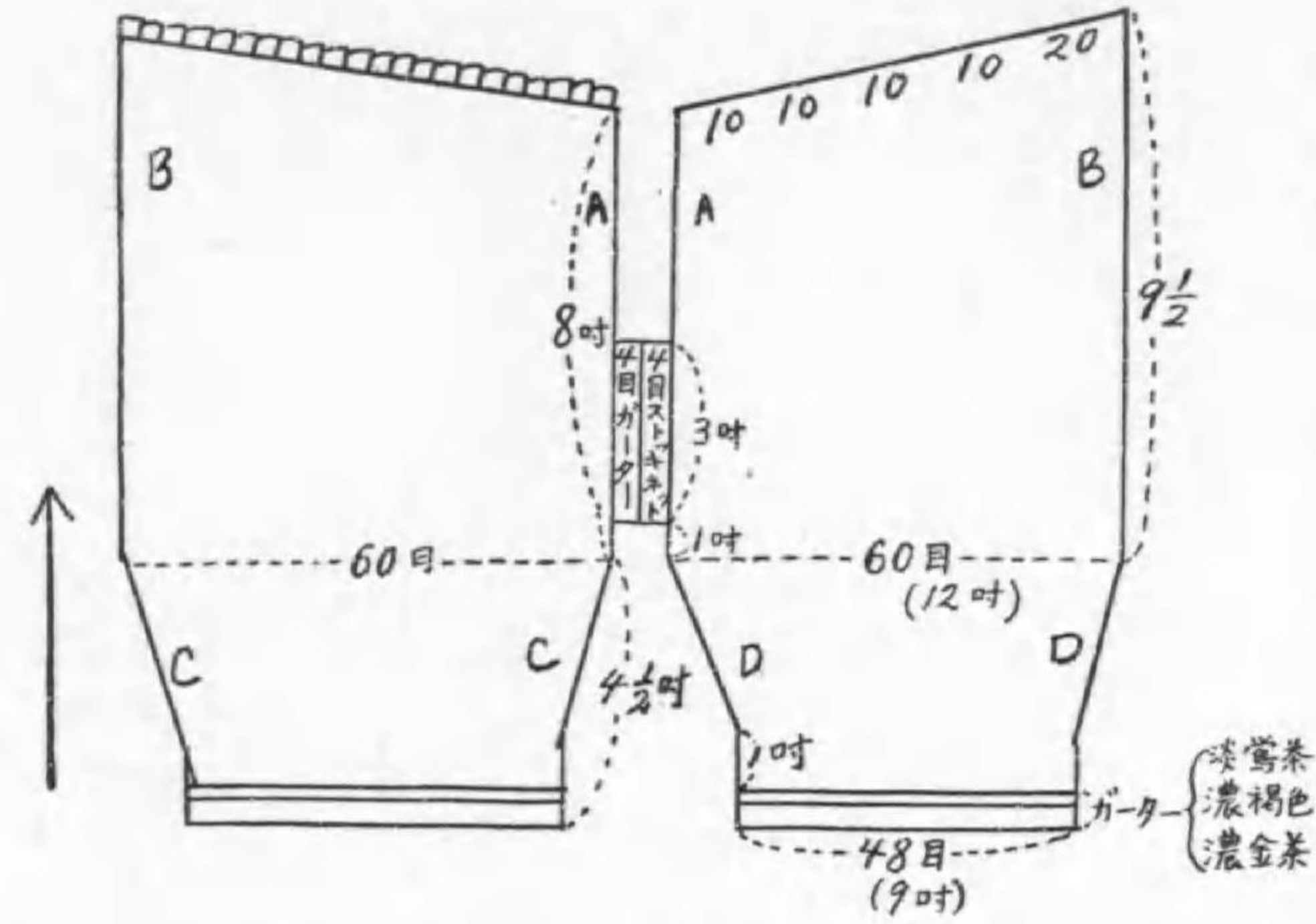
カメオ 模様を入れたい所に來ましたら、それが表編の段でし

上衣

い最新のもので、立派なよそゆきになります。女兒にするなら純白などを使へばよろしうございます。

材料 ニツテイングワーステッド 濃金茶四卷(一卷二オンス) 薄鶯茶一巻、濃褐色一玉。

用具 五號四本針、二本針。



といふ風に致します。これは袖下に段がつくのを防ぐためです。袖下をとめたら、ポーシングステッチで先に別針にとつておいた目と合せます。そして袖下をとおち合せてしまひます。

袖口は四本針にして凡そ四十四目拾ひます。拾ひ方はストツキネットの一段から一目拾ふのでなく、一段と二段からは一目宛、三段と四段は一緒にして一目、即ち三段目毎に一目少く拾ふ割合にしますと丁度四十四目になると思ひます。二目宛のゴム編二時半してとめます。

衿は濃金茶の糸で衿ぐりから六十八目拾ひ、四本針で二目づゝのゴム編一時半編んだら、今度は表側からみて表編の縞だけ全部三目宛にし裏編はそのまゝ、都合八十五目して二時半編んでゆるく目をとめます。これは衿を折り返して着る時、先を廣めにするためで、折り返しますと三目の表編の縞は裏になつて、やはり二目宛のゴム編のやうに見えます。

ズボン

編み方 片足づゝ別々に二本針で編みます。左足の裾から編み初めます。濃金茶で目数四十八(九吋)作り、ガーター一山、濃褐色で一山、淡鶯茶で一山あみ、次から濃金茶でストツキネットばか

りにし一時増減なし、次から圖のやうに三吋位の間に兩端で六目宛、都合十二目増します。これは四段目毎に兩端で一目宛増すと丁度いゝでせう。六十目になつたら一時増減なし、次は圖のやうに前に當る方の端で四目作り、三吋はその目数で増減なし、次は先に作つた四目だけとめ、もとの六十目にして股上八吋まで編みます。次は圖のやうに後のふくらみを作るため模編をします。その仕方は先づ後の右側(B)から二十目だけを編み、あとは左針に残したまゝ編み返ります。次段ではこの二十目と次の十目都合三十目を編んで戻ります。次段では更にもう十目といふ風に編みましてゆき、全部の目を編むやうになつたら二段ストツキネットをして目をとめます。

右足は左足と對になるやうに編むのですが唯、持ち出しの所はガーターに編むのです。

兩足が編み上つたら、左足のストツキネットの見返しを裏側に折り返し、股下のCとC、DとDをとち合せ、股上もAとA、BとBをとち合せます。そして洋服のやうに見返しと持ち出しをよくとち合せこゝにはスナップを二つほどつけてとめるやうに致します。

腰廻りは鉤針で、長編一、鎖編二、下二目飛ばして長編一」の格子を一段編みつけ、この格子にゴムテープを通します。

男 兒 も 女 兒 も 向 く 水 兵 服

男兒にも女兒にも向く、きりつとした可愛らしい服です。藍色の地に、銀鼠で胸と袖口に市松模様を入れました。

材料 アイストランドウール 藍色四卷半(一卷一オンス)、銀鼠半卷、リボン(黒)三分の一ヤール。ゴムテープ一ヤール。

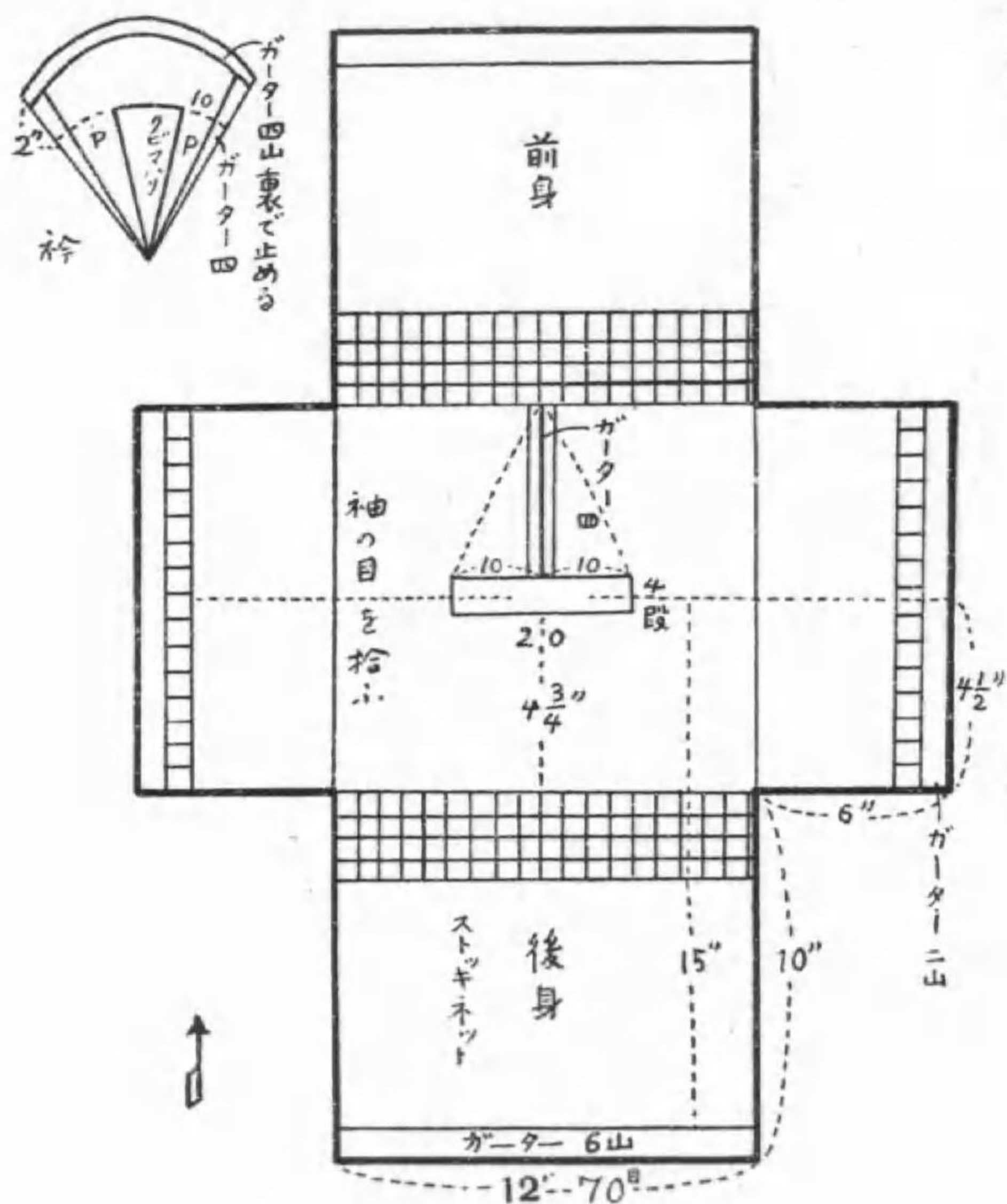
用具 五號二本針

スウエター

編み方 後身の裾から矢印の方向にお編み下さい。銀鼠の糸で目数七十作り、ガーター六山、ストツキネットにかへて、五時編んだら藍色と銀鼠の二目二段の市松模様を入れなくてはなりません。こ



これはストツキネットの編み方のままで色だけかへるのでこの仕方をカメオステッチといひます。その仕方は模様を入りたい所に来たら、それが表編の段したら、今まで編んで来た地糸を後にたらし、その下から模様の糸をくゞらせて出して編むのです。模様の糸をやめる時も同様で、模様の糸を後におき、地糸をそこまで渡して来て模様糸の下をくゞらせて編むのです。裏編の時はやめる糸を前におき新しい糸をその下から出して編むのです。片身頃づゝ別々に編みます。圖のやうに四段増減なしに編み、五段目で衿明に中央二十目を別針に取つておき、片身頃づゝ別々に編みます。圖のやうに四段増減なしに編み、五段目で衿明側に十目新しく作り、端四目はガーターにして四時四分の三編めたら、兩身頃を一緒にして後身と同じやうに模様を入れて編み上げます。袖に袖附の目を一段に一目づゝ丁寧に拾ひ、裏から戻つて来る時に四目毎に一目づゝ減しますと丁度いゝ目数になります。そのまゝ六時増減なく編み、ガーター二山してとめますが、ガーターをする前に、身頃と同じ模様を五段重ねます。



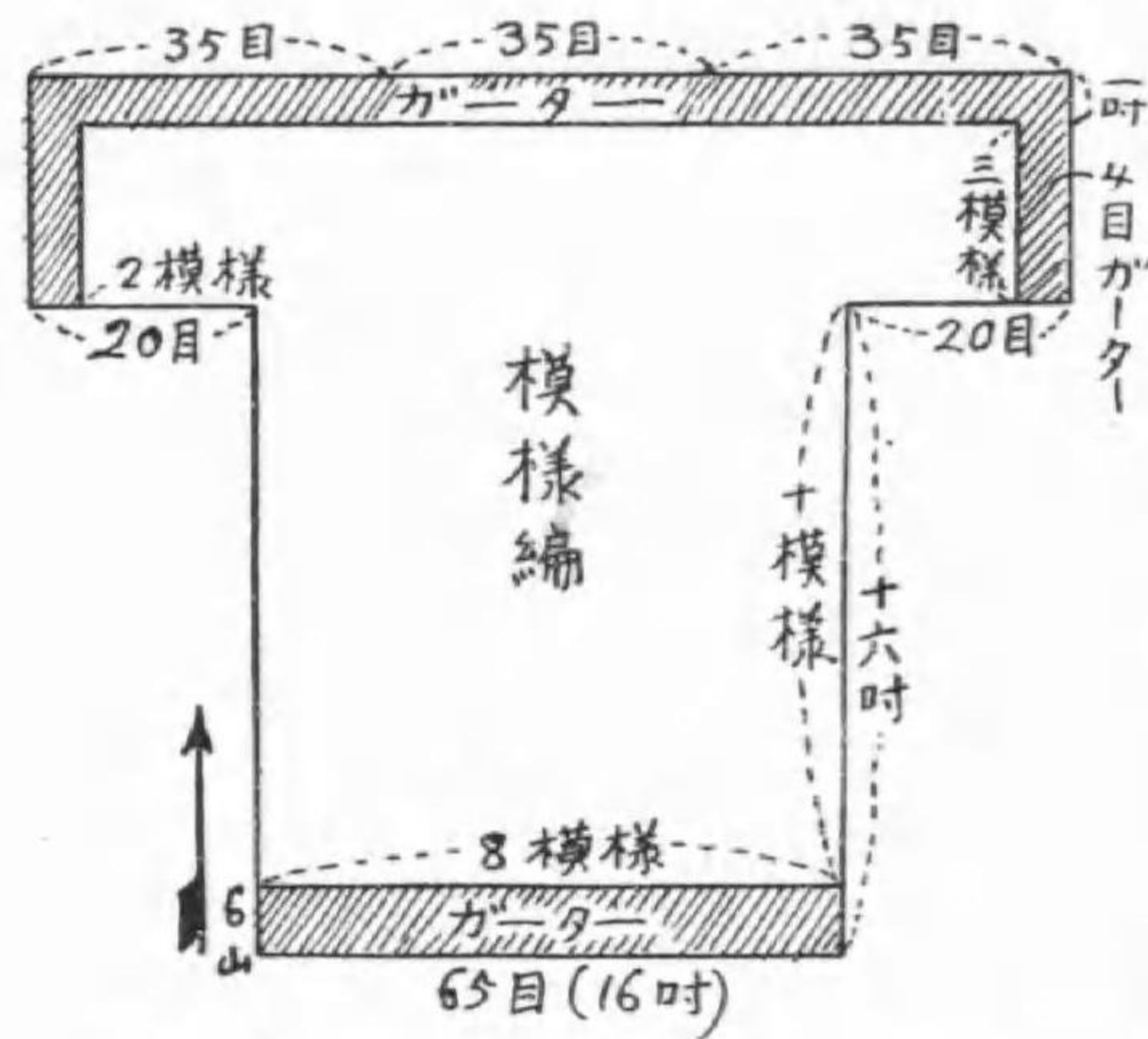
ツロース

編み方 片足づゝ別々に編み上げて縫ひ合せたものです。裾口から編み始めます。目数四十作り、ガーター二山して上衣と同じ模様を一行入れ、次段で四十の目を悉く二目宛

ストラカン十山、アルビヨン三山、あとは白ばかりで十四時の巾になるまで減らし、衿巾七時になつたらとめ、身の衿ぐりとちつけます。そして衿の周囲にぐるりと短編を二段編みます。別に極細毛糸白二十五本(長さ八尺)づゝ三本揃へ、これを三つ組にして紐に作り、衿廻りの裏につけます。

一 模 様 編 の 女 兒 服 一

春の外出着に、幼稚園着に、何と愛らしく軽快でせう。編方はごく易しく、僅かの毛糸で出来ます。この服は模様がすきますから、キヤラコカ藤組で作つたアンダードレ



ツスを用ひます。
材料 鈴蘭毛糸 五オンス。
用具 六號 二本針。

編み方 この模様は「矢の根模様」を用ひましたが、他の模様編でも勿論結構でございます。身頃は、前後同じ形に、裾から編み上げたものを、肩で

ホーシングステツチではぎ合はせます。模様の編方は記號で御覽下さい。

この模様は仕上げをしますと大變に延びますから、豫め目数を加減しておきます。

目数六十五(八の倍数に、編始めの一目を加へた數)圖のやうにガーター六山して模様編に移ります。模様が八組出来きます。裾から十六寸(模様が十重なつた時)になりましたら、袖のために左右で二十目宛(模様二組分に四を加へた數)一度に増し、兩端の四目宛だけをガーターにして他は模様編で進み、袖が四時半(模様三つ)になつたら、全部ガーターにかへて一時編みます。衿肩明のために、中央三十五目(四寸)をと



めて、他はそのまゝにしておきます。
 もう一枚同型のを編んで肩をポーシングステッチで合はせます。
 頸廻りと裾口に短編を一段編みます。頸廻りはこのまゝでは明きすぎますから配合のよい糸で二尺位の鎖編の紐を作り、頸明きの左右のすみ一寸ばかりをX形にとちて、紐の先には飾り玉をつけます。
 この服はバンドなしの方が恰好がよいとございます。

可愛らしい春のスイーター (四才)

編方の易しい割に見栄えのするスイーターです。薄くふはりとしてゐますから、春秋又は夏の夕に用ひるのにふさはしうございます。又洋服がはりとしてもよろしうございます。

材料 白中細、二オンス、桃色絹糸 一匁、ホック。

用具 六號二本針、レース編針。

編み方 全體殆ど藤編で、ヨークのところだけガーターです。後身頃の裾から始めます。
 目数八十四(十二の倍数ならばよい)を作り、表編ばかり三段してから次に記す四段の編方を繰返へして編み進むのです。

一段 全部裏編。
 二段目「糸をかけて二目編む」一回。
 「糸をかけて二目編む」一回。



以上を繰返へして二段目を終る。
 三段目 四段目 全部表編。
 この四段の編方を繰返へして一尺一寸程(膝頭から袖附まで)増減なしに編みます。
 次からはガーターですが最初の段で、四目おきに二目一緒に(五と六の目)編んで目数七十に減します。この目数でガーターを二寸五分編んで頸明きにかゝります。
 袴ぐりの形は先づ紙を好み通に切つて、それに従つて増減して行きます。そして前の顎下が増し終へたらその目数で片方づつ真直に編み、後身のガーターの丈になつたら兩方一本に通し、後身のヨークで減したゞけこゝで増して始めの目数にかゝります。

し、そのままにおきます。
 前身の裾は後と同じものを別に編んで、前のヨークと編みつないでしまひます。
 袖目数四十八、裾と同じ方法で藤編を三寸程編んでとめます。これを二つ作り、身頃のガーターの部分にとちつけます。
 飾り袖から脇の裾まで縫ひ合はせると形が出来上りますから、飾りにかゝります。飾りは御隨意に工夫していただく。



衿、袖口、裾などに、クロスステッチで模様を入れた、可愛らしい女児用スーツです。眞白の毛糸で編み上げれば、如何にも清楚で刺繍の紅、青、黄が榮えて見えます。極寒用にも、春着にも向く型です。

清楚で編み榮えのする女児用スーツ

材料 並太毛糸白一ポンド、

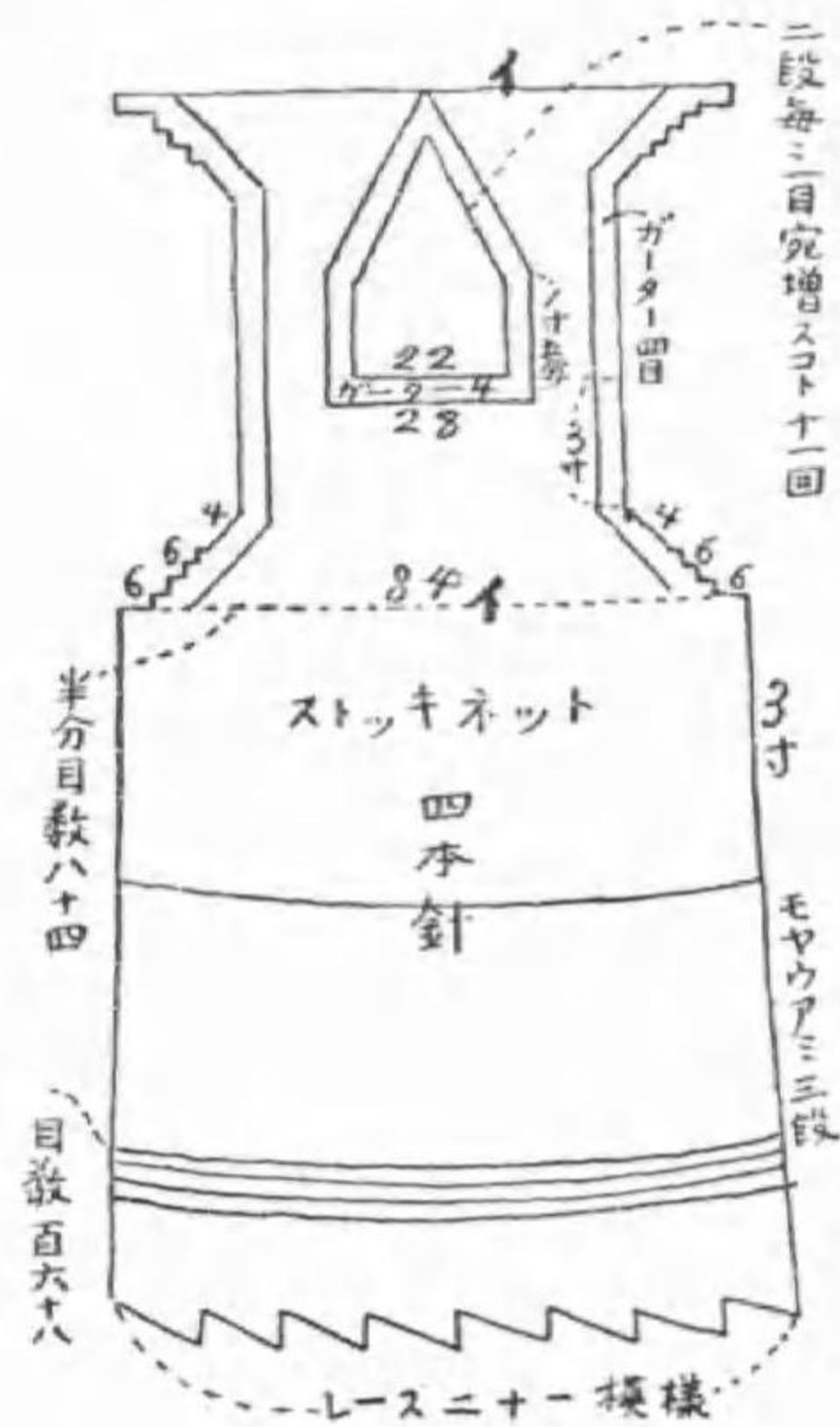
中細毛糸紅、黄、青少しづつ。

用具 五號、六號 二本針。

スウエター

編み方 後身の裾から編み始めます。

後身 六號の針に白で百二十目(二十二吋)作り、ストツキネットを二吋します。この時最後の段は裏編にします。次に二段表編、かうすると表側に一本畝が出来るわけです。これは裾の折返しの際になるのです。この畝からストツキネットを十三吋編みます。次から袖附を作ります。両端



身頃を續けて編みます。即ち袖明として先づ兩端で、六日宛一度に、五山編んで、中央二十二目をとめて衿肩明をつくります。宛四回、それからは増減なしに編みます。袖の減しはじめから兩端はまるまらないやうにガーター四目致します。袖明が三寸位になつた時、中央二十八目だけをガーターにし、五山編んで、中央二十二目をとめて衿肩明をつくります。次から左右身頃別々に編むのですが、いつも衿明端は四目だけガーターにし、増減はストツキネットとガーターの間でしなければなりません。先づ二十二目のとめたところから増減なしに約一寸五分か二寸、次ぎから、衿の側で一日宛二段目毎に増すことを十一回します。袖あきの方は後と同様に増せばよいのです。兩身頃同様に編み、兩方合せて前に四本針から二本針にかへた場所まで來ます。そこでポーシングステッチでとち合せれば出來上つたのです。

目の倍數、こゝでは百六十八目にしたわけです。模様ぐるりと編んだら二段目の模様は位置をかへて、一段目の二模様の間に來るやうにしていただきます。即ち、記號圖のうち二十三段目を御覽下さい。十四日(一模様)の眞中から編みはじめることになりす。かうして模様が三模様重なつたら、今度はそのまゝストツキネット三寸位編みます。それから袖明及び肩明になります。これは二本針にかへて編みます。レースのとち目を境にして、全體の目数を二分し、前身頃後身頃に分け、後

で、一段おきに一目づゝ減すこと九回、次からは四段毎に一目宛七回、目数八十八となつたらこれを別の針に移しておきます。

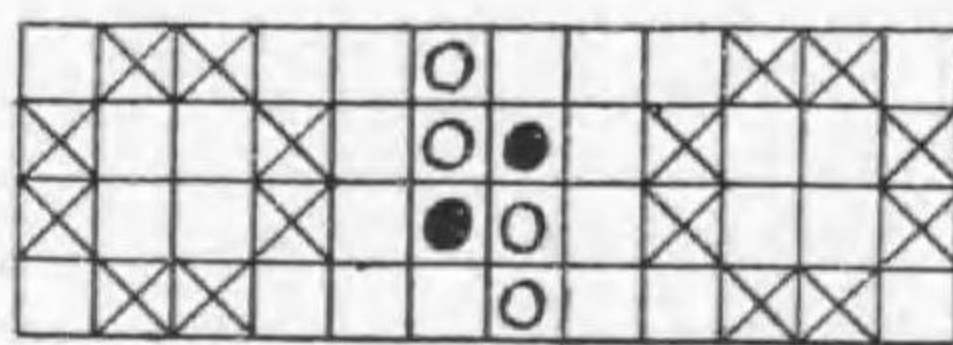
前身||同じく六號の針に白で百二十の目を作り、後身と同じやうに編みすゝみますが、袖附を作りはじめて、目数が百になつた時、胸のあきを作るため、五十宛にわけ、左右別々に編みます。袖附の方は後身と同じになるやうに減し、胸のあきになる方の端は増減なく編みます。後身と同じ長さになつたら、各々別針に移しておきます。

袖||袖口から始めます。五號の針に、白で三十八目作り、ストツキネットを一時編み、次に身頃の裾と同じやうに折返し山を作り、更にストツキネット一時編みます。次に六號の針にかへ、表編の段で各目で一目宛増して目数を倍にし、そのまゝで二時半編みます。次からは附のところになりますが、こゝからは身頃の袖附と同じ減し方をしますと、目数四十三となります。これを別針に移しておき、もう一方の袖も同じに作ります。

襟||別針に移してある各部分を、左の順に五號の針にまとめて通します。右前身頃の端(右前の胸あき)、右袖、後身、左袖、左前身、これで目数は二百六十二になります。これを二目宛一絡に編んで百三十一に減し、次段から増減なしにストツキネットで一時編み、次で更に二目宛一絡にして目数を半分にします。これは襟の山になるので、次の段では一目に二目づゝ編んでもとの目数にしてストツキネットを一時して目をとめます。

ブルーマー

五號の針に白で四十五(八吋)の目を作り、ストツキネット一時、身頃と同様に折返し山を作り、ストツキネット一時、こゝで袖でしたやうに針を六號にかへて一目毎に一目宛増して倍の目数にして、増減なく六吋。次は両端で六目宛とめ、次から一段おきに両端で一目宛減すこと三回、目数を七十二にして編みすゝみ、六號の針にかへて



×紅 ●黄 ○青

から十四時になつたら、くさび編みをします。即ち表編の段で、終りの十六目を編まずに残して裏編で編みかへり、次の二段は全部の目を編み、次の表編では三十目を編まずに裏編でかへり、又二段は全部の目を編み、次の表編では四十四を残して編みかへり、一段全部の目を表編にしてとめてしまひます。もう片方も同じ要領で作りますが、くさび編みを、一つは表編の段でしましたから、今度は裏編の段でするやうにしないと、同じ方の足が二つ出来ます。

刺繍、袖口、襟まはり、ブルーマーの裾口に圖案に合せてクロッス・ステツチで刺繍を入れます。縫合せ||縫目を合せて縫ひ、各々の折返しは山の敵から折つて縫ひつけます。ブルーマーは上方を一時折りかへして縫ひつけ、中にゴム紐を通します。胸のあきは、短編を一段して、上端にホツクをつけ、表の両側にうつりのよい飾りボタンをつけます。

仕上げ||折りかへしの所が厚くなつてゐますから、壓しを充分きかせるやうにします。

上品な少女服 (八九才)

材料 ミネルヅらくだ二本燃り(中細) 淡茶十二オンス、 濃茶一オンス。

用具 三號、四號二本針。

編み方 子供のは、少し細めの針で堅めに編んだ方が来なくて、きりつとしてよいやうです。これは三號と四號の針で、糸を二本にして確り編みましたから目数が割合ひ多いのです。圖に委しく寸法をいれましたから目

数には凡はれず寸法でお編み下さい。

後身頃の裾から始めます。

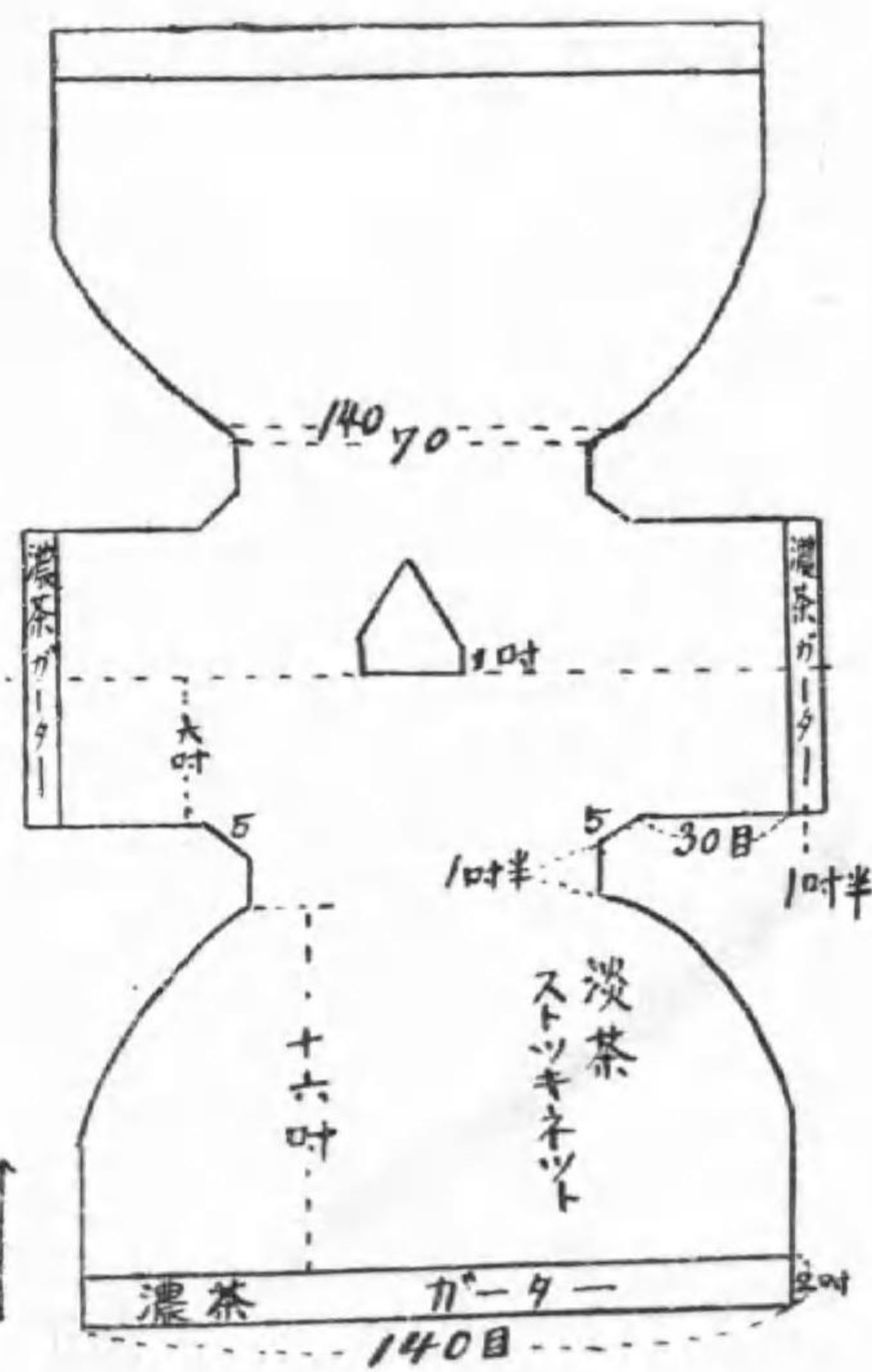
後身頃濃茶二本にして、目数百四十(三十吋)作り、ガーター二吋編む。淡茶にかへ、ストツキネットにして、十六吋編み、次に全部二目一緒に編んで目数七十に減らします。それから一時半は増減なし、そこから袖のために両端で、一段おきに一目宛五回増し、更にその次の段で一度に三十目宛増します。それから増減なしに編んで袖口が六吋になりましたら袖肩明のため、中央の二十二目(三吋半位)とめ、左右の身頃を別々にして前身に移ります。



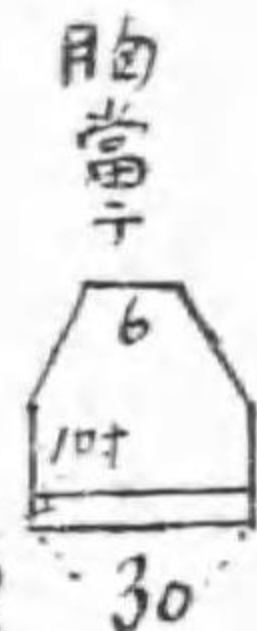
前身頃増減なく一時編んだら、衿ぐりの側で三段毎に一目宛十一回増し、こゝで左右の身頃を一緒にし、後身に準じて袖を作ります。すると七十の目数になりますからそのまゝで一時半、次で一目毎に一目宛増してもとの百四十目とし、後身に準じて編み上げます。

袖口濃茶の糸で袖口の日を表から、一段に一目宛拾ひ、ガーター一時半してとめます。

衿濃茶の糸で二十二目(三吋半)作り、ガーター四山、次段から片端四目だけを濃茶でガーターにし、残りの十八目は淡茶の糸でストツキネットにかへ、圖のやうに編み上げます。この時次のやうにして糸をかへます。

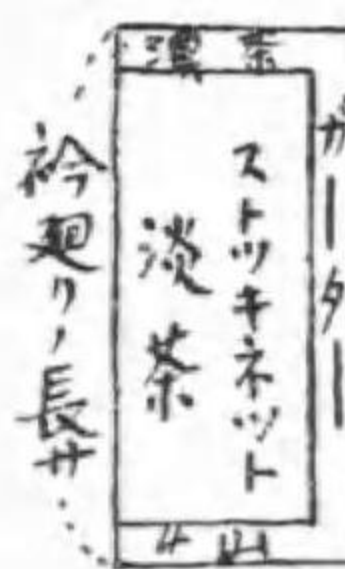


濃茶を入ふキマ



30

衿



衿廻りノ長サ

仕上げ脇と袖下をとり、衿明に衿をつけます。この衿は折返りになりますから、裏向きにつけなければなりません。胸當は、肩山から二吋程下つた場所の裏側に胸當の片方だけとちつけ、もう片方はスナップでとめます。

最初四目を濃茶で編んだらその糸は切らずにおき、淡茶の糸を結びつけ、残りの十八目を表編にします。次段では淡茶を裏編にしてもどり、前段の茶との境に来た時、濃茶の方を手前に出し、淡茶の糸と一度ねぢ合はすやうにして淡茶の糸をそのまゝにしておいて濃茶で表編をするのです。次段では糸をかへる時、両方の糸を向ふ側に出して一度ねぢ合はせ、淡茶で編んで行きます。かうして衿廻りの長さに作り、終りは二十二目濃茶でガーター四山してとめます。

通學用のスウェーター

このスウェーターは色どりも柄も極く斬新なものです。洋服の上に着てもよければ、スカートだけつけて上着代りに用ひても軽快です。スカートは紺サージ、その他無地、殊に不二絹などの上でしたら更に引き立つてせう。

材料 アイスランドウール(極細糸) オレンジ四オンス、茶二オンス。



用具 四號、二號 二本針。

編み方 ガーターのところはオレンジ二本、ストツキネットの部分はオレンジと茶を合はせ、全部二本の糸で編みます。針はガーターは四號、ストツキネットは五號を用ひます。オレンジで八十四目作り、後身の裾から始めます。ガーター六山、次にオレンジの糸を一本切つて茶色の糸をつなぎ、二本合はせてストツキネットで九吋

編んで茶色を切り、オレンジをつなぎ、オレンジ二本でガーター五山編みます。又前のやうにして一本だけ糸をへ、茶とオレンジでストツキネット八段、次はオレンジだけでガーター三山、次の段から兩端で編み始め毎に一目増すこと二回、次に袖のために左右で三十目宛作り、なほガーターを續けて編み、十山になつたら茶とオレンジにしてストツキネット八段、オレンジだけでガーター十山、茶とオレンジでストツキネット八段、オレンジだけでガーター一目とめ、残りの五十一目でガーター四段、次に衿ぐりの端で一目増し、次にはやはりその端で一度に十二目作り、ガーターを八山まで編んで、こゝで左右一緒にして、ガーターが十段になるまで編みます。次に茶とオレンジでストツキネット八段、オレンジでガーター十山、茶とオレンジでストツキネット八段、オレンジだけでガーター十山編みます。こゝで前に編んだ後身に準じ、袖のための三十目を一度にとめてしまひ、順次裾まで編んで目をとめます。袖口はオレンジだけで約六十目を拾ひ、ガーター六山して止めます。次に衿明のまはりの目を、裏側を手前にしてオレンジで六十目位拾ひ(胸のたての明はそのまゝ)ガーター六山して目をとめてしまひます。仕上げ 兩脇、袖下を縫ひ合はせ、仕上げをします。

着榮えのする女兒のスウェーター

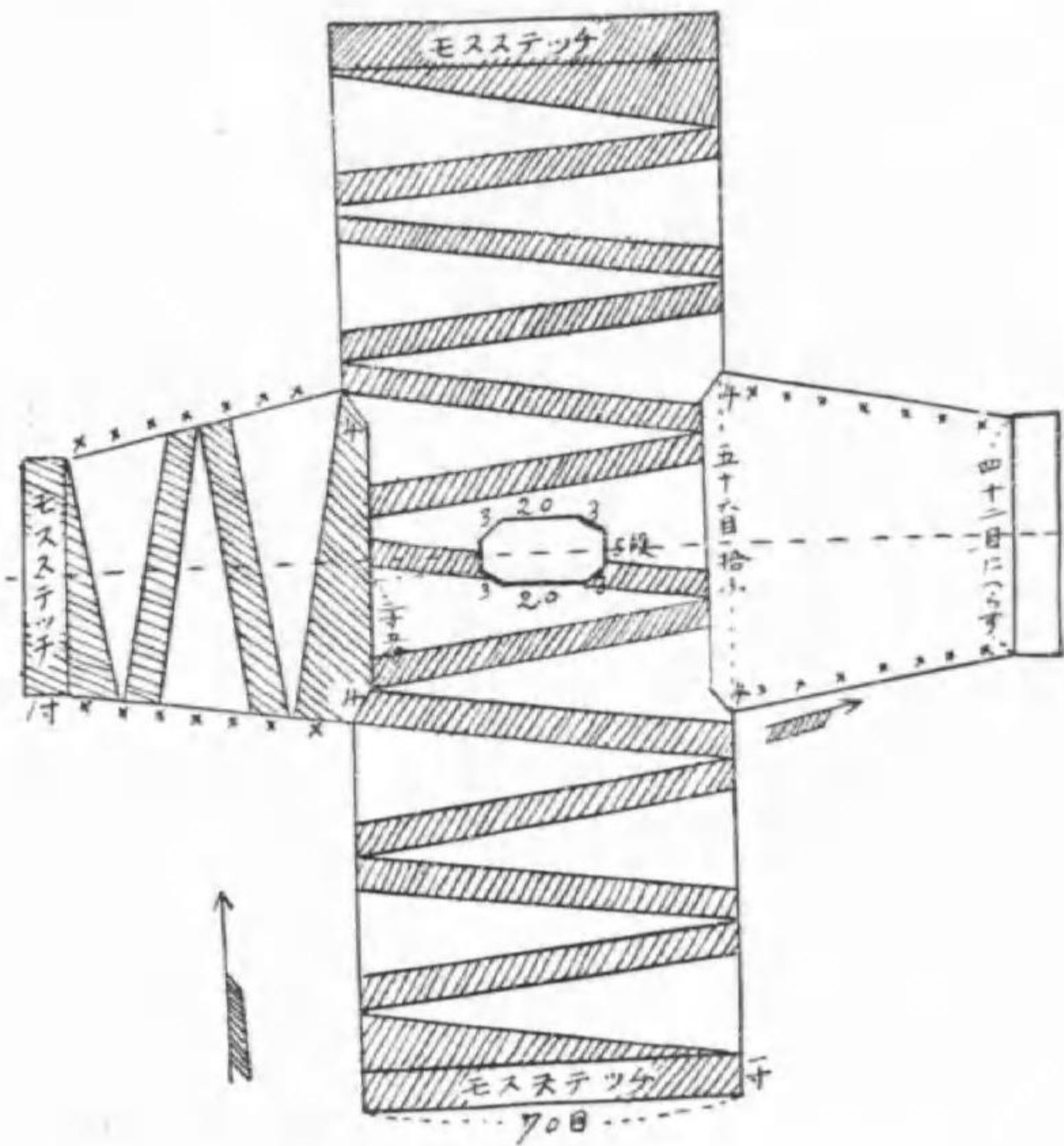
ハイカラなスウェーターです。濃い海老茶とラクダ色で思ひ切つた大きな横縞、それも面白く斜めになつてゐます。その色の調子も、その縞のたまかな感じも、ほんとうによろこびます。

材料 ビーハイブヤーン 海老茶色
四オンス、ラクダ色四オンス。

用具 五號二本針。

編み方 身頃—後身の裾から編み始めます。海老茶の糸で目数七十作り、モステツチにして一寸(寸法はすべて鯨尺)編みましたら、次からストツキネツトばかりにして色をかへて斜め

の縞を出してゆかなければなりません。その仕方は、次段で先づ編み始めの七日だけをラクダ色にかへて編み、あとは海老茶色にしてその段を終り、次段で歸つて来る時には編み終りの十四目をラクダ色で編み、次段では編み始めの二十一目をラクダで編むのです。かういふ風に毎段七日づゝラクダ色を増して編みますと、十段目で全部の目がラクダになり、十三段目では編み終りの十四目を海老茶色にかへるといふ風に、はじめと反対側から毎段七日づゝ海老茶をかへます。十三段目では編み終りの十四目を海老茶色にかへるといふ風に、はじめと反対側から毎段七日づゝ海老茶を増すのです。かうして全部の目が海老茶色に變りましたら二十一段目で丁度ラクダ色の長三角形の縞が出来ました。次段ではすぐ又ラクダの縞を作るのですが寫眞で御覽になるやうに、今度は反対に致します。従つて二十二段目の裏編で歸つて来る時に編み初めの七目をラクダに代へ、毎段七日づゝラクダを増し、全部ラクダになつたらもう一段ラクダばかりで編み、次に又、七目づゝ海老茶にかへてゆくこと前の通りでございます。かうして圖のやうに横縞が四本出来ましたら、丁度袖下の長さによくりますから、次に袖附のため兩端で編み始



らです。そして袖下のところでは凡そ八吋毎に兩端で一目宛減らすこと七度致します。その間も横縞の目は崩さぬやうに考へながらお編み下さいませ。ラクダの横縞が二本入りますと丁度よい長さになりますから、尙袖口として海老茶ばかりでモステツチを一寸編んで目をとめます。

め毎に一目宛四度減じます。即ち七十二目になりました。あとは増減なく二寸五分編み、衿肩明のために中央二十目を出るだけゆるくとめます。この間も横縞を續けることは寫眞の通りです。

次から左右の身頃を別々にして編みますが衿明側で編み始め毎に一目宛三度減じ、次増減なく五段編み、今度は衿明側で編み始め毎に一目宛三日増します。もう一方の身頃も同様に作り、中央二十目増し左右の身頃を合せ後身と同じ要領で裾まで編み上げます。

袖—海老茶色で袖附の處から五十六目拾ひ二段増減なく編み、三段目から身頃でしたと同じ要領で七日宛ラクダ色にかへて横縞を作ります。但し注意することは全部の目がラクダになりましたら尙三段ラクダ色のまゝ編んで海老茶にかへるのです。これは袖の目数が身頃よりも少いたため二段で色をかへますと縞が細くなつてしまふか

衿廻りラクダの糸で六十五目拾ひ、ガーターステッチにして三山編み、海老茶にかへて一山、ラクダにかへて一山あんでゆるく止めます。これで出来上りました。

— 簡単に編み榮えのするスウェーター —



驚くほど早く編めて、しかも大變ハイカラな型です。

材料 (十四五歳用) 六オンス。

用具 八番、三十番二本針。

編み方 身頃前後同型のを二枚作つて肩で合はせるのです。裾の方から編み始めます。八番の針に七十の目をかけ、二目宛のゴム編を三時、次に三十番の針にかへて、ストツキネットを十三時、今度は針だけを八番にかへて一時編んで、裏側から目をとめます。

もう一つ同じに作つて、肩のところを両端

から三時宛、前後と合はせます。

袖 太い針で肩の合せ目を中心に二十七の目を取り(身頃の、太い針で編んだところ十段から一段一目づつ、細い針の所は前後で七目、もう一方の太い針の處十目)ストツキネットを十三時編み、八番の針にかへて、二目づつのゴム編を三時してとめます。

これで編み上りましたから、袖下から脇を縫ひ合はせます。毛の立つ糸でしたら、細い針で編んだところだけ毛を立ててもおもしろうございます。

注意 スウェーターの薄い厚いのお好みによつて、毛糸の太さをお定め下さい。

三十番といふ編針は非常に太いので、一寸手に入りにくいかも知れませんが、そんな場合十番位の針二本で編むか、次の方法をとるか致します。即ち、一目編んで次に、後から前にと毛糸を二度位針にまきつけ、次の目を編む。次の段では前のまきつけた目を編まずにおとして、前段で編んだ目だけを編んで又糸をまきつける。かうして編目を長くして行きます。

どの方法も長所短所がありますが、どつちかといふと、二本の針を使ふ方が、慣れれば編みよいでせう。

— ロシア風な配色のスウェーター —

材料 クロバーヤーン(並太) 赤茶五オンス、薄茶二オンス。

用具 四號二本針、三號四本針。



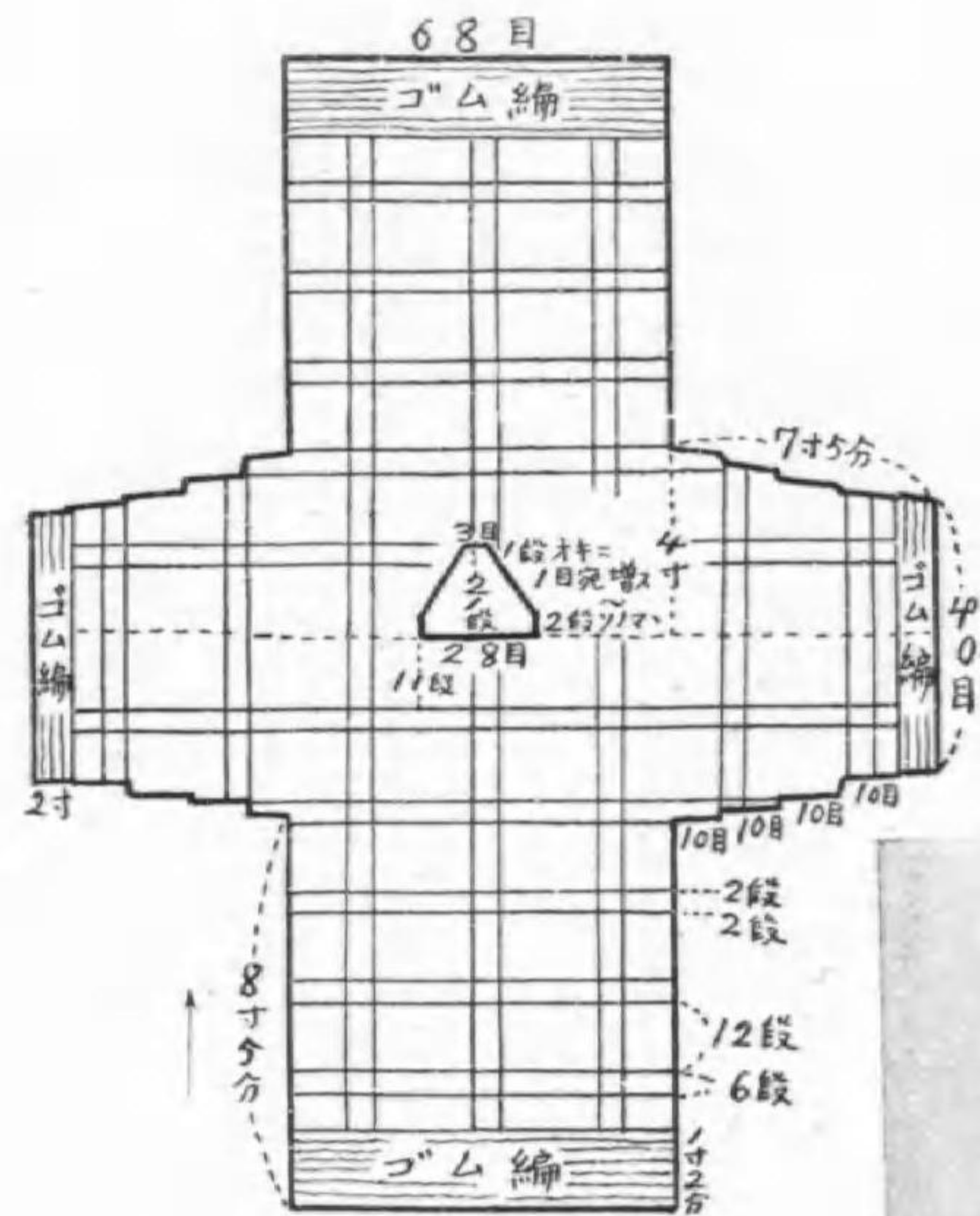
この作り方は、図のやうに、始めに二段増減なく編み、次から衿ぐり側で一段おきに一目宛増しながら二十一段階あり、中央三目増して一緒にしてあとは後身に合せて裾まで編み上げます。そして袖下と脇をそれぞれ合せて、衿は四本針で編みます。さきに別針に取つておいた二十八目と、三角の開きから都合五十六目拾ひ、二目宛のゴム編約一寸編んで目を止めます。

材料 並太毛糸 ラクダ一ポンド、緑一オンス。
用具 五番二本針、四本針。
編み方 後身頃の裾から始めます。
 ラクダ色で八十五日作り、ガーター五山したら緑の糸にかへます。ここからはストツキネット、緑一段、ラクダ九段づゝの編み編みます。両端で三十段毎に一目宛

イギリス風な配色のスウェーター (十五六歳用)

の作り方は、図のやうに、始めに二段増減なく編み、次から衿ぐり側で一段おきに一目宛増しながら二十一段階あり、中央三目増して一緒にしてあとは後身に合せて裾まで編み上げます。そして袖下と脇をそれぞれ合せて、衿は四本針で編みます。さきに別針に取つておいた二十八目と、三角の開きから都合五十六目拾ひ、二目宛のゴム編約一寸編んで目を止めます。

編み方 この格子縞は、横縞だけ編みこみ縦縞はあとから編みつけたものです。後身の裾から矢印の方向に編みます。赤茶の糸で目数六十八作り、二目宛のゴム編を一寸二分あんで、次からストツキネットばかり



で編んでゆきます。先づ赤茶を六段、灰色二段、赤茶六段、灰色二段、赤茶十二段以上括弧内の編み方をくりかへして編み進みますと、寫眞のやうに赤茶の地に灰色の横縞が入ります。この編み方を續けて裾から八寸五分位の長さになったら、袖のために両端で編み始め毎に十目宛四度増します。あと増減なく編み進み、袖附が四寸になったら衿肩明として中央二十八目を別針に取つておきます。この肩山の處は丁度圖のやうに灰色二本宛の縞が五度入り、あと地色を一一段編んだ處になります。衿ぐりあとは反対に後身に合せて縞を入れてゆきます。衿ぐり



三度減らしつゝ、裾から十三吋まで編み、こゝから袖つけのために両端で一度に三日とめ、更に一段おきに一日宛二度減らします。それから増減なく五吋編んだら、端から二十四目編んで次の二十一日をとめ、次二十四目を編んで袖肩明を作り、左右別々に前身に移ります。

前身肩の二十四目をとり、衿ぐりの側で一段おきに一日宛三度減らし次六段は増減なし、それからやはり衿ぐりの側で一段おきに一日宛七回増します。もう一方の身頃もこゝまで同じに編み、左右の間に新しく十三目を作つて総目数六十九目を一本の針に通して、後身に準じて編み上げます。

袖縁から始めて、身頃と同じく緑一段、ラクダ九段づゝの縞に編み上げます。即ち緑で袖附の目を拾つて、両端で十段毎に一日宛減らしながら十五吋編み、ラクダでガーター五山編んで目をとめます。

衿頭のまはりの目を緑の糸で一日宛拾ひ、次からラクダにかへ、ガーター五山してとめます。

仕上げ脇と袖下を縫ひ合はせるだけです。

帽子

これもスウェーターと同様に緑一段、ラクダ九段の縞を入れます。頂きの中心から始めます。

先づラクダの糸で鎖編四つして輪に作り、その中に短編六つ入れます。この短編から一目づゝの目を取つて五番の四本針に移し、輪にして編みます。

第二段 各目毎に一日増し十二目にする。

第三段目 一目おきに一日増し十八目。

第四段目 二目おきに一日増し二十四目。



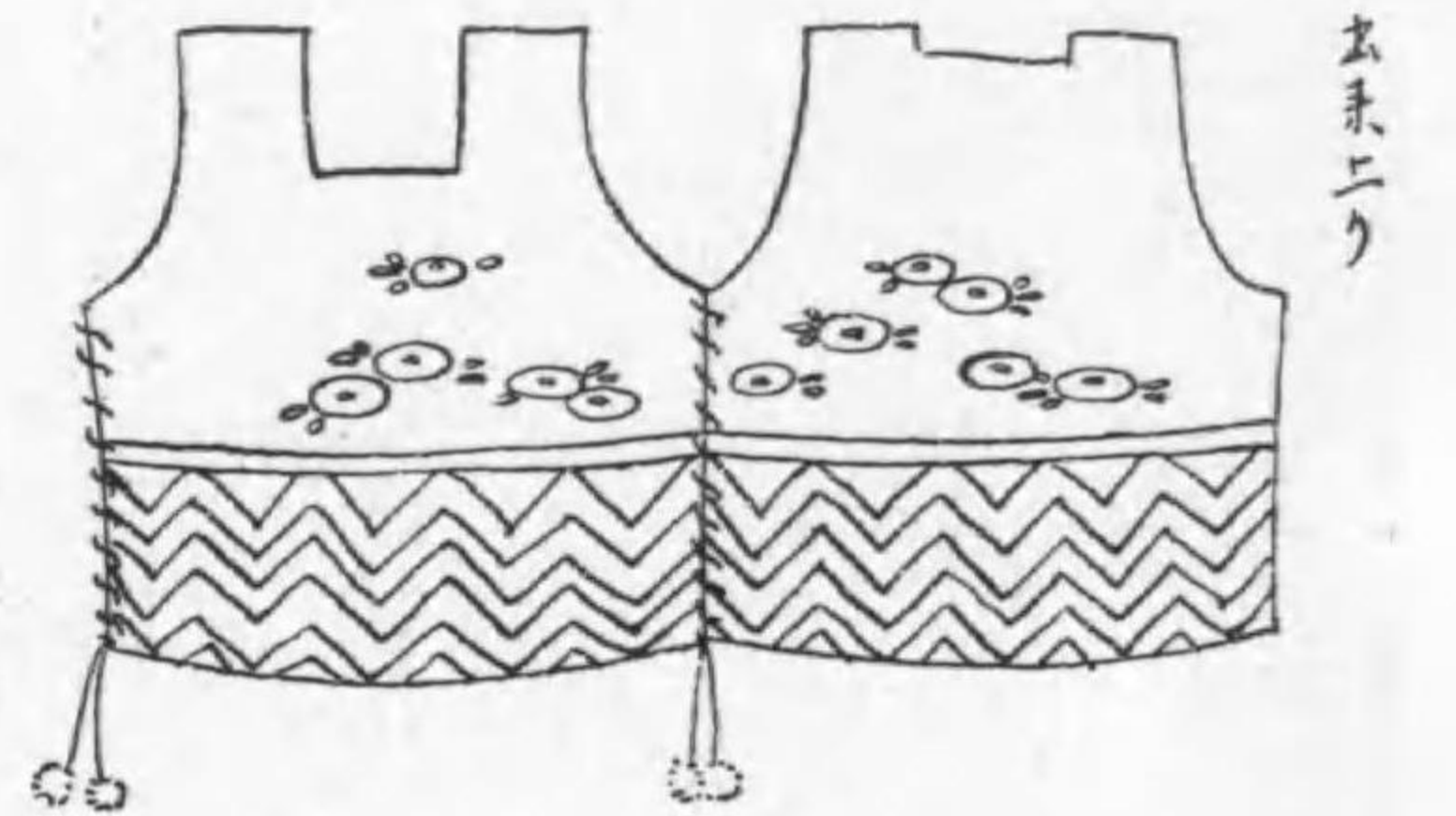
垣根のやうな感じの模様を裾にあらはし、小菊の花を二三輪あしらつた秋にふさはしい日本趣味のスウェーターと帽子です。地色に派手な草色を用ひましたら、黒ビロードの服の上に着せて大變うつりがよく見栄えが致します。これは五六歳女児用の寸法ですが、目数を増して行けば十歳位までの女児の簡単な無地の服の上に似合ふでせう。

材料 中細毛糸草色三オンス半、時色半オンス

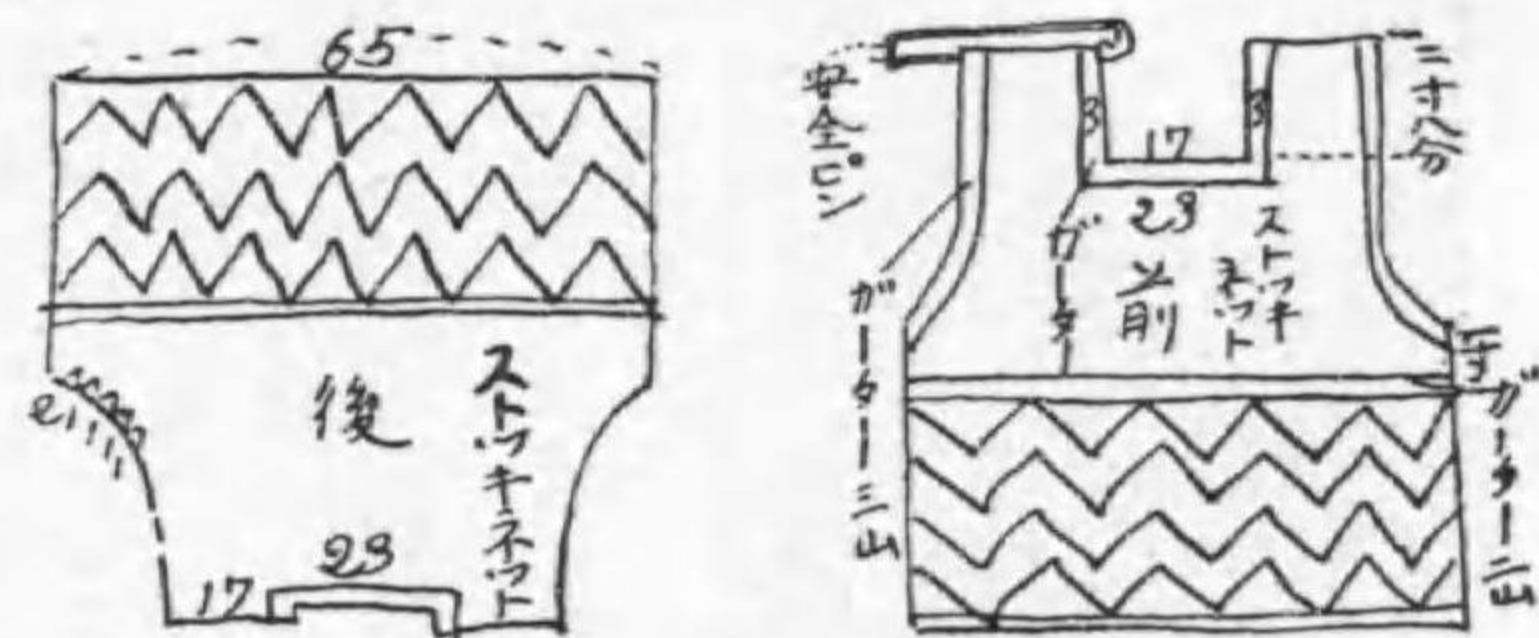
編物に取り入れた日本趣味

このやうに、五段目は三日おき、六段目は四日おきといふやうに、一段毎に増し日の間を一目づゝ遠くしますと、最初出来た六角形のまま大きくなつて参ります。増目はいつも六角形の角でするやうになります。

十段目を縁にして、緑の段とその次の段は増しません。このやうにして十五段目からは三段目毎に増さない段を一段、二十段目からは一段おきに増さない段を入れ、三十段からは二段おきに増す段を作り、四十段以下は全然増さずに編みます。五十五段目と五十七段目は六角形の角で一日宛減らし、五十九段目では一目おきに二目一緒に編みます。六十段目で縁を編み終へたらラクダで少しかたためにガーター五山編んでとめてしまひます。これで出来上りました。



えまニリ



NOKKKKKKKKCKS---9
 P-----P-----8
 NKOKKKKKKOKCKS---7
 P-----P-----6
 NKKOKKKKKOKKCKS---5
 P-----P-----4
 NKKKOKKKKOKKCKS---3
 P-----P-----2
 NKKKKOKKOKKCKS---1



帽子えまニリ

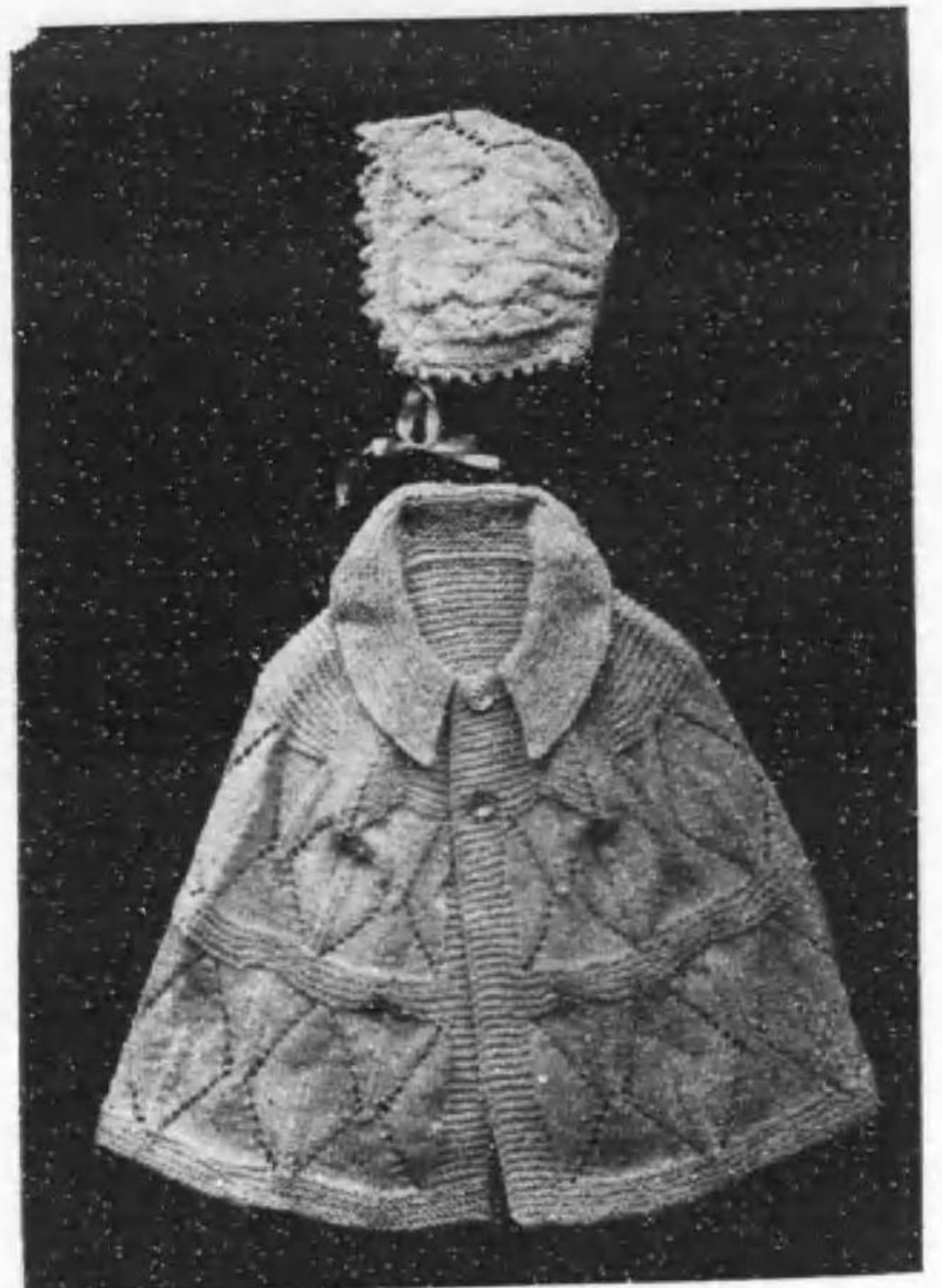
ネットにし、その五十三目を五分増減なしに編み、胸明きの縁のため中央二十三目だけガーターにかへ、ガーターを数へて三山編んだら衿明きの十七目(中央)をとめます。左右は別々に増減なく二寸八分編んで(衿明側の三目はガーターにしなから)これを両肩別々に安全ピンに通しておきます。後身も同じ要領で裾から編み上げ、脇を減したら肩明まで三寸五分増減なしに編み、肩明十七目をとめてからは兩

肩を別々に三分あみ、前身の目を揃へてとめ針でストウキネットの目通りあみつなぎを致します。まはり全體に鈎針で短編を編みつけ、更に脇だけ紐通しのため『鎖三目、短編一目』の穴を作っておきます。紐は時色の糸を二本にして鎖編で一尺二寸位のもの二本作り、脇の穴を飾とちにし、先に一つ玉をつけます。花は時色の糸をとめ針に通し、小菊模様鎖編で縫ひつければよろしうございます。黒で一寸葉をあしらふと一層きれいに見えませう。帽子九十一目作り垣根模様を二回、ガーター二山編んでとめます。これが帽子の縁になります。更に九十一目作り、ストウキネット五寸五分編み横を合せて輪に作ります。前に編んでおいた垣根模様の縁も輪にしてストウキネットの鉢の裏に重ね、表を合せてまつりつけ、垣根は表に折り返します。上は鈎針で縮めてしまひ、大きな飾り玉をつけます。やはりストウキネットの處には小菊を二三輪あしらつて頂きます。

軽い温いマントと帽子 (四五歳用)

幼稚園に通ふお子さん達に毛糸のマントを編んで上げて下さいませ。軽くて温かくて、可愛らしうございます。これは、晩秋から冬にかけて用ひるつもりで編みました。

材料 マント二ターケツド(並太)六オンス、帽子二ターケツド 一オンス。
用具 マント四番二本針、帽子三番二本針、中位の鈎針。
編み方 マント目数八十。頸廻りから編み初めます。先づ肩の丸味をつけるため、ガータースネッチをして四ヶ



括弧内を二度繰返してこの段を終る。

以上の二段で四ヶ所に線の入ったガーターステッチが一山出来上りましたから同じことを繰返し（但しガーターステッチが一段毎に増えてゆくから、目数は異つて来ます）編み初めから数へてガーターステッチ十七山に至ります。すると総目数二百十六になり、次に模様編にかゝります。

この模様は二十目で一組になつてゐますから、全體で十模様（二百目）とし、残り十六日は兩端（前の合せ目）に八日宛分けて、終りまでガーターステッチを編んでゆきます。一模様は三十六段で終ります。（模様の委しい説明は圖で御覽下さい）模様を一組入れ終つたら、次はガーターステッチ五段、この時全體で二十目増します。裾のひろがり

所で増します。
一段目「十四表、一作（糸をかける）一表、一作、」
括弧内を二度繰返します。次に二十表「一作、一表、一作、十四表」括弧内を二度繰返してこの段を終ります。すると、四ヶ所で二日宛ふえたことになりました。
二段目「十四表、ねじつて一表（これは前段の一作の目で糸が針にかつてゐるだけでですから、一度ねじつてから表編をしないときれいにゆきません。）一裏（前段で一表をした目を裏から見ても編む場合に、いつでも裏編にします。）ねじつて一表」括弧内を二度繰返す。二十表「ねじつて一表、一裏、ねじつて一表、十四表」

をつけるためです。増し方は各行毎に二目宛、なるべく互違になるやうに増しますと全體（五段）で二十目増えます。更に模様編一段（この時模様の数は十一）再びガーターステッチ五段して全體の目をとめてしまふと身頃が出来上りました。

衿頭廻りの八十目を兩端五目宛残して全部拾ひます。即ち七十目。衿は増し方一つで形がよくもなり悪くもなりませんから御注意下さいませ。今、正確によい形に出来る衿の増し方を申しませう。先づ、衿の兩端はガーターステッチ一山おきに一日づゝふやします。その方法は、最初の目はその儘編み、次の目の時糸をかけて編むと一目増たわけになりますから、次の段でその目をねじつて表編にすると出来上ります。この兩端の増方には中部の増方に係らず。最後まで、一山おきに繰返して頂きます。衿の中央部は三山おきに、五日毎に一目宛をふやすとを二度します。次の段は十日毎に一目宛ふやし、衿巾が二寸八分位になるまで、増減なしにガーターを編みます。目をとめて出来上りました。

Knitting chart with 17 rows of letters (K, N, O) and a vertical arrow on the right side.

前の重なりにはボタンをつけて頂きます。ボタン穴をあけても、飾りボタンにしてスナップでもかまひません。ボタン穴をあけるには、肩の所を編む時に上前の部分で、端から四表、次三目をとめ、次段でとめた三目を増すと丁度よい穴になります。

帽子目数八十（顔の部分から編始める）ガーターステッチ二段。次二段模様編、但し兩端五日宛は縁としてガーターばかりをたてる。これは十四目で一模様になつてゐます。

模様第三段目の時最後の段を編まずに直ぐ第三段目をはじめてしまひますと、十二目一組の模様になります。これは段数をへらすためと見た感じをよくするため、目数には何の異ひもありません。（模様と模様とを連ぐ間の目数が多くなるわけです。）

第三段目が終つたら、山から二つ折りにし端から十四日だけ前後二枚の目を編み合せてしまひます。そして残りの目にはぐるりと糸を通してひきしめてしまふのです。

次に鉤針で飾りをつけます。顔まはりには短編一して、鎖三（短編一の頭にすべり編でとめる）鎖五（鎖三と同じ目にとめる）鎖三（同じ目に入れる）。このやり方を短編五目毎に繰返します。頸廻りは鎖のピコットをつけた短編を三目おきにすればよいのです。

模様編（十四目一組）一段『一表、二作、四表、二つ一度、取りかぶせ、四表、一作、一表』。

二段 裏編ばかり。

右二段をマントの時と同じやうにして編んでゆくのす。

花 模 様 の 少 女 服

花のやうな模様編をスカートにあらはしてヨークの方はぬぎ着のしやすいやうに工夫しました。

材料 ミネルヴァアイスランド（極細）十二オンス（二本一緒にして編む）。

用具 六號、八號二本針。



編み方 後一模様は十四目ですから、その六倍に

編み終りの一目を加へた八十五目を後裾から編みあげます。模様編は圖で御覽下さいませ。針は八號。

模様編がすんだら六號の針にかへて、ストツキネツトで四寸程増減なし。次に裏から表編を一段、次段では『一作、二つ一度』を

K | KKKKKO^c O KKKKKK | 18
 P | KKKKONKNOKKKKK | 17
 P | KKKONKKKNOKKKK | 16
 K | KKONKKKKKNOKKK | 15
 P | KONKKKKKKKNOKK | 14

す返りく固六く同と段三十

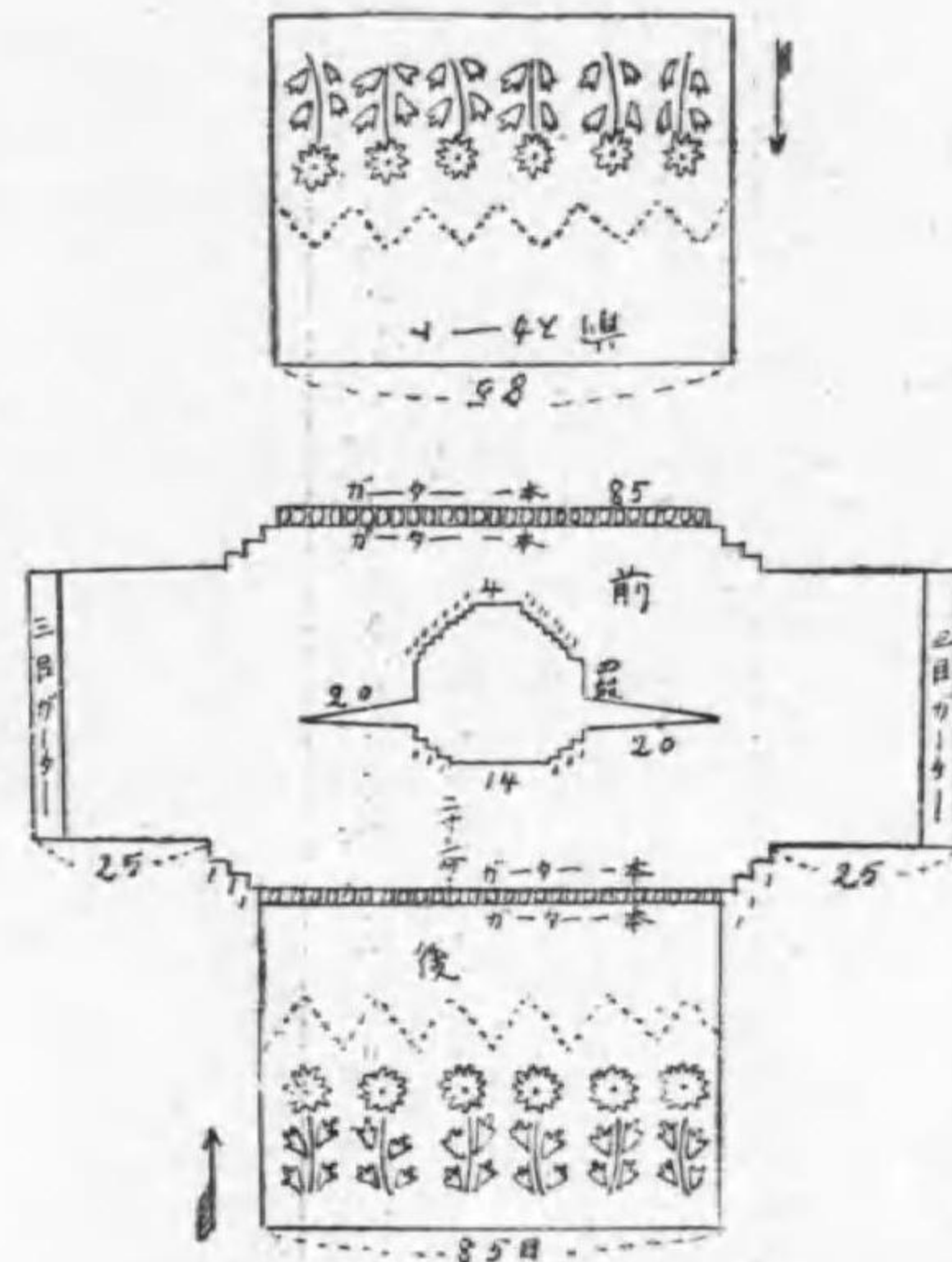
此間一寸程変化なくあり

P | KONKKKKKKKKKNOK | 13
 P | KONKKO^c O KKKKNOK | 12
 P | KONK^c O KKKONKNOK | 11
 P | KONK^c O KKKONKNOK | 10
 P | KONKK^c O KONKKNOK | 9
 P | KONK^c O KKKONKNOK | 8
 P | KON^c O^c O KNONNOK | 7
 P | KONK^c O KKKONKNOK | 6
 P | KON^c O^c O KNONNOK | 5
 P | KONK^c O KKKONKNOK | 4
 P | KON^c O^c O KNONNOK | 3
 P | KONK^c O KKKONKNOK | 2
 P | KONKK^c O KONKKNOK | 1

くりかへしま
 す。次段は裏か
 ら表編一段、こ
 れでスカートと
 ヨークとのつぎ
 目のリボン通し
 の穴が出来まし
 た。すぐ袖を増
 し始めます。
 袖のまし方
 段毎に両端で一
 目づゝ増すこと
 三回次に一度に
 二十五目作り、

袖口の三目だけはいつもガーターにして、他はストツキネットです。穴から二寸三分編みます。
 袷ぐり||それから後の袷ぐりのために中央で十四目とめ、(こゝから左右別々に編む)次に一目宛三回とめますと目
 数二十目の丸味のついた袷ぐりが出来きます。着せ易いやうに袷ぐりから両肩へ向けて更に二十目止めます。直ぐに次
 段で二十目作り前に編み下してまゐります。前袷ぐりは四段だけ増減なし、五段目からは一段に一目づゝ増すこと八

段つけ、脇を閉ち合せて仕上げをします。



唐草模様を編みこんだジャンパー

これはある外国雑誌に鉤針編ですつかり出来た美しいジャンパーが出てゐましたのをまねて、用糸の都合で多少變
 更して編んで見ました。胴はストツキネットですが、インサクションが鉤針で唐草のやうな模様を表はれて面白うて

回あとの二目は一時に増します。(もう一方も同じに編み、左右
 一緒にする)
 増減なしに一寸五分程編み、袖下を後で増した通りに減して
 止め、リボン通しの穴も後の通りに作り、終つたら目をとめず
 に糸を、少し長く残して切ります。
 前スカート||新に八番で前のスカートの模様編を後のスカ
 ト通りに作り、六番にかへて寸法通り出来ましたら、先に後か
 ら編んで来た前身目とよく揃へてとめ、針でストツキネットの
 目通りにとめ合せます。
 仕上げ||後の肩明に短編で持ち出しを三分程作り、スナップ
 をつけて外側へ編みボタンを飾ります。袷廻り全體へ短編を一



さいますから、どこへでも應用が出来るだらうとこの編方だけ委しく書きました。
細い角製鉤針で鎖十五、さらに鎖四、十三番目の目へ長編で止める。鎖二、目二つとばして長編一、括弧内を終りまで繰返しますと、ホール(穴)が五つ出来ます。次段も長編の上に長編、鎖の上に鎖を致します。これを五段しま

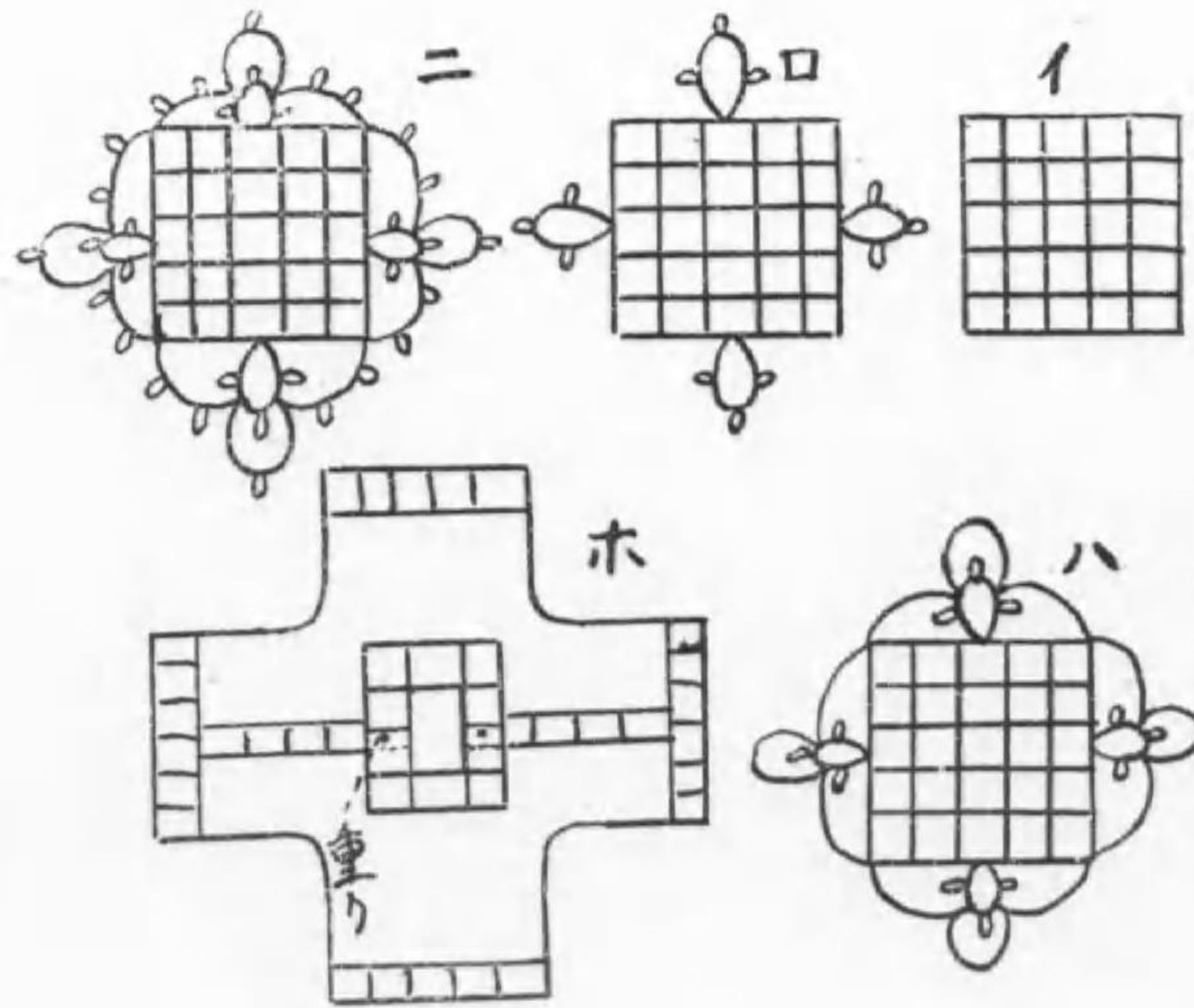
すと(イ)のやうな真四角のものが出来ます。一ホールに短編三つづゝ入れて一週いたします。角は七つ入れて。
次に前の短編の上に短編を一つづゝ入れて、角から三つ目のホールまで来たたら、鎖九つ編み裏を向けて、後もどりして一つ目をとばして短編でとめますと輪が出来ます。この輪の中へ短編三、鎖三、根もとに止めてピコットを作り短編三、ピコット一、短編三、ピコット一、短編三、これで輪の中が一杯になりますから、又前後の短編の上を短編でつたつて角の短編の上では一目に三つ短編をいれ、角から第三のホールの中央でピコットの出た輪を作ります。これを四回すると(ロ)図。
次には角から鎖九つして前のピコットの間へとめ、更に鎖九つピコットの間へとめ、又鎖九つして角へとめます。

これを四回すると(ハ)図。
次には前段の角から連なつた鎖九つの輪の中へ短編三、ピコット一、短編三、ピコット一、短編三を入れ、次の輪の中へは短編五、ピコット一、短編五を入れて一週いたします。(ハ)図。

これで模様の一角が出来ました。この模様をつなぐのにはこの通りもう一つ作り、最後の段のピコットでつないでゆくのです。

このジャンパーはミネルヴラスタアイスアンドで編みましたから、一模様が二時半角になりましたが、衿ぐりが二角では大きすぎ一角では又小さすぎますので、最初のホールを六つ六段にし、三時角に模様を作つて三つならべました。用糸により寸法は變りませう。又用ひる年令で寸法をかへてゆかねばなりませんから、一模様の寸法、或は數でいろいろとお變へ下さいませ。

大體の型紙を作り、模様を入れる場所は好ましくに定めて、餘分の所をストッキネットなり、其の他の編方でこしらへとめ針でまつりつけて行きます。参考にこのジャンパーの寸法を書きませう。



裾の模様は五つで二段ならべ、袖には全体で四つつなぎ、肩から袖へかけて三つつなぎ、胸、衿の爲には少し大きい寸法のを前後で十角集めました。胸の部分は六番の針で七十五の目をつくり、ストツキネットで四寸編み、一目づつ五回兩側で増し、更に三十ふやし、同時に中央で五十五目とめ、兩袖別々に一寸五分程編みました。これが前身になります。

後身も殆ど同じですが衿ぐりの下りを少くするため、兩袖をましてからも尙そのままで三分編み、それから中央で五十五目とめました。それだけに肩で一模様が少し重なりますから、着易いやうに一角を繋ぎずに編みボタンを後の角へつけ、三分重なつた前の模様の穴でとめるやうに致します。(ホ)圖。

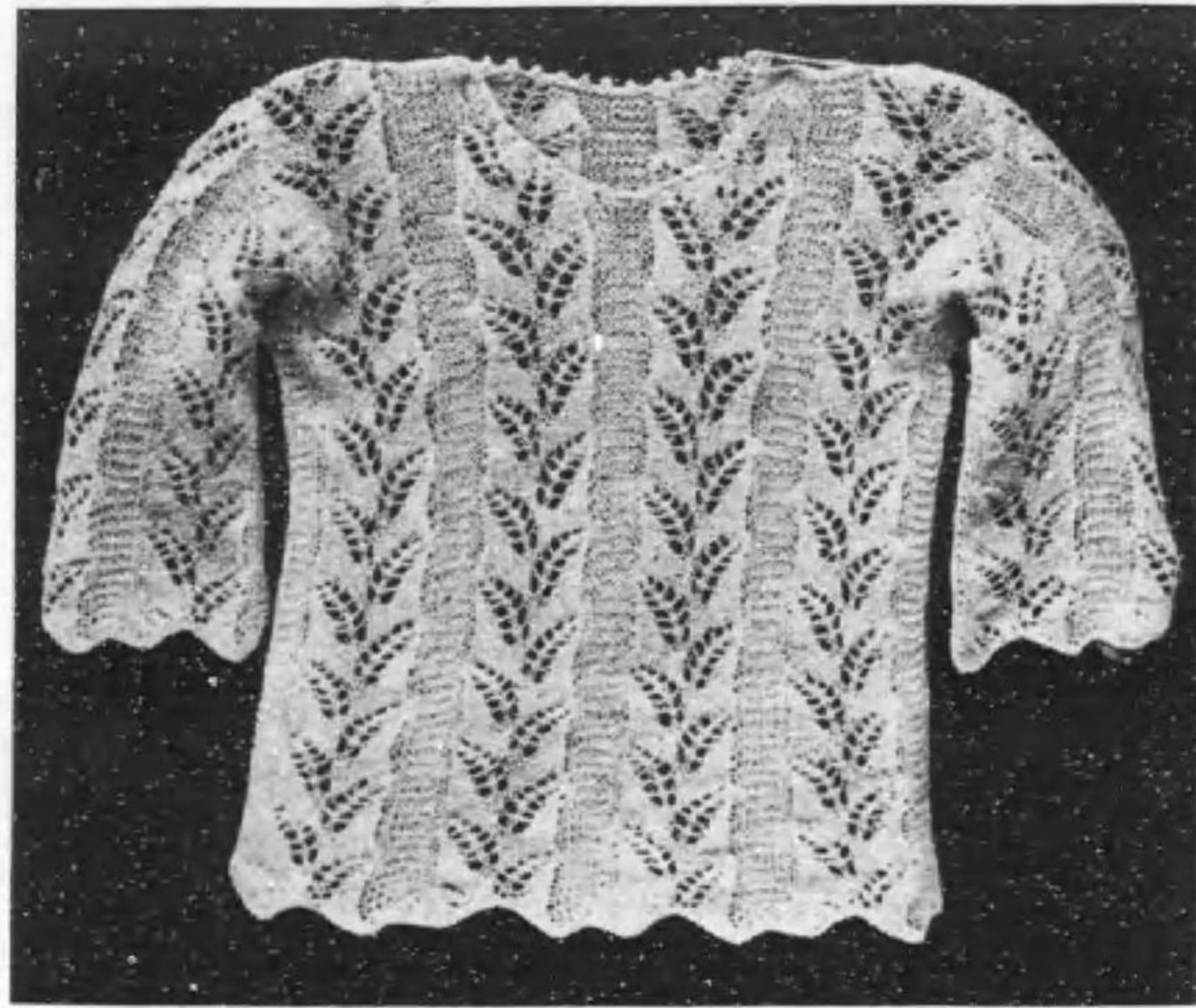
これは全体でラストアイランド五巻要りました。普通の中細等が適當でせう。

優美な齒葉の葉模様スウエター

材料 中細 白十オンス、スナップ。
用具 二號二本針。

編み方 このスウエターは、模様編とガーター五目の縮で編み上つてゐます。模様の編方は記號で記しました。即ち十七日十二段で一つの模様が出来ます。偶数の段はいづれも第二段と同じことを繰返すのです。

身頃 目數九十三、表編五目、模様編十七目、を四回、終りの五目は表編。このまゝで増減せず一尺程編みます。次に袖つけのため、兩端で編み始め毎に一目づゝ、兩端のガーターの五目がなくなるまで減し、こゝから肩まで約二



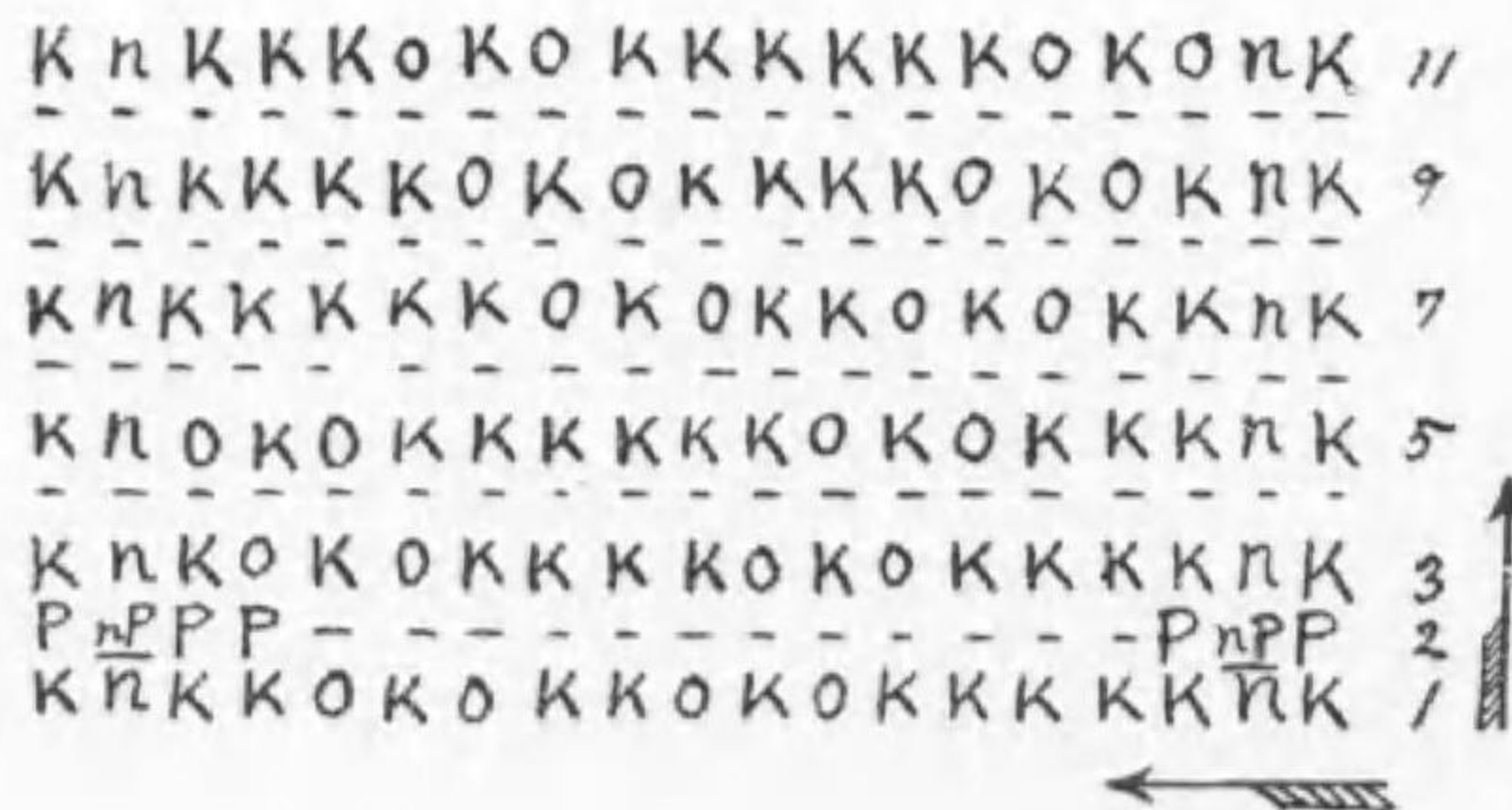
だら兩端で編み始め毎に一目づゝ増し(増した目はガーター)七十七目になつたらとめて、身頃につけ、袖口へ短編をします。

仕上げ 袖下、脇を縫ひ合はせ、肩明にスナップをつけます。

寸八分程として、適當に前身の衿ぐりを作ります。衿明は二十八目。兩肩は編みとめてしまひます。後身もこれと同様に編むのですが衿ぐりは前よりすつと少くつていいわけです。

兩肩を縫ひ合はせませんが、衿ぐりから左右十五目づゝは明けておきます。着易くするため、スナップでとめるやうに、後身へ持ち出し、前身に見返しを短編で適當に編みつけます。同時に衿ぐりにも短編を一廻り編みつけておきます。

袖 六十七目をつくり、表編三、模様編十七目、表編五目を二回繰返し、模様十七目、表編三で終ります。増減なく五寸程編ん



きりつとしてハイカラな形です。色も鮮紅色等はつきりしたものをを用ゐると大いのお子さんに似合つて榮えます。

材料 並太鮮紅色 ハオンス。

用具 六號四本針。

編み方 大體はストツキネットですが胸と背に市松編を入れ、肩山には襷を入れて縫目を目立たせないやうに工夫してあります。

身頃 裾口から始めます。目數百八、輪



女児用スウェーダー (五六才)

の角から下げてとちつけます。

衿ぐりには長編を一段して、更に短編を一段してとめます。身頃の縁はやはり長編を一段しますが、あまり延びないやうに二目おき位に下の目を一つ飛ばして行きます。

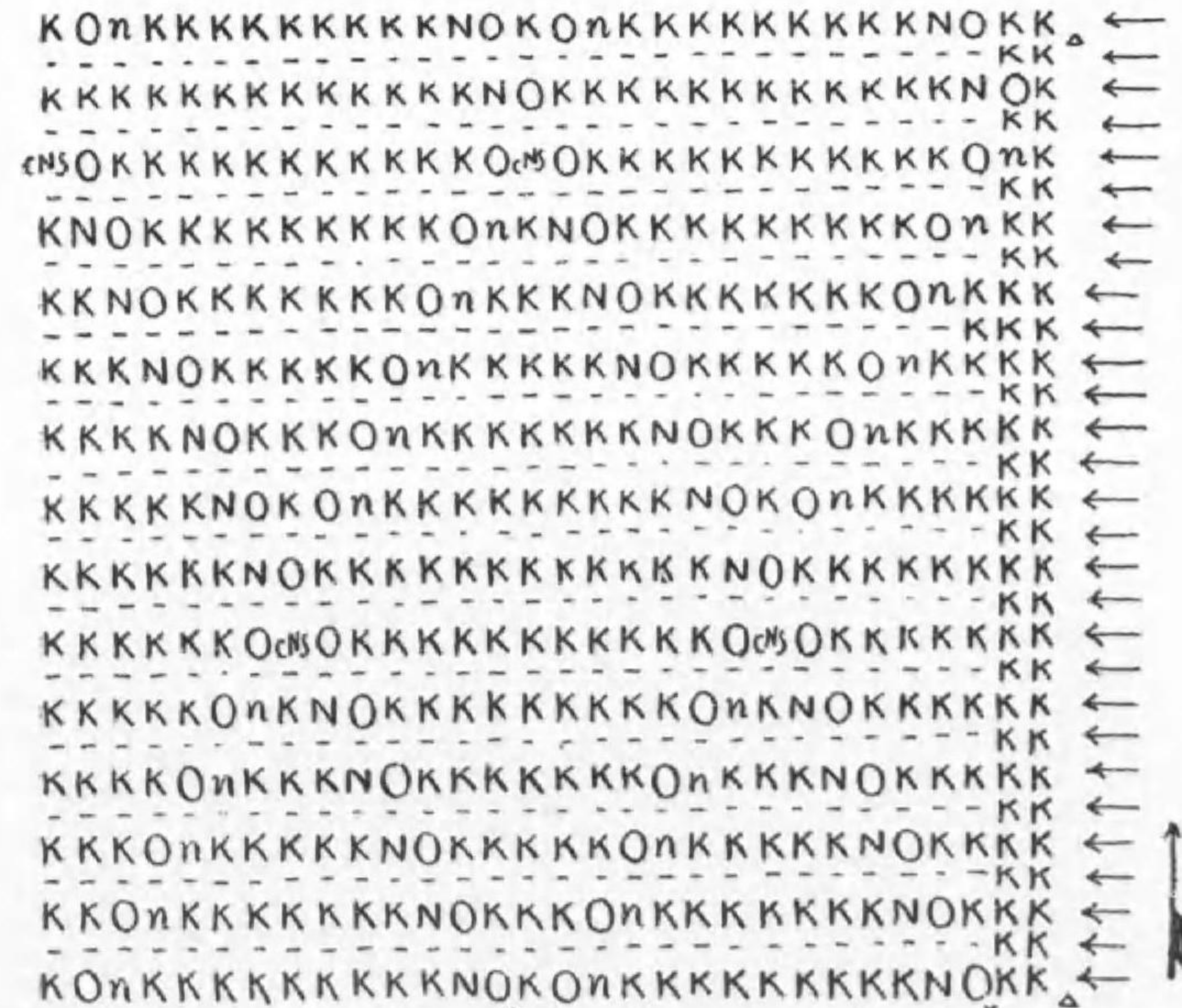
肩を山にして二つに折り、肩山から五寸程下つた脇の端をループヤーン二三本でしつかりととめ袖口に致します。

こゝから衿ぐりと肩にかゝります。六十七目のうち、中央の七目をとめてしまつて、左右三十宛に分けます。その三十を兩端で編みはじめ毎に三目宛、目のなくなるまで減します。

これで半身出来ました。もう一枚同じ物を編み、裏を中に二枚合はせて肩から袖山にかけて丁寧にとちはせませす。この時、前後を定め、左肩に當る部分を三寸程とち残しておきます。この三寸の開きに短編を一段編みつけ、スナツブ二箇ほどつけます。

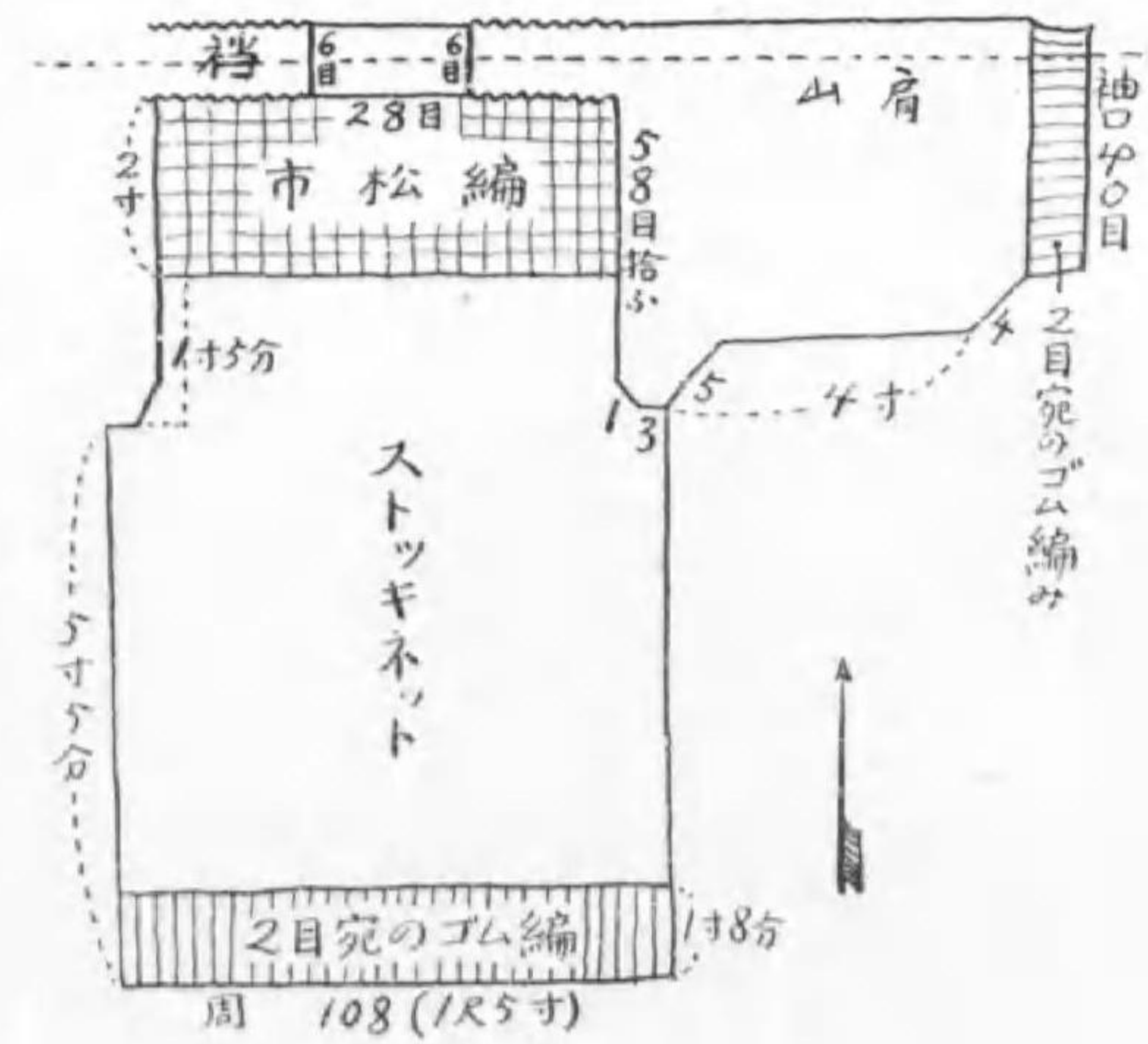
ループヤーンで格子編を入れるには、糸を裏側におき、鉤針を模様編の穴の所から通して糸を引き出して鎖編をすればよろしいのです。

胸にはループヤーンの飾りをつけます。二本の指に糸を五度ほど巻き、それを心に短編を十五六も編みつけて丸い輪を作ります。その糸を切らずに鎖を四寸程編み、その目を拾つてゆるく長編を編みつけます。これを前身頃の左の衿



中央アミノ模様、五日初

にして二目宛のゴム編一寸八分、次からストツキネット（表編ばかり）にかへ、裾から五寸五分まで増減なし。今度は両脇に當るところの六目宛を一度にとめ、前後別々に編みます。初め両端で更に一目宛減し、あとは増減なしに編み分けたところから一寸五分になりましたら全部の目を表編二目、裏編二目の市松に編みます。こゝが二寸になつたら中央の二十八目を残して両肩をとめてしまひます。後身頃もこゝまで同様に編んでおきます。今度は肩山に入れる襷を編みます。先づ新しく六目作つてストツキネット九段、針にかゝつてゐる目はそのまゝにしておいて、編めたものの兩縁と前後の身頃の肩（前に目をとめた部分）をとちはせします。次に袖つけから二十六目宛拾つて襷とも五十八目とし、これを四本針に分けて袖を編みます。袖は袖下で目を減して形をつけるのですが、いつも袖下の三目を中心にして、その兩側の目を減して行きます。はじめ一段おきに一目宛五回、あと増減なく袖つけから四寸まで編み、次は一段おきに一目宛減すこと四回、目数は四十になります。二目宛のゴム編にして一寸編んで目をとめます。衿前にとつてある前後の二十八目宛と襷の六目宛、都合六十八目で二目のゴム編を一寸五分編んでとめます。



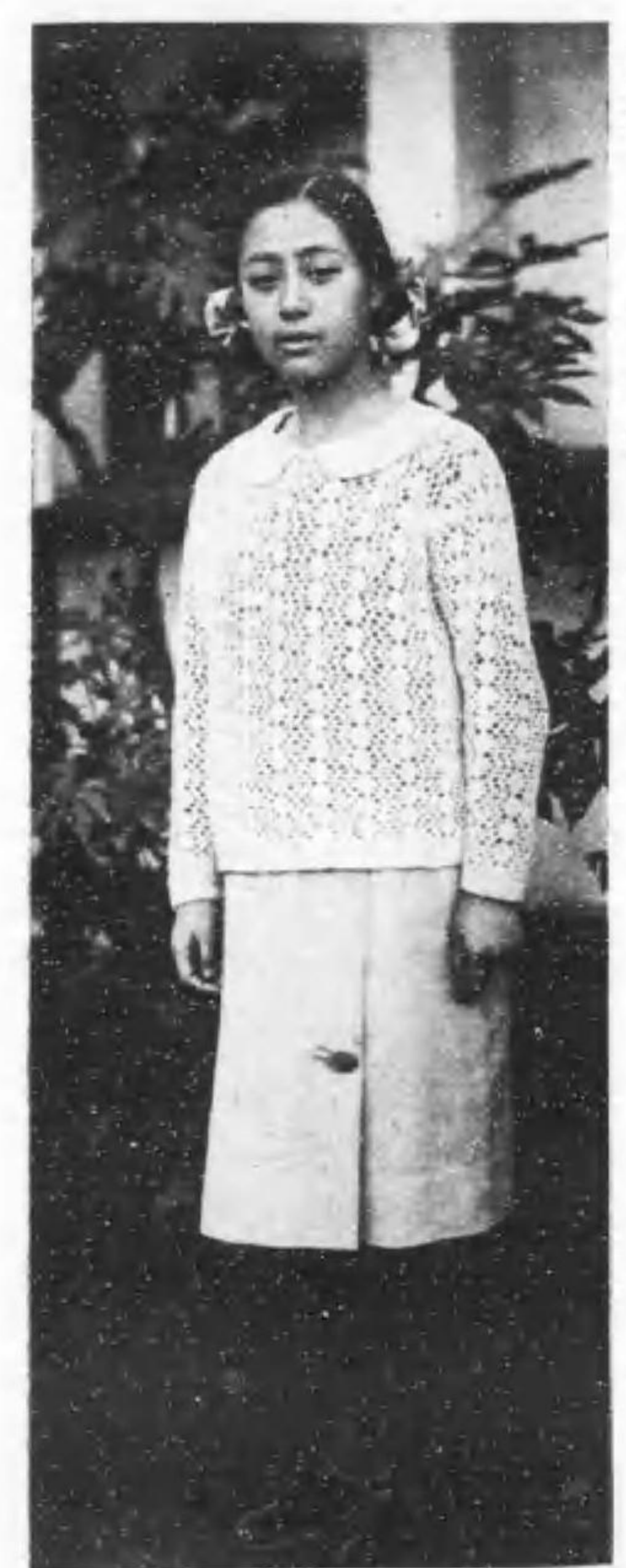
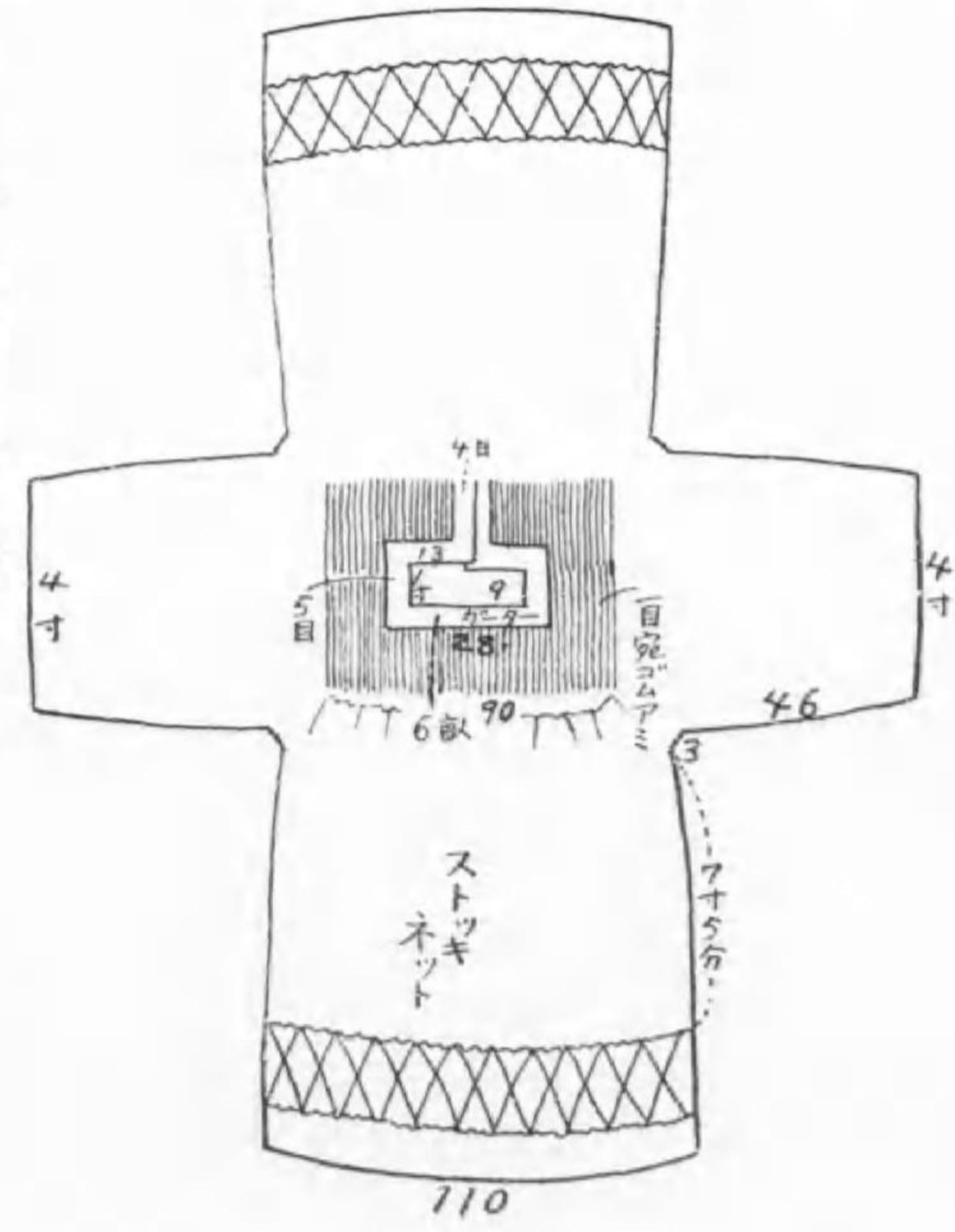
美しい女児服 (六七才)



編み方 地はストツキネットで頸廻りはガーター、袖口、裾口は折り返して二重に致します。前身頃からはじめます。目數百十でストツキネット二寸、次段はビーディング（一段目糸をかけ、二目一絡）二目裏編）次から菱形の模様を入れます。（外套代りになる新型のケーブ、百廿二頁模様記號参照）但しあの記號では、

胸元に細く襷を出し裾に模様を入れた優美な服です。平凡な形ですが着るとなかく引き立つて見えます。かういふ物は糸の色の選び方に注意していただきます。材料 ビーハイブ（並太）十四オンス。用具 五號二本針、とち針。

二段目、四段目等表編ですが、これは地がストツキ
 ネットですからこれ等の段を裏編にしなくてはな
 りません。完全な菱形が一つ出来たら模様編をや
 めてビーディング一段、あとは増減なくストツキ
 ネットで進み、模様が終つてから七寸五分ほどに
 なりましたら袖を作りはじめます。両端で一目宛
 増すこと三回、次いで新しく四十六宛作りま
 す。三段編んだら中央の九十目だけを一目宛のゴム編
 にかへ、他は前の通りにして約一寸八分編みま
 す。次に中央の五十六目を二目一緒につめて二十
 八目にします。この二十八目をガーターにして他
 は前通り。ガーターが六山になつたら、二十八目
 の中の十八目をとめてしまひます。こゝから左右
 別々に編むやうになります。衿ぐりの端の五目はガーター、他も前通りで約一寸編みます。
 左身頃は衿側に新しく九目作り、十四目をガーターにして六山、次からゴム編になります。先づこの十四目を倍
 に増しておきます。衿肩山を適當に定め、そこから計つて前身頃のゴム編より五分程短い所まで編みます。
 右身頃は衿の方で十三目作り。端の四目はスナップのための持ち出しです。ガーターに致しますが他
 は左身頃に準じて編み進みます。



春や秋の少女用にほんとに清楚な優雅な模様のジャンパーでございます。
 材料 コロンビア中細 セオンス。

模様編みのジャンパー

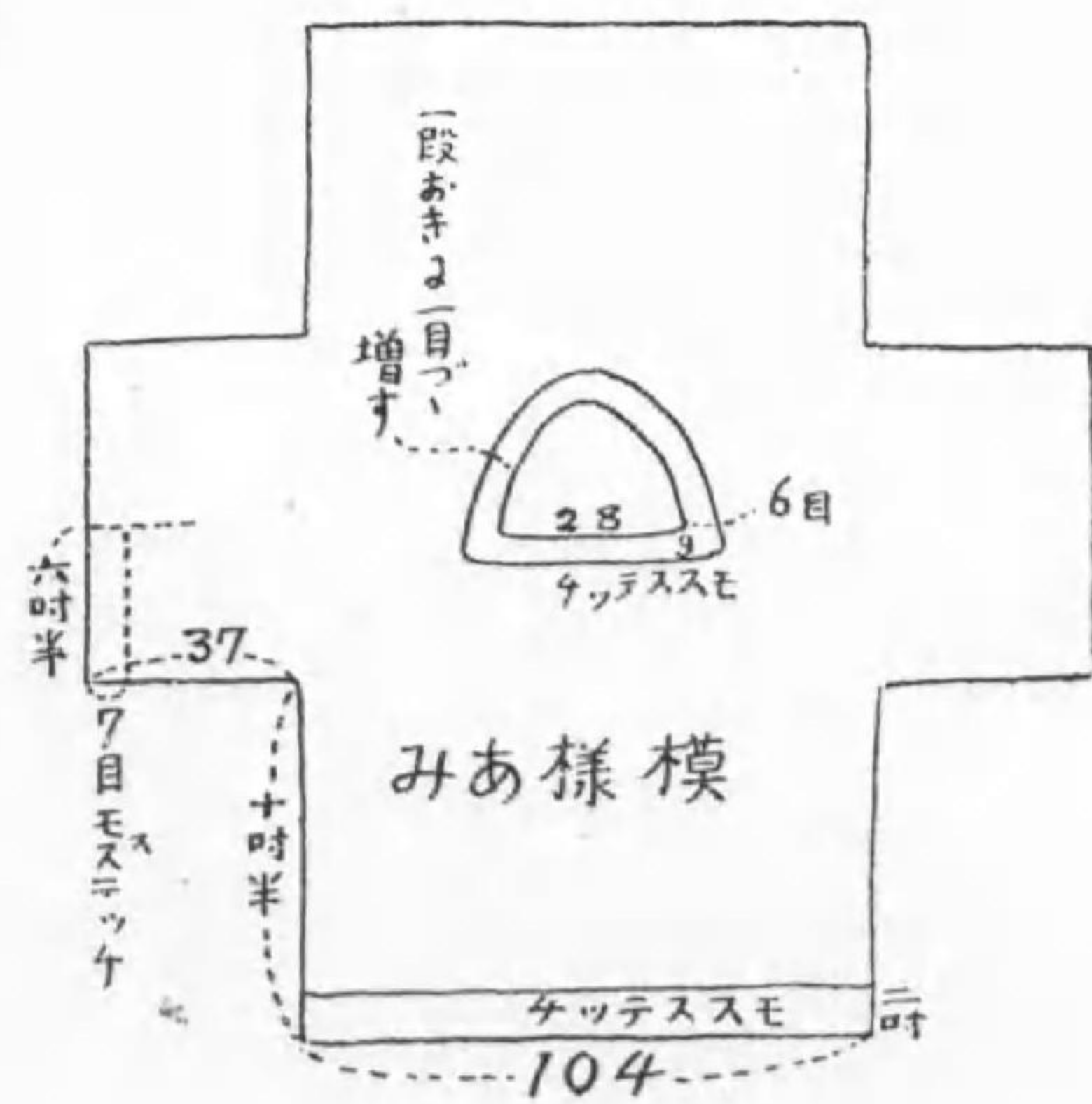
左右同じ長さになりましたら一緒に續けますが、この時右身頃の持ち出し(ガーター四目)の上に左身頃の端を重
 ねてその四目を上下二目宛編んでしまひます。それから五分程したらゴム編をストツキネットにかへ、以下前身に準
 じて編み上げます。
 袖下と脇をとち、裾と袖口を一寸程裏に折つて丁寧にとちつけます。背の明きにスナップをつけて仕上げをします。

用具 四號二本針。
 編み方 十六の倍数に編み
 はじめに三日、編み終りに、
 二目加へたもの、これが初め
 の目数になります。こゝでは
 八十四目です。
 八段で一模様出来上ります
 身頃の編み方ガータース

第四段 表編ばかり。

先づ百四の目で、後裾から初めます。モステツチを二時、次から模様編に移つて、編みはじめから十時半(模様十七)程になつたら袖の目を増します。即ち兩端に三十七目づゝ新しい目を作ります。この中袖口に當る兩端七目づゝはモステツチ、三十目は前に引きつゝいて模様編にします。袖丈が五時半になつた時、中央の四十目だけをモステツチにかへ、袖丈六時半になるまで編み、衿肩明のために二十八目とめて、左右別々に前身にかゝります。衿ぐりの端の六目はすつとモステツチで續けること、最初二段増減なし、次から、衿ぐりのモステツチと模様編の境で、一段おきに一目づゝ増して行き、衿明でとめた目の半分を増し終へたら、更に一方をこゝまで編んで左右一緒にし、後は後身に準じて裾まで編み上げればよいのです。仕上げは脇から袖下までつゞけてとぢ合はせれば出来上りです。

一 通學用に適しい少女向スウェーター



六時位)そして圖の様に縷を入れ、ローズ色にかへる。編み方は全部ガーターです。裾から十五時編んだら圖の様に目を増します。

そして、衿明きも圖のやうにあげます。即ち真中の二十目を止め、左右別にして、次ぎに六段増減なし、次ぎからは衿の側で一山毎に、一目宛増すこと十回します。他の身頃も同様にして、兩身頃を合せ、裾まで編みますが袖下の處は、後身頃と反對に目を止めて行きます。前の裾も後身頃と同様に縷をいれます。

袖口は袖口の目を鼠色の糸でいねいに拾ひます。そして、二日宛のゴム編みにして、圖のやうに空色で縷をいれながら編みます。(拾ふ時四の倍數になるやうに)。袖口の長さ凡そ三時半位になります。衿は前と後と別々に編みます。身頃の衿明きを前後二分して、後身頃から衿の目を二十六目空色の糸で拾ひます。

衿の工合の面白いスウェーターです。兩脇に紐をかけたのが、何ともいへず可愛らしい感じがします。頬のふつくりした方に似合ひませう。十四五才向きです。

材料 並太毛糸、ローズ色 十四

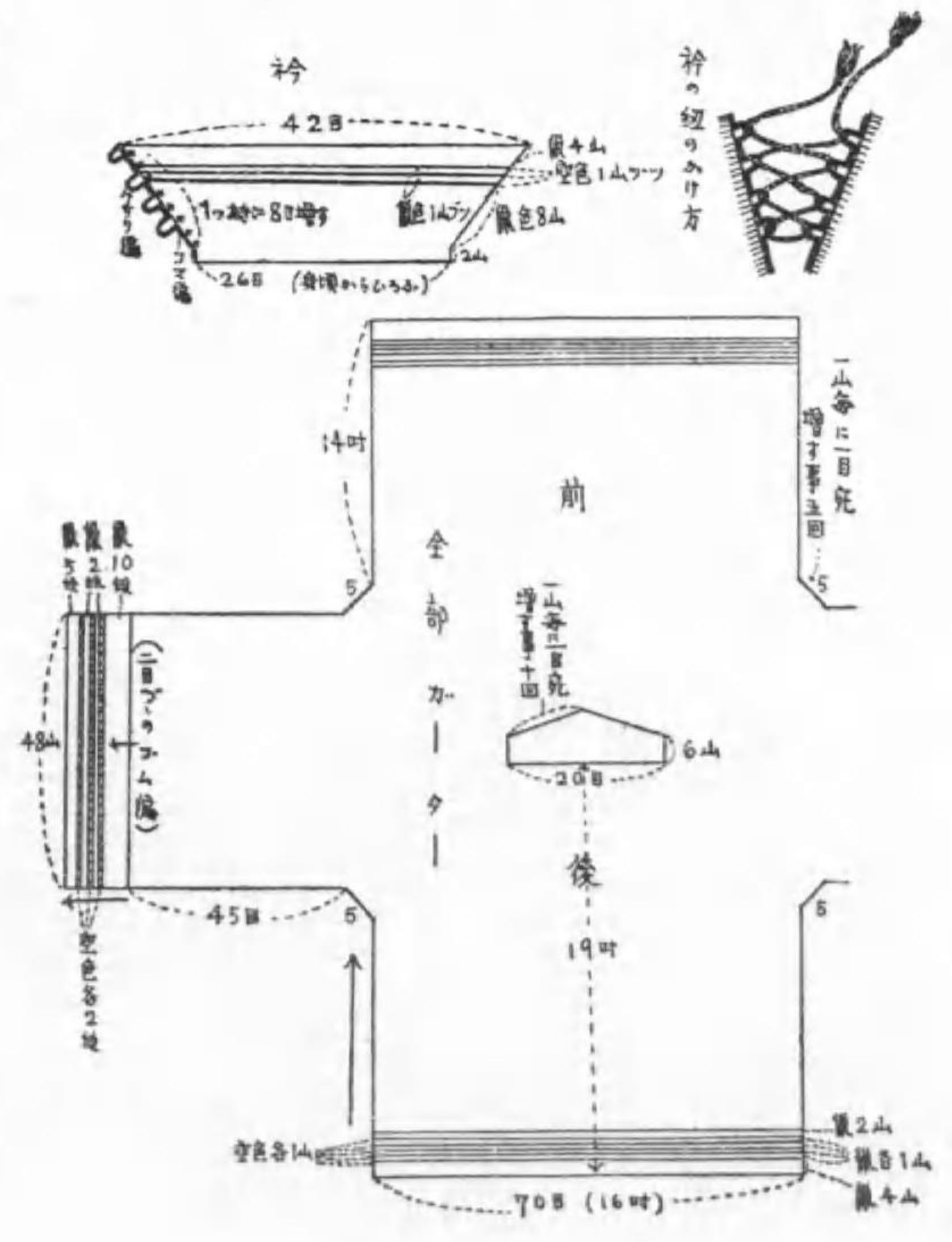
オンス、空色 一オンス、

鼠色 四オンス。

用具 七號、八號二本針、

編み方 鼠糸で目數七十作る。(十

(全部ガーターで編む)
 次ぎ二山は増減なし、次ぎから二山毎に一目宛兩端で増して行く事八回、即ち兩側合せて目數十六増すわけです。縞は圖のやうにいますが、注意すべき事は衿は折返して着ますから、縞は折返つた時表が出るやうに、身頃からは裏向きにいます。
 前の衿も同様に編みます。出来上つたら衿の兩側の縁に鉤針で短編を、四ヶ所程鎖で紐通しの穴を作りながら編みます。これで大體は出来上りました。
 兩脇と袖下とをていねいにとちます。そして衿は兩側に折返しておき、別に鎖編みで紐を編んで圖のやうに紐通しの穴に通します。

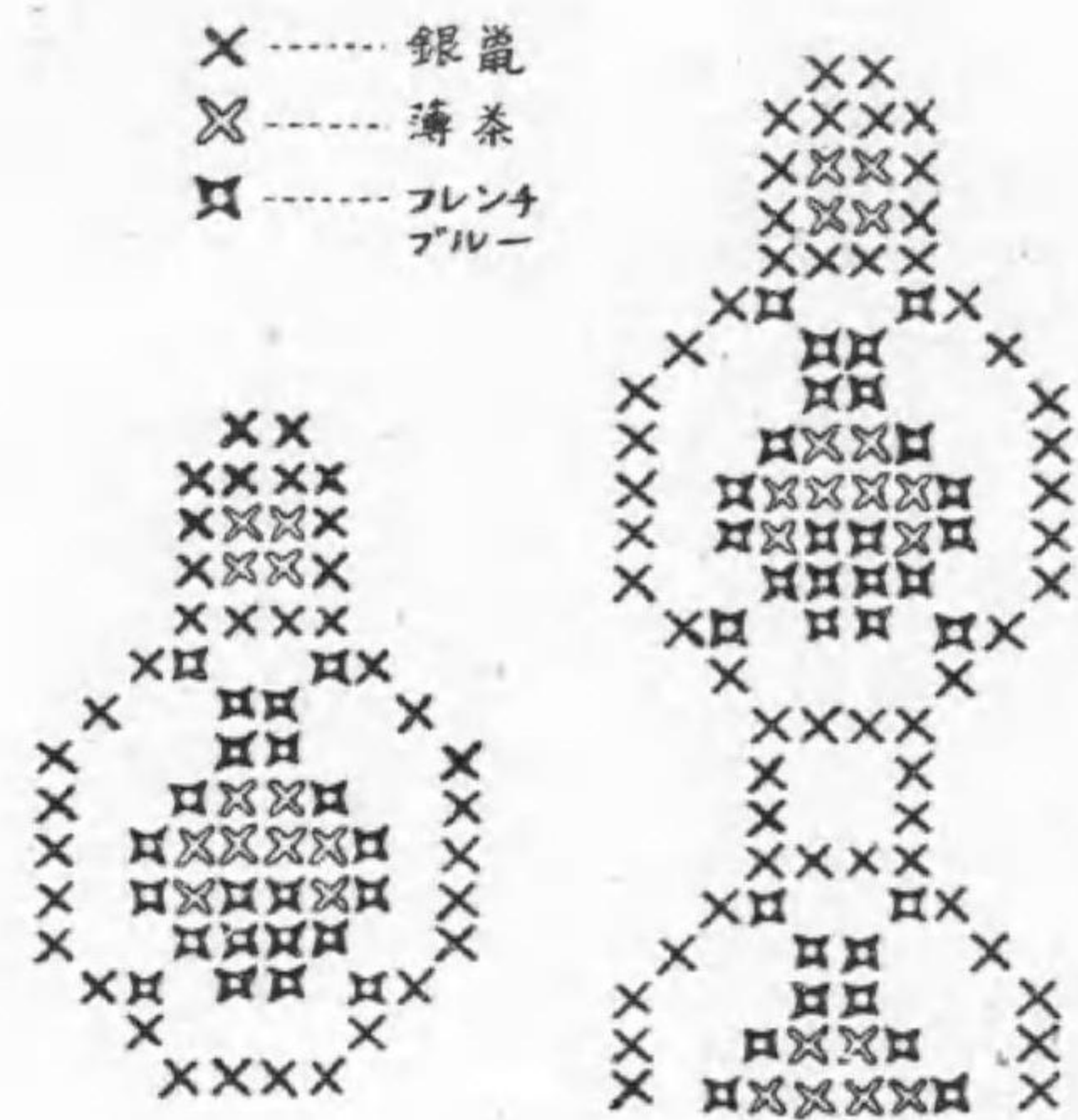
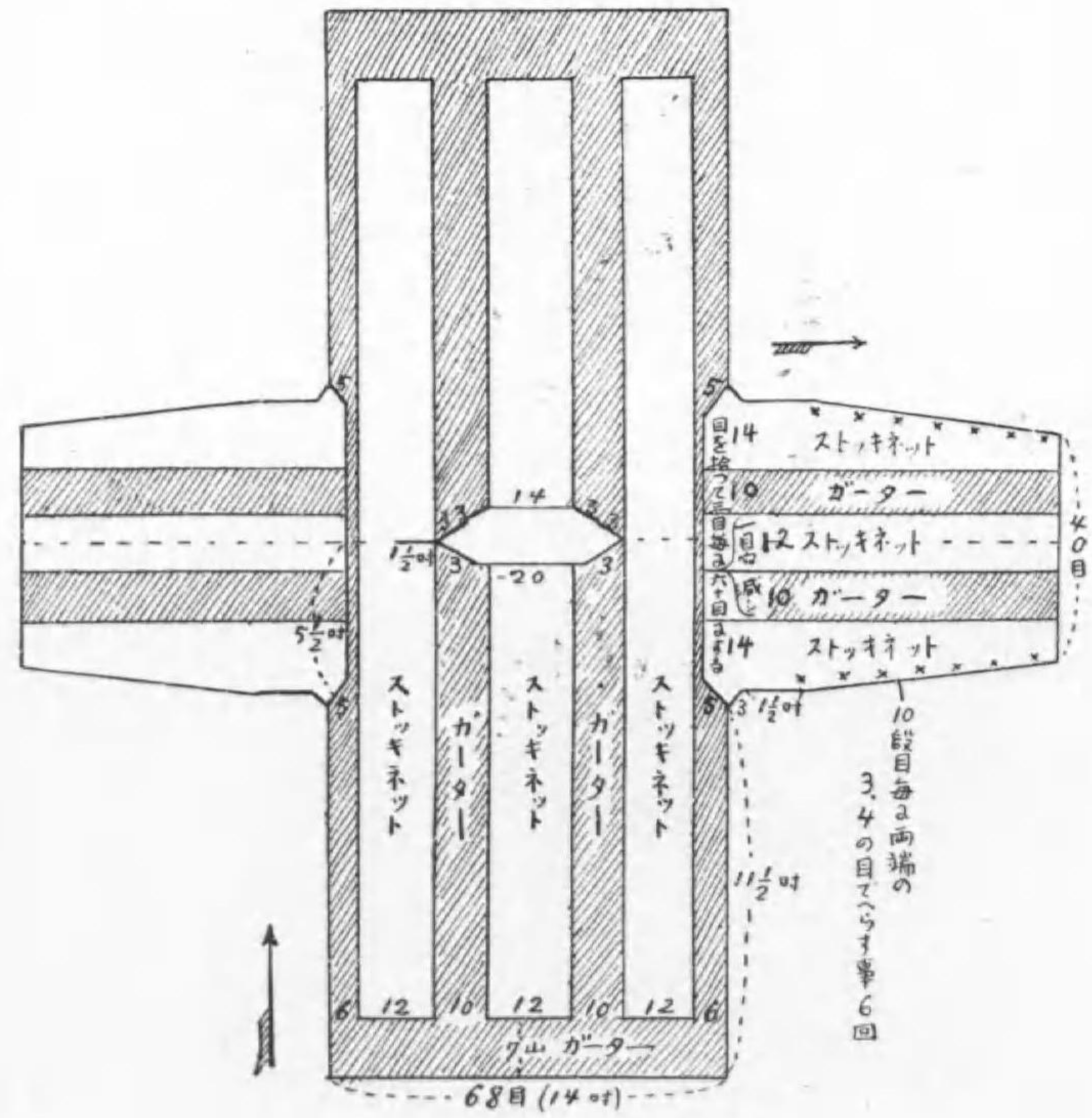


材料 シルプーミクセスの暗緑色 五卷(一卷凡そ二オンス)、ラスタール(絹交中細)の銀鼠薄茶
 ルー 各凡そ一卷の四分の一位宛。
 用具 五號二本針、鉤針。

— 美しい色彩のスウェーター —

編み方 編み方はガーターとストツキネットばかりで模様はあとからクロツステッチで縫つたものです。先づ目數六十八作りガーター七山編んで次から圖のやうにガ

1ターの縞と、ストツキネットの縞とをたて、裾から十一吋半まで編みます。次に袖附のため、両端で編み始め毎に一目宛五度減し、あとは増減なく(ストツキネットとガーターの縞は、崩さぬやうにしながら)肩山の少し手前まで編み、衿肩のため二十目とめ、次から左右の身頃を別にして編みますが、衿明側から編み始める時に三目一度にとめてその段を編み、もどり、次は肩明のため左の肩山だけ一時半とめて次段ですぐとめた一時半を増してしまひます。(その時右肩山は増減なく一往復すればよろしい)次には衿明側から編み始める時に三目一度に増して編み、戻り、又衿明側からはじめる時に三目一度に増します。そし



て中央十四目を一度に増して両身頃を一緒にし、あとは後身頃と同じ要領で裾まで編み上げます。袖身頃の袖附の所にはガーター一目の縞がたつてゐる筈ですから、そこから一山から一目宛位の見當で目を拾つて、次にかへつて来る時、三目毎に一目宛位のへらし可減にして六十目にします。次には圖のやうにストツキネットとガーターの縞にします。そして早速袖下の目を減らさなくてはなりません、いつも両端で減さず、端から三番の目と四番の目を一緒に編んで減します。先づ圖のやうに、両側でストツキネット一段おきに一目宛三度減し、次一時半増減なく編み、あとは凡そストツキネット十段目毎に一目宛へらすことを七度して目をとめます。

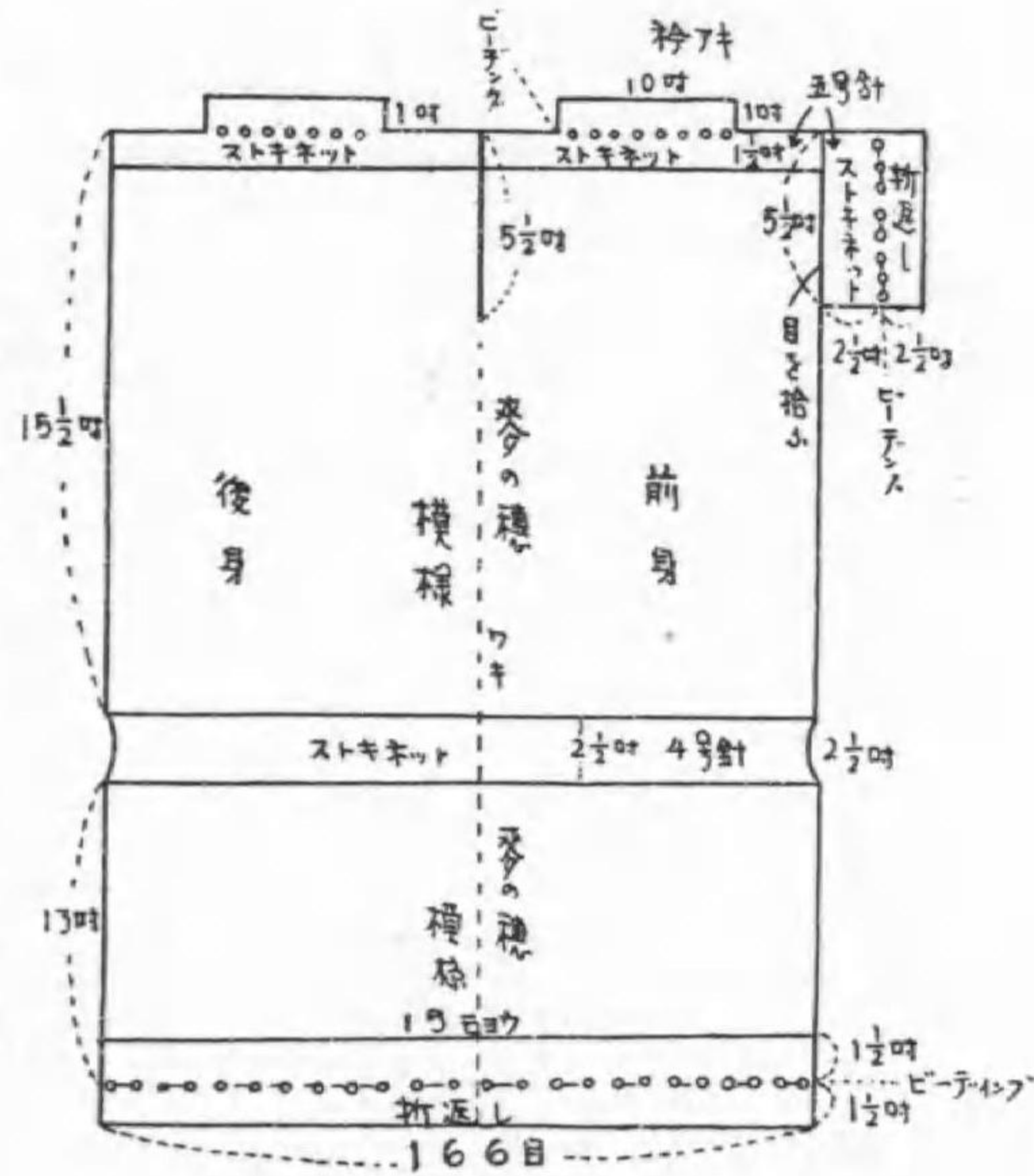
衿と袖口、脇、袖下をとお合せてから、袖口と衿ぐりに刺繍に使用。フラスターの糸で短編をあみつけるのですが先づはじめは地糸で、袖口の編目の凹凸をと、のへるつもりで、ぐるりと一段短編をし、次にフレンチブルーで一段、薄茶で一段、銀鼠で一段あんでとめます。肩山のあきは、地糸で一段短編をするだけにしておきます。紐は、地糸と色糸をそれぞれ一本づゝ即ち四本で繩のやうに作り、さきにはやはり四色を交ぜ合せた玉をつくつてつけ、寫眞のやうに左肩で結び合せるのです。

刺繍 寫眞でもおわかりになるやうに、刺繍は身頃のストツキネットの縞の上にするので、前身にも後身にも致します。模様は上圖に色でかきわけましたから、御利用下さいませ。やり方はクロツスステツチの仕方です。即ちストツキネットの編目にX形に糸をかけ

て模様を出すのです。糸のかけ方は横はストツキネット一目をクロスステッチの一目とし縦はストツキネット二目に渡ります。そして模様は寫眞のやうに、向つて左の端のストツキネットの端には模様を三つ続け、中央は二つ半、右端は二つ続けました。そして二つ半続ける時は、右側の模様のやうに半分の處から致します。

美しいレース模様の少女服

目のさめるやうに美しい服、袖の思ひ切り短い、バンドの低い極くハイクラな型です。初夏の頃、散歩着や他出着として、十三四歳の少女にふさはしい感じがします。これをお用ひになる時に



かへます。これは麦の穂模様といひ、十一目で一模様になつてをります。編み方は記號で記しました。ピーディングの所から十三吋まで編みましたら、針を四號針にかへ、編み方もストツキネットにして二吋半編みます。これがバンドになります。四號針で編みますから細くしました感じに出来ます。又七號針にかへ模様編にして十吋あみましたら、袖明のために中央から二つに分けて、前後の身頃を別々にして編みます。やはり模様編を続け、袖附が凡そ四

はレース模様がすいてぬますから、下着をドレッツと同じ形に白地の不二絹などでお作りになるとよいでせう。

材料 ミネルヴ・ラスタール(絹交り並太)

タンゼリン色(赤味の勝つた蜜柑色)五卷半(一巻凡そ二オンス)、半吋巾銀鼠色リボン 一ヤール。

用具 四號、五號、七號、二本針。

編み方 やはり裾から編みますが、普通のと異つて圖のやうに、片方の脇をひらいて前身と後身を横に續けた広い巾で編むのです。

身頃 七號の二本針で目數百六十六(模様編の倍數に編終りの一目足したもの)作り、一時半ストツキネットに編みましたらピーディングを一段、なほ一時半ストツキネットをして全部の目を模様編に



襟と袖付の工合が面白く出来た、気のきいたスウェーターです。橙色の地に、白い縞を袖口と裾に出したのが、紐のスカートによくうつてゐます。少しなで肩の人に似合ふ品のよい型です。十五六歳向きです。

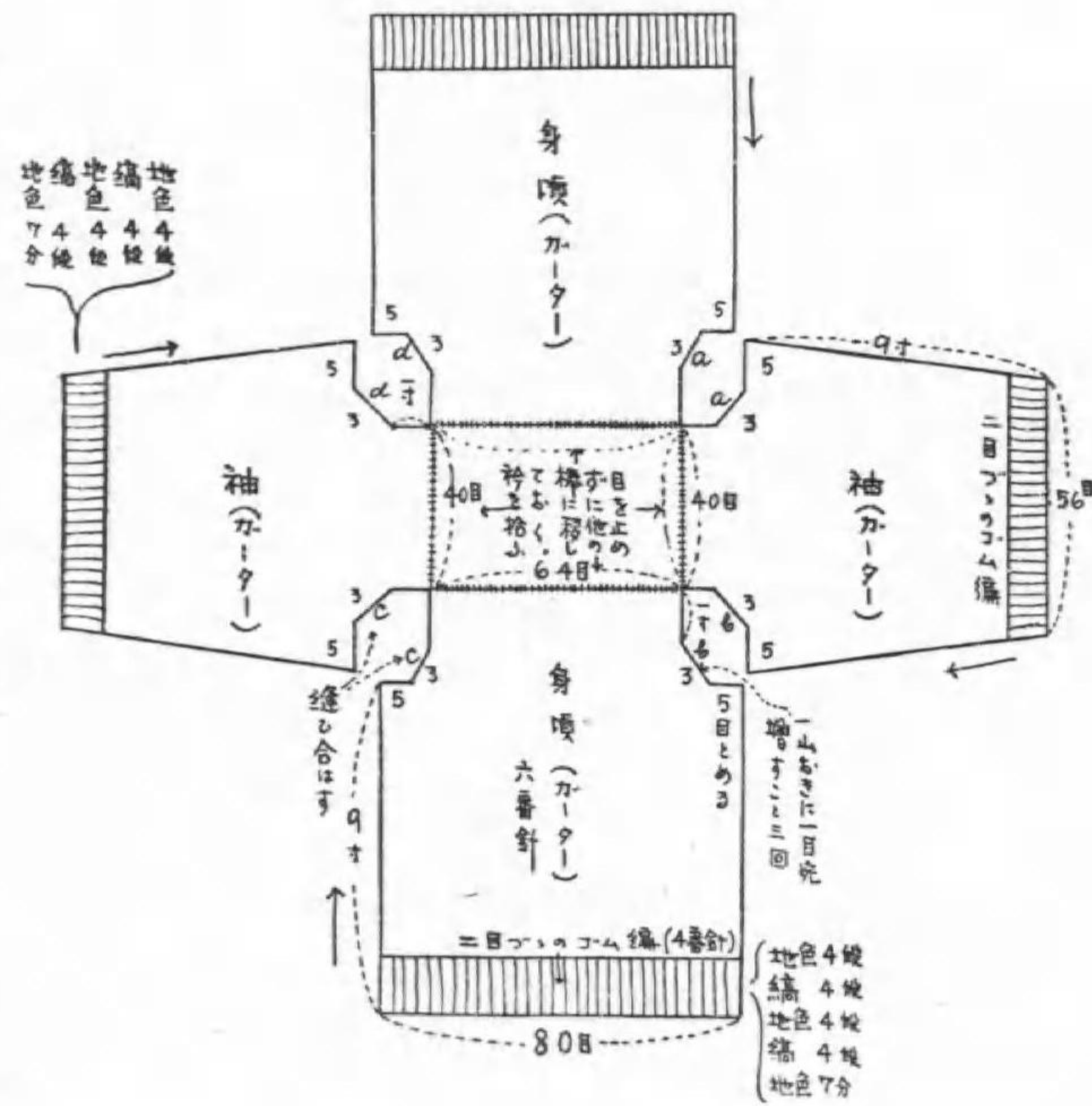
材料 並太地色 十五オン
ス位、配合色 一オンス位。
用具 六號二本針、四號二本針、四本針。
編み方 詳しい圖解をこちら下さい。
身頃 六號の針に日數八十

上着にもなるハイカラなスウェーター

にリボンを通し、寫眞のやうに左肩で結びます。ゴムテープはバンドの下側の裏側に、五吋ほどおいては身頃に共糸とちつておきます。これは着てから適宜に装をよせるためです。

時になつたら針を五號にかへ、ストツキネツトにして一時半あみますと、こゝが肩山です。今度は兩身頃共、衿明として中央十吋宛の日(凡そ四十八日か五十日)をやはり五號針で(他は別針にとつておき)ビーディング一段して、なほ一時だけストツキネツトに編んで目をとめます。
脇と脇とを縫ひ合せ、肩山の目はそれぞれボーシングステツチでとち合せます。裾も衿明もビーディングの中央から折り返して裏にとち合せておきます。ビーディングの所が飾りのやうになります。
袖 五號四本針で袖附の處から凡そ八十目拾ひ、ストツキネツトにして一時半、ビーディングをしてなほストツキネツト一時半あんで目をとめ、やはりビーディングの中央から折り返して裏側にとちつけます。
仕上げ 衿明にはビーディング一つおき

K O K K K n N K K K O K O K K K n N K K K O K
P O P P P n P P P P P O n O P P P n P P P P P O P ...26
N O K K K K K K K O n N O K K K K K K K O n ...25
N P P O P P P P P O P n P N P O P P P P P O P n P ...24
N K K O K K K O K K n N K K O K K K O K K n ...23
N P P P P O P O P P P P n P N P P P P O P O P P P n P ...22
N K K K O K O K K K n N K K K O K O K K K n ...21
N P P P O n P O P P P n P P P P O n P O P P P n P ...20
K K K K O n N O K K K K K K K O n N O K K K K ...19
P P P O P n P N P P O P P P P P O P n P N P O P P P ...18
K K O K K n N K K O K K K O K K n N K K O K K ...17
P O P P P n P N P P P O P O P P P n P N P P P P O P ...16
K O K K K n N K K K O K O K K K n N K K K O K ...15
P O P P P n P N P P P O P O P P P n P N P P P P O P ...14
K O K K K n K K K K O n O K K K n K K K K O K ...13
N P O P P P P P P P O n P N P O P P P P P P O n P ...12
N K O K K K K O K n N K O K K K K O K n ...11
N P P P O P P P O P P n P N P P P O P P P O P P n P ...10
N K K K O K O K K K n N K K K O K O K K K n ...9
N P P P P O P O P P P n P N P P P P O P O P P P n P ...8
n K K K O n O K K K n K K K K O n O K K K n ...7
P P P P O n P N P O P P P P P P O n P N P O P P P P ...6
K K K O K n N K O K K K K O K n N K O K K K ...5
P P O P P n P N P P P O P P P O P P n P N P P P O P P ...4
K O K K K n N K K K O K O K K K n N K K K O K ...3
P O P P P n P N P P P P O P O P P P n P N P P P P O P ...2
K O K K K n N K K K O K O K K K n N K K K O K ...1



袖付の減し方も、すべて身頃と同じに編めばよいのです。これも二枚同じものを作ります。

作り、表編二、裏編二のゴム編をします。そして圖のやうに縞を入れます。次ぎからはガーターにして、増減なしに地色の糸で編んで行きます。裾から九寸程になりましたら、袖付の爲に目を減じます。即ち兩端五目づつ止め、次ぎから一段おきにやはり兩端で一目宛減す事三回、それで、全體の目数が六十四に減りますからその儘増減なしに一寸位あみ、目は止めて別に別の針か糸に移しておきます。身頃は前後變りませんから、これと同様のものをもう一枚編みます。

袖は四號の二本針で、目数五十六作り、身頃と同様に二目宛のゴムあみにし、縞も身頃のやうに入れます。ガーターにかはる時針も六號にかへることを忘れないうやうにします。そして、袖の長さも、

身頃と袖が出来上りましたら、隣り合つて居る身頃と袖を圖に示した通りに付け合せて、頭廻りに二〇八目程あるわけですが、それが衿になります。四號の四本針に目を移して編んで行きますが、その時、『表編一、裏編三、括弧の中の編み方を終りまで繰り返して行くのです。一寸五分位はそのまゝで進み、次ぎに減します。その時は、今まで、『表編一、裏編三』の編み方でしたのを、表編と裏編との境で、裏編二つ一緒にあめばよいのです。一段ずつと減りましたら、次ぎは増減なしに三段あみ、最後は裏編の場所を二目共一緒にあみ乍ら一廻りし、糸を止めて切つてしまひます。最後に袖下及び脇をとち合せて、仕上げをします。

軽やかな女児服

春や秋などに着せて美しいアイスランド(極細)一本で編んだ女児服です。ピンク、クリーム、白、ブルーなどで編むとほんとうに軽やかできれいです。この服を着る時には、これと同じ形のアンダードレスを着せますが、そのアンダードレスを上衣とうつりのよい色にしますと、一さう映えます。

材料 アイスランドウール 白一巻四分の一(一巻は一オンス)、半時巾リボン 二十五吋、ボタン 一個。
用具 八號二本針、五號二本針。
編み方 模様編 身頃は美しい櫻葉模様になつて居りますが、この編み方は記號で委しく説明してありますから御覽下さいませ。

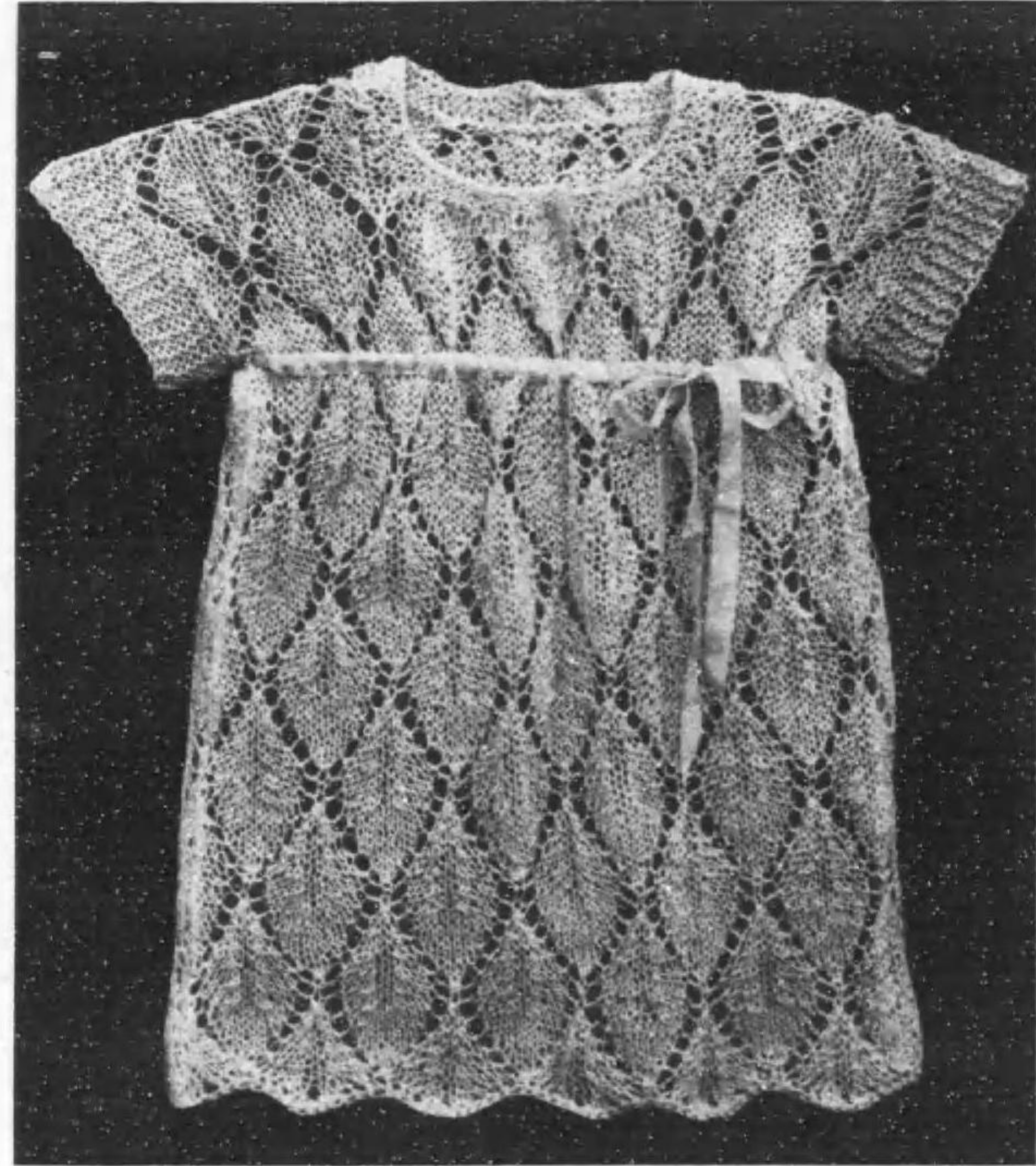
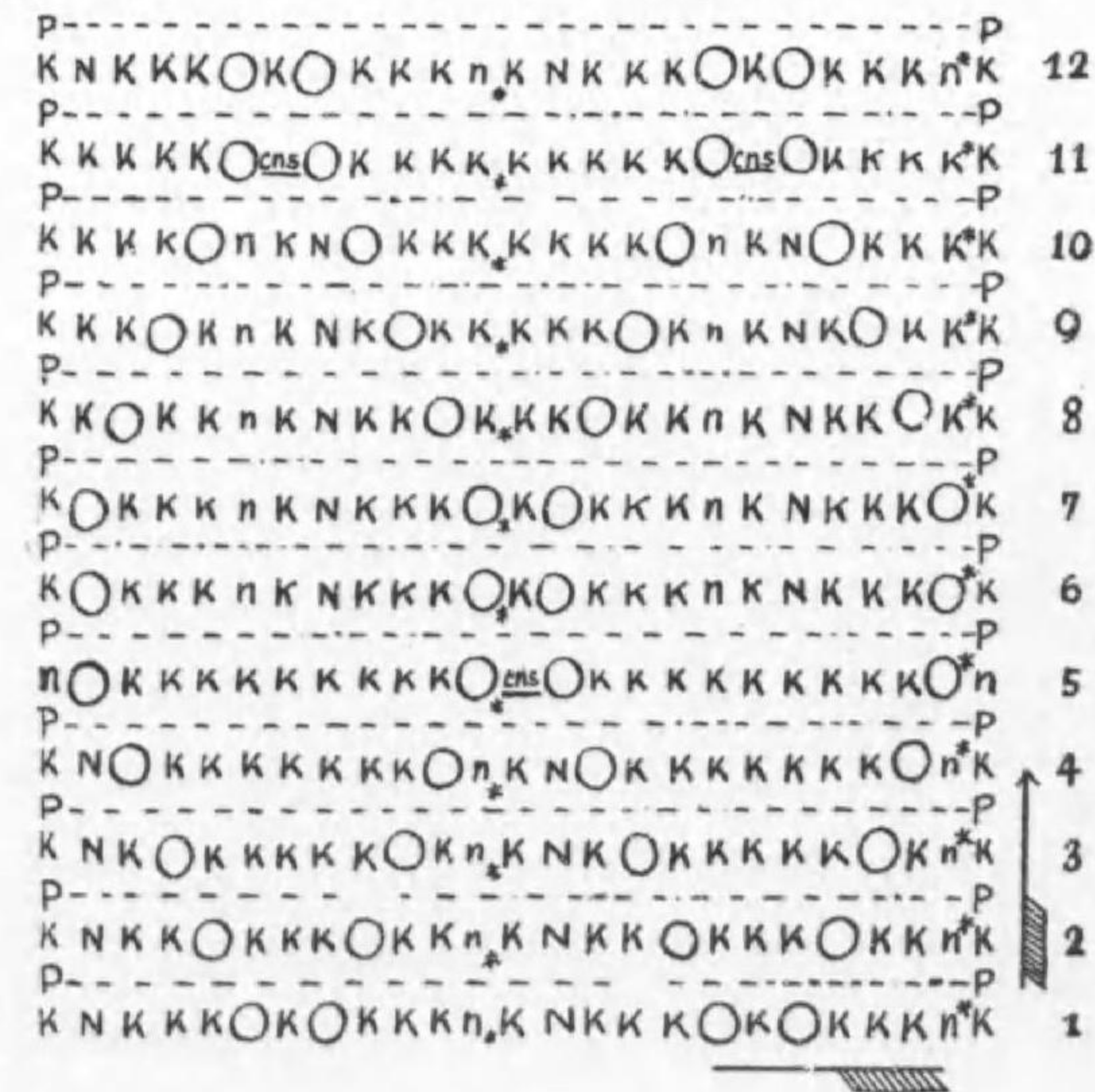
後身に準じて袖の目をとめ、五號針でビーディングを入れ裾まで編み、裏から目を伏せて糸を切ります。

二山目 肩の曲り角から五目位手前まで平らに編み、そこから三つ目毎に一目宛減しながら編みます。向ふ側の背の部分はやはり平らに編むのです。裏から表編で歸ります。

三山目 増減なしに編む。

四山目 二山目と同じく、背の部分は平らに、あとは三目毎に一目宛減します。裏から目をとめて糸を切ります。後のあきには短編を一段編みつけ、片方に鎖の輪をつくり、片方にはボタンをつけてとめ合せるのです。

両脇と袖下をとちらたら、胸のビーディングの所に、半吋巾の淡色のリボンを通し、寫眞のやうに結びます。



二目新しく作つて左右を一緒に致します。

後身頃の裾から編みます。八號の針で日数六十二をつくり、一模様の日数の五倍に、編み始め、編み終りを一目づゝ加へたもの、表編を一段して歸ります。次から模様編に移ります。

記號によつて模様を三つ半重ねて編んだ時に、五號針にかへてビーディング(紐通し)を作ります。

次に八號針にかへ、袖のために両端で編みはじめに八目づゝ作ります。この袖の八目はガーターで編み、模様の處は前の通り目を崩さぬやうに注意して編みます。そのまゝ、四吋半編んだら、衿ぐりのため中央二十六目とめ、左右に分けて衿ぐり側で一段毎に一目宛へらすこと三回、續いて前身に移り、一時増減なし次から一段毎に一目宛増すこと五回、二十

ハイカラな女児用袖なしスウェーター (六七才)

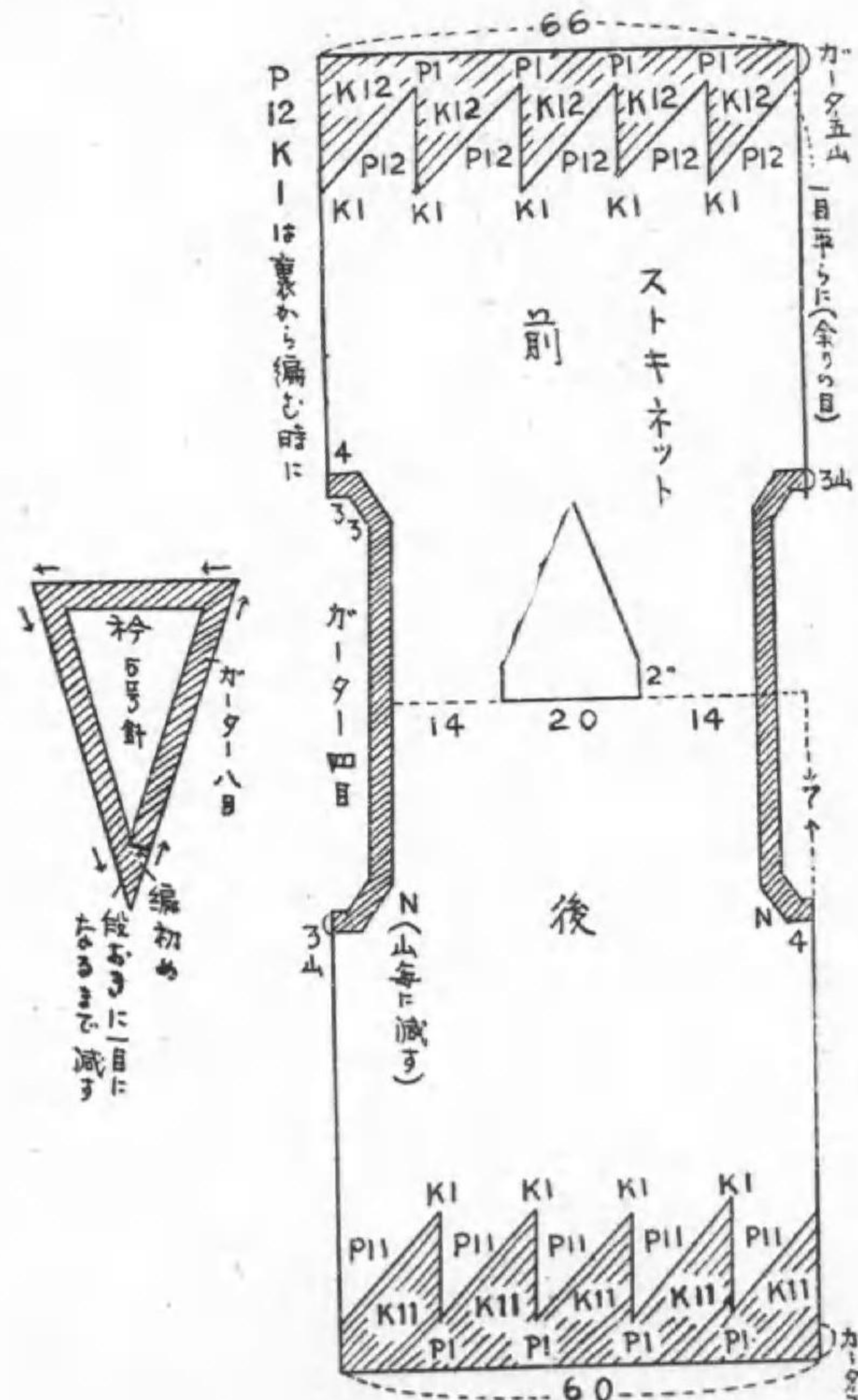
ハイカラな女児用の袖なしスウェーターでございます。身頃全部を毛立てた裾に、ガーターで三角形の模様が浮き出てほんとうに見事です。

材料 ミネルヴツスルダウン オリーブ色三巻半。(一巻二オンス)
 用具 六號と五號の二本針。



編み方 三角つなぎの模様と、袖附のところガーターで、他はストツキネット編み上つてゐます。後身頃の裾から編みます。

身頃 六號針で六十目作り、ガーター五山編んで更に表編一段し、裏から歸つて来る段から模様を入れはじめます。即ち、圖のやうに「表編十一、裏編一」を繰り返す。



返してその段を繰り返す。模様は都合五つ出来る筈です。次の段で表から編む時は又表編ばかりにするので、以後一々説明しませんが、表から編む時は必ず表編にしてください。次段では裏編一「表編十、裏編二」を繰り返す。次段では表編ばかり、次段では裏編二、表編九、裏編三を繰り返す。かうして、ガーターが三角形になるやうに一つづつずらして編み、「裏編十一、表編一」になつたら模様編は終りになります。それから全部ストツキネットにして編み進み袖附のところまで編みましたら袖ぐりを作りますが、袖を付けませんから縁がまららないためにガーターにしなくてはなりません。それには袖下の少し下で、両端四目づつをガーターにかへ、ガーターの處でかぞへて三山編んだらそのガーターのうち端の三目だけをとめ、次からは、やはり端四目だ

けはガーターを續け、そのガーターとストツキネットの間で、一山毎に一目づゝ三度減します。あとは増減なく肩山に至ります。

衿明のために中央二十目をとめ、左右の身頃を別々にして編み、始め二吋増減なし、次から衿つけの方で四段目毎に一目づゝ十三回増し兩身頃を一緒にします。と全體の目数が後身頃より六目多く、即ち六十六目となります。前身の目数を多くするのは着工合をよくするためです。前身頃の模様もやはり裏からお始め下さい。但し、前身頃は目数が増えて居りますから、それをわけて模様の一つ一ついれます。それで一つの模様の目数は十二目になります。それでも端にまだ一目餘分に残りますが、それはそのまま平らに編んでかまひません。

衿五號針で八目つくり、ガーターにして時々衿まはりにあて、長さはかりながら、衿廻りの長さより三吋短かく編んだら編み始めの八目からも目を拾つて一緒にして一本の編針に通して十六目とし、それから兩端で各段の編みはじめ毎に一目づゝ減し一目になつたら目をとめ、これを衿明にとちつけるのです。出来上つたら脇をとち、ストツキネットの所だけをブラッシュをかけて毛をたてます。

— 温かなコンビネーション —

柔かい毛糸で編んだコンビネーションは、ほんとうに温かでございます。ちかに肌に着ることを嫌ふお子さんは、晒の下着を着せ、その上にこれを用ひれば、大抵の寒さは凌げます。これは中細を用ひましたが、極寒用には並太の方がよろしいでせう。こゝでは四五歳用で説明致します。

材料 中細六オンス。

用具 二號四本針、二本針。

編み方 どちらかの片足の口から編み始めます。四本針で目数六十、輪にして、表一、裏一のゴム編八分(十六段)編みます。次からストツキネットにかへ、どこか一箇處の四目を中心と定め、五段目毎にその四目の兩脇で一目宛増しながら凡そ一寸五分編みます。次に、この中心の四目と、その左右三日宛、都合十日だけをガーターにかへ、増減なく四段編みます。次に股下をあけるためにこのガーターを五目宛に分けて二本針にかへます。かうして出来た上側を前、下側を後と定めて形を作つて行くのですが、それ〴〵増し方が違ひますから、前後別々に説明致します。

前 二端五目はやはりガーターをつゞけ、その内側でガーター三山毎に一目増すこと八回(左足の時には増し終る一寸位前に二目位のボタン穴を作ります)。

後 二端の五目はガーターにして、その内側で、ガーター二山毎に一目宛十二度増します。

兩方とも増し終へましたら目は留めずにおきます。これで片足出来たのですから、もう一方をこれと對になるやうに編み上げます。

上半身 次に二本針で兩足を續けて編むのですが、この時、右足の後身の端の上に、左足の後身の端十六目を重ね、この十六目は二目宛一緒に編んでつゞけてしまひます。そして増減せずに五分位編んだら、ガーターの所はそのまゝにして、ストツキネットの所を二目宛のゴム編にかへて二寸編みます。この時上前になる方のガーターのところにもボタン穴をあけます。次から又ゴム編をストツキネットにして、後身と前身と別々に編みます。この分ける時に、前の方は、後身より十六目多く取ります。すると後は六十八目位になりませう。前身は別針に取つておき、後身だけストツキネットで一寸二三分編んで袖つけに移ります。



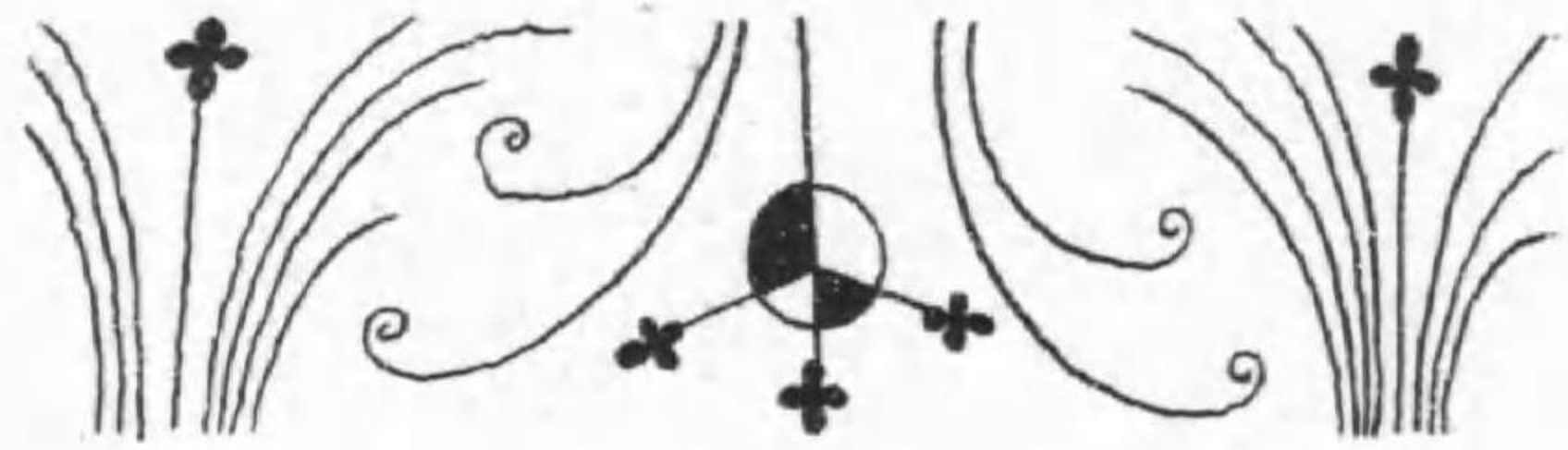
袖二端で編み始め毎に三日宛二度、十日宛二度合計一方で二十六日増します。そして袖附が一寸八分になつたら、中央三十日(肩明の二十日と、その兩脇五日宛)をガーターにかへ、このガーターが三山になつたら肩明のため二十日留め、左右別々に三段編んで肩山とします。(この時衿ぐりの端のガーターはそのままとつゞけます。)

前身衿ぐりの増しで、始め四段増減なし、次から五日のガーターの内側で、一段おきに一日宛二度増し、次の段で新しく五日作ります。端の五日はガーターにして、増減せずに編みつゞけます。但し上前にはボタン穴を忘れな

いこと。袖下を後身に準じて減しますと、さきにとつておいた前身と同じ目数になる筈ですから、そのまゝ編み進んで、別針のゴム編と編み合はせます。

袖口凡そ四十位の目を拾ひ、一日宛のゴム編を一寸編んでゆるくとめます。

仕上げ袖下、脇を綴ち合はせ、下前には適當にボタンをつけます。



大人用

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ジヤンパ | <input type="checkbox"/> チヨツキ |
| <input type="checkbox"/> スウエター | <input type="checkbox"/> チヨツキ下 |
| <input type="checkbox"/> ス | <input type="checkbox"/> ひざかけ |
| <input type="checkbox"/> ドレツス | |

ハイカラなジャンパー

五の倍数に編み終りの目数二目を加へて、四段で出来上る模様です。記号で表はすと下のやうになります。

材料 水色コロンビヤの中細 七オンス。

用具 四號 二本針。

編み方 目数八十二、後身の裾から編み始めます。



KK	: O c K S O K K	: O c K S O K K	----1
---	---	---	---
KK	: P P P K K	: P P P K K	----4
KK	: K K K K K	: K K K K K	----3
KK	: P P P K K	: P P P K K	----2
KK	: O c K S O K K	: O c K S O K K	----1

—模様—

秋のジャンパー

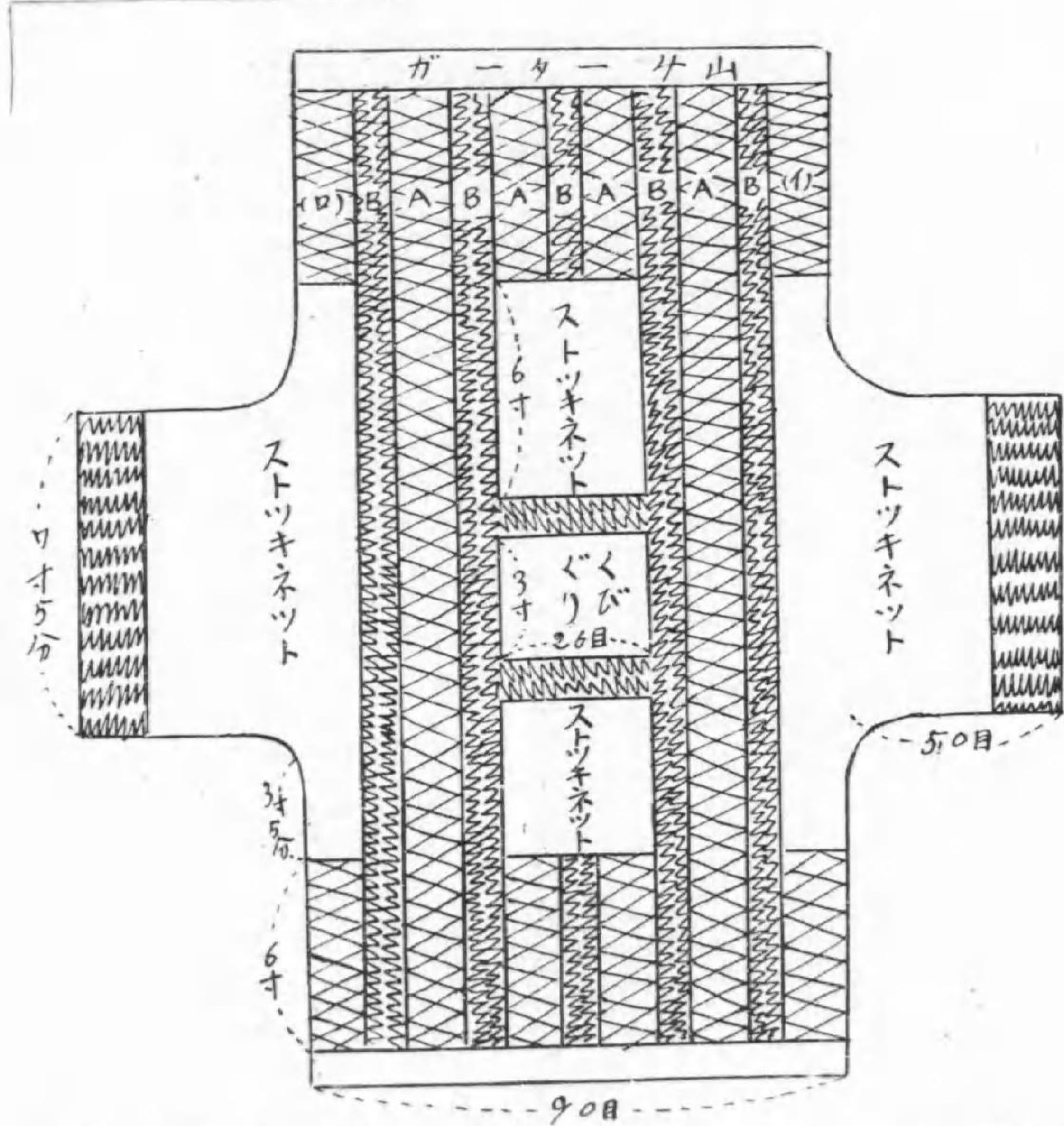
落ちついた銀色をえらんで、優しい模様編に致しました。この模様は網目のやうな編方と、菱形のやうな編方と二つの模様編の交互になつてゐる一寸變つたものでございます。奇抜ではありませんが、初春や晩秋に用ひるのに、どなたでも似合ふかと存じます。お試み下さいませ。

材料 並太毛糸 十二オンス。

ガーター九山あみ、模様編を八寸編んだら両端で編み始め毎に一目づゝ減じながら目数四十になるまで編み續けます。この四十目でガーター四山あみ、両端の四目を残して中央の目数三十二目を、頭ぐりのためにとめます。

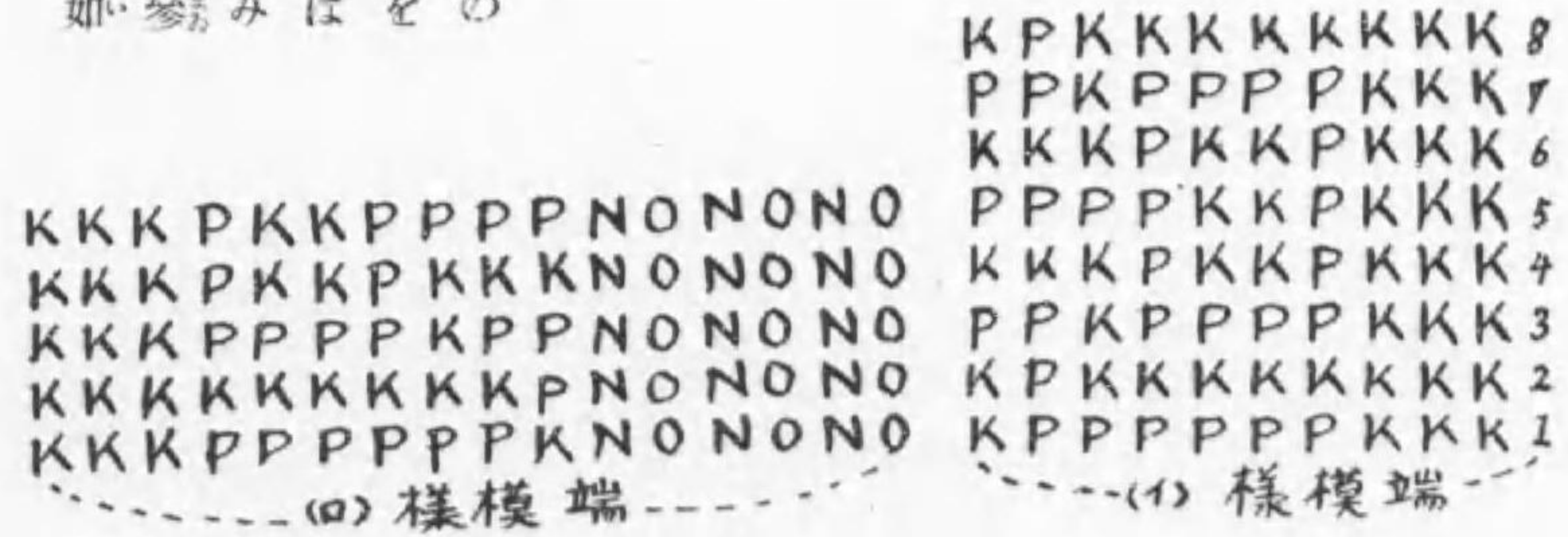
次に一方の四目でガーター六山編み、中央の側へ十六目増し、ガーター四山あみします。次に中央の側の三目だけはガーターにして他は模様編を始め、袖付の側で編み始め毎に一目づゝ増しながら、一寸五分あみします。一時安全ピンにとめておき、片一方の四目を今の通りに編んで、安全ピンに通しておいた目数と一緒にして模様編をつけ、八十二目になるまで両側で一目宛増してゆきます。八十二目となつたら、増減なしに八寸編みガーター九山ととめます。

袖は始め七目作り、ガーター四山編み模様編を始めて両側で一目宛増して六十二目にいたします。直ちに両側で一目宛減すること五回、五十二目のまゝで三寸編み、次は七分毎に両側で一目宛減すること五回、即ち四十二目となりましたらガーター五山してとめます。袖付をまつり合せ、袖下から脇にかけてまつりあはせて出来ました。衿には白い麻に手糸と同色のフランス刺繍糸でスカラをしてつけました。衿元にスナップを一つつけてとめました。



何にも面倒さうに見えますがすぐ出来ます。ジャヤンバーについて目数九十、ガーター四山して模様につります。即ちはじめに端模様(イ)の記號を編みBとAと續いたものを四回繰り返し、最後に(ロ)の端模様に移り返ります。この方法を記號通り繰り返して六寸程編み、次は兩端の十目宛と、中央の二十六目とをストツキネットに、他は今までの編み方を續けて三寸五分編み、袖に移ります。

用具 四號 二本針。
編み方 模様編について、模様編は兩方とも極く容易いのでございます。かりに一方の模様編をA、他をBとしますと、Aは十日八段で一模様をなし、Bは二日で同じ編み方を繰り返すのですから、偶数でさへあればいくらでも連続致します。寸法を加減する時はこのB模様で自由に致します。編み方は記號で表はしました。注意して戴きたいのは編みはじめと編み終りの端をそれぐ三日づゝガーターにするため、端模様が少しかはつて参ります。こゝも記號に續けて書いておきましたから御覽下さいませ。記號が長くなつて如



袖は圖のやうに、兩端で編み始め毎に一目、二目、三日、四日、五日、三十五日と都合六度で五十日増し、端の十目を『On』を五度繰り返してBの模様をあらはし、他はストツキネットにして二寸五分程編みます。次に衿の模様のために、ストツキネットに編んで来た中央の二十六日だけを、『On』の編力にかへ一寸あみ、衿明のためこの二十六目をとめます。今迄の模様を續けて左右別々に編むこと三寸、次に、前の胸のために廿六目作り、後の衿にしたと同じく、この二十六目だけ『On』の模様にかへ一寸、次は後身に合せて袖下をとめ裾に移つてとめるのでございます。委しい圖を入れておきましたから御参照下さいませ。

藍色と鼠色の配合

このスウェーターは形も變つてゐますが、藍と鼠色の配合がいかに鮮かであるか美しうございます。大人用として説明致します。

材料 薄鼠十オンス、藍六オンス。

用具 五號、三號、二本針。

編み方 身頃ガーターで後身頃裾から編み始めます。五號の針に藍で七



十の目をかけガーター三山一鼠にかへて三山、藍で五山一括弧内を四度繰返へします。次の段で、十四日毎に一目宛増し次増減なく八時編みます。次の三山は編み始め毎に一目宛増し、今度は袖(肘まで)のため兩端で十六日宛作つて、平に五時編みます。次の段では衿明のために中央の二十四目をとめて、左の前(四十四目)を編みます。はじめ四山増減なし、次から衿ぐりの方の端で一山毎に二目増すこと十回。それから袖が十時になるまで増減なく編んで、後身に準じて袖の目をとめ、なほ五時平に編んで、糸を少し残して前の方で糸を切ります。

右前身もこれと同じに編み出し、衿ぐりの増目が終つた時、更に十目かけて前明の重りとしします。左前のとめた所まで同じに編んで左右つゞけてしまひます。後身に合せて、藍の縞のところまで来ましたら、次の段で三目編んで二目一緒で目を減します。以下後身に準じて縞を入れてとめます。

袖は肘まで編んである袖の端を藍の糸で五十日拾ひ、五山編んで鼠にかへて三山、藍三山。次の段は、鼠で二目編んで一日増して六十六目とします。そのまゝ増減なしに八時編んで次は全部二目宛編んで三十三目にします。袖下と脇を縫ひ合はせませす。

カフス三號の編針で、藍五山、鼠三山、を二度繰返へし、終りに藍三山してとめます。衿廻り表を見て右側から、三號針と藍の糸で、一山又は一日から一目づゝ拾つて四山、鼠で二山、藍で二山でとめます。

前明前明右前明から三號針で一山に一目づゝ拾つて、藍で五山、鼠三山、藍一段して次の段でボタン穴を作ります。即ち、二目編んで「三目とめ、三目編む」を繰返へし、次の段では前にとめた三目を作ります。藍で更に二山してとめます。前衿を左の前につけて下の端をしっかりとつつけます。飾りボタンは藍の糸を鈎針で編みます。

春のレディースーツ

落ちついた鼠色の地に、フレンチブルー、ヘナ、シルバーを取合はせたこの服は、大變エキゾチックな美しさを
持つてゐます。かういふやうな模様を編み込んだスーツを着ける時は、帽子その他附屬品との色の配合に注意して頂
きたいと思ひます。

材料 ミネルヴシルヴーミクススクレーン(鉛色)十二卷(この中七卷はスカートの分)、シルバー(銀鼠)一卷、フ
レンチブルー(濃藍)一卷、ヘナ(金茶)一卷。(一卷二オンス)
用具 七號二本針、四本針。



編み方 ストツキネットと
ガーターばかりですからごく
容易うございます。
スウェーターには、かなり種
々の模様を編み入れますが、
委しい圖解をたよつて編め
ば、これもむづかしいもので
はありません。たゞ模様を入

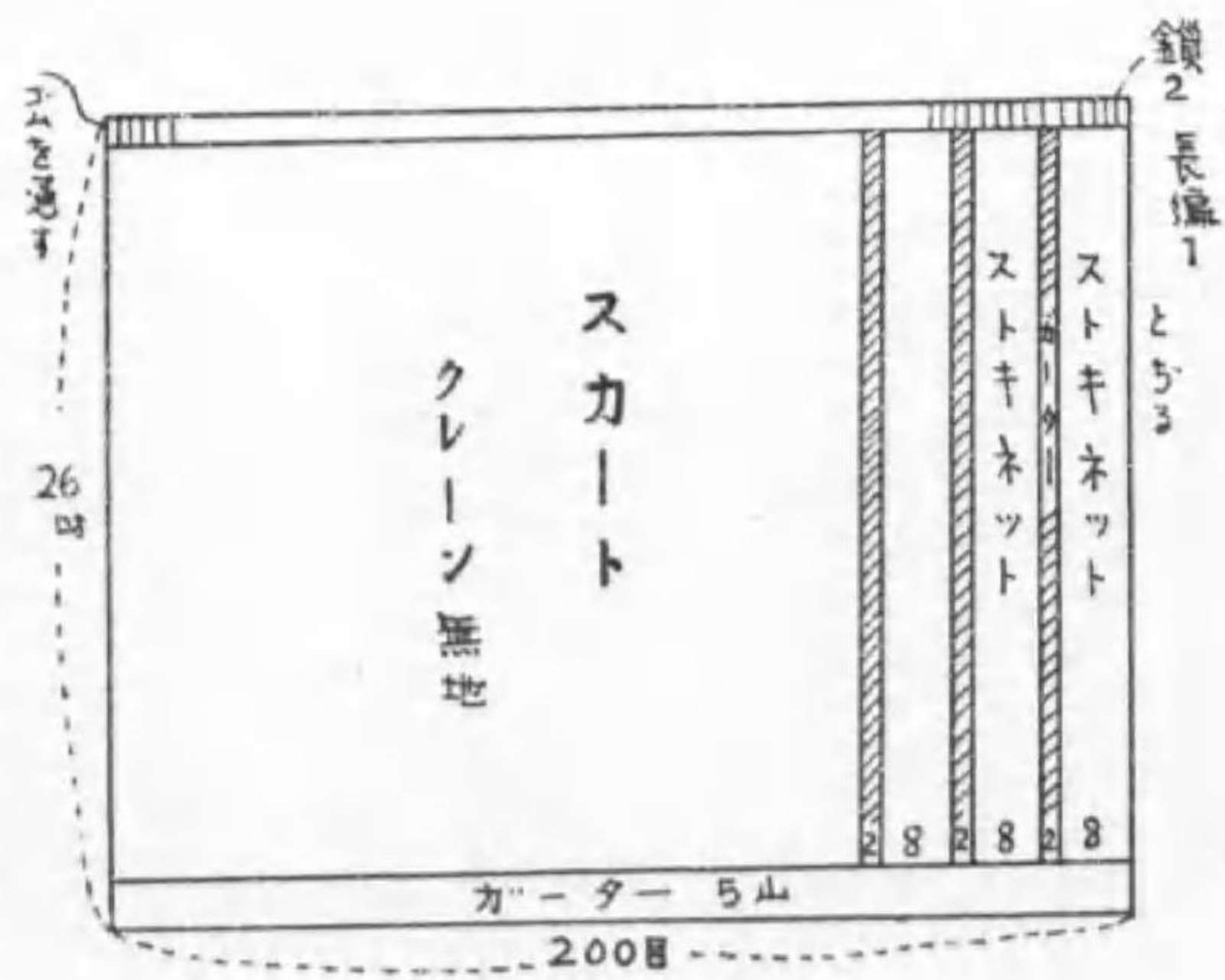
れる時、糸をつらさないやうに注意して下さい。

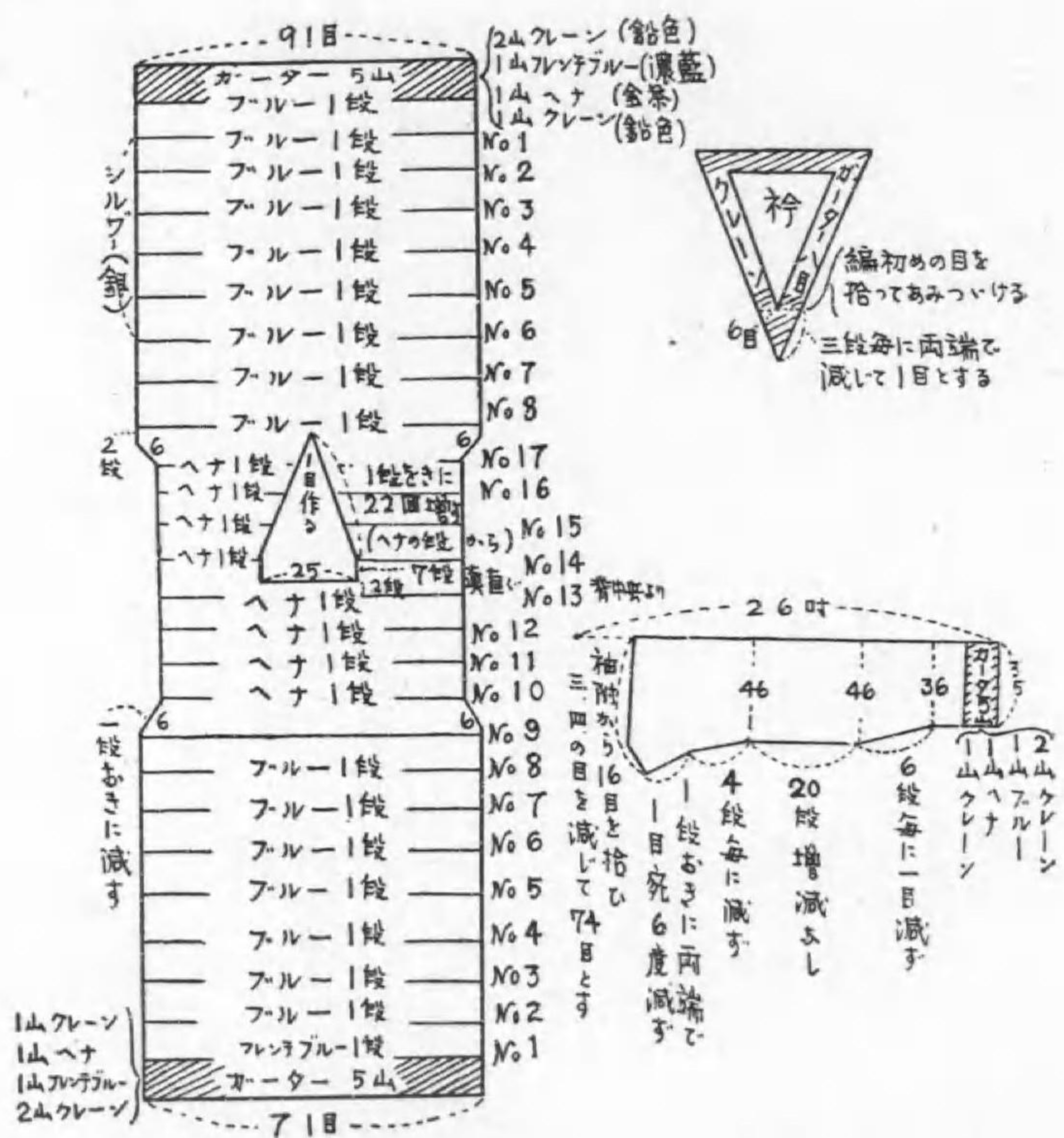
スカート

目数二百で、ストツキネット八目、ガーター二目の縮をたてて、増
減なしに必要な丈だけ編みます。これは丈が二十六時ですが、自分
合はせるには、直立して、靴をはかずに地面から七時位上つたところ
までを標準にします。編み上つたものは縫ひ合はせて、その縫目が左
右いづれかの脇に来るやうにします。終りに、紐通しのために、長編
一、鎖編二を一段くりかへしこゝに太めのゴムテープを通してスカ
ートをしめます。

スウェーター

身頃 後身の裾から編始めます。模様は、色が違つたり、形が違つ
たりしてゐて、種類が一から一七までありますから、二つの圖(身頃
全體の圖と、模様だけのもの)を参照熟讀下さい。袖附から下は、前身も後身も同じ模様になります。二や、七のやうに
始めたら、前身を編む時には模様の順序を上下逆に編んで行かないと連続しないやうになります。二や、七のやうに
模様を中心のあるものがございます。圖中(模様の方)に真中とあるのは、その中心、即ち背真中、前身中央のこと
です。前身と後身とは目数が違つて居りますから、従つて模様も兩端に行くと違つて来ますがそれはかまはず、必ず

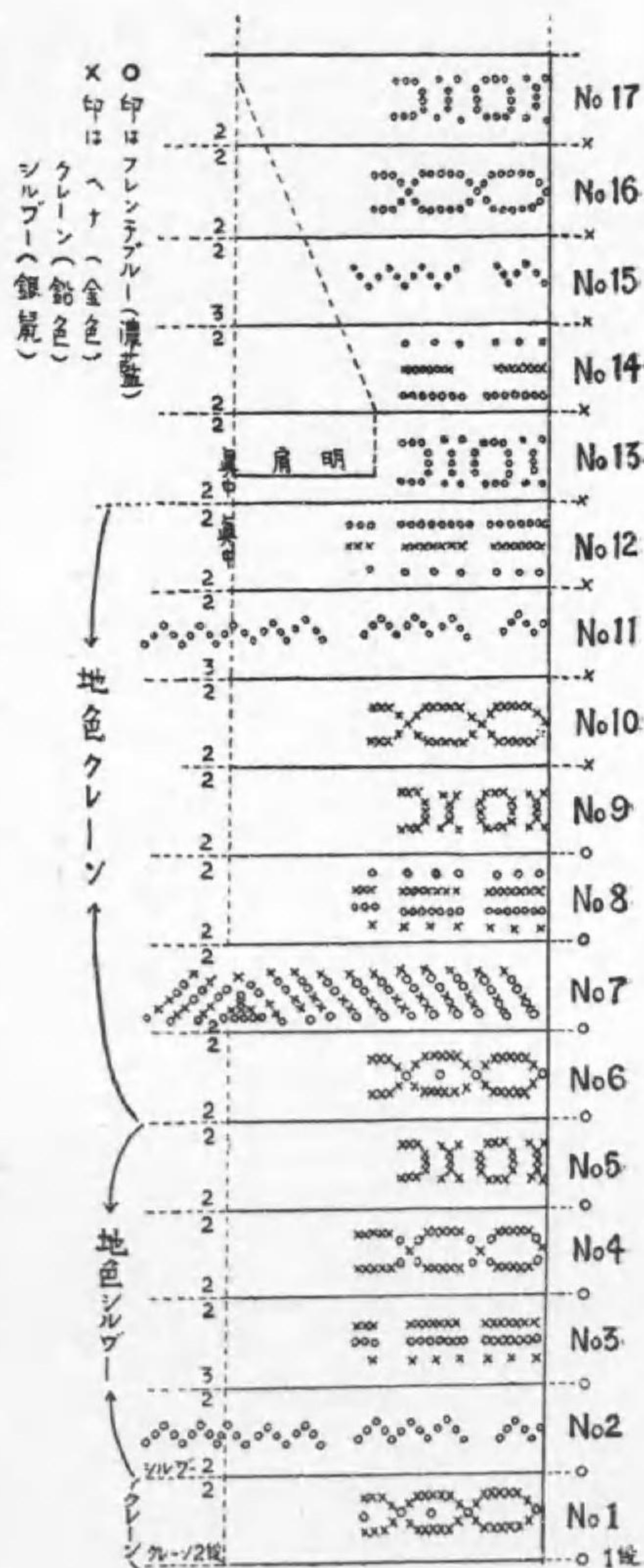




るやうにして三本の針に分け、次に裏から歸つて来る時三日毎に一目減し(三つ目と四つ目を一緒に編む)て七十四に致します。次から袖下を圖のやうに減しますがこの時は必ず袖下を中心として両端の三番目と四番目とを一緒に編んで減します。

衿 八目のガーターで細長く紐状のもの衿丈より一時半ほど短く編み、編始めの八目を拾つて(輪になる)十六目にして、二段おき(三段目毎に)に両端で一目宛減して三角形に編んで行つて、一目になつたら糸を切ります。

仕上げ 脇をとち、衿を縫ひ合せ形をすつかり整へて、いねいに仕上げを致します。



中心を合はせるやうにしなければなりません。編み始める前に、豫め方眼紙に書いて考へておく後が楽です。七の模様は、前身後身を續けますと、両脇に三角形の空が出来るわけですが、それはそのままかまひません。その他、袖ついで減したり、衿明を明けたりするために、模様は多少の違ひが出来ませうが、そこは都合のいゝやうに工夫して頂きます。模様はストツキネットの地にカメオステツチで編み込みます。

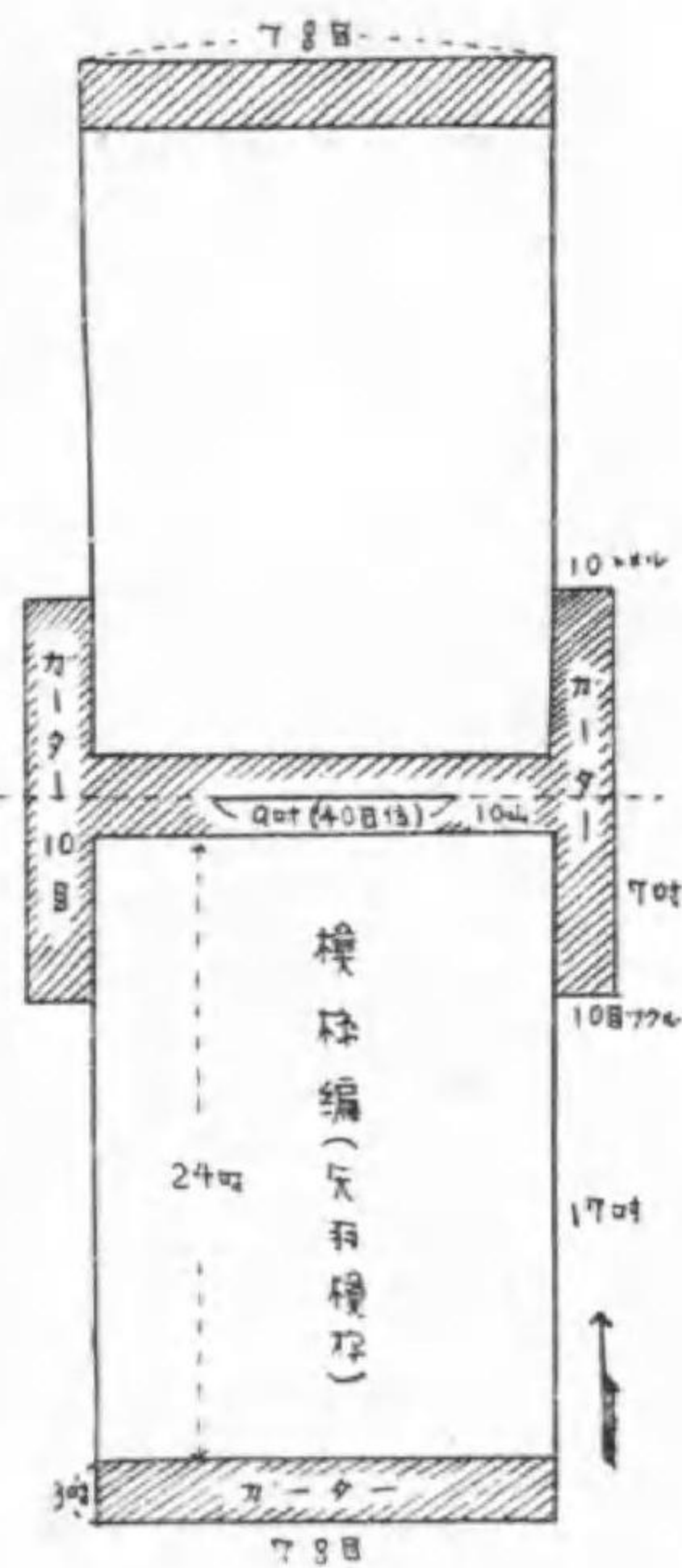
身頃 模様の入れ方、續き方がわかれば、説明の要はありません。圖(全體の方)を御参照下さい。

袖 四本針で編んで、模様は入れません。身頃の表を見て、袖附から九十六の目を拾ひ、袖下を二本の針の間にな

がに十目宛作つて袖に致します。模様編はそのまゝ、新しく作つた袖の目だけはガーターにして、袖の長さ六時程編みましたら、全體をガーターにして十山程編みます。こゝで衿肩明のために中央九時を止めますが、目數で凡そ四十位と思ひます。次段で直ぐ今止めただけのものを新しく作ります。袖の編み始めから肩まで約七時に なります。

前身頃に移りますが、今編んで来たことを逆に編み戻ればよろしいのです。脇と袖下を閉ぢつけ、頸明きは裏から鉤針で短編を一廻りして糸を切ります。

このスウェーターはブラウスの代りに、スカートの上にすぐ着ます



P P
 N K K K K O K O K K K N N K K K K O K O K K K N * 8
 P P
 N K K K K O K O K K K N N K K K K O K O K K K N * 7
 P P
 N K K K K O K O K K K N N K K K K O K O K K K N * 6
 K K
 P P 5
 K K
 P P 4
 P P
 N K K K K O K O K K K N N K K K K O K O K K K N * 3
 P P
 N K K K K O K O K K K N N K K K K O K O K K K N * 2
 P P
 N K K K K O K O K K K N N K K K K O K O K K K N * 1

矢羽模様のスウェーター



材料 ミネルヴァ
 イスランドウール
 (極細)サーモン(穂
 紅色)三巻。六オンス
 用具七號一本針、
 鉤針。

編み方 前身頃の
 裾から編んで行きま
 す。ガーターで三時
 あんで、模様編にな
 りますが、これは記
 號に従つてお編み下
 さい。裾から十七時
 になりましたら、兩

と大變輕快に見えます。スカートは白の絹地で作つたものがふさはしいでせう。

— スマートな感じのする袖なしスウェーター —

非常に目新しいハイカラなスウェーターです。海老茶と淡緑の交編みの地、海老茶の裾、そして淡緑の衿、實に氣がきいて居ます。寫眞のやうな、細い縞のスカート、白いブラウス、それに絹あみのネクタイをした、きりりとした服装の上に着る時、特に引き立つて見えます。初春や、秋もそろ／＼冷くなつた頃用ひるのに相應しいと思ひます。十五六歳以上の方に向きませう。



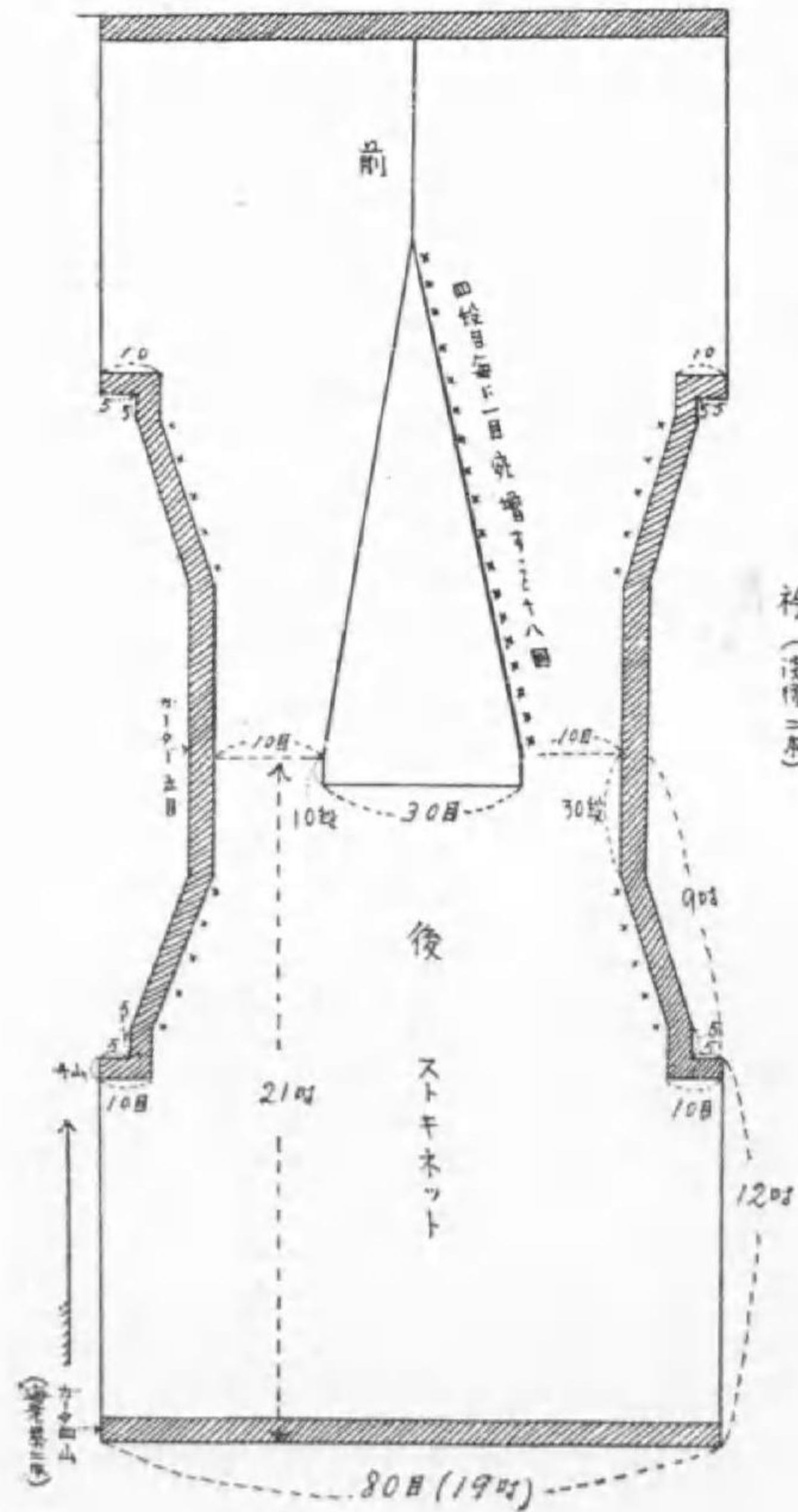
材料 中細毛糸 海老茶色五
オンス、極細毛糸 淡綠色五オ
ンス。

用具 六號二本針、四號二本

針。

編み方 割合に容易うござい
ます。圖解をごらん下さい。
後身頃 後身頃から編みはじめ
ます。最初海老茶色を二本にし

て、四號の針で目數八十作り(十九吋位)そしてガーター四山します。次に、海老茶の一本を切り、その代り淡緑を一本入れて、今度は海老茶と淡緑との交編みにするので(ストツキネット)
袖付の一時位前に、兩端十目をガーターにしますが、其の時は裏から編む時、最初と、最後の十目を表編みとすればよろしいのです。そして四山編んだら、兩端五目宛止めます。次ぎ五出程はそのまゝ、次ぎから、袖付の場所を段々斜に減して行かなければなりません。即ち四段目毎に兩側で一目宛減すること五回します。注意すべき事は減する時は必ずガーターと、ストツキネットの境でします。右側はかぶせ目、左側は二目一絡に編みます。兩側はまるまならない爲に五目をガーターで編むこと。
衿肩は三十目止めます。そして左右別々に編みます。次ぎ十段は増減なし、次ぎから、衿の側で四段目毎に一目宛増すこと十八回、あとはその儘増減なしに衿まで編み、やはり最後は海老茶二本だけ



で編みます。もう片方の身頃も同じやうに編むこと。

衿 淡緑二本にして、四號の針であみます。目数八、全部ガーターです。上前になる方にボタン穴三つあけます。(女の洋服はすべて左前です)ボタン穴は、端から三日あみ、次ぎの三日をとめ、次ぎの二日は普通に編みます。次段で編み戻す時、前段三日止めた場所で、新しく三日作ればよいのです。衿は少しつらせ加減にしてぐるりとていねいにとちつけます。脇を両方ともち合せて出来上つたのです。

上品でハイカラなスウェーター



淡茶の地に濃茶色で縁取つた、上品なスウェーターです。落ち着いた、而も大層気が利いた感じのもので、女學校の上級生や、もう學校を卒業した若い婦人に向きませう。

材料 太毛糸 ラクダ色十四オンス。

中細(太めの) 濃茶色四オンス

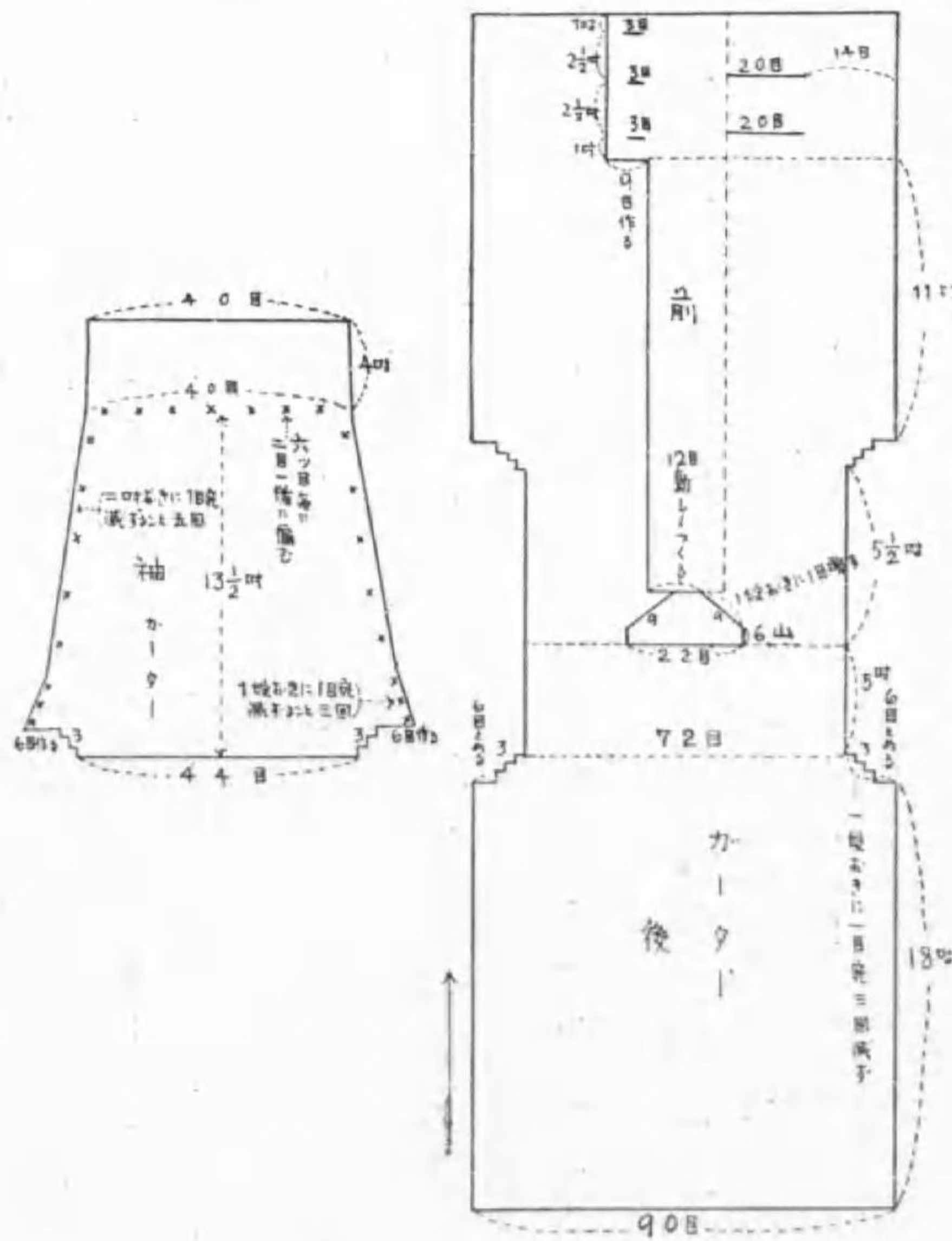
用具 三號二本針、五號二本針。

編み方 圖解を御覽下さい。

身頃 淡茶色の糸で五號の編棒を用ひます。全部ガーターで、後身頃から編みはじめます。目数九十。裾から十八寸編み、圖のやうに袖付の目を減じます。次ぎ増減なしに五寸編み衿肩をあけます。

衿肩 圖のやうに真中二十二目を止め、片身頃づゝ編みますが、はじめは下前を編みます。衿肩の目を止めたら、六段増減なし、次ぎから衿の側で一段おきに一目宛増すこと九回、次ぎにやはり衿の側で十二目新しく作る。袖附を圖のやうに増し増減なしに其の儘裾まで編みます。

上前 下前と同じやうに衿の側で増し、新しく十二目作ります。そして三段増減なしに編み、次ぎにボタン穴を開けます。(即ち衿の側から三日はいつた所を三日止め次ぎの段で、前段止めた場所を新しく三日作るのです)脇十一寸編み、次ぎ前身頃の端で新しく九目作ります。裾まで



増減なしに編み、糸を止めますが、圖にある場所、前の通りのボタン穴と、ポケットとを作ります。
 ポケット脇から十四目編み次の二十目は他の針に休めておき、その代りに新しく二十目作つて、針に休めた二十目は編まずに飛ばして次ぎに移ればよいのです。次の段ではその新しく作つた二十目を編み、次ぎに進みます。前身頃が編み終へたら、針に休めておいた二十目で、新しい糸を一端に付けて、五吋ストツキネットを編みます。そしてその三方をスウェターの裏側にとち付けます。
 袖目数四十四作り、両端で二段目毎に一目宛増す事三回し、次ぎ両側に新しく六目作り、次ぎは両側で二段目毎に一目宛減する事三回、次ぎからは二吋毎に一目宛(両側で)減する事五回します。それからは増減なしに編み、袖の長さが編みはじめから十三吋半になつたら六目毎に一目宛減しながら一段編みます。目数四十になります。次ぎ増減なしに四吋編み糸を切ります。(全部ガーター)
 衿目数七十作り(淡茶色)ガーターで二吋四分の三程編み糸を切ります。衿廻りの十二目新しく作つた處を境として衿あきにとちつけます。

縁シエトランドフロス(中細)の濃茶色で三號の針を用ひ、目数六作りストツキネットで、裾、前、衿等すべての縁に廻る事の出来る長さを編み、糸を切り、スウェターの縁をくるむやうにして、六日のうち三日は裏側に、他の三日は表側に出るやうにとちつけます。袖口、及びポケットの縁も同様のものを編み、とちつけます。

— 落ちついた感じの婦人用スウェーター —



オレンジ色の絹交り糸一色で、裾と袖口にガーターで菱形の模様がはいつてゐるだけですが、却つて落ちついた上品な趣を見せてゐます。

材料 ミネルヴシルバーミックス(絹交りの太オレンジ色)七卷(十四オンス)。

用具 六號二本針。

編み方 大層やさしい編方で、圖を御覽になれば直ぐお分りになると思ひます。後身頃の裾から編みはじめます。後身頃目数八十四(十七吋)ガーター五山して、模様を入れます。模様の第一段は裏から編み初めます。模様編第一段 裏編五「表編二、裏編十」括弧の中を繰返して、最後に表編二、裏編五で終る。

第二段 全部表編。

第三段 裏編四「表編四、裏編八」括弧の中を六回繰返して、表編四、裏編四で段を終る。

第四段 全部表編。

第五段 裏編三「表編六、裏編六」括弧の中を六回繰返して、表編六、裏編三で段を終る。

袖下と脇とを閉ぢ、寫眞のやうに衿をつけます。

第六段 全部表編。

第五段 裏編三「表編六、裏編七」括弧の中を六回繰返して、裏編三で段を終る。

第四段 全部表編。

第三段 裏編四「表編四、裏編九」括弧の中を六回繰返して、裏編四で終る。

第二段 全部表編。

模様編第一段 裏からします。裏編五、「表編二、裏編十一」括弧の中を六回繰返して裏編五で段を終る。

模様編第二段 全部表編。

第三段 裏編四「表編四、裏編九」括弧の中を六回繰返して、裏編四で終る。

第四段 全部表編。

第五段 裏編三「表編六、裏編七」括弧の中を六回繰返して、裏編三で段を終る。

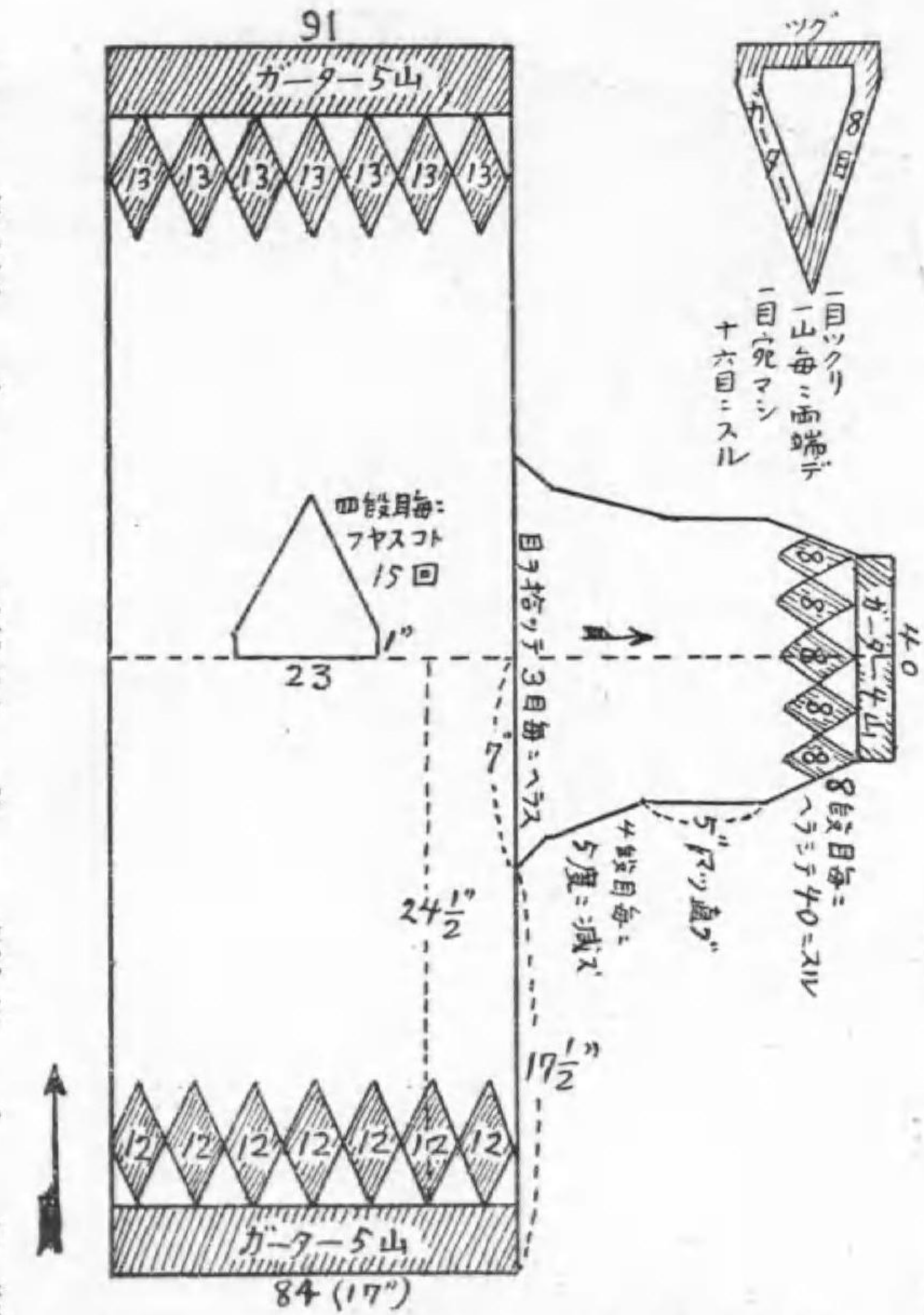
第六段 全部表編。

かうして段々に目を増してゆき、全部の目が表編十三になつたら今度は段々に減してゆき、最後にガーター五山して糸を切ります。

袖 肩山から両方へ七時宛の間を表から一目づ、丁寧に目を拾ひ、裏編で戻るときに三目毎に一目づ、減じて行きます。次から一段おきに一目づ、両側で減すこと四回、(必ず両端から三目入つた處で)それから四段目毎に一目宛減すこと五回して、あと増減なしに五時編み、次からは八段目毎に一目宛減じて、目数四十になるまで編みます。そして袖口には身頃と同じ要領で八目宛の菱形模様編を五つ入れます。最後にガーター四山して糸を切ります。

衿 はじめ二目を作りガーターで一山毎に両端で一目づ、増し、十六目になつたら目数を二分して、別々に八目宛ガーターを編みつけます。両方とも背の真中邊まで編み、最後にポーシングステッチで閉ぢ合せるのです。

前身頃 左身頃から編みます。一時増減なく次から四段目毎に一目づ、衿の側で増しながら編みすゝみます。目数が四十五になつた時、それはその儘おき、右身頃を左と同様に編み上げ、左右両身頃を合せて編み續け、後身頃と同じく裾に模様編を入れます。併し前身頃の目数は九十一ですから、模様編の数は加減しなければなりません。



第六段 全部表編。

かうして段々に、奇数の段の表編を二目宛増して行き、一つの模様編の目が表編十二、即ちその段全部表編をするやうになるまで、編み増して行きます。

次からは前と反対に、表編の部分を奇数の段毎に段々に減じてゆき、一つの模様編の目が表編二になるまで行きます。これで菱形の模様編が七つ並んだわけになります。

あとは増減なしにストツキネットにして、裾から二十四時半になつたら、真中の目二十三をとめ、衿明とします。

矢の根模様のスプリングドレス

鮮やかな浅緑の絹交り糸を用いた潇洒な婦人服です。形は簡單ですが模様編がすつきりして美しく榮えて見えます。春さきの外出着に殊にふさはしいと思ひます。かうした模様編の服は下着がすいて見えますから、アンダードレスを着る等注意して頂きたいと思ひます。

材料 ミネルヴラストアーウール ケリーグリーン(浅緑)五卷(十オンス)。
用具 七號二本針。



P-----P
 K K O n K N O K K K O n K N O K K 4
 P-----P
 n O K K K K K O cns O K K K K K O n 3
 P-----P
 n O K K K K K O cns O K K K K K O n 2
 P-----P
 n O K O cns O K O cns O K O cns O K O n 1
 P-----P
 K K O n K N O K K K O n K N O K K 4
 P-----P
 n O K K K K K O cns O K K K K K O n 3
 P-----P
 n O K K K K K O cns O K K K K K O n 2
 P-----P
 n O K O cns O K O cns O K O cns O K O n 1

た目数だけを新しく作り、又
 ガーター五山、再び模様編に
 移つて裾まで編むのです。袖
 下と脇とを閉ち合せます。衿
 廻りは裏から鈎針で短編を一
 段して止めます。
 これは仕上げをするると大變延びます。



編み方 形が大變簡單ですから、直ぐお解りせう。
 模様は矢の根模様。目数は裾中に相當するために、模様を幾
 ついれるかといふことで定めます。この服は十三模様入れまし
 た。一模様八目ですから、その倍數に編始めのため一目を加へ
 て總目數百〇五を作ります。最初ガーター十山して模様編に移
 ります。記號によつてお編み下さい。
 裾から三十四吋(凡そ二十三模様)になりましたら、兩側に十
 目新しく作つて、ガーターにして袖とし、他は模様編を續けま
 す。肩は全部ガーターにして十山いれます。最初ガーター五山
 した時、真中の九吋半を伏せて衿明を作り、次の段で前に伏せ

上品なハウスドレツス

派手やかな而上品な婦人服です。美しい模様編みと上品な色と、春先の家着に軽くてふさはしいと思ひます。

材料 ミネルヴァアイスランドウール(極細) 淡紫六卷(六オンス)、銀鼠色四卷(四オンス)。



用具 八號、六號、五號、二本針。

編み方 模様の向きを合せるため、前身頃と後身頃と別々に裾から編んで肩で閉ぢ合せるやうにします。後身頃八番の針で、紫色二本で目数百三十三作る。直に模様編みを致します。

第一段 「KOKKKNKKKO」括弧の中を十一回繰返して、Kで段を終る。

第二段 全部裏編み。

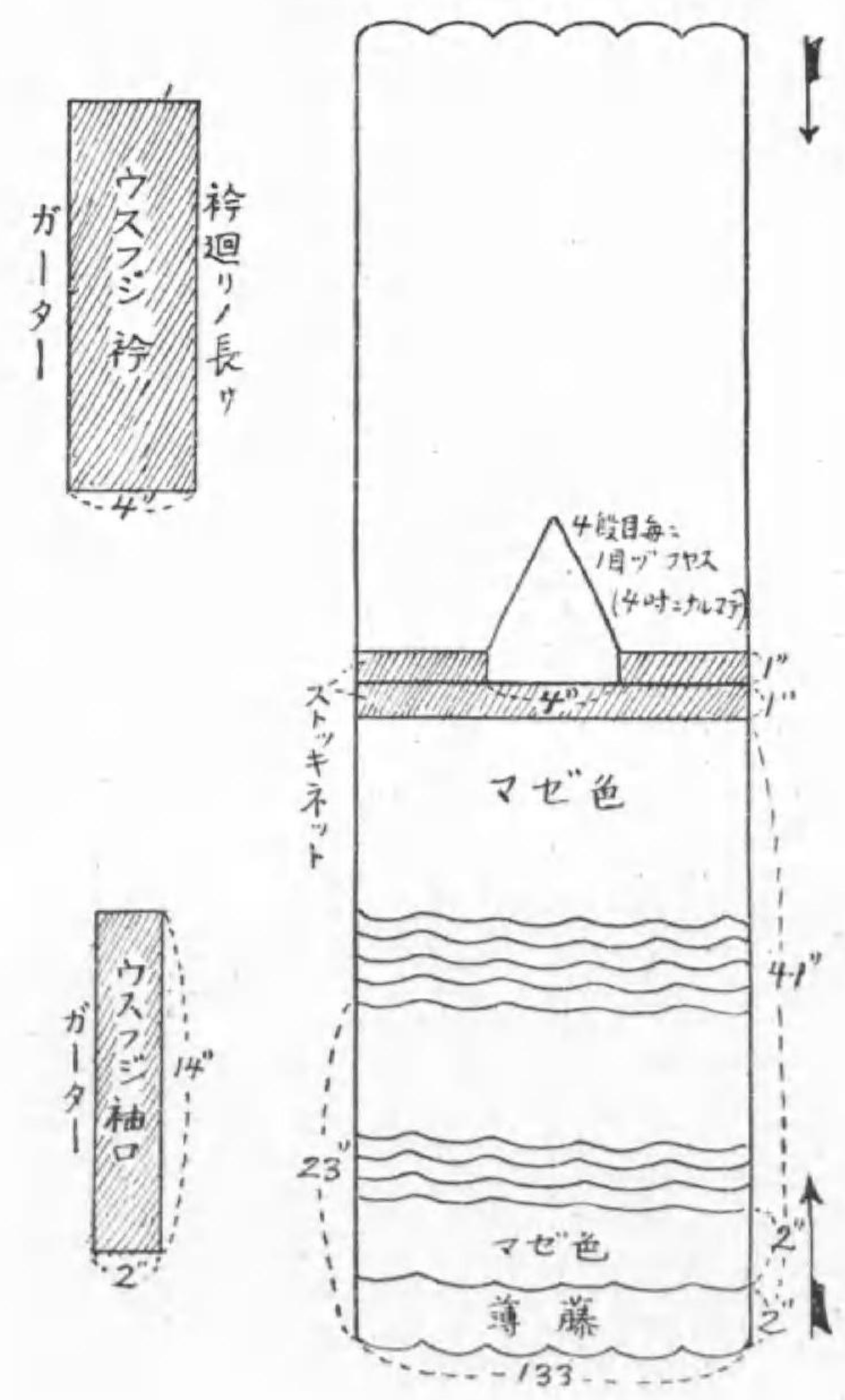
第三段 第一段と同じ。

第四段 第二段と同じ。

かうして、第一段と第二段の編み方を交互に繰返します。

そしてこの模様の服は全體に、淡紫と銀鼠と、紫と銀鼠とを交編みにしたのと、三色の縞がはいつてゐます。裾から順序を示しますと、

1 淡紫二吋、2 交編み(淡紫一本、銀鼠一本)二吋、3 銀鼠二吋、4 交編み四



段、5 淡紫二段。これから4と5を交互に五度繰返し、交編にかへて裾から二十三吋まで編みます。(但し、後身頃全體で三度針をかへなければなりません。即ち、身頃の三分の一づつで針を代へます。十三吋程のところ六號にかへ、更に十三吋編んで、今度は五號の針にかへます。太い針から細い針にかへる時は、いつでもかへる一吋ほど前から少し堅い目に編みます。そして細い針にかへてから一吋程は、少しゆるめに編むやうに。

次から又編がはいります。1 淡紫四段、2 交編四段、1と2を交互に四度繰返す。3 銀鼠二段、4 交編十段、5 淡紫三段、6 交編十四段、7 淡紫二段、8 交編六段、9 淡紫二段。これから全部交編みにして、裾から四十一吋の長さ編み、最後にストツキネット一吋します。真中四吋だけの目をとめ他はそのまゝにしておきます。

前身頃 目数、模様編、縮、すべて後身頃と同じに編んで來ます。裾から三十四吋程になつた時、衿明を作り、衿明四段目に一目宛段々に減じてまゐります。後身頃で真中四吋目を伏せた数を二分して、その数の半数だけ片方の身頃で減せばよいわけです。最後一吋は、増減なしにストツキネットをして、糸を止めずにそのまゝおき、他の方の身頃も同様に編み、肩の處で前後の身頃をポーシングステッチのやり方で閉ぢ合せます。

袖 紫の糸で二吋の巾に目数を作り、ガーターで十四吋編みます。左右二枚作り、身頃の兩側につけます。十四吋の真中を、身頃の肩の閉ぢ目の處にもつて來ます。五號針でお編み下さい。

衿 やはり紫で四吋の巾の目数を作り全部ガーターで、衿廻りの長さだけ編み糸を切ります。(但し胸の斜の處は少しつらせ加減に。これも五號の針で編みます。寫眞のやうに衿をつけ前に黒いリボンをつけて結ぶやうにします。裾 裏から鉤針で短編を一段致します。その時模様編の山の上には、短編二目を一日の中に入れ、谷の場所では短編を一目とばして編んで、出來上つた時模様編の波が、裾に美しく出るやうにします。脇は裾を編む前に閉ぢ合せます。

スマートな品のよい婦人用スウェーター



品のよい、ハイカラなスウェーターです。紺の糸で編み毛立て、ありますから暖かくもありません。白いブラウスの上などに着て、非常によく似合います。女學校の上級生か、又はそれ以上の婦人が着るのに適してをります。

材料 紺色毛立て糸(並太より少し細目のもの)一磅半、ボタン五個。
用具 四號二本針、金屬二本針(太目のもの)、毛立てブラツシユ。
編み方 詳しい圖解をごらん下さい。

後身頃 最初後身頃から編みはじめます。編針は四號を用ひる事、目数八十九作り、表編一、裏あみ一のゴム編み一吋半、次からはストツキネットに移ります。ストツキネットの部分だけが十七吋になります。

真中の二十五目を衿肩の爲に止め、左右身頃別々に編んで行きます。首の側で一段おきに一目宛増す事二十回、

前身||次段から後身と同じやうに、四目宛の楔編を三山し、全部の目を編み一往復して肩の下りを終へます。次から袖附の曲りを作りながら、一方で頸廻りの曲りをふやさねばなりません。説明がいろいろありますから兩側別々に申します。袖附の方は肩の下りを終へたら直ちに一目減じ、次三山目に一目、次二山目に一目、また二山目に一目減じて、あとは後身の袖下の曲りと同じ所まで増減なしに編むのです。袖下の曲りは後身と合せ、同じ目数に増します。袴の方は三山毎に一目づゝ増すこと八回します。こゝが袖附の曲りはじめと同じ所になります。更に二山毎に一目づゝ増すこと六回して、あと増減なしに裾まで編むのですが、途中でポケットを作らねばなりません。ポケット||袖下から二寸五分編み終へたら先づ脇から十目をあみ、それに續けて全然新しく二十二目をつくります。(もとの目は針にいたまま)この二十二目がポケットの口になるので、このポケットも斜めにするため肩と同じ楔編をします。つまり、新しく作った二十二目と、脇の十目と合せた三十二目でこの斜めの下りを編むのです。最初の脇のはじから数へて十四目だけ編み、あとは編まずに左針に残し、そのまゝ裏から編みかへります。次段では十八目編み、戻り、更に二十八目編み、戻つたら今度は三十二目全部を編み終へます。そして先に別針に残しておいた目のうち、二十二目だけピンにとつておき、その残りの目をさきの三十二目に續けて編みますと前身の巾に戻りますから、裾まで平に編み續けます。ピンに取つておいた二十二目は、あとで糸をつけてガーター二十山編み、とめてこれを裏に目立たぬやうにとちつけます。

これで形が出来ました。鉤針で袖附、頸廻り、裾山に短編を編み附けますが、前の重なりにボタンをつけなければなりませんから、そこだけ短編四段づゝお編み下さい。ボタン穴は六つあけます。

男子用袖なしスウェーター

男子用袖なしスウェーター



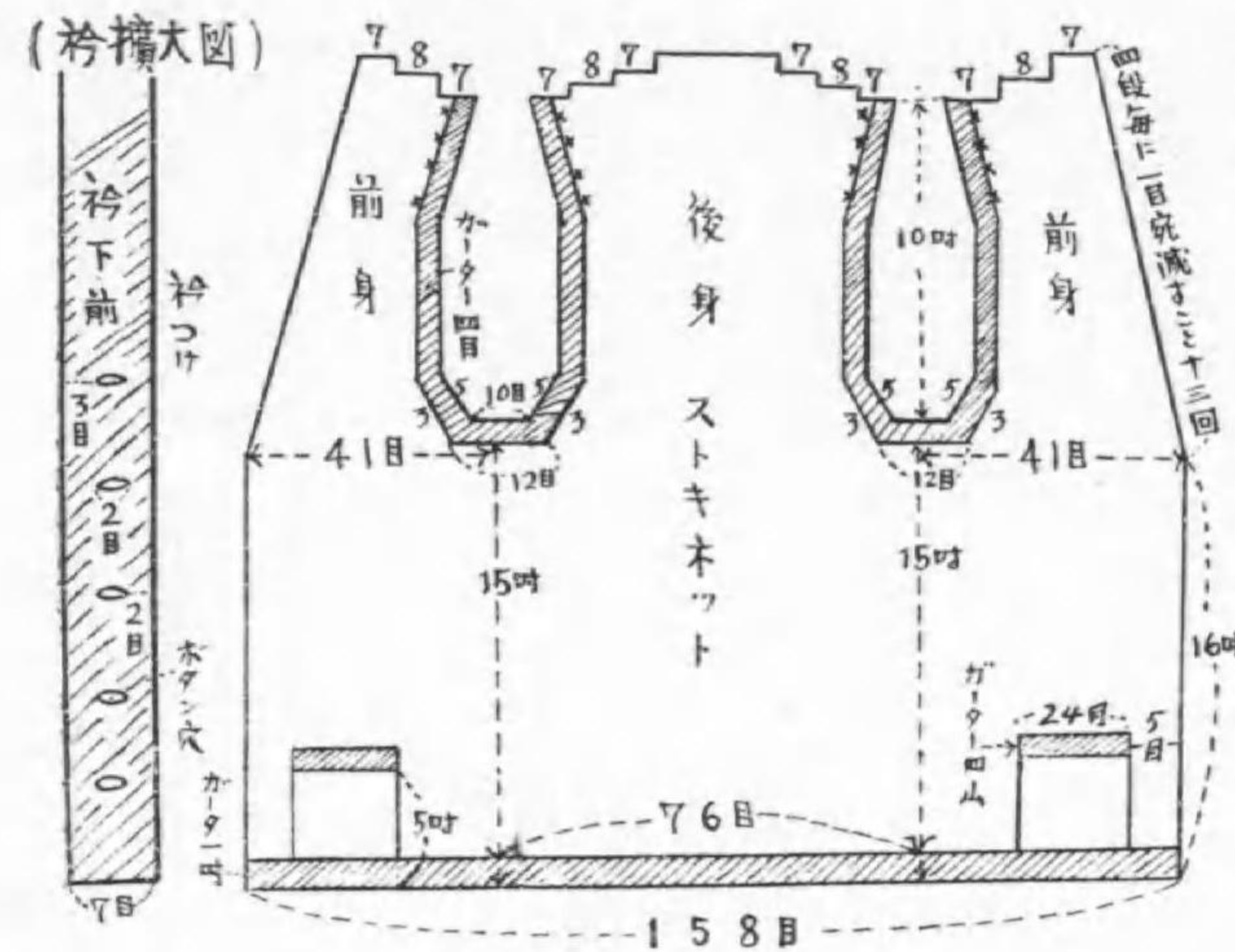
材料 アンゴラヤーン 十二巻(アンゴラといふのは兎の毛で柔い軽い最も高級な糸です。一卷(半オンス)で一圓二十錢、贅澤な糸ですから、ラクダ毛糸などを代用なさつてもいいでせう。)

用具 ガーターは五號、ストットネットは六號二本針。

編み方 圖のやうに、縫目なしに前身後身を續けて裾から編み、袖下になつたら別々に編んで肩に至り、ボーシングステッチで編み合せたものです。

目数 百五十八、ガーター一時、ストツキ

キネットにかへ四吋、次にポケットの口をつけますが、その編み方は先づその段を端から五目だけ編み、次二十四目を別針に取っておき（これがポケットの口です）次はそのまゝ編み続け、もう片方の口になる廿四目を別針に取り、



次五目を編んでその段を編み終ります。別の針で新しく廿四目つくり、四吋ストツキネットを編んで長方形のものをつくり、(ポケットの裏側です)目をとめずにおき、別針に取った二十四目の後側に重ね、次に身頃を編む時に別針の二十四目の代りとして、この二十四目を編みこんでしまひます。そしてあとは袖下まで増減なく編むのです。かうするとポケットに少しも縫ぎ目が出来ません。裏の方にさがつてゐる二十四目の長方形は、身頃を編み終へてから、目立ぬやうにとちつけて袋に作ります。別針の二十四目は、ポケットの口になるのですからガーター五山編み、目をとめ、身頃にとちつけるのです。袖下まで編めたら袖ぐりを作りますが、これは袖をつけませんから袖ぐりまはりガーターに編まなくてはなりません。その仕方は、先づ圖のやうに、後身七十六目、前身四十一目づゝのつもりでその境の十二目(前身六目後身六目)だけをガーターにかへあとはストツキネットに編み、次段では十二目のガーター

1の両端を、更に一目づゝガーターに變へます。かうして一山毎に一目づゝガーターを編み増しながら五山になつたら袖下のため中央十目だけ目をとめ、次から前身と後身を別々に編むことになりす。前身は、端四目はガーターを続け、ストツキネットとガーターの境で、先づ一山毎に一目宛五度減じ、あと増減なく編み、袖ぐり側で十回目を減す時に(前身の目数二十二目)、ガーターとストツキネットの間で一目増します。かうして袖ぐり側で減す度毎に袖ぐり側で増してゆくと身頃の目数は二十二目のまゝ、肩が斜めになつてゆくだけです。最後の増減を終へたら、肩に三段くさび編みをするのですが、それは、はじめに衿の方から二十二目のうち十五目だけ編み、七目は左針に残したまゝ向きをかへて編み戻り、次は十五目のうち七目だけ編んで編みもどり、次は針にかゝつてゐる全體の目を別針に取つて後身に移ります。

後身は前身の袖つけ側にしたのと全く同じ増減の仕方を兩側で繰り返して、肩山になつたら、衿肩明のために中央の二十二目をとめ、左右二十一目づゝ、前身にしたと同じ方法で七目づゝのくさびに編み、目はとめずにおき、前の肩の目とポーシングで編み合せてます。衿はガーター五目の細長いものを編み、とちつけばよいのですが、唯一、可減に編むとボタン穴の位置がうまく出来ませんから下前から編み始めます。先づガーター五目つくり適宜の長さに編んだら一度身頃につらせ可減にとちみて、又編んでみるといふ風にして上前の衿の重り目までつけたら、先づボタン穴を一つ作ります。圖のやうに、端から三日入つた處に二目の穴をつくるわけです。そして下前の方で、裾からその重り目まで何山あつたかを見て、四で割つて、あと四つのボタンの位置をきめながら編み上げます。ボタン穴は、あとで共色の絹糸でかゝつておくと、丈夫です。